上田市文化財調査報告書第86集

国分遺跡群

市道川辺町国分線建設工事に係る発掘調査報告書

２００２.３

上　　田　　市

上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第86集

国分遺跡群

市道川辺町国分線建設工事に係る発掘調査報告書

２００２.３

上　　田　　市

上田市教育委員会

序

市道川辺町国分線は、国道 18 号線の交通渋滞の解消及び千曲川左岸地域と上信越自動車道上田菅平インターチェンジを結ぶ市街地環状道路の一部として位置付けられた重要な道路です。また、上小地域の広域的高度医療ネットワークを構築する上で、その拠点である国立長野病院へのアクセスを向上させることを目的とされています。さらに、本路線北側の上田第一中学校への通学路、国分産業団地の整備と沿線の有効な土地利用も期待されています。

上田市・上田市教育委員会では、建設に先立ち平成 9 年と 11 年に事業地に存在する国分遺跡群の発掘調査を行いました。工事によって失われてしまう貴重な資料を記録保存することを目的としたものであります。

皆様も御存知のとおり、今回工事が施工されたこの地域には県下最大の文化遺産である史跡信濃国分寺跡があります。本調査地はその 500m 北方に所在します。先に刊行された『上田市誌歴史編 3』では、本調査地区から検出された道路状遺構が信濃国分寺と深い関連性がある可能性を指摘し注目を浴びました。

史跡信濃国分寺跡は、公園として整備され多くの人々の憩いの場となっておりますが、今日に至るには、地域住民の皆様と歴史研究者をはじめとする多くの方々の文化財保護に対する熱い思いと御尽力がありました。

ここに調査の成果として本書を刊行し、上田市の古代史研究の上で新たな手掛かりとなる資料を提供できたと確信しております。同時に、先輩方から教えられた文化財を大切にする心を引き継いでいくことをあらためて誓い、後世に伝えてまいりたいと思います。

最後となりましたが、現地調査から整理作業・報告書刊行に至るまで御理解と御協力並びに御指導をいただきました地域の皆様、調査に参加された皆様、先生方、関係諸機関に心から敬意と感謝を表する次第であります。

平成 14 年 3 月

上田市教育委員会教育長　　我妻忠夫

例　言

1　本書は、市道川辺町国分線建設工事に伴う長野県上田市国分遺跡群の発掘調査報告書である。

2　調査は、上田市（上田市教育委員会生涯学習課）が実施した。

3　現地での調査は、平成9年10月23日から11月28日、平成11年5月21日から6月30日、同年7月26日から9月17日に現地調査を実施した。整理作業・報告書作成作業は、平成14年3月まで実施した。

4　遺構の実測は、塩崎幸夫、清水彰、饗場奈那江、石合好江、田村まり子が行った他、空中写真測量、図化を株式会社写真測図研究所に委託して行った。また、遺構実測の基準となる国家座標によるグリッドの杭打ち、基準点等の設置も同社に委託して実施した。

5　遺物の整理及び報告書の作成作業は、清水、塩崎、久保田敦子の指示のもとに池田市郎、小柳治雄、林正治、饗場、石合、田村、市村みつ子、井沢光子、上原祐子、大井敬子、田村雄二、山本万里、丸田由紀子が行った。

6　遺構の写真は、塩崎、清水が撮影した。使用器種はペンタックスESPI0928、キャノンEOS630で、フィルムはモノクロームがコニカ・LV、富士・ネオパンプレスト、リバーサルがコダック・エクタクロームDYNA、ネガカラーはコダック・スーパーカラーで、すべてASA100である。フィルムの現像及びプリントは市内の写真店が行った。航空写真は、（株）写真測図研究所に委託して撮影した。

7　遺物の写真は、錫杖鋳型及び軒丸瓦瓦当面の一部を小川忠博が撮影し、その他は久保田が撮影した。

8　石器石材の鑑定は、甲田三男先生にお願いした。

9　獣骨の同定は、関谷圭史先生にお願いした。

10　本調査にかかわる資料は上田市教育委員会が保管している。

11　本調査の体制は次のとおりである。

教育長	我妻忠夫
教育次長	宮下明彦（平成１０年３月退任）
	内藤政則（平成１１年４月着任）
文化課長	川上元（平成１２年３月退任）
生涯学習課長	塩野崎利英　（平成１２年４月着任）
文化財係長	岡田洋一（平成１０年４月３０日退任）
	細川修（平成１０年５月１日着任）
文化財係	平林裕蔵（平成１１年４月１日着任、平成１３年３月退任）、中澤徳士、尾見智志（平成１１年３月退任、平成１３年４月再任）、塩崎幸夫、久保田敦子、久保田浩（平成１１年３月退任）、西沢和浩（平成１１年９月退任）、山嵜敦子（平成１０年４月１日着任、平成１１年３月退任）、清水彰（平成１２年３月退任）、小笠原正（平成１３年３月退任）、古野明子（平成１１年３月退任）、望月貴弘（平成１１年３月退任）、松野ひろみ（平成１１年３月退任）、須齋千恵子（平成１０年４月１日着任、平成１２年３月退任）

12　調査に参加・協力していただいた方々（順不同・敬称略）

池田市郎、井部定雄、内山重利、金澤修治郎、甲田五夫、小柳治雄、田中正美、塚田彦一、

名川真由美、林正治、東山唯夫、東山恒子、保屋野友延、村田宜子、横沢生枝、横沢昇、
柳沢栄治、甘利昌明、山崎玄太、吉池敦子、饗場奈那江、石合好江、田村まり子、市村みつ子、
井沢光子、上原祐子、大井敬子、田村雄二、山本万里、丸田由紀子

13　調査にあたり多くの方々や諸機関の御指導と御協力をいただいた。心より感謝する次第である。
地元の皆様、木下良先生、原田一敏先生、山岸猪久馬先生、市川隆之先生、原明芳先生、
長野県上田染谷丘高等学校同窓会様、（財）長野県埋蔵文化財センター様

凡　例

遺　構

1　遺構は、次のように略号で表した。番号は任意である。
溝（ＳＤ－　）　ピット（Ｐ－　）　土壙（ＳＫ－　）　掘立柱建物跡（ＳＴ－　）

2　遺構の実測図については、次のとおりである。

（1）　国家座標の北を頁の上とした。例外の場合は、方位を示した。

（2）　原図１/20、縮小１/３としたが、溝については縮尺１/６にした。ただし、調査地区全体図、遺構配置図等は任意である。縮尺は、図版に表している。

（3）　海抜高の単位はｍである。

3　遺構の記述については次のとおりである。

（1）　長さの単位は、ｍである。

（2）　方位は国家座標によった。主に頁の上を北とし、そうでない場合は図中に示した。

（1）　溝、土壙、ピットの深さは、検出面からの深さを示した。

4　土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修1990）を用いた。

5　遺構の写真の縮尺は任意である。

遺　物

1　遺物実測図については、次のとおりである。

（1）　原図１/１、縮小は以下の通りである。
土器・石器・鍛冶関連遺物１/３　　瓦１/３、１/６　　金属１/１、１/２

（2）　網点は、黒色処理部分、灰釉陶器等断面を示す。

2　遺物観察表については、次のとおりである。

（1）　法量の単位はcm、ｇである。

（2）　「胎」を胎土、「焼」を焼成、「色」を色調とした。

（3）　（　）内の数値は、土器については推定値、石器・瓦については残存値を示す。

（4）　土器の色調は上記の『新版標準土色帖』を用いた。

3　遺物の写真の縮尺は任意である。

目　次

序

例言

凡例

第一章　調査の経緯

第１節　調査の経緯……1
第２節　調査の方法……1
第３節　調査日誌……2

第二章　遺跡の環境

第１節　自然的環境……4
第２節　国分遺跡群とその周辺のこれまでの調査……4
第３節　基本層序……9

第三章　調査の結果

第１節　調査の概要……10
第２節　遺構……10
第３節　遺物……36

第四章　考察……145

第１節　軒平瓦・軒丸瓦について
第２節　国分遺跡群出土の丸瓦・平瓦・熨斗瓦について
第３節　国分遺跡群出土の道路状遺構について
第４節　国分遺跡群出土の掘立柱建物跡について
第５節　第７号溝跡の性格と出土遺物
第６節　鍛冶関連資料について

写真図版……155

報告書抄録……198

第一章　調査の経緯

第１節　調査の経緯

本調査の原因なった市道川辺国分線の建設工事は、国道 18 号線の渋滞の解消及び、千曲川左岸地域と上信越自動車道上田菅平インターチェンジを結ぶ市街地環状道路の一部として計画された。その事業予定地の国分工区が上田市大字国分に所在することから、平成７年 10 月に上田市建設部土木課より埋蔵文化財の有無について上田市教育委員会事務局社会教育課（以下、事務局という。なお、平成９年度に文化課、さらに平成 12 年度に生涯学習課に改組した。）に問い合わせがあった。予定地は、国分字堂浦及び堂西に位置し、工事は全体延長 690mにおよぶ。事務局で確認したところ、この場所は周知の埋蔵文化財包蔵地である「国分遺跡群」の範囲内であったため、平成７年 10 月４日に事務局と土木課で協議を行った。

さらに、平成９年度公共事業に係る埋蔵文化財の保護について、平成８年５月 30 日付８教文第 111 号で長野県教育委員会教育長から関係機関の長宛に照会があった。上田市の回答を受けて、本計画について平成８年９月 19 日に長野県教育委員会、土木課、事務局の三者で埋蔵文化財の保護協議を実施した。その結果、試掘調査を早急に実施し、その結果を見て保護措置を検討することとなった。

事務局は、事業の進捗状況に合わせて、平成９年度から平成 11 年度にかけて試掘調査を行い、遺跡の分布状態を確認した。その際、地権者の承諾が必要な場合は土木課に得てもらった。（平成９年度、平成 10 年度及び平成 11 年度発行の『市内遺跡』参照。）この間に土木課と事務局と再度協議が行われ、試掘の結果をもとに工事着手前に遺跡の発掘調査を行い、埋蔵文化財の記録保存を図ることとした。

これをうけて、事務局では平成９年 10 月 23 日から 11 月 28 日に工事【国分７】において 1,200 ㎡、平成 11 年５月 21 日から６月 30 日に工事【国分２】において 1,016 ㎡、同年７月 26 日から９月 17 日に工事【国分６】において 964 ㎡の現地調査を実施した（第１図）。

その後、整理作業を行い、平成 14 年３月までに報告書を刊行し、調査を終了した。

第２節　調査の方法

１　遺跡名と略記号

周知の埋蔵文化財包蔵地である「国分遺跡群」は、複数の遺跡より構成される遺跡群である。『上田市の原始・古代文化』（1977 年、上田市教育委員会）で上沢沖、古城、堂浦、屋敷、堂西と表されたこれらの遺跡は、『上田市文化財分布地図』（1979 年、上田市教育委員会）を作成するにあたり、一括して「国分遺跡群」と称することとした。

この名称により、国分（Ｋｏｋｕ－Ｂｕ）の頭文字「ＫＢ」を本遺跡の略記号として調査に用いた。各種の記録や遺物の注記等にこの記号を使用してある。

２　調査地区の設定

調査区域は、事業地内の試掘調査によって判明した遺跡の範囲とした。平成９年度の調査区域は、表土から多くの遺物が採集されたため、事前の試掘調査は行わずに直接本調査を実施した。

なお、第１図のとおり本書では平成９年 10 月 23 日から 11 月 28 日に実施した調査地区をⅠ区、平成 11

年5月21日から6月30日に実施した調査地区をⅡ区、同年7月26日から9月17日に実施した調査地区をⅢ区と便宜上呼ぶこととする。

3　グリッドの設定

便宜上、調査地区にグリッドを設定した。これは、1単位の大きさが3m×3mで、国家座標に拠った。交点にはそれぞれ記号名を与えた（第三章　第7図）。記号は、任意の点を0として、そこから方向を示すために東・西・南・北にE・W・S・Nを、距離を示すために数字を与え、両者の組合せによって表した。例えば、点0から北に48m、東に30mの地点は、N48E30と表される。なお、任意の点0の座標値は、第Ⅷ系のY＝-20310.0、X＝42252.0である。このグリッドは、遺構の平面実測及び遺物取上げに使った。

4　遺構測量

遺構の平面実測は、前述のグリッドを基準に1／20の作図を基本として行った。さらに、ラジコンヘリコプターによる測量用空中写真の撮影と図化作業を（株）写真測図に委託して実施した。

5　その他

調査における表土の除去は、主に重機を用いて行い、必要に応じて人力で行った。遺構の掘り上げはすべて人力で行った。遺物は、表土出土はグリッドごとに、遺構出土は層位と地点を留意して取上げた。

現地での調査担当は、平成9年度は塩崎幸夫・清水彰が、平成11年度は清水彰が行った。

本書の執筆は、第四章を倉澤正幸が行い、第三章第2節2を中澤徳士が行った。それ以外は久保田敦子が行った。第二章第1節は、山岸猪久馬先生に御指導をいただいた。第二章第2節は、五十嵐幹雄先生、川上元先生に御指導をいただいた。

第3節　調査日誌（抄）

平成9年度

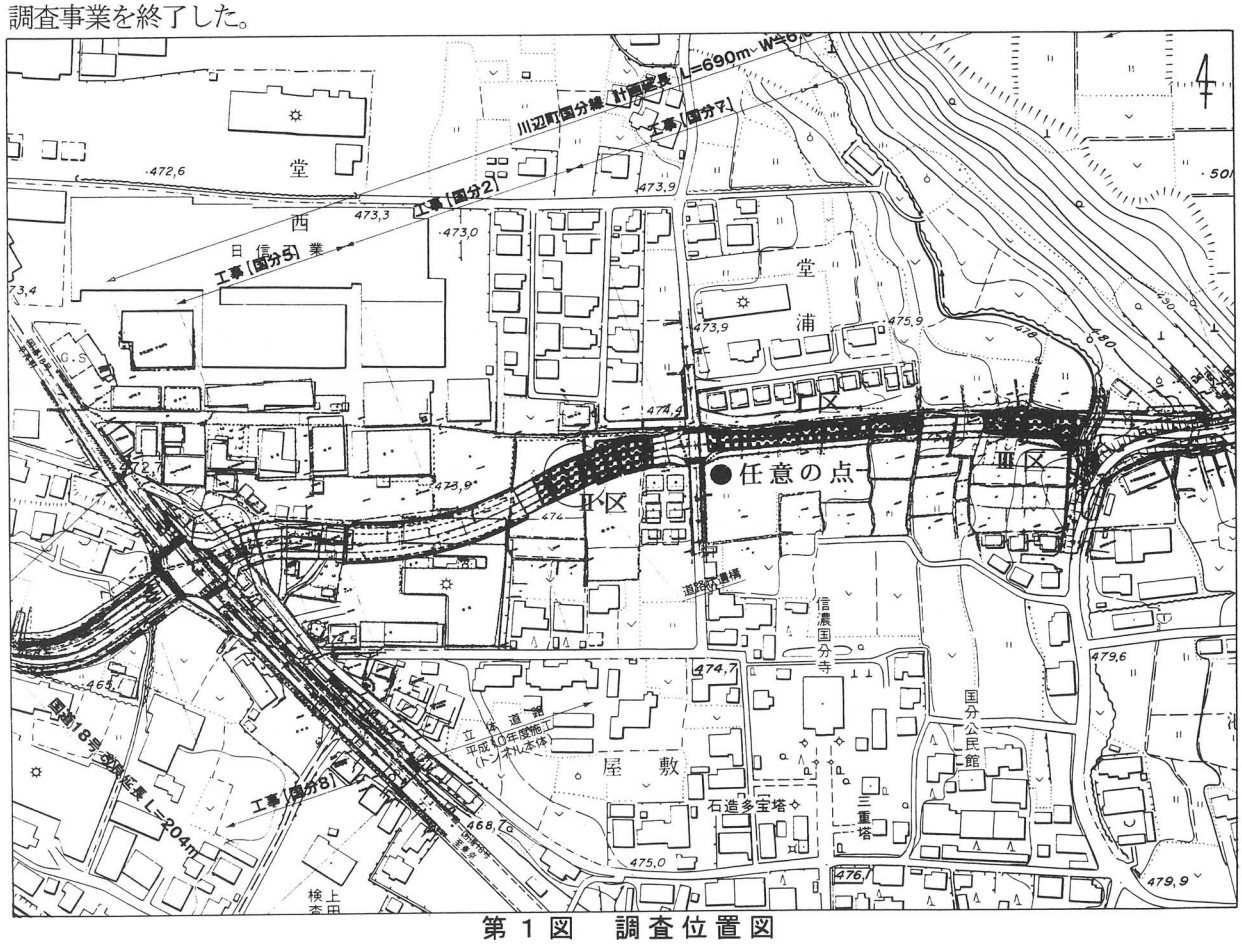
10月23日	Ⅰ区の表土剥を開始する。
10月27日	遺構の検出作業を開始する。
11月4日	グリッド杭打
11月19日	調査区の排水作業を行う。
11月21日	遺構掘り上げ作業を開始する。
11月28日	前日の雨で溜まった水を汲み上げる。

平成11年度

5月21日	Ⅱ区の表土剥開始。
5月26日	遺構検出作業開始。
5月28日	表土剥ぎ作業中、平行な2条の溝跡を検出する。

６月２日	遺構掘り上げ作業開始。
６月３日	２条の溝跡掘り上げ終了。道路跡の可能性が出てくる。
６月９日	遺構平面図実測を開始する。
６月１４日	道路状遺構を２箇所で断ち割る。
６月１５日	市誌編纂委員による現地視察。
６月１６日	黒坂周平先生、教育長による現地視察。
６月１７日	五十嵐幹雄先生による現地視察。調査地区清掃、空撮。
６月１８日	木下良先生現地視察。
６月２１日	久保先生現地視察。
６月２３日	廣瀬指導主事来訪。
６月２６日	現地説明会を開く。山岸猪久馬先生来訪。
６月２８日	道路状遺構にトレンチを設定して調査する。塩入秀敏先生来訪。
７月２６日	Ⅲ区の表土剥を開始する。
７月２９日	遺構検出を開始する。
８月３日	遺構掘り上げを開始する。
８月１９日	暑い日が続き作業が困難である。
８月２３日	金属片検出される。
９月７日	ＳＤ－０７が予想以上に深く驚く。
９月１３日	調査地区清掃。空撮。現地での調査終了。

以後、埋蔵文化財整理室において整理作業を実施し、平成13年度に本書である調査報告書の刊行を行い、調査事業を終了した。



第１図　調査位置図

第二章　遺跡の環境

第１節　自然的環境

上田市は、上田盆地とその西方に接する塩田盆地を中心に展開している。これらの盆地は、ともに三角形で、周辺はそれぞれ第三系の基盤に囲まれている。また、両盆地の境界を千曲川が北西に流下している。

今回の調査地である国分遺跡群が所在する上田盆地は、北方を底辺とする逆三角形で、一辺はほぼ10kmである。北方の基盤は太郎山山地で、南面は急峻な斜面で上田盆地に接している。南西方の基盤は小牧山山地である。東方の高まりは基盤ではなく、第四系の烏帽子岳火山となっている。また、盆地の東縁には神川が南西に流下している。

上田盆地の平坦面および段丘面は、高位から虚空蔵山面、染屋面、上田城面が主なるもので、さらに低位に千曲川及び神川に沿って３面がある。これらの面は、虚空蔵山面から上田城面までは東方に高く、千曲川に向かって傾斜し、また、北方の太郎山山地からは南方に傾斜している。従って、現在の上田盆地は上田城を中心とする盆状の地形となっている。また、虚空蔵山面、染屋面は西方に傾斜し、上田城面はほとんど水平である。すなわち、古い面ほど勾配が大きい。これは古い面ほど上部が上昇したことを示している。

なお、虚空蔵山面と染屋面は虚空蔵山の東方で神川に切られている。このことは神川の形成は染屋面の形成後の比較的新しい時期であることを示している。

また、神川は上田城面も切っているが、このことが、即、神川が上田泥流の堆積後に形成されたことを意味していない。神川が流れている時期に上田泥流が発生し、神川を越えて上田盆地に達し、盆地を埋積したが、その後神川が更に上田泥流堆積物を切って流れて現在に至っていると考えられる。

この内、国分遺跡群が位置するのは、上田城面である。この面は上田盆地の中央部に分布し、千曲川河床と染屋面の間に存在する（第２・３図）。

上田盆地付近の地質は、基盤の第三系が落ち込み、これを埋めて第四系が堆積したものである。また、第四紀の烏帽子岳火山の高まりがある。

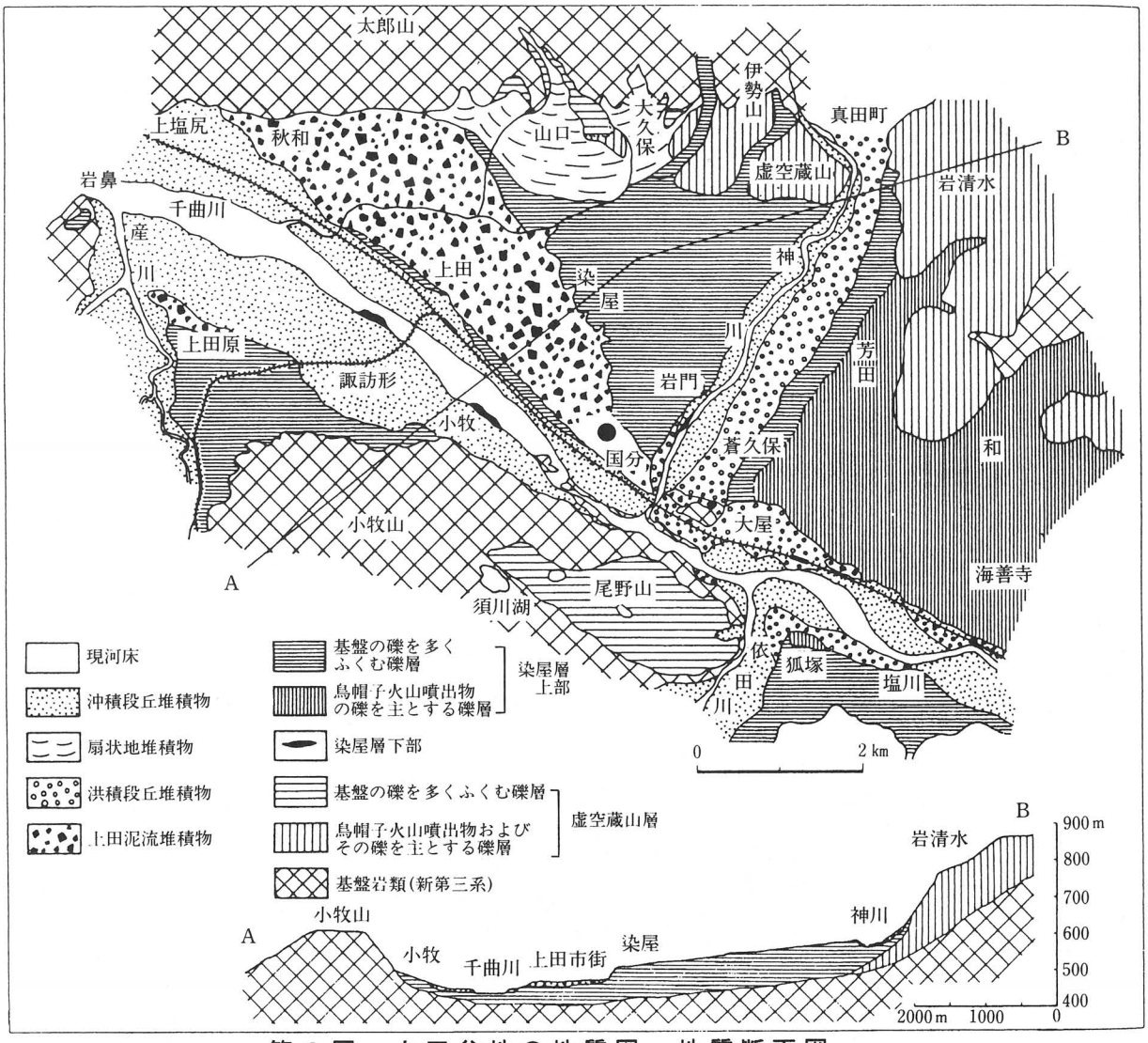
遺跡が存在する上田城面の構成層は大部分が第四系の上田泥流堆積物で、この上位を覆う堆積物はないが下位には礫層があり、これを不整合に覆っている。構成層は大部分が上田泥流堆積物である。これは千曲川に沿って上流に分布するが、広い面を構成するのは上田盆地の中央部に限られている。

上田泥流堆積物は、火山性泥流堆積物（火山学名：岩屑なだれ）で、千曲川沿いの上流に点々と分布し、小諸懐古園裏の崖から更に上流の塩名田塚原まで追跡されることが1975年に上田高校地質班によって確認された。

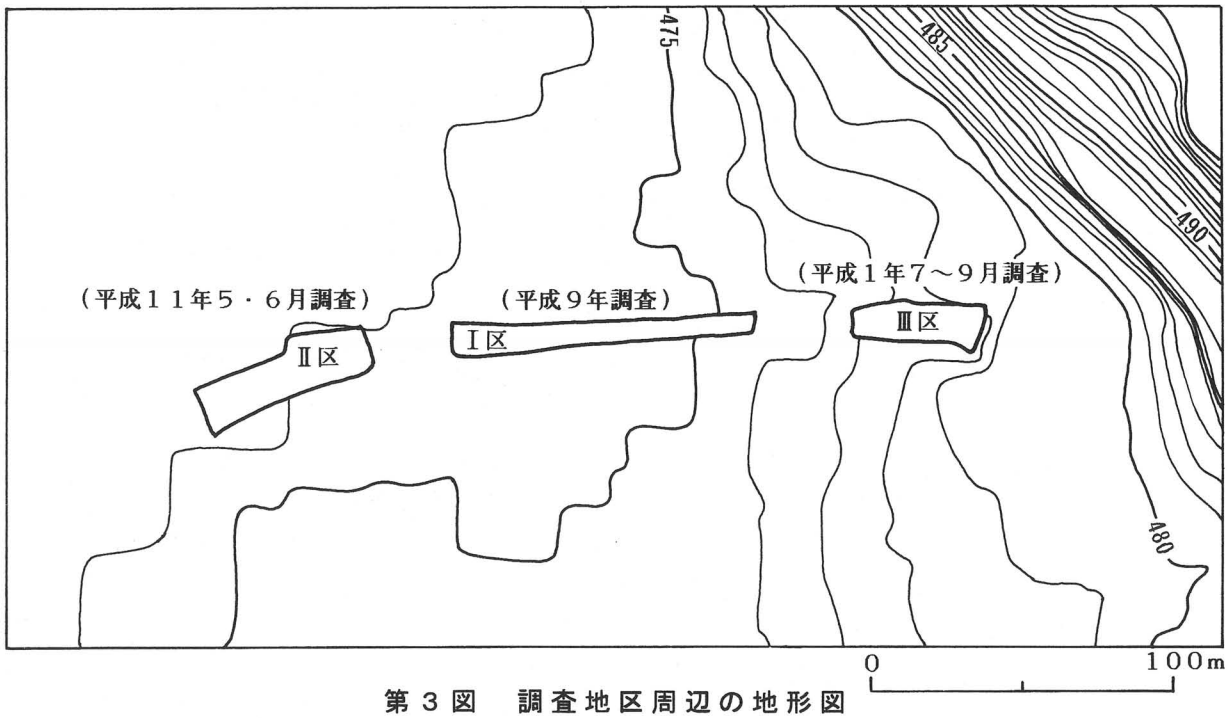
好露頭は上田城の下の崖で、この特徴は塩名田までずっと同じである。５～20㎝台の安山岩の角礫がまらばに火山灰のマトリックス中に存在する。安山岩にはいろいろな種類があり、どの種が多いというのではない。火山岩体の大崩壊によって大規模な泥流が発生し、途中の諸種の火山岩を取り込んだと思われる。特に、２～３m大の巨大岩塊が存在するが、この岩質は崩れそうであるが、崩れないでここまで、運ばれてきたということは、この岩塊は流下中にあまり変化を受けなかったのではないかと考えられる。

第２節　国分遺跡群とその周辺のこれまでの調査

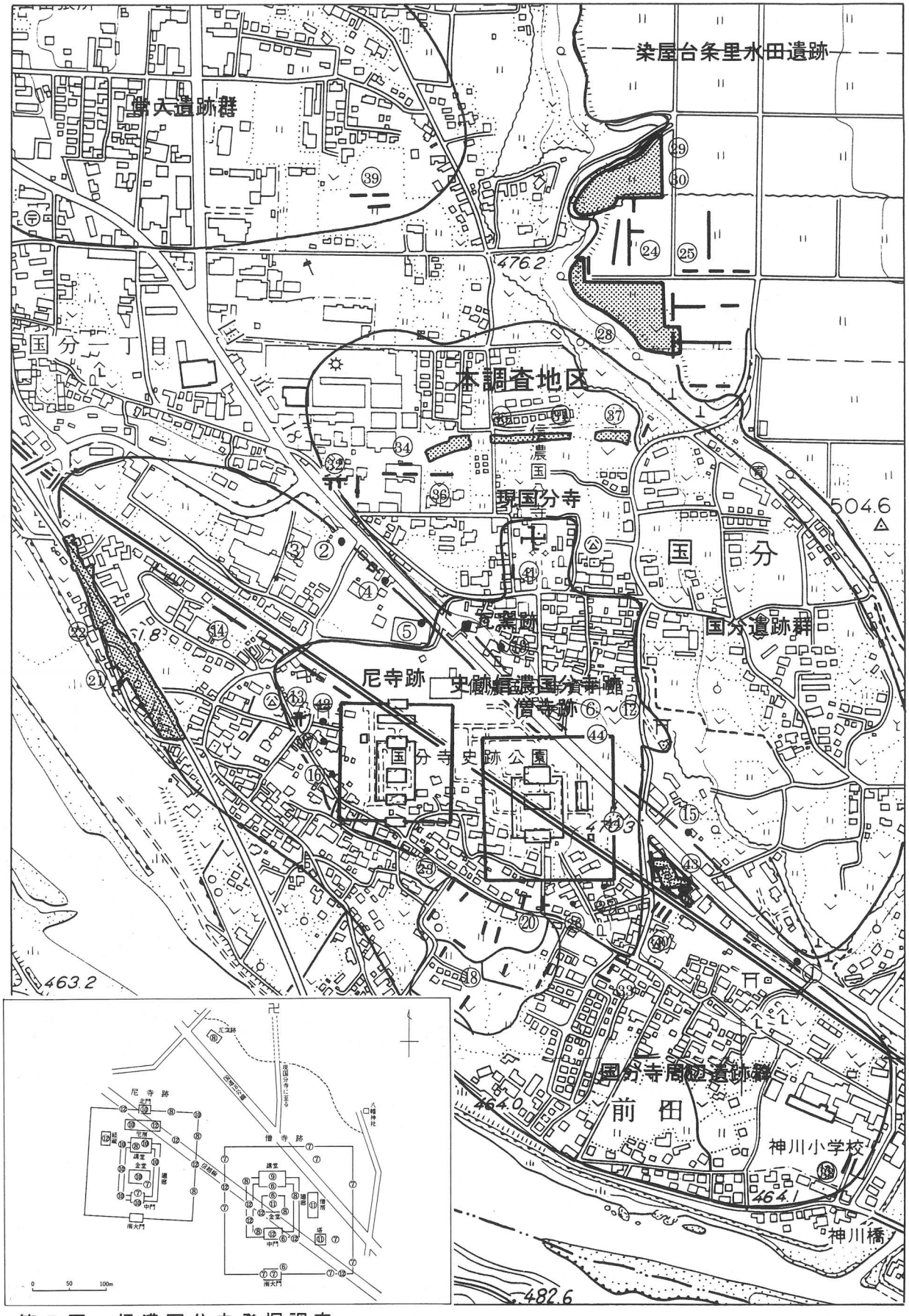
「国分遺跡群」は、現在の上田市神川地区の北西部に展開している。その周辺を含めたこの地域の地形は、平坦面である上田城面のほか、千曲川及び神川によって形成された複数の段丘面によって構成され、複雑な



第２図　上田盆地の地質図・地質断面図



第３図　調査地区周辺の地形図



第４図　国分遺跡群とその周辺遺跡

第５図　信濃国分寺発掘調査

No.	調　査　名	調　査　日	場所（小字名）	備　　考	参　考　文　献
1	神川浦沖遺跡発掘調査	S24.1	浦沖	縄文時代の竪穴住居址と中期・後期の土器、石斧、石皿、石棒ほか	五十嵐幹雄 1985「浦沖遺跡と遺物覚書書」『上小考古』19、八幡一郎 1949「信濃小県郡沖浦遺跡の発見」『人文学舎報』1
2	尼寺推定地現地調査	S26	道場（名所「二寺のどう」）	僧寺と同じ宇瓦	宮下真澄 1963「国分尼寺趾考」『信濃』15－11
3	尼寺推定地現地調査	S26	道場から明神前周辺	八葉複弁蓮華文鐙瓦	東信史学会編集部 1982「大発掘をもたらした古瓦」『千曲』33、黒坂周平 1980「国分寺創建」『上田小県誌』第一巻歴史編上（ニ）古代中世、ほか
4	発掘調査（店舗改築工事立会い）	S36	道場 989（名所「正明寺」又は比丘尼井戸西）	十二葉素弁蓮華文鐙瓦、青磁碗、天目茶碗など（瓦、土師器、須恵器、青磁、白磁）	宮下真澄 1963「国分尼寺趾考」『信濃』15－11
5	道場廃寺趾発掘調査	S38.8	道場 1003（名所「比丘尼井戸」）	トレンチ調査　石積み、河原石の配列　瓦、土師、須恵、陶器、青磁、古銭、ほか	宮下真澄 1963「国分尼寺趾考」『信濃』15－11、染谷丘高等学校歴史班 1965「上田市国分道場廃寺趾の調査」『あづまや』2
6	第１次緊急発掘調査	S38.3	仁王堂	僧寺講堂基壇、金堂跡雨落溝　鐙瓦、宇瓦、鬼瓦、鉄釘、須恵ほか	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、ほか
7	第２次緊急発掘調査	S41.3	仁王堂　道場　明神前	僧寺伽藍地、尼寺金堂跡の雨落溝　瓦、鉄釘、古銭、円面硯	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、上田市教育委員会 1966『信濃国分寺跡第二次緊急発掘調査概報』ほか
8	第３次緊急発掘調査	S42.3	仁王堂、明神前	僧寺中門と講堂を結ぶ廻廊、瓦窯跡、尼寺金堂及び講堂、尼寺東門及び四至	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、上田市教育委員会 1967『信濃国分寺跡第三次緊急発掘調査概報』ほか
9	第１次整備発掘調査（通称４次調査）	S43.11	仁王堂	僧寺講堂内部及び北側雨落溝	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、ほか
10	第２次整備発掘調査（通称５次調査）	S44.8.9, 11~12	明神前	尼寺金堂内部及び講堂、中門、廻	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、ほか
11	第３次整備発掘調査（通称６次調査）	S45.11~12	仁王堂	僧寺金堂内部及び塔、僧坊廊、尼坊、北門	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、ほか
12	第４次整備発掘調査（通称７次調査）	S46.7~8	仁王堂、明神前	僧寺中門及び廻廊、金堂南西隅の雨落溝、尼寺の尼坊及び経蔵	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、ほか
13	明神前遺跡発掘調査	S46	明神前	八葉複弁蓮華文・ほか鐙瓦、竪穴式建物跡９軒、カマド７基、タタラ跡　須恵器、土師器、瓦、墨書土器、灰釉、羽口、鉄滓、釘ほか	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、上田市教育委員会 1971『史跡信濃国分寺跡及び堂西遺跡調査報告書』
14	西沖遺跡 A･B･C･D 地区発掘調査	S46	西沖	竪穴式建物跡３軒、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉椀、人骨	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、上田市教育委員会 1971『史跡信濃国分寺跡及び堂西遺跡調査報告書』
15	水野遺跡発掘調査	S41.8.18~20	仁王堂 1182～1188	トレンチ調査　建造物の遺跡と思われる配石群　土師器、瓦	五十嵐幹雄 1971「長野県上田市国分水野遺跡」『考古学年報』19、ほか
16	明神前遺跡発掘調査（史跡現状変更による事前調査）	S51.12.20~52.1.18	明神前	住居址（カマド跡）　瓦、釘、土師器、須恵器	川上元・林和男 1981「明神前遺跡と信濃国分寺」『千曲』31
17	史跡信濃国分寺跡（史跡現状変更申請による緊急発掘調査）	S63.4.4~5.19	明神前	住居址２軒、ピット、溝（平安時代後半～中世）土器、瓦、石製鋸	上田市教育委員会 1989『史跡信濃国分寺跡』
18	北陸新幹線代替地造成に係る国分寺周辺遺跡群の事前調査	H3.12.5,6	堀東沖 1509-1 1508-1 1508-2 1491 1482-1 1485 1456 1483	トレンチ調査 10 本　Tr-23A 2 条の溝、Tr-23B 1 条の溝、Tr-30 土師器出土	上田市教育委員会 1992『市内遺跡』
19	史跡現状変更による信濃国分寺跡の事前調査	H4.9.9	仁王堂 1115-8	トレンチ調査　遺構無し	上田市教育委員会 1993『市内遺跡Ⅱ』
20	史跡現状変更による信濃国分寺跡の事前調査	H4.9.11 H5.2.11	堀東沖 1203 1512-6 1512-7	トレンチ調査　遺構無し	上田市教育委員会 1993『市内遺跡Ⅱ』
21	新幹線及び仮称下堀バイパス建設に係る国分寺周辺遺跡群事前調査	H5.12.20~21	西沖	トレンチ８本、高い密度で遺構、遺物が確認	上田市教育委員会 1994『市内遺跡Ⅲ』
22	北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査（国分寺周辺遺跡群）	H5.12.20,21 H6.9.~H7.1.31 8.1~9.29	西沖	弥生～平安等 206 軒　建物、土坑、溝ほか	（財）長野県埋蔵文化財センター1998『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書』2
23	史跡現状変更による信濃国分寺跡の事前調査	H6.9.16	堀東沖 1515-2	トレンチ２本　遺構は存在しなかった	上田市教育委員会 1995『市内遺跡Ⅳ』

24	上田市立第一中学校建設に係る染屋台条里水田跡遺跡の事前調査	H6. 11. 7, 8, 10, 11	古城・上沖・大沢	トレンチ調査 15 本　Tr01,04,07,11 より遺構（住居址、溝、土坑等）遺物（土師など）	上田市教育委員会 1995『市内遺跡Ⅳ』
25	上田市立第一中学校建設に係る染屋台条里水田跡遺跡の事前調査	H8. 2. 15, 16	古城・上沖・大沢	トレンチ調査 10 本　住居址、ﾋﾟｯﾄ	上田市教育委員会 1996『市内遺跡Ⅴ』
26	史跡現状変更による信濃国分寺跡の事前調査	H7. 10. 9	仁王堂 1198-2	トレンチ調査４本　Tr-1~3 から奈良、平安、古墳時代の遺構、遺物	上田市教育委員会 1996『市内遺跡Ⅴ』
27	史跡現状変更による信濃国分寺跡の事前調査	H7. 12. 4	仁王堂 1200-8	トレンチ２本　奈良、平安の遺物・遺構	上田市教育委員会 1996『市内遺跡Ⅴ』
28	古城遺跡発掘調査（上田市立第一中学校建設に係る）	H8. 4. 3~5. 31	上沖	遺構（住居址７軒、ピット、土坑）遺物（九葉単弁蓮華文軒丸瓦、土師器、灰釉陶器、瓦など）	上田市教育委員会 1997『古城遺跡』
29	国分産業団地造成工事に係る上沖遺跡の事前調査	H9. 2. 24~27	上沖	トレンチ調査 24 本　Tr-18～24 から土壙、ピット、溝状遺構、竪穴住居址	上田市教育委員会 1997『市内遺跡Ⅵ』
30	上沖（大沢）遺跡発掘調査（国分産業団地造成工事に伴なう）	H9. 4. 21~7. 8	上沖	古墳中期、平安前期、平安終末期の集落跡及び墓跡　竪穴住居址３、掘立柱建物 12、ピット、土坑、溝ほか、遺物は土師器、灰釉陶器、青磁など	上田市教育委員会 1998『上沖(大沢)遺跡』
31	国分遺跡群発掘調査（市道川辺町国分線建設に伴なう）	H9~H11	堂浦	掘立柱建物跡、土坑、溝など　土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、青磁、瓦、鋳型など	本書で報告
32	市道川辺町国分線建設に係る国分遺跡群の事前調査	H10. 1. 26, 27	堂西　堂浦	トレンチ４本のうち Tr-01 から土師器 Tr-04 より遺構、土師器、須恵器、灰釉陶器	上田市教育委員会 1998『市内遺跡』
33	共同住宅建設に係る国分寺周辺遺跡群の事前調査	H10. 3. 20 12. 22	堀東沖 1474-2 ほか	トレンチ調査３本　遺構無し　遺物 Tr-01,2 より土師、須恵少量	上田市教育委員会 1999『市内遺跡』
34	市道川辺町国分線建設に係る国分遺跡群の事前調査	H10. 6. 4	堂西　堂浦	トレンチ調査３本　Tr-05 より須恵器片、遺構無し	上田市教育委員会 1999『市内遺跡』
35	市道川辺町国分線建設に係る国分遺跡群の事前調査Ⅰ	H11. 4. 21	堂浦	トレンチ調査４本　Tr-8,9,11 より掘立柱建物、溝及び奈良、平安の土師器、須恵器	上田市教育委員会 2000『市内遺跡』
36	市道川辺町国分線建設に係る国分遺跡群の事前調査Ⅱ	H11. 7. 17	堂浦	トレンチ調査２本　溝出土	上田市教育委員会 2000『市内遺跡』
37	市道川辺町国分線建設に係る国分遺跡群の事前調査Ⅲ	H11. 7. 6	堂浦　古城	トレンチ調査４本　Tr-13,14 より溝、奈良・平安時代の土師・須恵、瓦、Tr-15 より土師・須恵、灰釉陶器	上田市教育委員会 2000『市内遺跡』
38	上田市立神川小学校屋内運動場改築工事に係る国分寺周辺遺跡群の事前調査	H11. 11. 8	加賀川原	トレンチ調査４本　遺構、遺物無し	上田市教育委員会 2000『市内遺跡』
39	共同住宅建設に係る常入遺跡群の事前調査	H12. 4. 3	久保田	トレンチ調査３本　Tr-03 から溝状遺構	上田市教育委員会 2001『市内遺跡』
40	国分ふれあい・（仮称）国分新駅駅前広場整備事業に係る国分寺周辺遺跡群の事前調査	H12. 5. 11, 12 6. 19	仁王堂　浦沖 1245-1 ほか	トレンチ調査６本　遺構、遺物出土（縄文・奈良・平安）	上田市教育委員会 2001『市内遺跡』
41	史跡現状変更による史跡信濃国分寺（国分遺跡群）事前調査	H12. 7. 31 8. 7 9. 1	仁王堂・屋敷 1027（現国分寺境内）	遺構（ピット群）　遺物（土師器、須恵器、陶磁器、瓦など）	上田市教育委員会 2001『市内遺跡』
42	史跡現状変更による史跡信濃国分寺（国分寺周辺遺跡群）の事前調査	H12. 10. 2, 11	明神前 1845-1 1846-2 1847-2	遺構（住居址、ピット、土坑）　遺物（墨書土器、須恵、土師、灰釉、瓦など）	上田市教育委員会 2001『市内遺跡』
43	国分寺周辺遺跡群発掘調査（国分ふれあい・仮称国分新駅駅前広場整備事業に伴う）	H12. 10. 27~H13. 3. 15	仁王堂　浦沖	遺構（住居址、ピット、土坑、溝）　遺物（土師、須恵、灰釉、縄文、弥生、瓦など）	平成 13 年度報告
44	史跡保存整備による信濃国分寺跡の事前調査	H12. 12~H13. 2	仁王堂	建物遺構の可能性がある扁平な石を敷いた遺構	

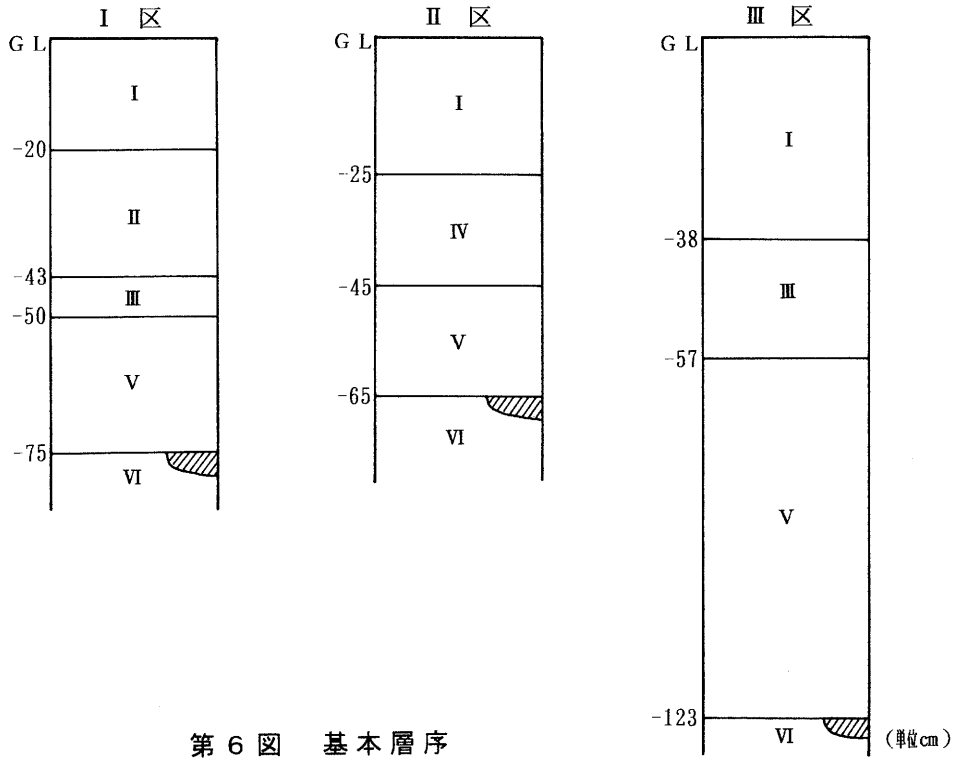
第１表　国分遺跡群周辺のこれまでの調査

様相を呈している。そのような環境の中で、この地域には「国分遺跡群」の他にも上田・小県地方屈指の大遺跡と呼ばれる幾つかの遺跡が存在する。当地が奈良時代から平安時代にかけて信濃の中心的な役割を果たす地域に発展した基盤は、これらの遺跡が大きく係わっていたものと考えられる。

「国分遺跡群」は、遺跡群を構成する遺跡のうち信濃国分寺瓦窯址を除けば、上田城面に立地している。この「国分遺跡群」の南に隣接して、「国分寺周辺遺跡群」がある。千曲川の形成した河岸段丘面に立地し、上田城面より一つ及び二つ下位の平坦面に所在している。「国分遺跡群」と「国分寺周辺遺跡群」の範囲にまたがって、国指定史跡の「信濃国分寺跡」がある。僧寺と尼寺は、上田城面より下位の千曲川形成の河岸段丘面上に立地しているが、史跡範囲は、南西側は同じ面の河岸段丘崖上まで、北側は上位上田城面の現国分寺の所在地まで、東は上田城面にある国分八幡神社までとされている。また、「国分遺跡群」と同じ上田城面には、北西に隣接して「常入遺跡群」がある。その他、「国分遺跡群」の北方、一つ高位の染屋面には、「染屋台条里水田跡遺跡」がある。第４図及び第１表に本遺跡群とその周辺遺跡において行われた調査を簡単にまとめて示した。

第３節　基本層序

調査地の基本層序は、以下のとおりである。この一帯のほとんどは今日まで水田及び畑地として活用されていたが、そのうちの一部分は戦後大規模な工場が建設され、その敷地となっていた。Ⅱ区の区域は、その敷地内にあたり、調査直前まで駐車場として使用されていた。従って、Ⅱ区において表土は駐車場の埋土である。Ⅰ区及びⅢ区における現表土は耕作土である。Ⅱ層は黒褐色の砂質シルトであり、Ⅲ層は褐色の砂質シルトである。Ⅱ層はⅡ区及びⅢ区には無く、Ⅲ層はⅢ区に無い。Ⅳ層は褐灰色の粘土質シルトである。Ⅱ区にだけ見られ、駐車場が営まれる以前の水田の基盤土か、水田耕作に影響を受けた層と考えられる。Ⅴ層は黒褐色砂質シルトである。ほぼ調査地全体を覆っており、遺物包含層でもある。　Ⅵ層はにぶい黄褐色の砂質シルトで、地山である。この上面が遺構検出面にあたり、主に遺構はこのⅥ層に遺構覆土が落ち込んだ状態で検出される（第６図）。



第６図　基本層序

第三章　調査の結果

第１節　調査の概要

先述のとおり、調査は事前に行われた試掘調査等の結果により、遺構が確認されたⅠ区からⅢ区の区域で実施した。概要は以下のとおりである（第７図）。平成９年度に調査調査が実施されたⅠ区は、調査面積は1,200㎡である。検出された遺構は土壙２基、溝跡１条等で、土師器、須恵器、錫杖鋳型、瓦等の遺物が出土した。平成11年度５月・６月調査に調査が実施されたⅡ区の調査面積は1,016㎡である。検出された遺構は、掘立柱建物跡７棟、土壙４基、溝状遺構１条、ピット108基、道路条遺構等で、土師器、須恵器、瓦等の遺物が出土した。平成11年度７月～９月調査に調査が実施されたⅢ区の調査面積964㎡である。検出された遺構は溝跡３条、ピット11基で、土師器、須恵器、瓦等の遺物が出土した。

第２節　遺構

１　掘立柱建物跡

Ⅱ区から集中して検出された。１間×１間、２間×２間、２間×３間、２間×３間（廂付）のものがある。柱痕は一つも確認されなかった。遺物は、柱穴の覆土中から奈良・平安時代の土師器片等が検出されたが、僅かな遺物から時期を明確に決定することは不可能である。しかしながら、掘立柱建物跡のすべての軸が南北方向となり、道路状遺構と向きがほぼ一致することから、道路状遺構と同時期である可能性は高い。

第１号掘立柱建物跡（ST－01）（第８図、第２表）

本遺構は、N24W78、N24W75、N21W78、N21W78、N18W78、N18W78グリッドから検出された。

構造は、平面形が３間×２間の南北棟で、側柱式である。規模は、桁行5.53m、梁行3.97mで、主軸はN－2°－Wを測る。柱間寸法は、桁行が1.84mで、梁行が1.99mである。柱穴の平面形は円形、または楕円形であり、Ｐ２、Ｐ３の断面形は段を有する。

柱穴の覆土からは奈良・平安時代の土師器坏及び須恵器の破片等が出土している。

第２号掘立柱建物跡（ST－02）（第９図、第２表）

本遺構は、N30W69、N30W66、N27W69、N27W66グリッドから検出された。

構造は、１間×１間で、棟方向は東西棟である。規模は、桁行2.36m、梁行2.17mで、主軸はN－88°－Eを測る。柱穴の平面形はＰ２が円形、他は楕円形である。Ｐ１は暗渠に一部を破壊されている。

柱穴の覆土からは遺物は出土しなかった。

第３号掘立柱建物跡（ST－03）（第10図、第２表）

本遺構は、N42W48、N42W45、N39W48、N39W48、N36W48、N36W45グリッドから検出された。

構造は、平面形が２間×２間の東西棟で、側柱式である。規模は、桁行4.19m、梁行3.85mで、主軸はN－86°－Wを測る。柱間寸法は、桁行が2.10mで、梁行が1.93mである。柱穴の平面形は円形、または楕円形であり、Ｐ１、Ｐ５、Ｐ８の断面形は断を有する。

柱穴の覆土からは奈良・平安時代の土師器の破片が出土している。

第４号掘立柱建物跡（ST－04）（第11図、第２表）

本遺構は、N39W45、N39W42、N39W39、N39W36、N36W45、N36W42、N36W39、N36W36グリッドから検出された。

構造は、平面形が4間×2間、棟方向が北西南東棟である。側柱式で、廂付建物である。規模は、桁行7.90m、梁行4.10mで、主軸はN-83°-Wを測る。柱間寸法は、桁行が1.97mで、梁行が2.05mである。柱穴の平面形は円形、または楕円形であり、P1、P5の断面形は段を有する。P11は暗渠に一部を破壊されている。

柱穴の覆土からは奈良・平安時代の土師器及び須恵器の破片が出土している。

第5号掘立柱建物跡（ST−05）（第12図、第2表）

本遺構は、N33W39、N33W36、N33W33、N30W39、N30W36、N30W33グリッドから検出された。

構造は、平面形が3間×2間、棟方向が東西棟で、側柱式である。規模は、桁行5.20m、梁行3.56mで、主軸はN-89°-Wを測る。柱間寸法は、桁行が1.73mで、梁行が1.78mである。柱穴の平面形は円形、または楕円形である。P3、P5、P7、P9、P11、P13は、補強等に使われた柱跡か、または建て直しが行われた跡と考えられる。これらの柱穴は、全体的に平面及び断面が比較的小規模であり、断面形は若干の傾きが見られる。

柱穴の覆土からは古代瓦、土師器及び須恵器の破片が出土している。

第6号掘立柱建物跡（ST−06）（第13図、第2表）

本遺構は、N42W36、N42W33、N42W30、N39W36、、N39W33、N39W30、N36W36、N36W33、N36W30グリッドから検出された。

構造は、平面形が2間×2間、棟方向が東西棟で、側柱式である。規模は、桁行5.22m、梁行4.76mで、主軸はN-87°-Wを測る。柱間寸法は、桁行が2.61mで、梁行が2.38mである。柱穴の平面形は円形、または楕円形である。暗渠に一部を破壊されている。

柱穴の覆土からは奈良・平安時代の土師器及び須恵器の破片が出土している。

第7号掘立柱建物跡（ST−07）（第14図、第2表）

本遺構は、N33W36、N33W33、N30W36、N30W33、N27W36、N27W33グリッドから検出された。

構造は、平面形が2間×1間、棟方向が南北棟で、側柱式である。規模は、桁行4.88m、梁行3.22mで、主軸はN-1°-Wを測る。柱間寸法は、桁行が2.44mで、梁行が1.61mである。柱穴の平面形は円形、または楕円形である。

柱穴の覆土からは奈良・平安時代の土師器及び須恵器の破片が出土している。

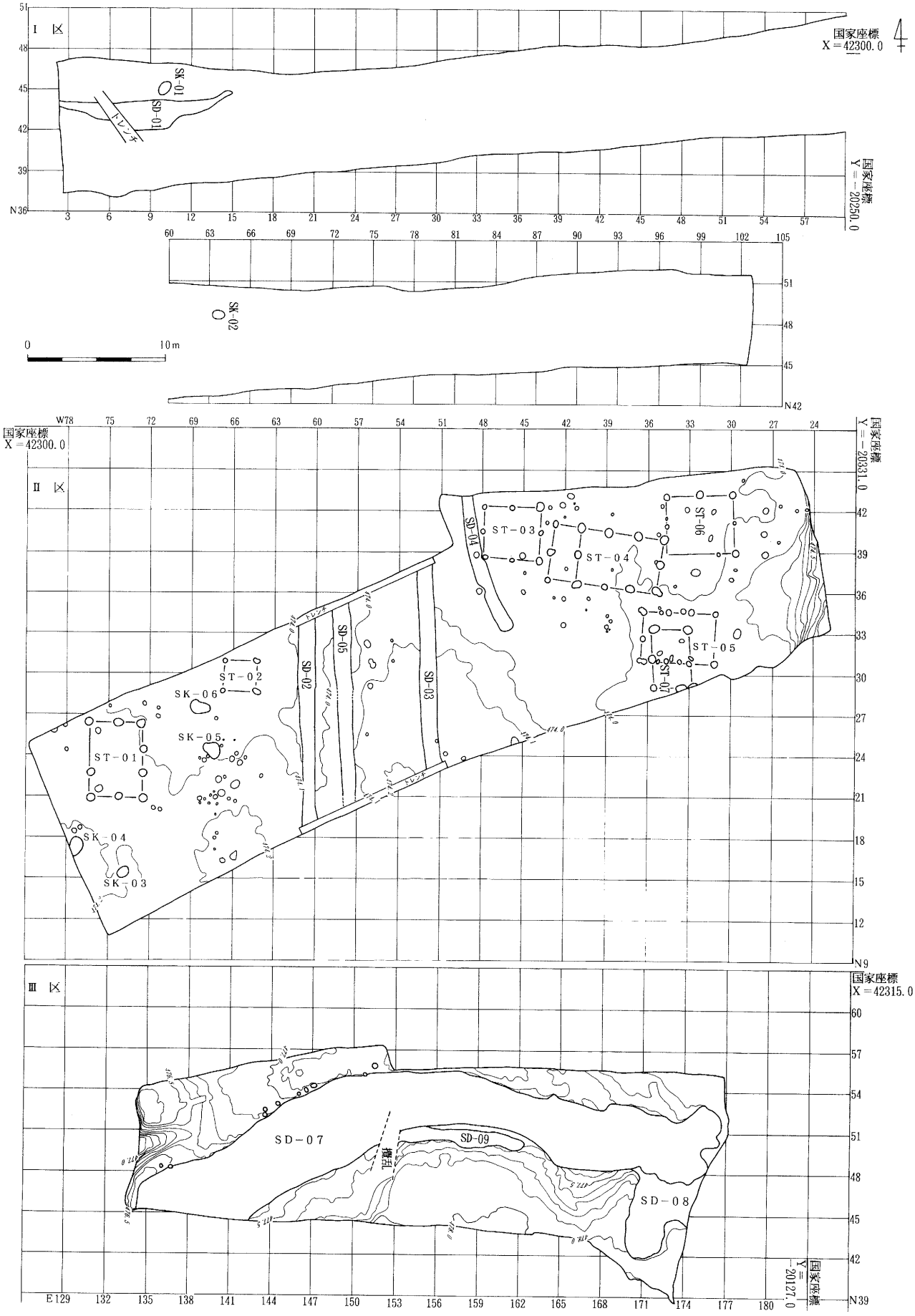
2 道路状遺構

第1号道路状遺構（SD−02、SD−03 、SD−05）（第15・16図）

本遺構は、平行する第2号溝跡と第3号溝跡の間に構成される。

2条の溝は、規模及び形態をほぼ同じくし、方向も南北に一直線状になっていて、調査区域内で長さ約15mにわたって検出した。規模は、第2号溝跡において幅0.90ー1.48m、深さ0.15ー0.24を計り、第3号溝跡では、幅1.08ー1.39m、深さ約0.15mとなっている。

この2本の溝で区画される範囲には、硬化面が存在した。幅は両溝の心々距離で8.5ー9.0mを計る。この硬化面の構造を調査するため、調査区の北端(A-A'セクション)と南端(B-B'セクション)に第2号溝跡と第3号溝跡を裁ちきりトレンチを入れた。その結果は第15・16図に示すとおりである。


Ⅰ 区
国家座標
X＝42300.0
国家座標
Y＝－20250.0
SK-01
SD-01
トレンチ
SK-02
0
10m
Ⅱ 区
国家座標
X＝42300.0
国家座標
Y＝－20331.0
ST－03
ST－04
ST－06
SD-04
ST－05
ST－07
SD-05
SD-02
SD-03
ST－02
SK－06
SK－05
ST－01
SK－04
SK－03
Ⅲ 区
国家座標
X＝42315.0
国家座標
Y＝－20127.0
SD－07
撹乱
SD-09
SD－08

第７図　遺構配置図

表土となるⅠ層は、駐車場として利用するために埋め立てられた客土であり、Ⅳ－Ⅴ層は水田として利用していた当時の土となっている。

地山はⅥ、4、7、8層の4種があり、変化に富む。これは調査地の面が、浅間山の火山泥流によって形成されたものであり、火山灰土と火山弾の風化した砂礫が混在した結果による。

1層は、黄褐色シルト質で、光沢を帯び、叩き締めたような堅緻な面を形成している。また、Ⅵ、4、7、8層は、もともと締まりのある地山であるが、溝を境として、内側はさらに締まりが強く堅くなっている。

これらのことから、この二つの溝に区画された範囲は、判築は確認されないものの、他の類例からみて道路状遺構と考えられ、特に1層は、その造成あるいは修築の際に客土され、叩き締められた路面の構造体と思われる。そのほか、地山が硬化した面については、もともと客土しなかったのか、剥がれてしまったのかは判然としないが、路面として使用する際、あるいは使用しているうちに硬化したものと思われる。

さらに、このセクションで新たに確認されたのは、第2号溝跡の東約1mに検出された落ち込みである。この落ち込みは、A-A'セクションにおいては、1層の硬化面の直下に確認され、明らかに前述の路面よりは古い遺構となる。この溝はB-B'セクションにいたって前後関係が判然としなくなるが、A-A'セクション側から硬化面を剥ぎながら掘り進んだところ、2、3号溝跡とほぼ平行であり規模・形態ともほぼ同様な溝跡となって現出した。第5号溝跡である。

第5号溝跡は、幅0.68ー1.14m、深さ0ー0.23mを計る。平面的にみると、南端においては確認されなくなるが、B-B'セクションにおいてその延長が確認されるので、やはり2、3号溝と同様に延長していくことが推定される。

こうした3条の溝跡の検出状況から、次のようなことが想定される。

① 当初、2号溝と5号溝によって形成された道路が、拡幅の必要により新たに3号溝を造り、5号溝を埋め立て、新たな路面を構築した。

② 道路とは関係のない5号溝がその役割を終えたのち、2、3号溝が掘られ、新たに道路を構築した。

現場の状況では、3ー5号溝の間の堅緻面が、2ー5溝の間よりも明らかに堅く締まっていることから、①の可能性が高いと思われる。

一方、各溝からの出土遺物からは大きな時期差は想定されず、また、他の類例でも、幅9mの道路が6mになる事例は報告されているが、①のような例はないため、確定的とは言い難い面もある。何より、今回の調査範囲がきわめて狭いため、今後、この道路状遺構の延長上の調査や、他の調査の進展を待って結論を出したい。

3 土壙

第1号土壙（SK－01）（第17図、第3表）

本遺構は、N45E9 、N42E9グリッドから検出された。平面形は楕円形で、掘りかたは浅い。規模は、長径104.0cm、短径70.0cm、深さ12.0cmを測る。

覆土から平安時代の土師器片が出土する。遺構の性格は不明である。

第2号土壙（SK－02）（第17図、第3表）

本遺構は、N48E63グリッドから検出された。平面形は楕円形、断面形はたらい状を呈し、掘りかたは浅い。規模は、長径80.0cm、短径68.0cm、深さ15.0cmを測る。

覆土から平安時代の土師器の破片が出土する。遺構の性格は不明である。

第3号土壙（SK－03）（第17図、第3表）

本遺構は、N15W75 グリッドから検出された。平面形は楕円形で、掘りかたは浅い。規模は、長径 86.0cm、短径 66.0cm、深さ 11.0cm を測る。覆土から土師器及び須恵器片が出土する。遺構の性格は不明である。

第４号土壙 (SK－04) (第 17 図、第３表)

本遺構は、N15W78 グリッドから検出された。平面形は楕円形で、断面は北側が少し深く段を有している。掘りかたは浅い。規模は、長径 134.0cm、短径 92.0cm、深さ 18.0cm を測る。覆土から奈良・平安時代の土器片が出土する。遺構の性格は不明である。

第５号土壙 (SK－05) (第 17 図、第３表)

本遺構は、N24W69 、N26W69 グリッドから検出された。平面形は不整な楕円形で、断面形はたらい状を呈する。規模は、長径 128.0cm、短径 120.0cm、深さ 16.0cm を測る。覆土から土師器及び須恵器片が出土する。遺構の性格は不明である。

第６号土壙 (SK－06) (第 17 図、第３表)

本遺構は、N27W69 グリッドから検出された。平面形は不整な楕円形で、掘りかたは浅い。西側の底部は円形に深くなっている。規模は、長径 138.0cm、短径 78.0cm、深さ 20.0cm を測る。覆土から奈良・平安時代の土器片が出土する。遺構の性格は不明である。

4 溝跡

第１号溝跡 (SD－01) (第 18 図)

本遺構は、N25E0、N42E3、N42E6、N42E9 、N42E12 グリッドから検出された。形状は浅く、不整形に東西に伸びている。西は調査区域外に出て、東端は丸くなって消滅している。規模は、最長 12.26m、幅は 0.3mから 2.0mを測る。平安時代の土器片 (第 35 図、第８表)、炭化した木片、獣骨が出土した。成因は不明であるが、人工的に掘りこまれた溝と考えられる。

第４号溝跡 (SD－04) (第 19 図)

本遺構は、N42W51、N39W51、N36W51、N36W48、N33W48 グリッドから検出された。形状は浅く、直線状に南北に伸びている。北は調査区域外に出て、南端は丸くなって消滅している。規模は、最長 12.5m、幅は 0.84mから 1.1mを測る。遺物は出土しなかった。成因は不明であるが、人工的に掘りこまれた溝と考えられる。

第６号溝跡 欠番

第７号溝跡 (SD－07) (第 20 図)

本遺構は、平成 11 年度７月～９月の調査区域のほぼ全域に広がっている。形状は、大きく曲線を描き東西に 40m にわたって伸びている。西は調査区域外に出て、東は消滅している。断面の形態は複雑な様相を呈しており、東側は皿状をしているが、西側は段を有するV字に近い形態をし、最も深いところで 0.9mを越えている。また、所々に不整形な形状で深くなっている部分がある。溝底には、２箇所にわたって人の頭大かそれより一回り大きい礫が一列に並んでいる。この溝に伴なって人為的に配されたものと考えられる。底面の標高は、全体的に見て、東が高く、西が低くなっており、流水があったものと思われる。東側の覆土は流水による堆積と考えられる。人工的に区画するために掘られた溝と考えられる。

覆土からは、夥しい量の遺物を出土した。主に平安時代に属する土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器の食器類等の破片及び布目瓦片が、コンテナ40箱を越えて検出された。この他、青磁片、直径約4㎝の金属塊及び獣骨が検出された。これらは、人為的にこの場所に持ち込まれたものと思われる。

第8号溝跡（SD−08）（第21図）

本遺構は、第7号溝跡の西端南側から検出された。南北に伸び、長さ約6m、幅約2,7mを測る。この遺構が検出された付近は、検出面が削平されており、北端は第7号溝跡と接続しているのか、重複関係があるのか不明である。南端は丸くなって消滅している。断面は浅く、皿状を呈している。覆土からは平安時代に属する土師器及び須恵器の坏、埦等が出土した。

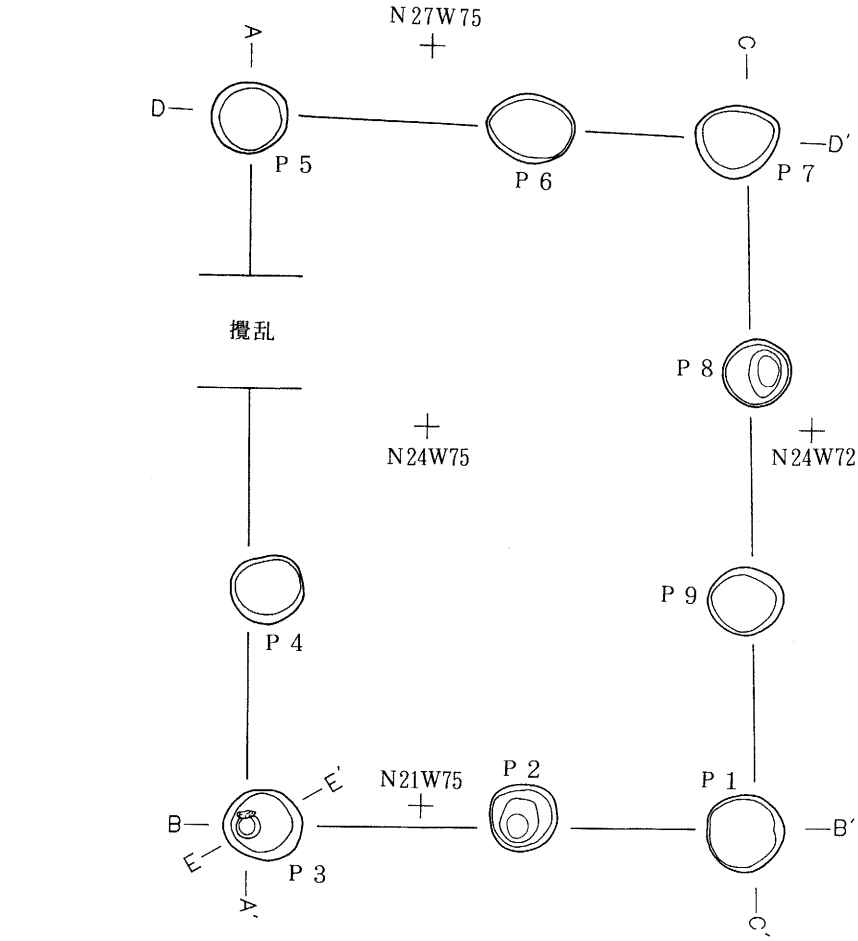
第9号溝跡（SD−09）（第21図）

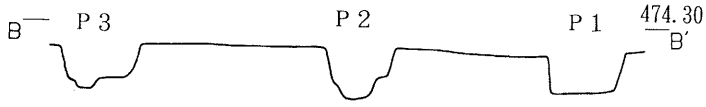
本遺構は、第7号溝跡の南側に隣接して検出された。第7号溝跡に平行して東西に伸び、長さは約9.2m、幅は約0.9mから1.5mを測る。断面は浅い。西端は撹乱によって破壊され、東端は途切れている。覆土からは平安時代に属する土師器及び須恵器の坏、椀や灰釉陶器、布目瓦片等が出土した。

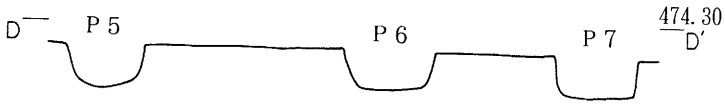
5　ピット（第22〜25図、第4〜6表）

平成11年度5月・6月及び平成11年度7月〜9月に調査が行われた区域からは、121基のピット群が発見された。このうち、N42W30、N39W30、N36W30、N42W27グリッドから検出されたP−117、P−118、P−119、P−122、P−123は、直線状に並ぶ。調査区域の端部から検出されているため、未検出の掘立柱建物跡の可能性が高い。

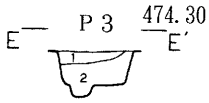
いくつかのピットの覆土から遺物が出土している。ほぼすべてが奈良・平安時代の土器であると思われる。





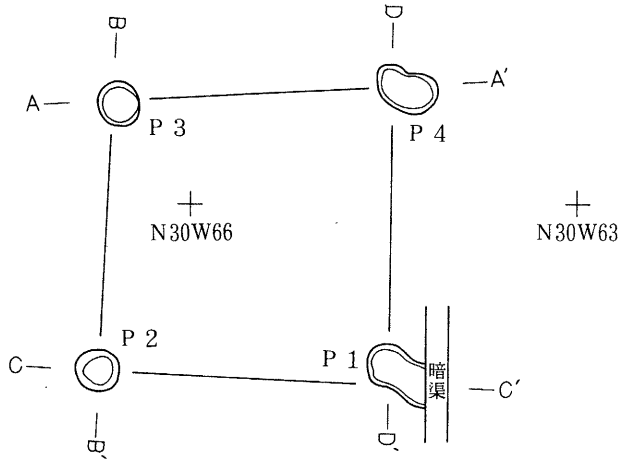


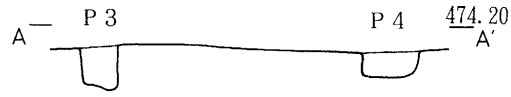
P 1，P 2，P 4，P 5，P 6，
P 7，P 8，P 9の覆土
7.5YR2/1黒色シルト



P 3の覆土
1．7.5YR2/1黒色シルト
2．7.5YR3/2黒褐色シルト（小礫を含む）

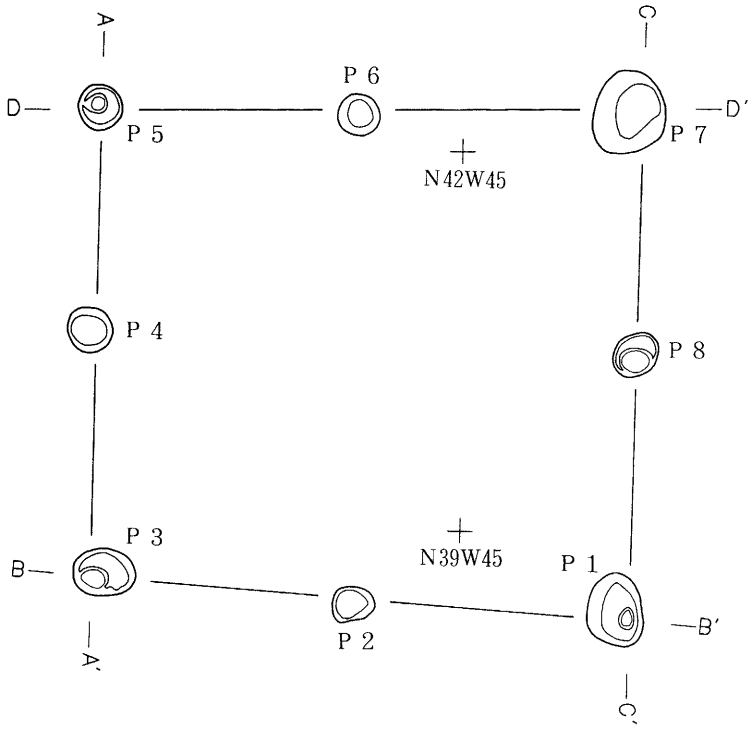
第 8 図　第 1 号掘立柱建物跡実測図

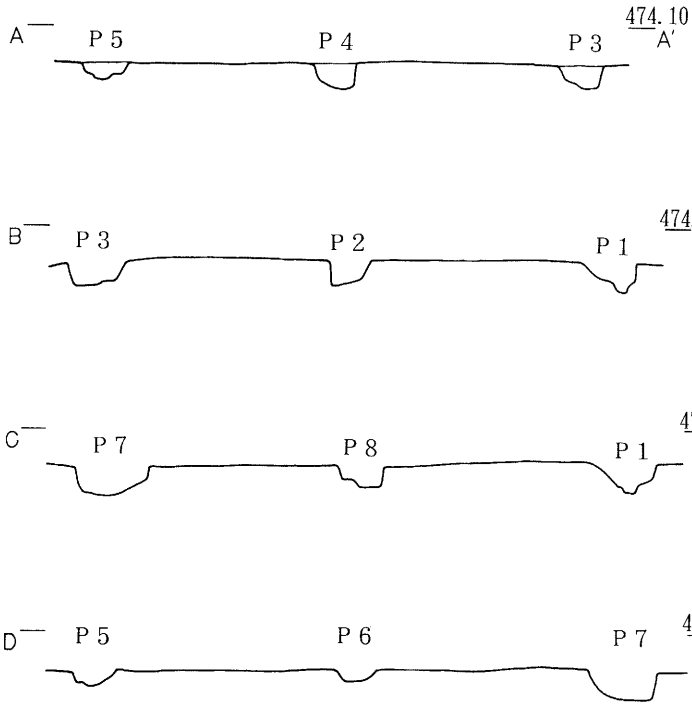




P１～Ｐ４の覆土
7.5YR2/1黒色シルト

第９図　第２号掘立柱建物跡実測図

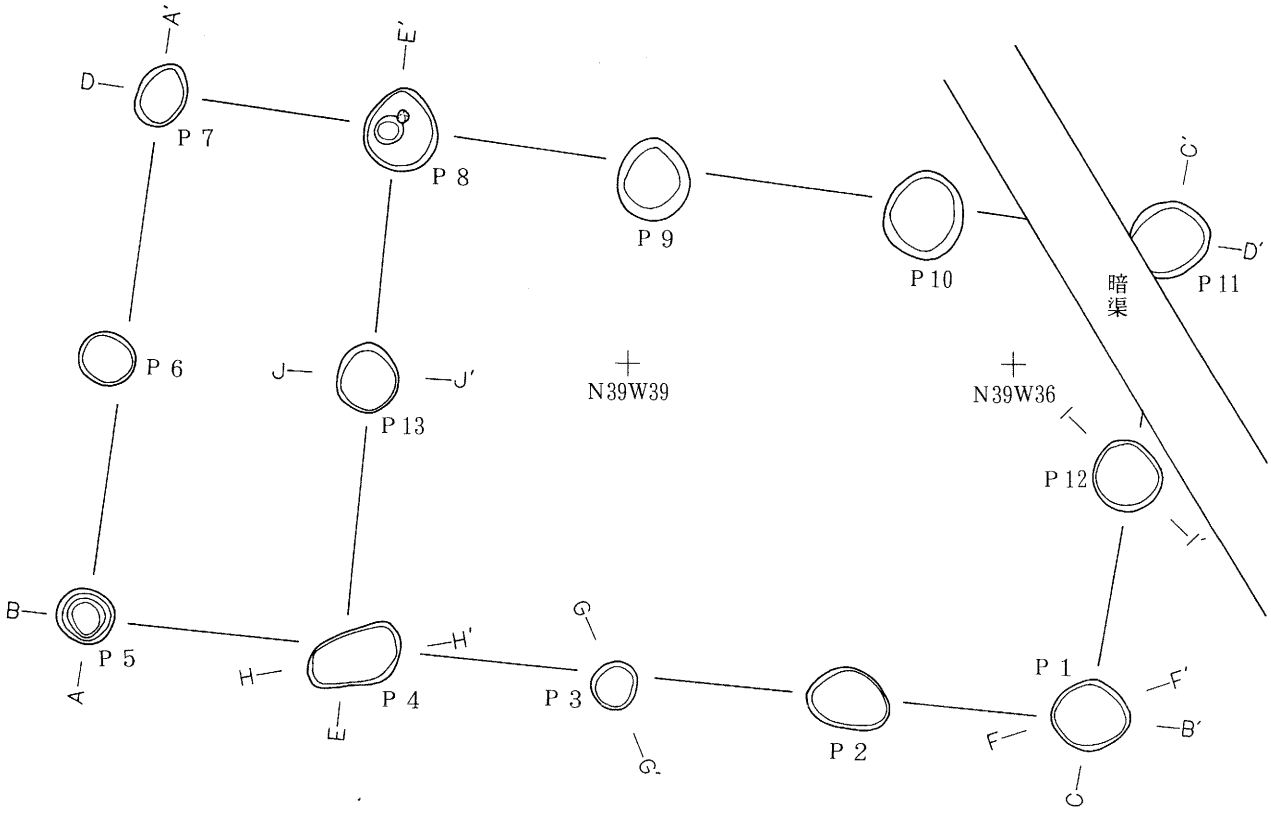


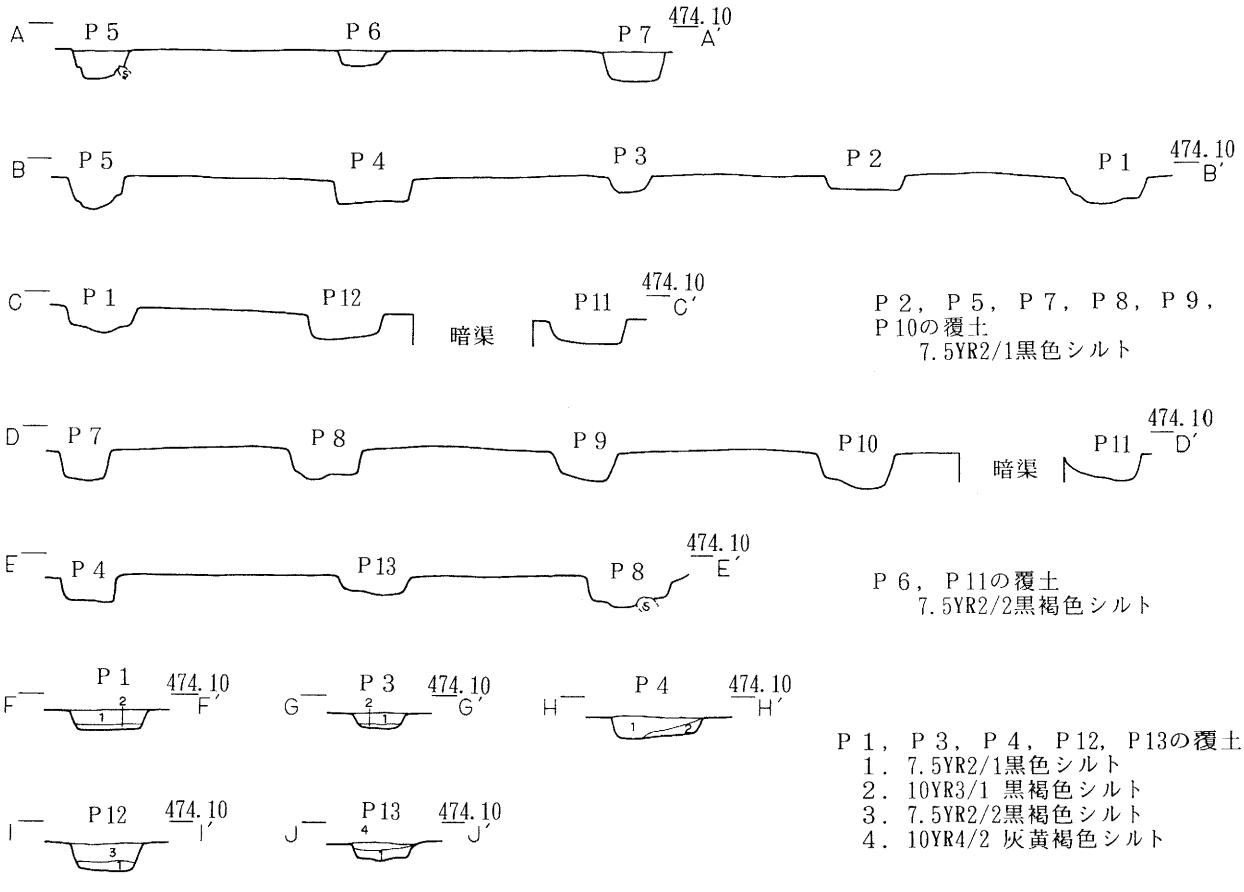


P 1, P 2, P 3, P 4, P 6,
P 7, P 8の覆土
7.5YR2/1黒色シルト

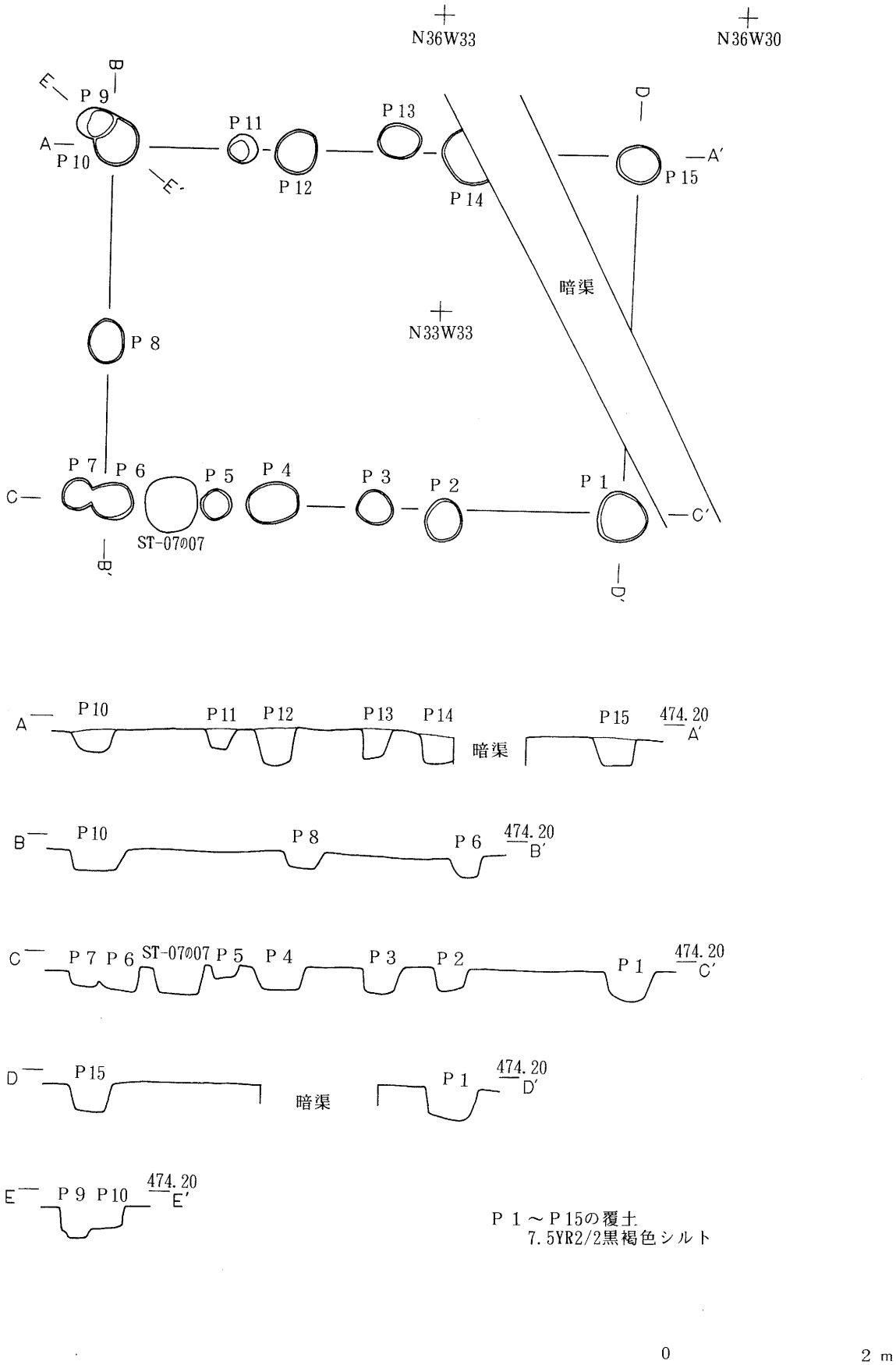
P 5の覆土
7.5YR3/1黒褐色シルト

第 10 図　第 3 号掘立柱建物跡実測図

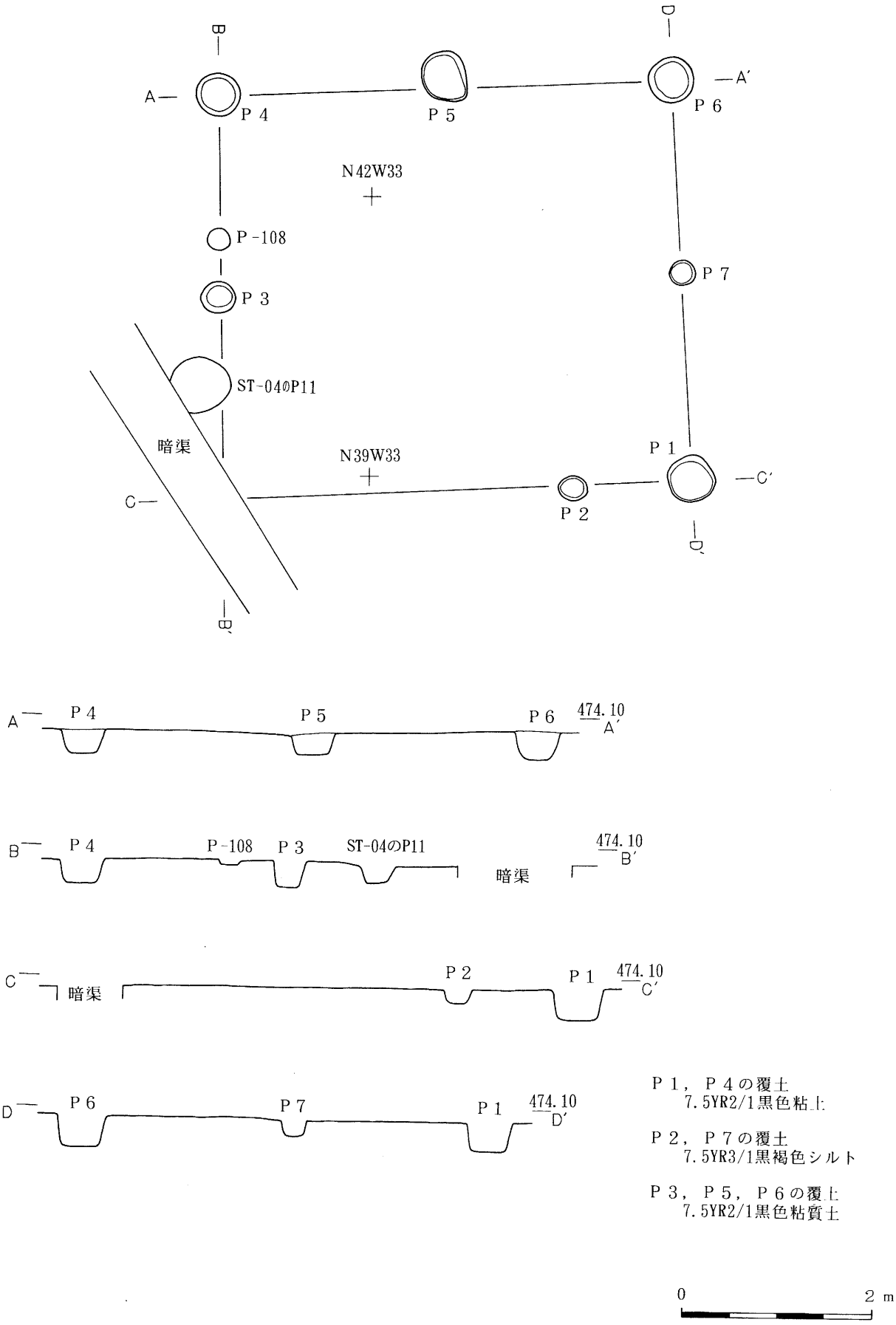




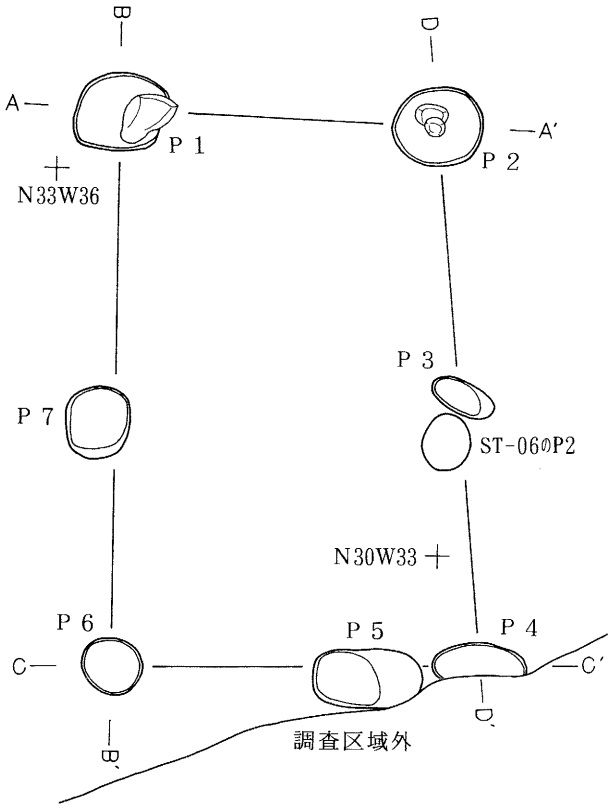
第 11 図　第 4 号掘立柱建物跡実測図

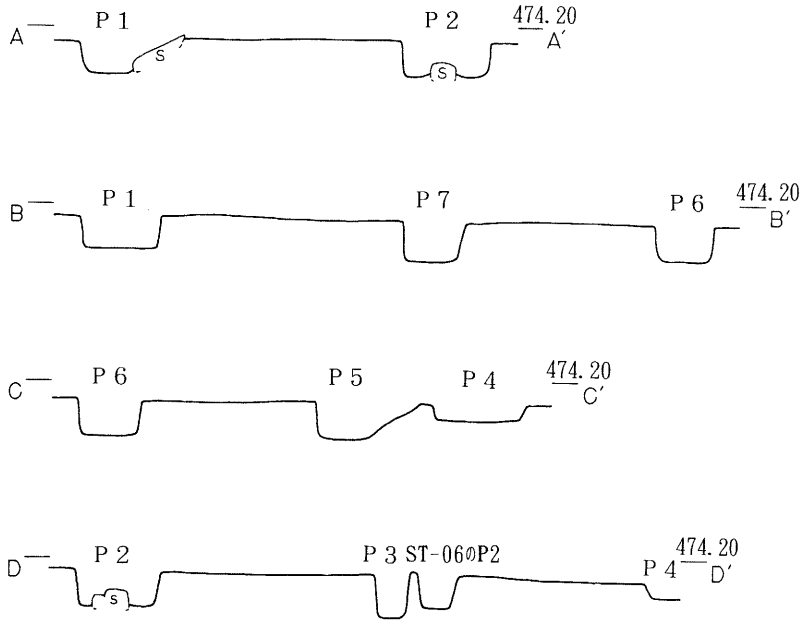


第 12 図　第 5 号掘立柱建物跡実測図



第 13 図　第 6 号掘立柱建物跡実測図





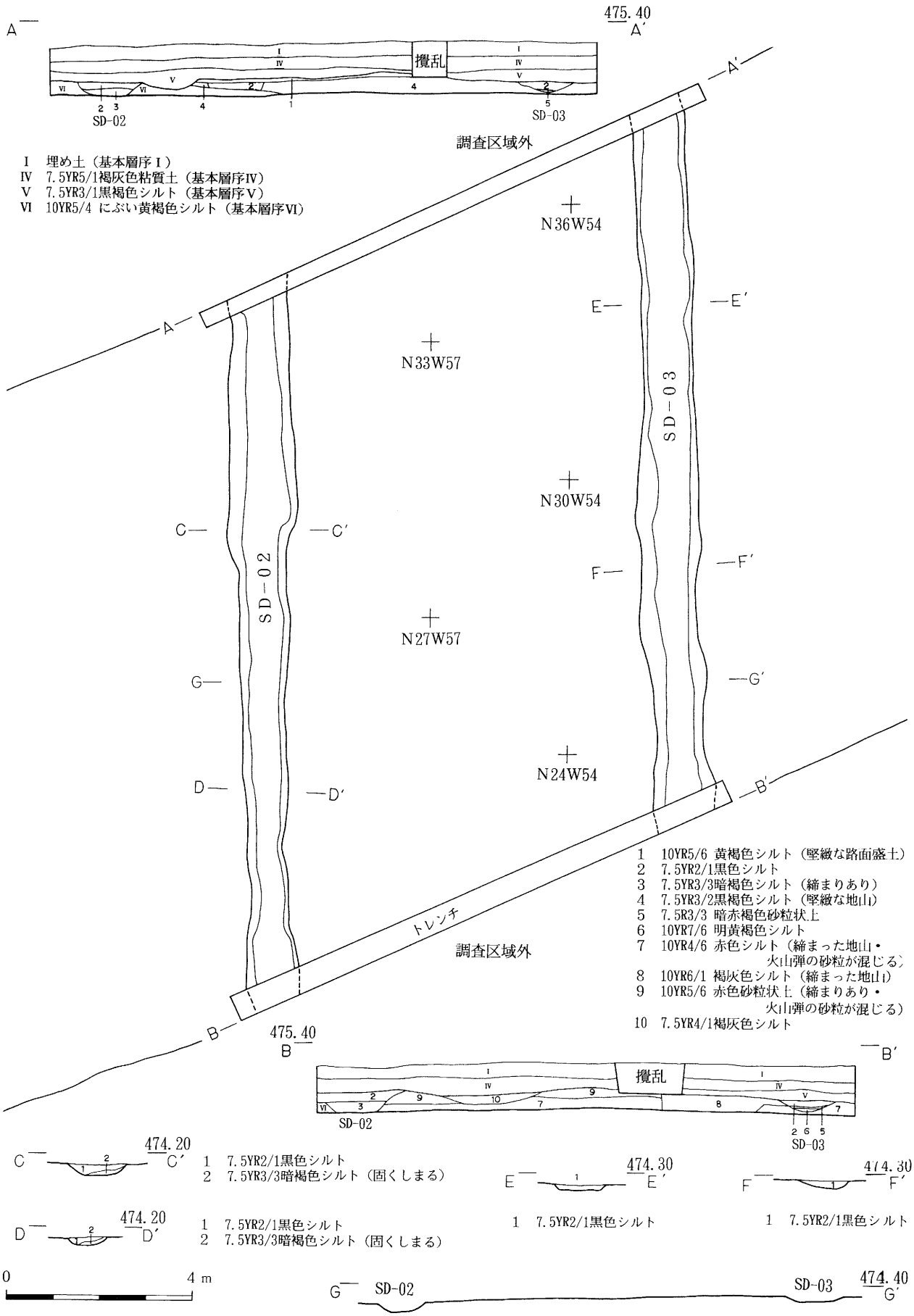
P１の覆土
7.5YR3/2黒褐色シルト

P２の覆土
7.5YR3/3暗褐色シルト

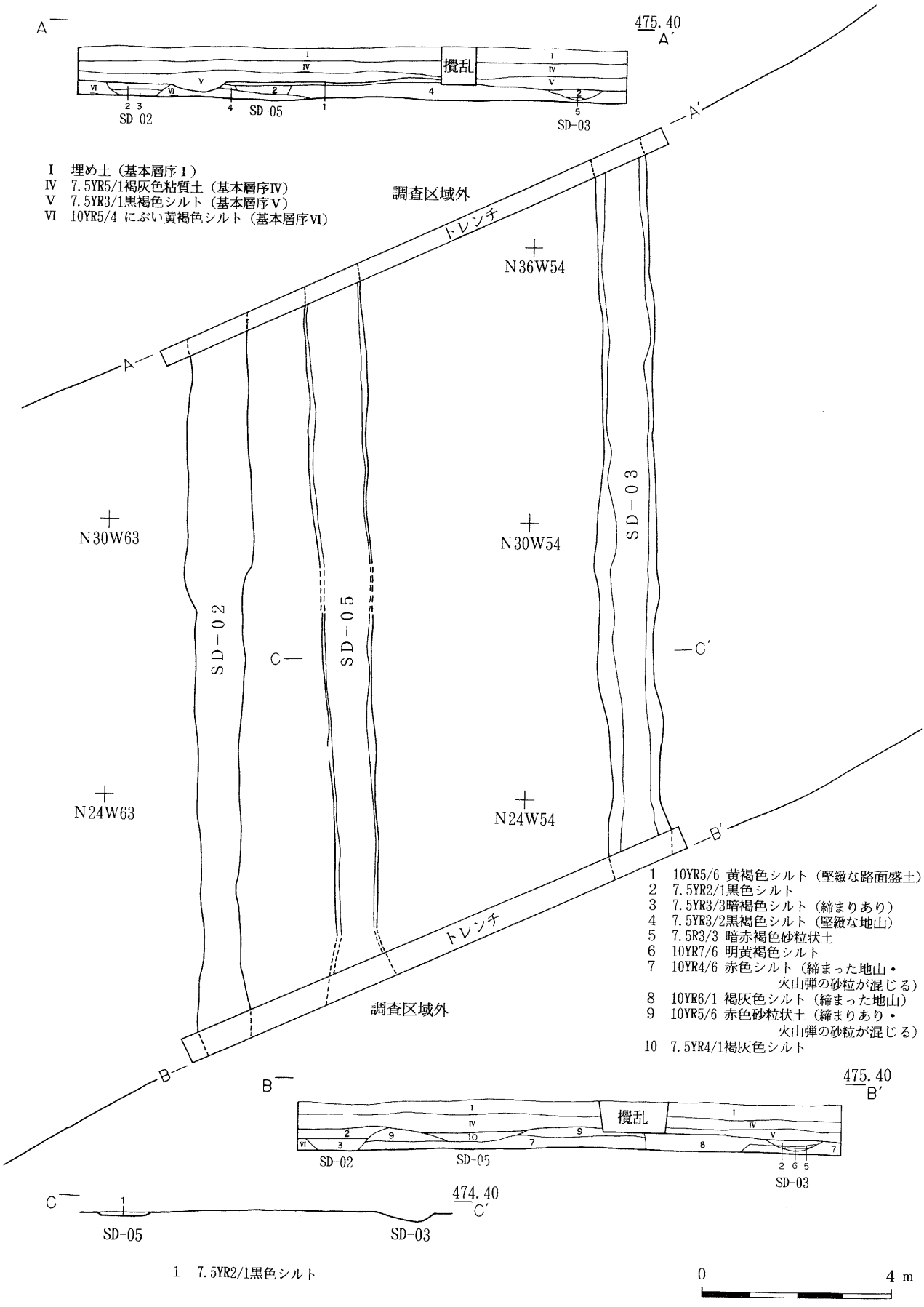
P３，P５，P７の覆土
7.5YR3/1黒褐色シルト

P４，P６の覆土
7.5YR2/1黒色シルト

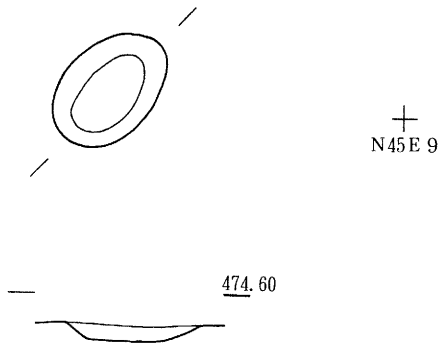
第 14 図　第 7 号掘立柱建物跡実測図



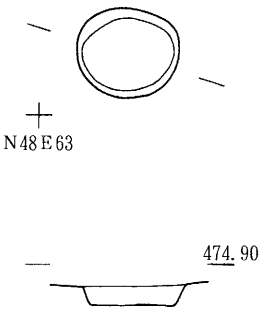
第 15 図　道路状遺構（第２号・３号溝跡）実測図



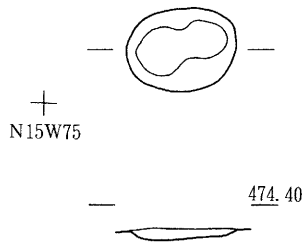
第 16 図　道路状遺構（第３号・５号溝跡）実測図



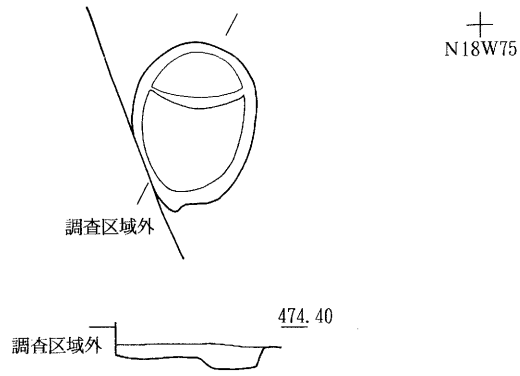
SK－01



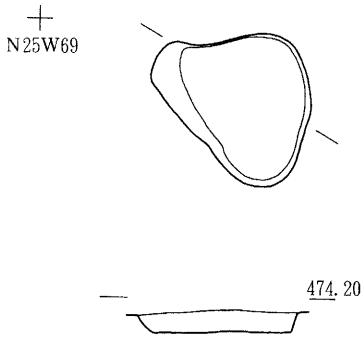
SK－02



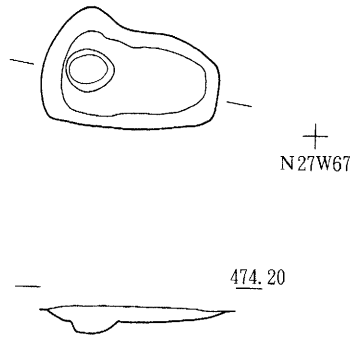
SK－03



SK－04

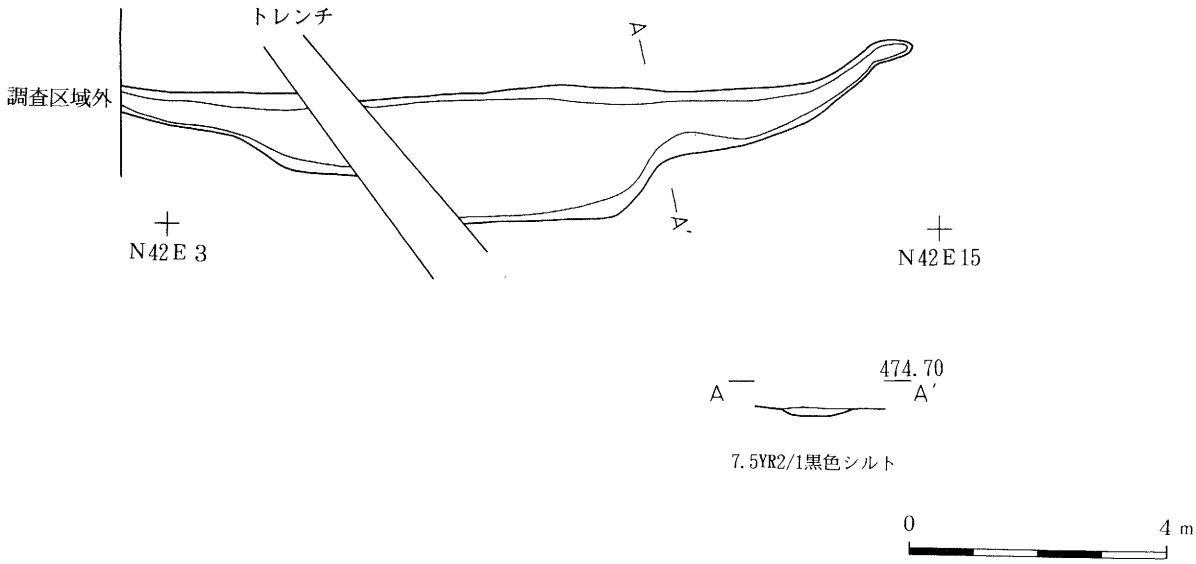


SK－05

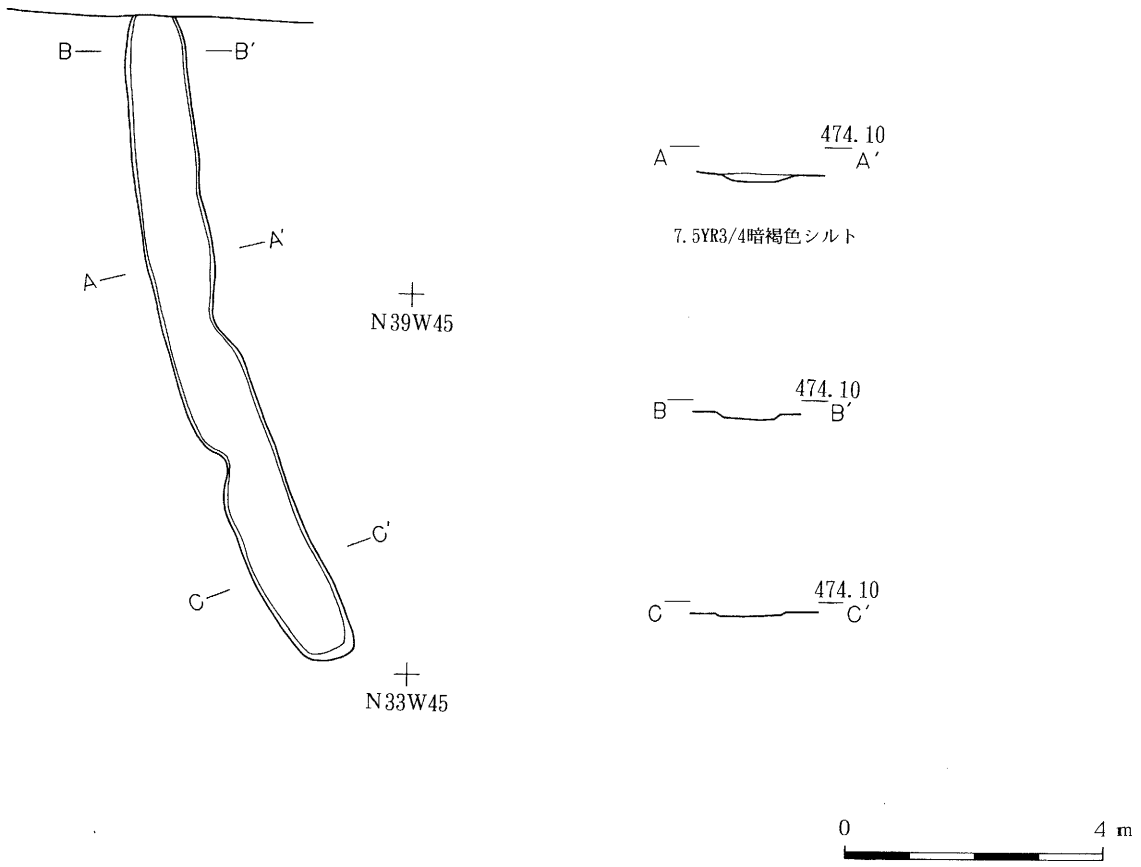


SK－06

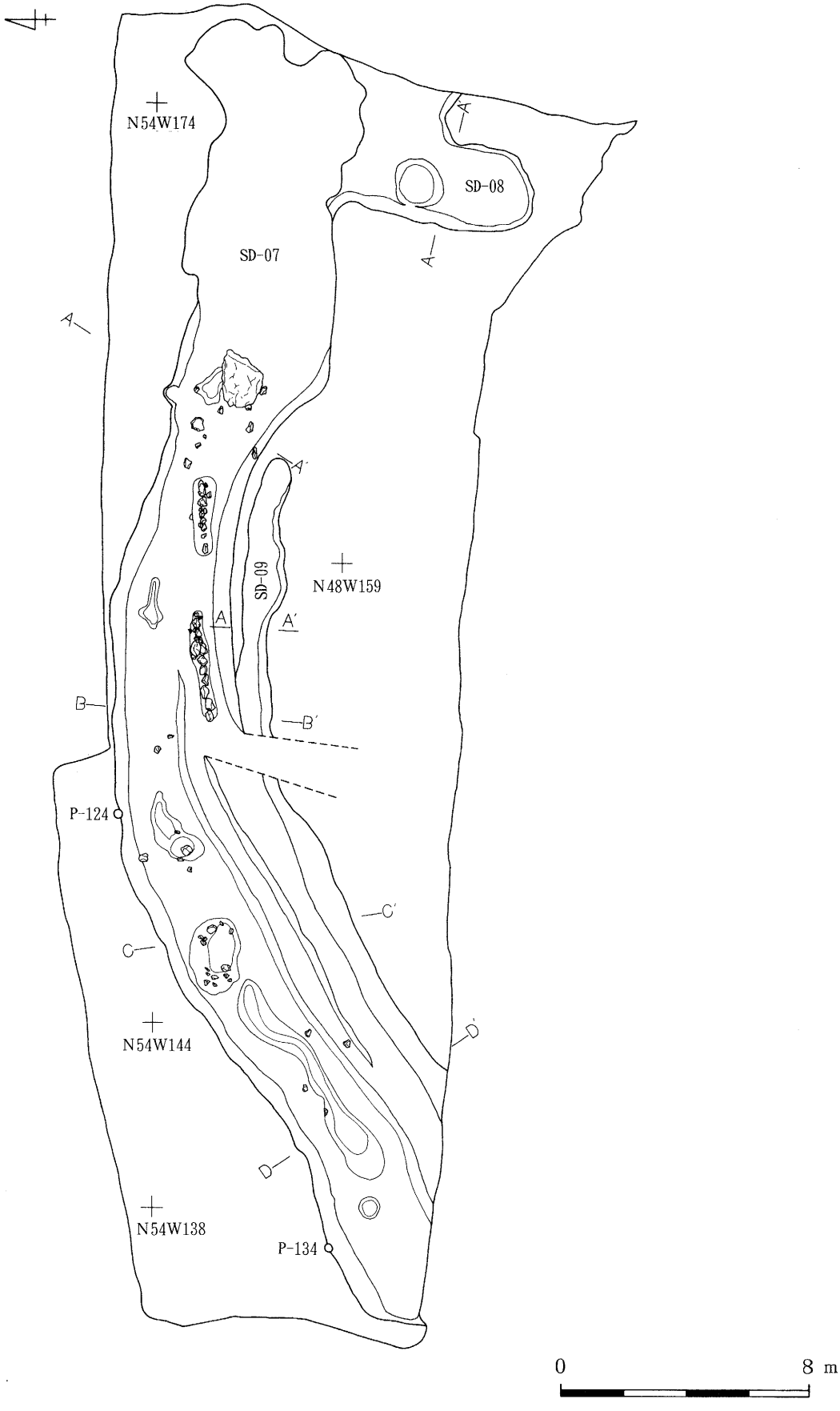
第 17 図　土壙実測図



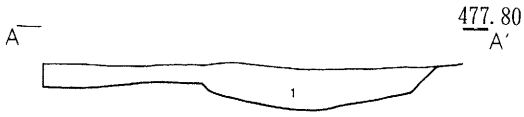
第 18 図　第 1 号溝跡実測図



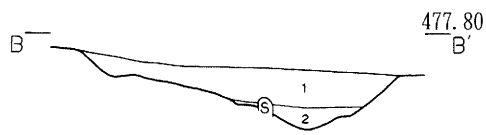
第 19 図　第 4 号溝跡実測図



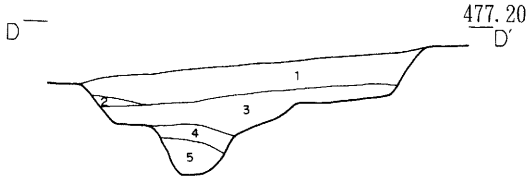
第 20 図　第 7 号・8 号・9 号溝跡実測図 (1)



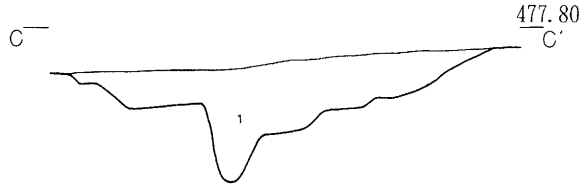
1　7.5YR2/2黒褐色シルト（人頭大礫、拳大礫少量含む）



1　7.5YR3/2黒褐色シルト（人頭大礫、拳大礫少量含む）
2　7.5YR4/4黒褐色シルト（人頭大礫、拳大礫少量含む）

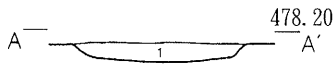


1　7.5YR2/1黒色シルト
2　7.5YR4/4褐色シルト
3　7.5YR4/2灰褐色砂質土
4　7.5YR4/3褐色砂質土（人頭大礫含む）
5　7.5YR4/1褐色砂質土（河原石含む）



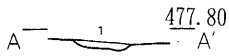
1　7.5YR3/2黒褐色シルト（人頭大礫、拳大礫少量含む）

SD－07



1　7.5YR3/1黒褐色シルト

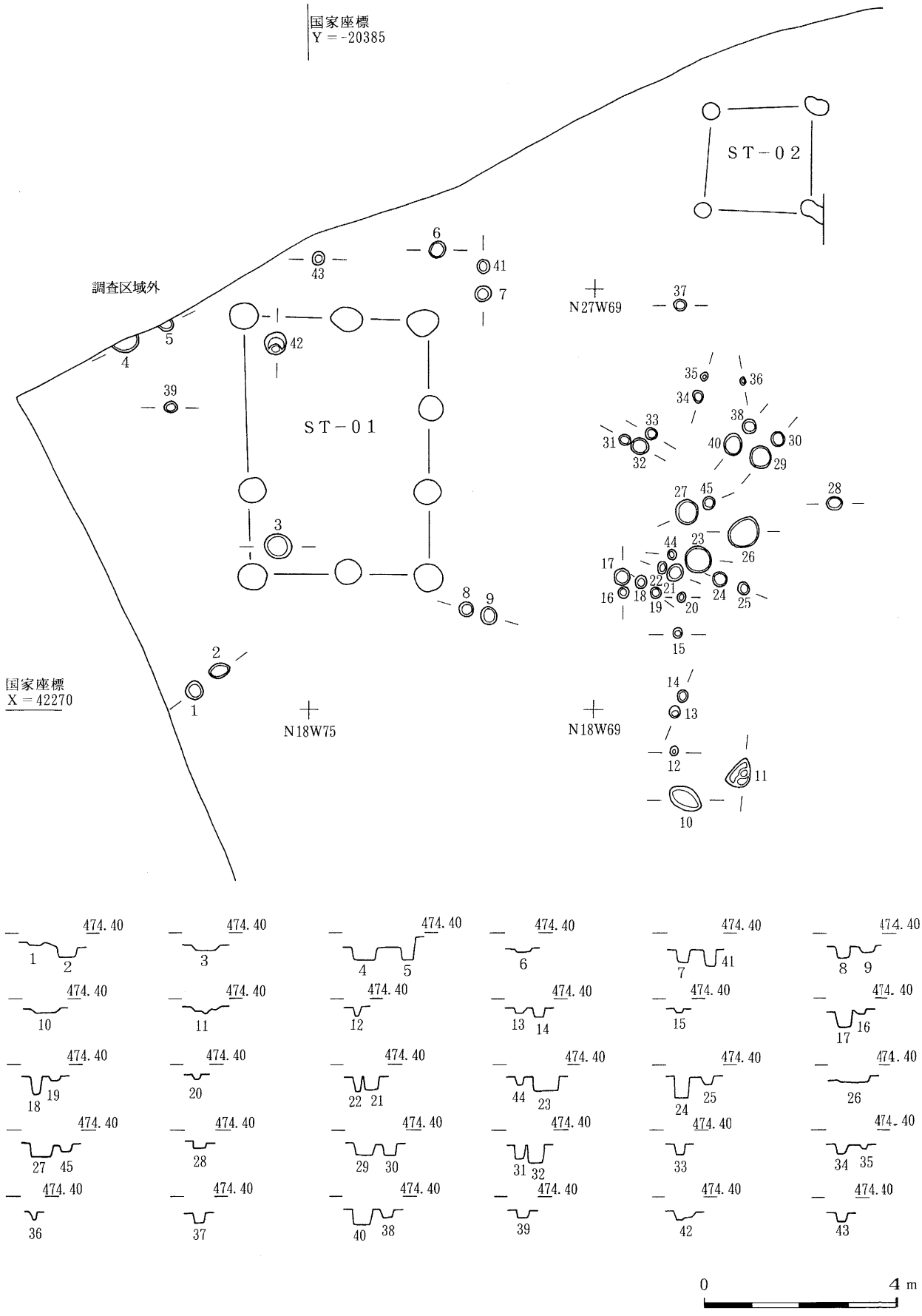
SD－08



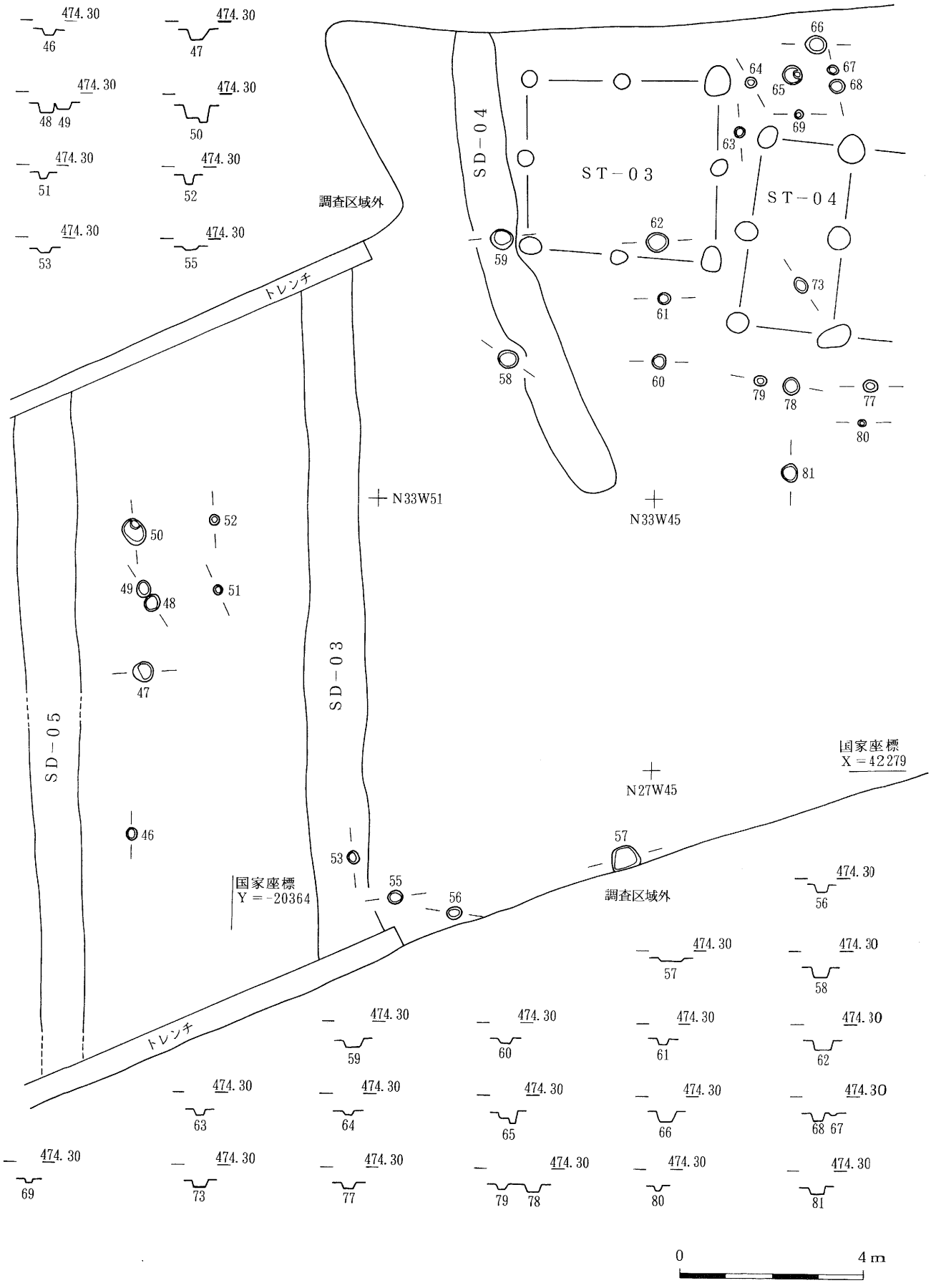
1　7.5YR3/1黒褐色シルト

SD－09

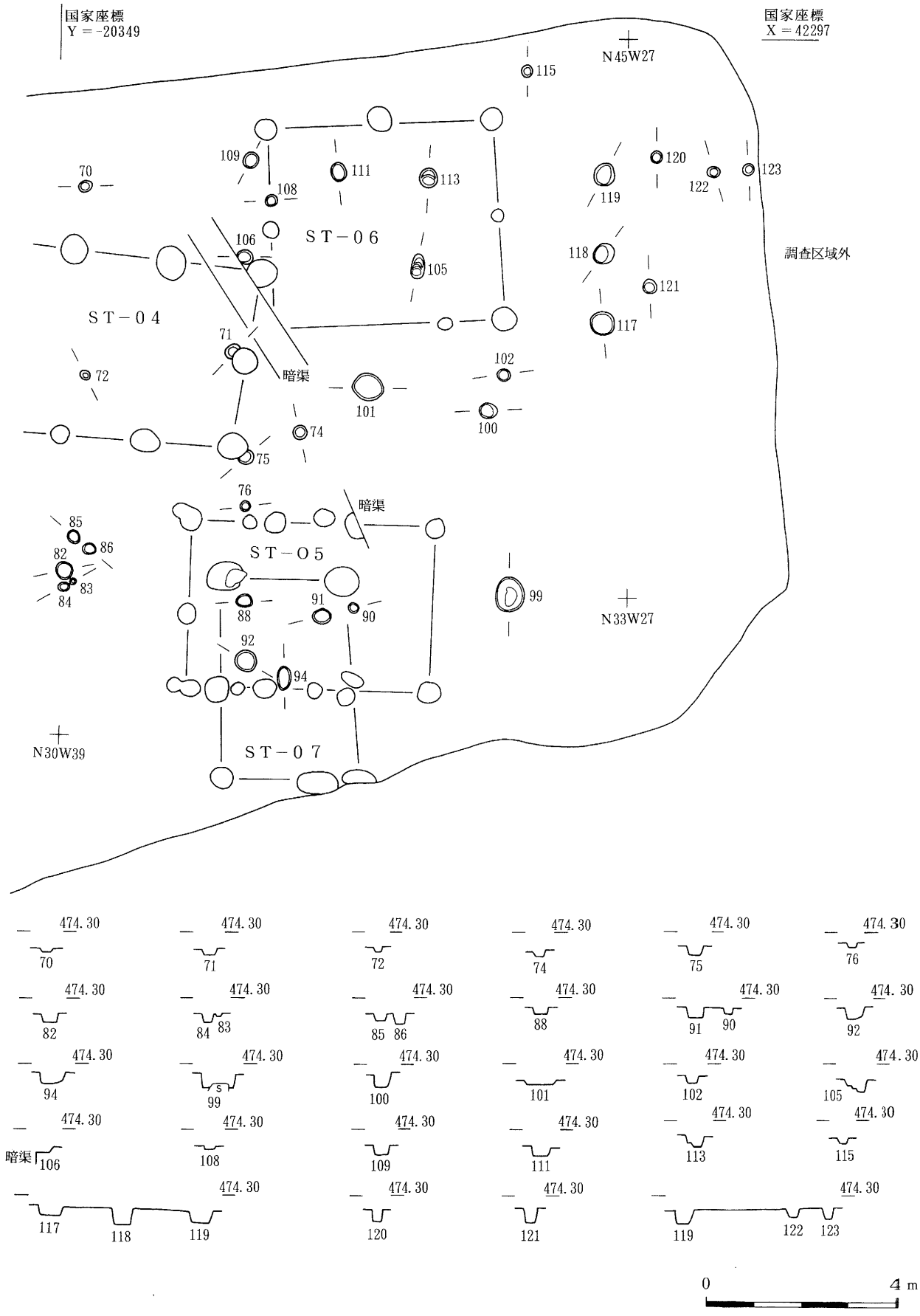
第 21 図　第７号・８号・９号溝跡実測図(2)



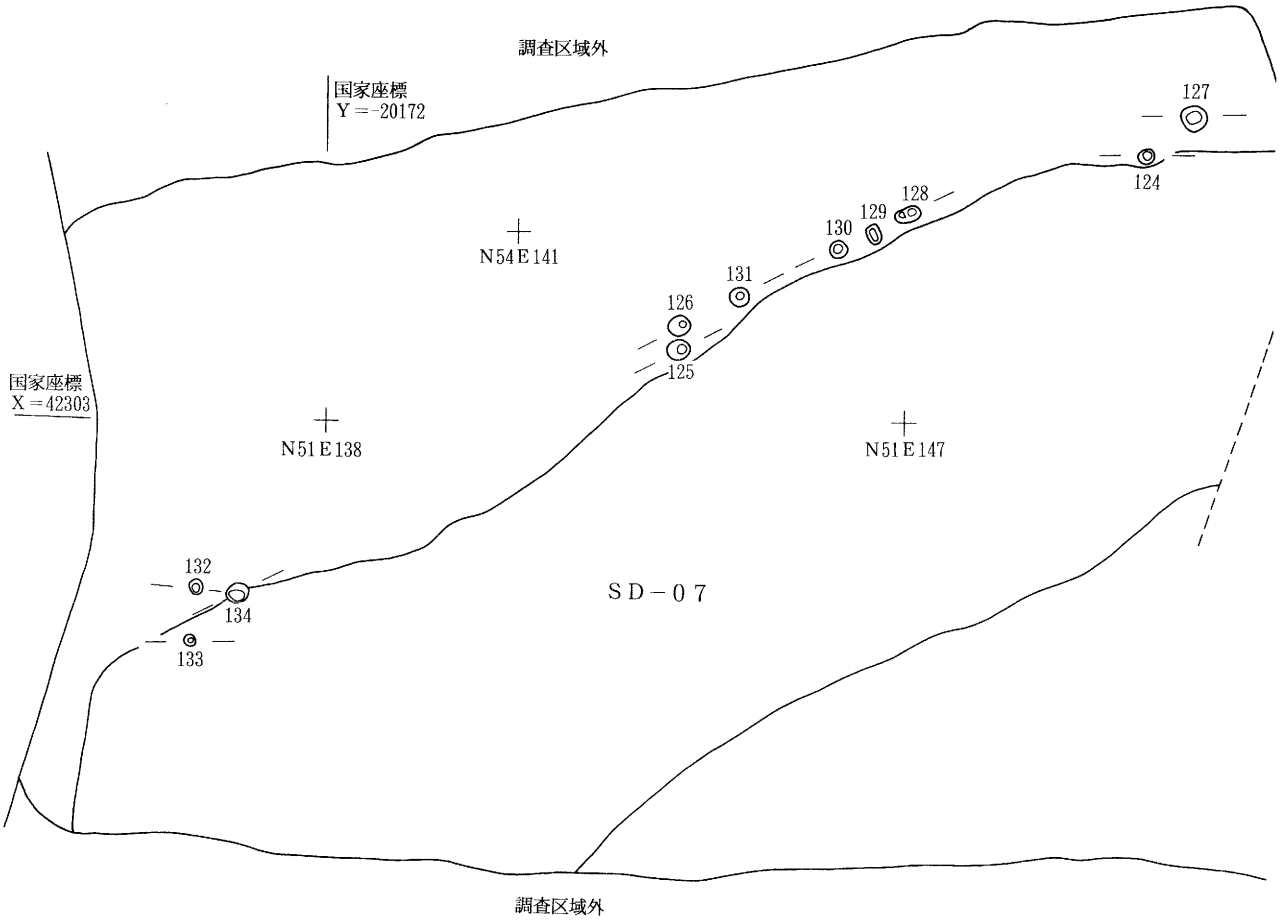
第 22 図　ピット実測図(1)

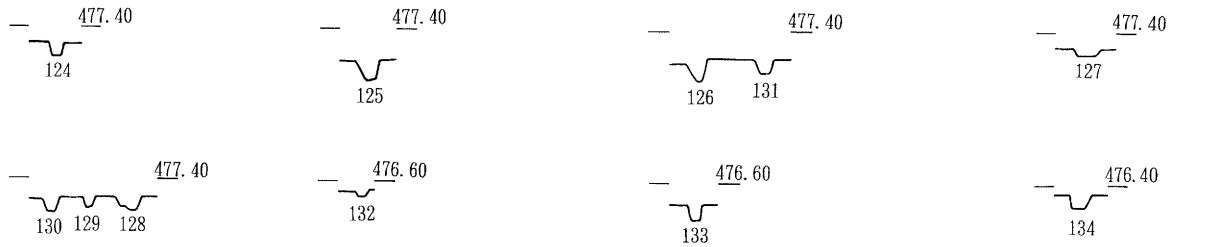


第 23 図　ピット実測図(2)



第 24 図　ピット実測図(3)





第 25 図　ピット実測図(4)

遺構No.	図版No.	主軸方向	形　態	桁行×梁行	桁行寸法	梁行寸法	柱間寸法(桁)	柱間寸法(梁)	遺　物　等
ST－01	第8図	N-2° -W	側柱式	3間×2間	5.53m	3.97m	1.84m	1.99m	土師、須恵破片
ST－02	第9図	N-88° -E		1間×1間	2.36m	2.17m	2.36m	2.17m	
ST－03	第10図	N-86° -W	側柱式	2間×2間	4.19m	3.85m	2.10m	1.93m	土師破片
ST－04	第11図	N-83° -W	側柱式　廂付	4間×2間	7.90m	4.10m	1.97m	2.05m	土師、須恵破片
ST－05	第12図	N-89° -W	側柱式	3間×2間	5.20m	3.56m	1.73m	1.78m	土師、須恵、瓦磚片
ST－06	第13図	N-87° -W	側柱式	2間×2間	5.22m	4.76m	2.61m	2.38m	須恵破片
ST－07	第14図	N-1° -W	側柱式	2間×1間	4.88m	3.22m	2.44m	1.61m	土師、須恵破片

第２表　掘立柱建物跡観察表

遺構No.	図版No.	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形態	断面形態	覆　　土	遺　物　等
SK－01	第17図	104.0	70.0	12.0	楕円形	たらい形	7.5YR3/1黒褐色シルト	土師破片
SK－02	第17図	80.0	70.0	15.0	楕円形	たらい形	10YR4/1 褐灰色シルト	土師、須恵破片
SK－03	第17図	86.0	66.0	11.0	楕円形	たらい形	7.5YR2/1黒色シルト	土師、須恵破片
SK－04	第17図	134.0	95.0	20.0	楕円形	たらい形	7.5YR2/1黒色シルト	須恵坏破片
SK－05	第17図	140.0	104.0	16.0	不定形	たらい形	5YR2/1黒色シルト（小礫を含む）	土師、須恵破片
SK－06	第17図	138.0	93.0	22.0	楕円形	なべ底状	7.5YR3/1黒褐色シルト（小礫を含む）	須恵破片

第３表　土壙観察表

遺構No.	図版No.	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	覆　　土	備　　考　（出土遺物等）
P－1	第22図	38	34	9	5YR3/1 黒褐色シルト	須恵器破片
P－2	第22図	45	31	22	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－3	第22図	57	53	10	5YR3/1 黒褐色シルト	
P－4	第22図	62	－	27	5YR3/1 黒褐色シルト	
P－5	第22図	30	－	28	5YR3/1 黒褐色シルト	
P－6	第22図	33	32	6	7.5YR4/3 褐色シルト	
P－7	第22図	34	32	24	7.5YR2/1 黒色シルト	土師器破片
P－8	第22図	29	28	20	5YR3/1 黒褐色シルト	
P－9	第22図	35	32	14	5YR3/1 黒褐色シルト	
P－10	第22図	79	50	9	5YR2/1 黒色シルト	須恵器坏（第66図1,2)土師器破片
P－11	第22図	63	43	13	7.5YR2/1 黒色シルト	須恵器破片
P－12	第22図	20	17	18	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－13	第22図	25	24	11	5YR3/1 黒褐色シルト	
P－14	第22図	24	22	18	7.5YR3/1 黒褐色シルト	須恵器破片
P－15	第22図	20	19	10	5YR3/1 黒褐色シルト	
P－16	第22図	22	22	12	7.5YR3/1 黒褐色シルト	土師器破片
P－17	第22図	34	32	35	7.5YR2/1 黒色シルト	
P－18	第22図	27	26	38	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－19	第22図	24	23	11	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－20	第22図	21	16	12	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－21	第22図	37	36	30	7.5YR2/1 黒色シルト	須恵器、土師器破片
P－22	第22図	26	20	29	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－23	第22図	57	56	30	7.5YR2/1 黒色シルト	土師器破片
P－24	第22図	30	28	44	7.5YR2/1 黒色シルト	須恵器破片
P－25	第22図	27	26	18	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－26	第22図	70	60	12	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－27	第22図	50	46	28	7.5YR3/1 黒褐色シルト	

第４表　ピット観察表（１）

遺構No.	図版No.	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	覆　　土	備　　考　（出土遺物等）
P－28	第22図	30	26	24	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－29	第22図	46	44	24	7.5YR3/1 黒褐色シルト	土師器破片
P－30	第22図	30	26	24	5YR3/1 黒褐色シルト	土師器破片
P－31	第22図	22	22	26	5YR3/1 黒褐色シルト	
P－32	第22図	34	33	35	5YR3/1 黒褐色シルト	須恵器、土師器破片
P－33	第22図	25	23	19	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－34	第22図	26	22	16	7.5YR2/1 黒色シルト	
P－35	第22図	15	13	10	7.5YR2/1 黒色シルト	
P－36	第22図	14	12	14	7.5YR2/1 黒色シルト	
P－37	第22図	28	26	20	7.5YR3/1 黒褐色シルト	土師器破片
P－38	第22図	30	26	17	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－39	第22図	29	23	13	7.5YR3/2 黒褐色シルト	
P－40	第22図	46	38	30	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－41	第22図	28	26	35	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－42	第22図	46	40	20	7.5YR4/3 褐色シルト	須恵器破片
P－43	第22図	27	26	18	7.5YR4/3 褐色シルト	
P－44	第22図	18	18	15	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－45	第22図	26	23	15	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－46	第23図	28	23	12	10YR4/1褐灰色砂質土	
P－47	第23図	46	44	21	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－48	第23図	40	35	16	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－49	第23図	36	30	12	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－50	第23図	58	48	36	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－51	第23図	22	20	15	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－52	第23図	23	22	17	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－53	第23図	29	26	8	7.5YR4/2 灰褐色シルト	
P－55	第23図	31	28	7	7.5YR4/2 灰褐色シルト	
P－56	第23図	34	28	17	7.5YR2/2 黒褐色シルト	土師器破片
P－57	第23図	62	52	8	7.5YR3/2 黒褐色シルト	土師器破片
P－58	第23図	42	39	20	7.5YR2/1 黒色シルト	須恵器破片
P－59	第23図	48	46	20	7.5YR2/1 黒色シルト	
P－60	第23図	34	29	12	7.5YR4/3 褐色シルト	
P－61	第23図	28	26	14	7.5YR3/2 黒褐色シルト	
P－62	第23図	50	44	20	7.5YR3/3 暗褐色シルト	
P－63	第23図	24	22	11	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－64	第23図	24	23	8	7.5YR4/3 褐色シルト	
P－65	第23図	42	42	24	7.5YR3/2 黒褐色シルト	
P－66	第23図	45	40	23	7.5YR2/1 黒色シルト	
P－67	第23図	23	18	5	7.5YR4/4 褐色シルト	
P－68	第23図	35	30	18	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－69	第23図	19	18	8	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－70	第24図	25	24	10	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－71	第24図	32	28	14	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－72	第24図	19	18	12	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－73	第23図	35	26	15	7.5YR4/4 褐色シルト	
P－74	第24図	28	27	12	7.5YR2/1 黒色シルト	

第５表　ピット観察表（２）

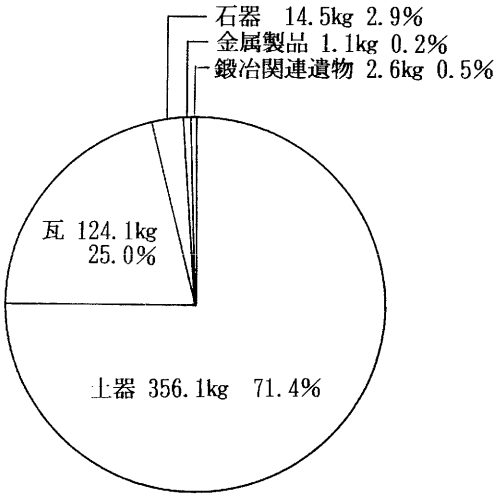
遺構No.	図版No.	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	覆　　土	備　　考　（出土遺物等）
P－75	第24図	33	－	17	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－76	第24図	20	20	10	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－77	第23図	29	26	13	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－78	第23図	37	36	15	7.5YR2/1 黒色シルト	
P－79	第23図	27	22	10	7.5YR3/2 黒褐色シルト	
P－80	第23図	14	14	9	7.5YR3/2 黒褐色シルト	
P－81	第23図	38	35	16	7.5YR3/2 黒褐色シルト	
P－82	第24図	37	33	15	7.5YR3/2 黒褐色シルト	
P－83	第24図	12	11	5	7.5YR3/2 黒褐色シルト	
P－84	第24図	23	19	17	7.5YR2/1 黒色シルト	須恵器破片
P－85	第24図	19	24	13	7.5YR3/1 黒褐色シルト	土師器破片
P－86	第24図	28	25	20	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－88	第24図	32	26	13	7.5YR2/1 黒色シルト	
P－90	第24図	22	21	12	7.5YR2/1 黒色シルト	
P－91	第24図	39	30	21	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P－92	第24図	44	44	22	7.5YR3/2 黒褐色シルト	
P－94	第24図	50	28	22	7.5YR3/1 黒褐色シルト	土師器破片
P－99	第24図	71	58	30	7.5YR2/1 黒色粘土	
P 100	第24図	38	32	27	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P 101	第24図	66	62	10	7.5YR3/1 黒褐色シルト	土師器破片
P 102	第24図	25	25	16	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P 105	第24図	50	27	24	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P 106	第24図	34	32	14	7.5YR2/1 黒色シルト	
P 108	第24図	24	23	7	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P 109	第24図	34	32	18	7.5YR2/1 黒色粘土	
P 111	第24図	40	36	20	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P 113	第24図	41	36	22	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P 115	第24図	25	24	13	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P 117	第24図	50	48	22	7.5YR2/1 黒色粘質土	
P 118	第24図	47	43	34	7.5YR2/1 黒色粘質土	
P 119	第24図	49	42	29	7.5YR3/1 黒褐色シルト	
P 120	第24図	24	24	25	7.5YR2/1 黒色粘質土	
P 121	第24図	30	26	29		
P 122	第24図	26	25	18		
P 123	第24図	26	25	24		
P 124	第25図	26	24	21		土師器破片
P 125	第25図	40	33	28		土師器破片
P 126	第25図	33	32	35		土師坏（第66図）
P 127	第25図	32	33	12		
P 128	第25図	32	21	20		
P 129	第25図	28	20	16		
P 130	第25図	29	27	22		
P 131	第25図	30	28	21		
P 132	第25図	25	24	10		
P 133	第25図	18	16	24		
P 134	第25図	35	31	23		

第６表　ピット観察表（３）

第３節　遺物

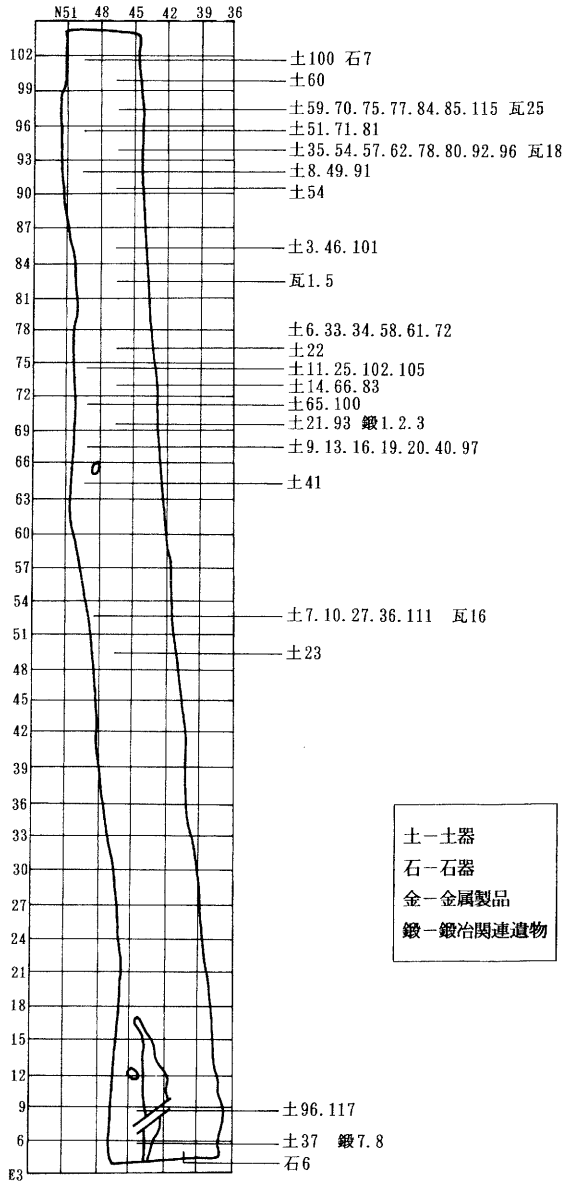
本調査では、土器類・瓦類・鉄製品・鍛冶製品・石器・動物の骨等が遺構及び包含層等の遺構外から出土した。

特に第７号溝跡（SD-07）の覆土とＩ区の遺構外からは多量に検出された。全出土遺物量の大部分は第７号溝跡とＩ区の遺構外出土遺物によって占められている。第７号溝跡の出土遺物の重量別割合は、下の図のとおり、土器が70%以上、瓦が25%であった。また、本書に掲載したＩ区の遺物の出土地点は右の図のとおりである。



ＳＤ－０７出土遺物重量割合

９７年度遺物出土状況



1　土器

（１）掘立柱建物跡出土の土器

掘立柱建物跡の柱穴から僅かに遺物が出土しているが、いずれも小破片であった。第１号掘立柱建物跡から第７号掘立柱建物跡まで奈良・平安時代の遺物が主なものと思われる。　なお、第２号掘立柱建物跡（ST-02）からは遺物は出土しなかった。

第１号掘立柱建物跡(ST－01) の柱穴Ｐ４の覆土から土師器の甕等の破片と須恵器の杯の破片が、Ｐ５から須恵器ので底部ヘラ切り無高台の杯（第26図１、第７表）等の破片が僅かに出土した。

第３号掘立柱建物跡（ST－03） の柱穴Ｐ１、Ｐ３から土師器の甕等の破片が僅かに出土した。

第４号掘立柱建物跡（ST－04） の柱穴Ｐ２、Ｐ４、Ｐ６から土師器の甕等の破片が、P10から須恵器の回転糸切り底部（第26図２、第７表）の破片が出土した。

第５号掘立柱建物跡（ST－05）の柱穴Ｐ５から内黒の杯の破片が、P12からは布目瓦、土師器の杯と甕等の破片が、P14からは須恵器の杯、土師器の杯と甕等の破片が、P15からは土師器の破片が出土した。

第６号掘立柱建物跡（ST－06）の柱穴Ｐ２から口縁端部を折り曲げた須恵器の杯蓋（第26図３、第７表）とＰ５から須恵器の杯の小破片が出土した。

第７掘立柱建物跡（ST－07）の柱穴Ｐ５から内黒の杯と土師器の破片がＰ６から土師器甕と須恵器杯の破片が出土した。Ｐ－７からは内黒の杯の破片が出土した。

（２）道路状遺構出土の土器

道路状遺構を構成する第２号溝跡、第３号溝跡及び第５号溝跡からは僅かな遺物が出土している。奈良時代、平安時代（8世紀後半から９世紀代）の遺物が出土している。

第２号溝跡（SD－02）（第27図、第７表）

覆土から、須恵器の無高台の杯１、２と高台を付した杯３、４及び須恵器の鉢５、長頸壺７、甕８、９が出土した。土師器の甕６が出土した。欠損していて器高は不明である。１の底部は回転糸切りで、２の体部にはロクロ目が強く残る。３、４の高台の断面形は平行四辺形を呈する。５は口縁部で外反し、端は面取りを施す。７の胴部は肩のはった球形を呈する。８、９は外面にタタキ目を施す。６は底部に木葉痕が施されている。このほか、口縁端部を折り曲げた須恵器杯蓋や内黒の杯の破片が出土している。

第３号溝跡（SD－03）（第28図、第７・８表）

覆土から、内黒の杯１～４、内外両面に黒色処理を施した耳皿５及び土師器の甕６が出土した。１と３の底部は回転糸切り未調整である。４の底部は切り離し後回転ヘラ削りを施している。５の高台は欠損している。６の胴部の器厚は非常に薄く、削りを施している。

第５号溝跡（SD－05）（第29図、第８表）

覆土から僅かに遺物が出土しているが、いずれも小破片であった。底部に手持ちヘラ削りを施した内黒の杯（１）、須恵器の杯及び口縁端部が折れる坏蓋（２・３）、土師器の甕、須恵器の甕の破片が出土した。

（３）土壙出土の土器

土壙の覆土から僅かに遺物が出土している。いずれも小破片であり、器種を特定できるものは少なかった。第１号土壙から第６号土壙まで奈良・平安時代の遺物が主なものと思われる。

第１号土壙（SK－01）の覆土から土師器ロクロ調整の杯及び内黒、灰釉陶器の広口壺の頸部（第30図２、第８表）、須恵器の甕（１）等の破片が出土した。

第２号土壙（SK－02）の覆土からは土師器の椀、内黒の杯、須恵器の杯蓋（第30図３）、須恵器長頸壺（４）、須恵器の甕（５）等の破片が出土した。

第３号土壙（SK－03）の覆土からは土師器及び須恵器の破片が出土した。

第４号土壙（SK－04）からは須恵器の無高台杯の破片が出土した。

第５号土壙（SK－05）の覆土からは土師器及び須恵器の破片が出土した。

第６号土壙（SK－06）の覆土からは須恵器の無高台杯の破片が出土した。

（４）溝跡出土の土器

第１号溝跡（SD－01）（第31図、第８・９表）

覆土から土師器の椀１、足高高台を有する椀型の器（盤）２、灰釉陶器の椀４・５、灰釉陶器の段皿３、

羽釜６が出土した。灰釉陶器の広口瓶の胴部７が出土した。１及び２は、体部が欠損しており全体の形や器高は不明である。３は漬け掛けを施している。５の底部及びその周辺は回転ヘラ削りが行われていて、高台の断面は三日月形を呈する。６は体部に鍔状の突帯をめぐらせている。また、８は、器種は不明であるが、煮炊具か貯蔵具の底部かと思われる。内面側に沈線が縦横斜めの方向に刻まれ、付着物がみられる。

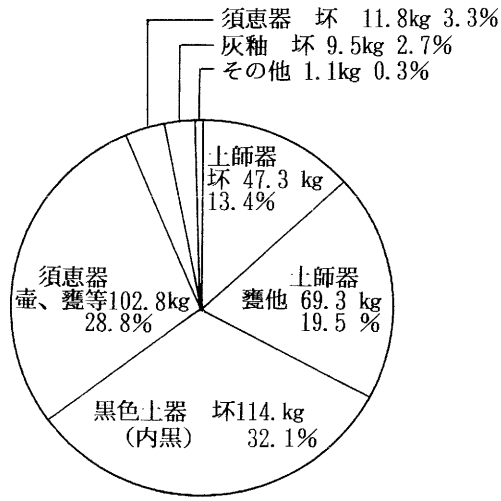
このほか、土師器の底部回転糸切りの杯、土師器の椀、土師器の皿、足高高台の椀型の器（盤）、内黒の椀、内外両面に黒色処理をした椀、土師器の甕、須恵器の甕、灰釉陶器等の破片が出土した。

第４号溝跡（SD−04）（第32図、第９表）

覆土から、内黒の杯１、２が出土した。いずれも底部が回転糸切りである。そのほか、土師器の甕の底部と思われる破片が出土した。

第７号溝跡（SD−07）（第33〜48図、第９〜30表）

円グラフで示したように、本遺構出土遺物の総重量約500kg のうち 70%以上を土器類が占めている。土器類を器種ごとに分けてみてみると、内黒の坏が最も多く32.1%であった。



ＳＤ−０７出土土器種類別重量割合

食器では土師器の高坏、土師器の坏、土師器の椀、土師器の鉢、黒色土器の坏、黒色土器の椀、黒色土器の皿、黒色土器の鉢等、土師器の盤、須恵器の坏、須恵器の鉢、灰釉陶器の椀・皿等、緑釉陶器の椀・皿等、輸入磁器の椀・皿等、刻書土器・墨書土器が出土した。煮炊具では、土師器の甕、土師器の甑が出土した。貯蔵具では、須恵器の壺、須恵器の甕、灰釉陶器の壷・瓶等、黒色土器の壺、緑釉陶器の壺が出土した。平安時代に属する土器が多くを占めている。

本遺構から出土した土器類は以下のとおりである。

ア　土師器の高坏

１は高坏の脚である。外面は縦方向のミガキがなされている。

イ　土師器の坏

２から 66 は土師器の無高台の坏である。ロクロ調整で、内面はロクロナデの後黒色処理等の調整を施さないものである。22 と 29 は、底部はヘラ削りによる調整が施されている。そのほかはすべて底部回転糸切り未調整である。粗雑な作りのものが多ある。39 と 42 はとくに歪んだ成形である。２の体部には３本のヘラ描きが刻まれている。６・７の体部は直線的に大きく開き、浅い。60 と 61 も体部の開きが大きく、口縁部先端で折れてさらに開いている。60 から 66 は皿状に体部が浅いものである。65・66 は底部に孔が穿たれている。破損していてよく分らないが、66 は耳皿のように口縁が折れているものの可能性がある。

ウ　土師器の椀

67 から 76 は土師器の椀である。ロクロ調整で、高台を有する。体部が比較的浅く直線的に開くものと体部の丸みに張りがあるものがある。71 は口縁部の先端で外側に折れて大きく開いている。75 と 76 の体部は直線的に大きく開き、非常に浅い。

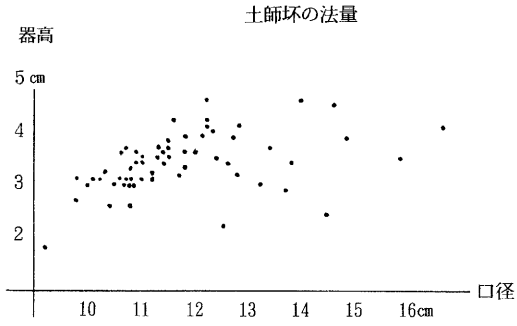
エ　土師器の鉢

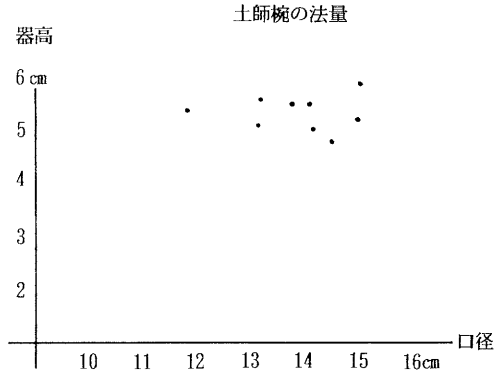
77 と 78 の口縁部は先端で内側に折れて内弯している。ロクロ調整のような横位のナデが施され、78

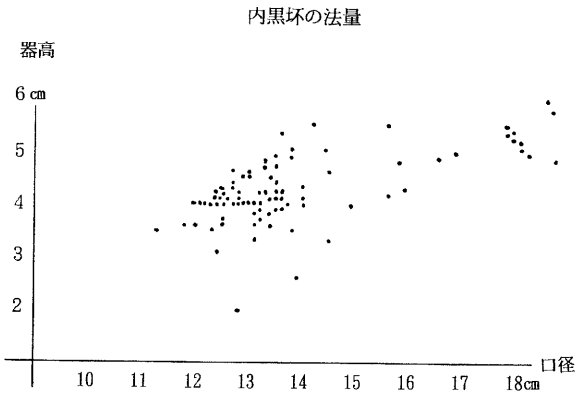
の体部下半は削りが施されている。

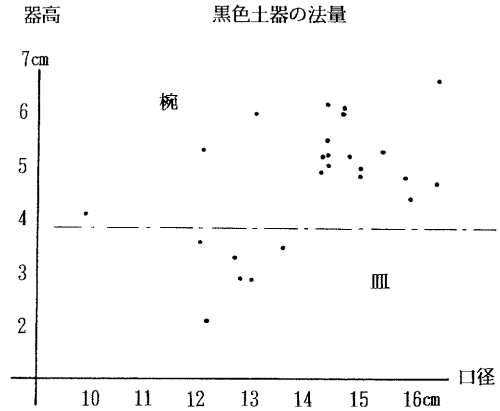
オ　黒色土器の坏

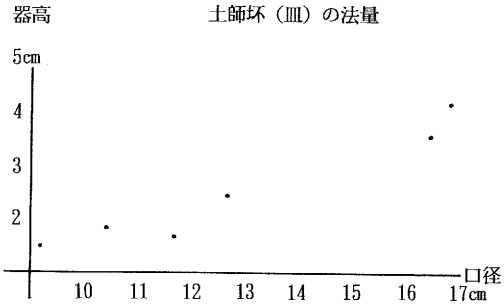
79から162は内黒の坏である。79から81及び89は体部の立ち上がりがはっきりして開きが小さく、深めである。82は底径が口径に比べて大きく、口縁部の先端は開かず直立気味である。154から160は大型のものである。89・93・94・106・110・153の底部は手持ちヘラ削りが行われている。79・85の底部とその周辺は回転ヘラ削りされている。154は回転糸切りの切り離しを行った後、粗雑なタッチのヘラ痕が残っている。そのほかの底部の切り離しは回転糸切り未調整である。105・112・157の底部にはヘラによって1本または2本の細線が刻まれている。148から152の体部内面には縦のミガキが簡略化されている。142の内面口縁部と外面の体部から底部にかけて付着物がある。157の内面にも付着物が残る。161・162は体部が非常に浅く、皿型を呈している。161の口縁部の先は外反し、162は折れて直立する。











カ　黒色土器の椀

163から182は内黒の椀で高台を付すものである。体部は直線的に開くものと丸みのあるものがある。また、深いものと浅いものがある。口縁部の先が外反するものとしないものがある。163は体部が深く直線的に開き、底部は比較的小さい。175の高台の断面は四角形を呈する。180と181は小椀である。182は体部内面の縦のミガキが暗文風に簡略化されている。

183 と 184 は内外両面を黒色処理した椀である。高台が高く発達している。

キ　黒色土器の皿

185 から 189 は内黒の皿である。体部が非常に浅く、高台を付すものである。185 から 187 の体部は直線的である。188 と 189 は直線的な体部に口縁部の先が外反している。

190 は内外両面を黒色処理した皿である。191 は内外両面を黒色処理した耳皿である。体部が非常に浅く、高台を付すものである。

ク　黒色土器の鉢等

192 は内黒の鉢である。大型で高台は無く、底部の切り離しは回転糸切り未調整である。底部にヘラで線が刻まれている。

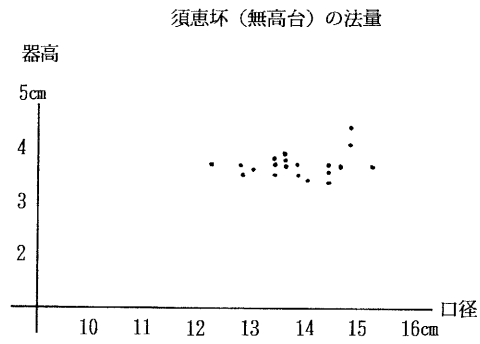
193 は内外両面を黒色処理したミニチュアの坏と思われる。底部の切り離しは回転糸切りである。

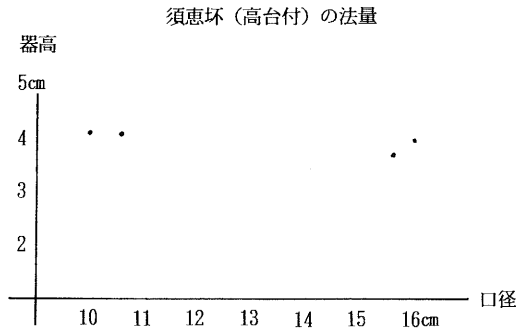
ケ　土師器の盤

194 から 199 は盤である。194 と 195 の脚の端部は面取りが施されている。196 はヘラで十字に切り開けた透かしを有する。197 は棒状工具で円形の透かしを突き開けている。198 の脚の径は小さく比較的細い。196 の体部内面には付着物があり、器面は一部黒変している。

コ　須恵器の坏

200 から 209 は坏蓋である。200 から 205 のつまみ部は擬宝珠形を呈している。206 のつまみ部の形は中央が若干盛り上がっているがほぼ平で、接合部のくびれは無い。また、口縁部端部の形態は、207 は外側に開いて折れ、208 と 209 は強く屈曲している。





210 から 229 は無高台で直線的に開く体部をもつ坏である。体部の外傾は小さいものから大きなものがある。210 の底部の切り離しはヘラ切りである。213・214 の底部は手持ちヘラ削りが行われている。222・226・231 は底部の残存面積が小さいので明確ではないが、手持ちヘラ削りが行われていると思われる。その他は回転糸切り未調整である。212・214・215・216・218・223・224・226・228 には火襷がみられる。224 から 229 はロクロ目が良く残っている。

235 は無高台の坏で、底部を回転糸切りで切り離した後、周縁をヘラ削りしている。236 と 237 は体部の下位に稜をもって折れて立ち上がる形態で、火襷がみられる。

230 から 234 は高台を有する坏である。230 と 231 は小型で体部は深い。232 と 233 は口縁の径は大きく、体部は浅い。232 と 233 の底部はしっかりと回転ヘラ削りが行われているが、234 の底部は回転糸切り痕を残す。

サ　須恵器の鉢

239 は平底より立ち上がり、直線的に開く体部から内弯して口縁部に至る形態を呈している。底部は回転糸切り未調整で、口唇部は面取りが施されている。238 は直線的に開く体部より頸部で締まり、外反して口縁部に至る形態を呈している。口縁帯をもつ。

シ　灰釉陶器の椀・皿等

240から245は椀である。体部は丸みをもって開き、高台を付すものである。240と245の施釉はハケ塗りで、240の釉の色は比較的緑が濃い。これらの高台の断面は三日月型を呈している。その他は漬け掛け施釉である。高台の断面形は丸みを帯びた三角形で、244は四角形ぎみである。243と244の底部には回転糸切り痕が残る。

246と247は段皿である。246の体部は反りが強く浅い。247は厚手で回転ヘラ削り痕が粗く残る。247の施釉は漬け掛けである。246は残存面積が小さく不明確であるが、ハケ塗りである。

248から256の皿の施釉は漬け掛けである。257と258の残存部には釉はみられなかった。257の底部には回転糸切り痕が残る。249・251・256・257・258の高台の断面形は丸みをもった三角形か四角形である。

259から261は輪花皿である。施釉は漬け掛けで、高台の断面形は三日月形を呈している。

262・263は耳皿である。高台は無く、底部は回転糸切り未調整である。釉の色は、262は飴色ぎみで263は青みがかっている。

ス　緑釉陶器の椀・皿等

264から266は緑釉陶器である。どれも小破片で詳細は不明である。264の胎土は淡い黄色がかっていて軟らかい。釉はとても薄い色で剥落が激しい。265・266の胎土は灰色がかった白で、釉の色は264より濃い緑色である。

セ　磁器の椀・皿等

267から269は白磁である。267は高台を付けず、釉は底部まで全体に施されている。268は輪花椀である。269は小破片で詳細は不明である。

ソ　刻書土器・墨書土器

270から276は刻書土器である。底部あるいは体部外面に文字がヘラ書きされている。270は土師器の坏で271から275は内黒の坏である。276は内黒の椀である。272は「芳」と読める。その他は判読できなかった。277は須恵器坏の墨書土器である。これも破損が大きく判読はできない。

タ　土師器の甕

278から296は甕である。278は口縁部が「く」の字状に外反し、内外両面を横ナデしている。279は口縁部の開きが小さい。口縁部は横ナデされ、胴部は横方向にヘラ削りがされている。280の口縁部は「く」の字状に外反し、胴部外面はハケ調整が施されている。281は調整にロクロあるいは回転台を用いていると思われる。口唇部は面取りが施されている。282は粘土帯積み上げによって成形され、胴部外面はヘラ削りとナデが施されている。

283から291は小型の甕である。283から288はおそらくロクロあるいは回転台を用いてナデ調整が施されたものと思われる。288から291はロクロによるナデ調整が施され、これらの底部の切り離しは回転糸切りが行われている。

292・293は内外両面にヘラ削りが施され、器厚は薄い。294・295の底部の径はとても小さく歪な円形を呈している。内外両面にヘラ削りが施されている。296は大きく開く口縁部をもち、孔が穿たれている。

チ　土師器の甑

297は甑である。底部端部の外面は削りによって面を取っている。

ツ　羽釜

298から302は体部上寄りに鍔状の突帯を付したもので、鍔が連続して胴部を一巡するものである。299から301は口縁部から鍔にかけての距離が比較的長い。これらは外面の口縁部はナデが施され、鍔から下はヘラ削りが施されている。300の口縁部は開いている。

302は口縁部から鍔にかけての距離が短く、口縁部は内弯している。残存部が小さいため、明確ではないが、302はロクロによるナデ調整が行われている。

303は鍔が連続していなく、数カ所で切れるものである。外面に削りとハケ調整がみられ、内面はナデが施されている。

テ　須恵器の壺

304から313は球形胴に細い頸部を付け、口縁部は屈曲して先端で口縁帯を作る長頸壺である。頸部の接合は305が2段階で306が3段構成である。また、304と309・311の体部には接合部がみられるので、これらもおそらく3段構成である。306の頸部には2条の沈線がひかれており、肩に取っ手がつけられていた跡が残っている。

314は体部の肩の部分で屈曲する種類の長径壺もしくは、平瓶の肩の部分と思われる。胎土は比較的白っぽい灰色をして、瑠璃色の釉がかかっている。

315から319は長頸壺か短頸壺の底部である。315の底部には回転糸切り痕が残る。315の高台は裾の張りが強く開いていいるが、316から319の高台の断面形は長方形である。

320は短頸壺である。口縁部は短く直立気味である。

ト　須恵器の甕

321から332は甕である。321は口縁部で、先端で外側に折れている。322は張りのない胴部で、外面は並行タタキを行いその上から工具によってナデられ、内面は同心円タタキを行っている。323と324は突帯付四耳壺である。いずれも耳には孔はない。突帯の断面形は、323は三角形を324は丸みをもった三角形を呈している。外面には並行タタキを行い、内面はナデられている。325は口縁部で大きく外反している。326は胴部より短く外反して口縁部に至る形態をしている。外面は並行タタキとナデを行い、内面はナデられている。329は平底で胴部肩が強くはる形態をしている。外面は並行タタキを行い、内面はナデが施されている。327・328・330・331は短い口縁部をもつものである。327は胴部外面に並行タタキが行われており、焼きは甘く表面が剥落している。328も焼きは甘く表面が剥落しており、327と同一個体かもしれない。330と331は小型で胴部外面に並行タタキが施されている。331の内面はハケ調整が行われている。332は平底の底部で、胴部外面に並行タタキが施され、内面は削りの後粗くナデが施されている。

ナ　灰釉陶器の壷・瓶等

333は広口瓶の口縁で、口径は14.6㎝である。釉は外面全体的に、内面は口縁部の中ほどまで掛かっている。334は長頸壺と思われ、体部は良く張り、外面に釉が施されている。335から337は高台が付くもので、壺または瓶の底部である。底部から胴部下部は回転ヘラ削りが施されている。338は口縁帯をもつ口縁部で、小型のものである。339と340は高台のない回転糸切り未調整の底部であり、小瓶の底部かと思われる。

二　黒色土器の壺

341は内外両面を黒色処理した長頸壺の口縁部である。先端は折り返して口縁帯をつくる。

ヌ　緑釉陶器の壺

342は緑釉陶器で小型の壺の体部かと思われる。胎土は青灰色で硬質で、濃緑色の釉を施している。

ネ　その他

343は漆塗の鉢である。須恵器の内外両面に漆が施されていると思われる。口縁部は折れて内傾している。小片で細かい点は不明である。

第8号溝跡（SD−08）（第49図、第30・31表）

覆土から土師器の杯1～3、土師器の椀4・5、内黒の杯6～10、内黒の椀11・12、須恵器の杯13、

須恵器の壺14～16等が出土した。

杯2と3の底部は回転糸切りを施されている。4の高台は発達している。6～10の底部は回転糸切りである。粗雑な作りで、7・8の内面底部にロクロ目が強く残る。11・12は底部である。13は無高台で、回転糸切りが施されている。14は長頸壺の頸部で、15は小型の壺か瓶であると思われる。16の底部は内面に強いロクロ目が残り、外面は回転糸切りを施している。

第9号溝跡（SD－09）（第50図、第31・32表）

覆土から土師器の杯1及び椀2、内黒の椀3、須恵器の底部4と灰釉陶器の椀5等が出土した。1の底部の径は小さく、回転糸切りされている。2の体部は大きく直線的に開いている。4は高台を付する杯と思われ、底部周辺は回転ヘラ削りが施されている。5は輪花椀である。

（5）ピット（P－01～P－134）出土の土器

いくつかのピットの覆土から遺物が出土している。どれも小破片で、図化できたものは少ない。

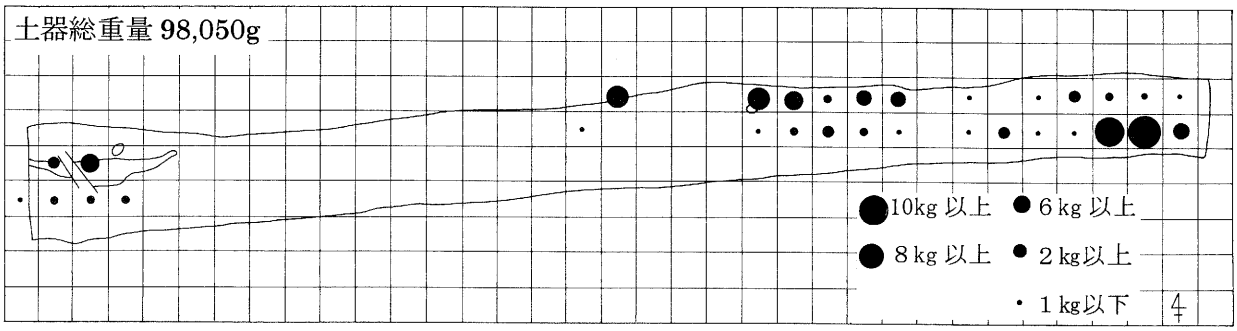
P－01からは須恵器坏の破片が出土した。P－07からは土師器甕胴部の破片が出土した。P－10からは須恵器の無高台の坏が出土した（第51図、第32表）。1と2の底部は手持ちヘラ削りが施されていると思われる。2には窯印のようなヘラ描きが施されている。どちらも残存部が小さいため、明確ではない。そのほか、土師器片と須恵器の壺の破片と思われる遺物等が出土している。P－11からは無高台の坏が出土した。底部は手持ちヘラ削りが施されていると思われるが、残存部が小さいため明確ではない。P－16からは土師器甕の破片が出土した。P－21からは土師器長胴甕の胴部の破片及び両面に刷毛調整が施されている甕の破片が出土した。また、須恵器の高台付杯と外面にタタキ目が施されている甕の破片が出土した。P－23から長胴甕が出土している。器厚は薄手で、口縁部は「く」の字を呈している。武蔵型甕であると思われる。P－24からは須恵器坏の破片が出土した。P－29からは土師器の坏と甕の破片が出土した。坏は非ロクロ調整のものと思われる。P－32からは土師器甕の破片と須恵器の高台付杯の破片が出土した。P－42からは須恵器坏の底部と壺または甕の口縁の破片が出土した。坏の高台断面は三角形を呈している。P－56からは内黒の杯等の破片が出土した。P－57からは内黒の杯の底部、土師器甕の胴部と須恵器甕の胴部が出土した。内黒の杯の底部は回転糸切りが施されている。P－58からは須恵器甕の胴部の破片が出土した。P－84からは須恵器の口縁端部で短く折れている杯蓋が出土した。P－85からは土師器の破片が出土した。P－94からは土師器片が出土し、P－101からは土師器坏の破片が出土した。P－124からは土師器と内黒の破片が出土し、P－125からは内黒の破片が出土した。P－126からは内黒の坏が出土した（第51図、第32表）。回転糸切りの底部で、内面は暗文風に縦ミガキが簡略されている。また、底部に回転糸切りの内黒杯の破片が出土した。

（6）遺構外出土の土器

Ⅰ区（平成9年度調査）（第52～56図、第32～39表）

この調査地区からは遺構分布密度が小さいにもかかわらず、点箱14ケースという多量の遺物が出土した。次の図はグリッドごとの出土分布図であるが、出土地点は何箇所かに分れて集中して出土している。この一帯は緩やかに窪んでおり、周辺から遺物が流れ込んだと考えることができる。また、表土からも多量の遺物が表採されているので、耕作によって遺構の多くが破壊されたと考えられることもできる。

主に奈良時代から平安時代の後半の土器が出土している。食器は、土師器の無高台の坏・椀・高坏・盤と内黒の坏・椀と両面を黒色処理した椀・皿等が出土した。また、須恵器の杯・坏蓋、灰釉陶器の椀・皿及び緑釉陶器等が出土した。煮炊具は、土師器の長胴甕、小型甕、羽釜が出土した。貯蔵具は須恵器の長



頸壺・短頸壺・甕と灰釉陶器の広口瓶等が出土した。このうち、図化できるものを本書に掲載した。

1から 37 は土師器の無高台の坏である。ロクロ調整で底部回転糸切り未調整、内面はロクロナデの後黒色処理等の調整を施さない。1の体部は直線的に開き、ロクロ目が強く残る。2の底部の径は小さく体部は大きく開く。25 の内面に付着物がある。29 から 34 は小型で、口径は小さく体部は浅い。

38 から 44 は土師器の椀である。ロクロ調整で、高台を有する。38 から 42 までは体部が比較的浅く直線的に開く。43 と 44 は体部の丸みに張りがある。

45 は高坏である。脚部は内外両面とも丁寧な横方向のナデが施されている。

46 は足高高台を有する椀型の器（盤）の高台である。

47 から 67 は内黒の杯である。底部の切り離しは回転糸切りですべて未調整である。　60 の口縁部内面には付着物がある。61 の体部は比較的膨らみをもち、深い。62 と 63 は比較的大型である。64 から 67 の底部にはヘラ描きが刻まれている。

64 から 67 は体部外面に刻線があり、窯印と思われる。68 は体部外面に十字の刻みがあり窯印か刻書土器の可能性がある。

69 から 75 は内黒の椀で、高台を有する。71 から 73 は比較的小型である。74 は縦のミガキが簡略化されて暗文風である。75 は花弁の暗文が施されている。

76 から 83 は器の内外両面を黒色処理したものである。76 は椀で、丁寧なミガキを施している。77 から 81 は皿で、高台を付け体部は直線的にのびて浅い。82 は内面に黒色処理を施している。82 は坏か或いは壺の底部と思われる。83 は口縁部の先端が折れて内傾するもので、椀蓋かと思われる。

84 は土師器の鉢であると思われる。

85 から 89 は盤である。ロクロ調整で、大きな器に脚台をもつ。85 の内面には付着物がみられる。86 と 89 の脚には方形の透かしがある。88 は盤か高坏で、器部の底に孔が穿たれている。焼成後に開けられたと思われる。

90 と 91 は須恵器である。90 は坏蓋で口縁の端部を内側に折っている。91 は高台付きの坏である。体部は箱型で高台の断面形は平行四辺形を呈する。

92 から 97 は灰釉陶器である。92 から 95 は椀で底部周辺に回転ヘラ削りを施す。92 は刷毛塗り施釉である。94 の高台の断形は三日月形である。96 と 97 は皿で、97 は底部とその周辺は回転ヘラ削りが行われている。96 は底部に回転糸切り痕があり、漬け掛施釉である。

98 と 99 は緑釉陶器である。98 の胎土は青灰色で内面にヘラミガキが施されている。底部は糸切り痕を残す。99 は青灰色の胎土で、釉は 98 よりやや濃い緑色であり、ヘラミガキは施されていない。

100 は 18 世紀から 19 世紀前半の瀬戸・美濃の陶器の丸椀で、胎土は白色で透明な釉が掛かっている。

101 から 107 は甕である。そのうち、101 から 104 は長胴甕である。101 は内面に僅かに刷毛調整痕が見られる。103・104 は胴部から口縁部にかけて「く」の字状に折れ、口縁部の先端で短く外反している。102 と 103 は回転台を用いたナデが施されている。105 の口縁部は短い。106 は小型甕でロクロ調整の作

りである。底部の切り離しは回転糸切りである。107の底部外面には木葉痕がある。

108から111は羽釜である。鍔が連続して胴部を一巡するものと思われる。108は内外両面に刷毛調整が施されている。109の外面は横位のヘラナデが施されている。111の外面はヘラ削りが施されている。

112から115は須恵器の壺である。112は長頸壺の頸部であり、内外両面に強いロクロ目が残る。113は短頸壺である。114・115は凸帯付四耳壺か壺の底部であり、高台を付す。

116は須恵器の甕の底部で、外面にタタキ目が施されている。

117と118は灰釉陶器の壺か瓶である。117は広口瓶である。

Ⅱ区（平成11年度5月・6月調査）（第57図、第39・40表）

この地区の遺構外出土の土器は少なく、すべて小破片であった。内黒の坏、須恵器の坏土師器の甕、須恵器の甕、須恵器の長頸壺、灰釉陶器の壺か瓶等の破片が出土した。1は内黒の椀か坏である。2は須恵器の坏で火襷がみられる。3は灰釉陶器の椀で、底部とその周辺に回転ヘラ削りが施されている。5は土師器の甕の胴部から底部で、ロクロ、或いは回転台を用いて整形している。4は須恵器の鉢か壺で外反する口縁部を有する。6は須恵器の甕か壺の口縁部である。

Ⅲ区（平成11年度7月～9月調査）（第58図、第40表）

この地区は、遺構外から僅かな土器が出土した。

1から4は土師器の坏である。土師器の無高台の坏である。ロクロ調整で底部回転糸切り未調整、内面はロクロナデの後黒色処理等の調整を施していない。5は土師器の小型の椀である。ロクロ調整で、高台を有する。6・7は内黒の坏である。底部の切り離しは回転糸切りで、すべて未調整である。8は内黒の椀で、高台は欠損している。9・10は灰釉陶器で、9は椀、10は段皿である。底部周辺は回転ヘラ削りが施され、釉は漬け掛けである。11は小型甕で回転台を用いたと思われるナデが施されている。12は灰釉陶器の小瓶と思われる。

2 瓦

本調査で出土した瓦は、てん箱18箱に及ぶ。掘立柱建物跡、道路状遺構、遺構外から出土した。第7号溝跡から多量に出土し、13箱を占める。

軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・熨斗瓦が出土した。完形は一つも無かった。狭端面から広端面まで連続して残存するもの、または左側縁から右側縁まで連続して残存するものも極めて少なかった。すなわち、全体の形態や法量が明確にわかる程度に残存するものはほとんど無かった。

軒丸瓦及び軒平瓦は、これまでにも信濃国分寺跡及びその周辺の尼寺、瓦窯跡、明神前遺跡、道場地籍、現国分寺、古城遺跡から出土し、数種類確認されている。本調査では、これらのうち八葉複弁蓮華文及び九葉単弁蓮華文軒丸瓦、偏行唐草文軒平瓦と同じ文様の瓦が出土した。さらに、これまでに確認されていなかった九葉素弁蓮華文及び十（九）葉単弁蓮華文軒丸瓦が出土した。

（1）掘立柱建物跡出土の瓦

第5号掘立柱建物跡（ST-05）（第59図、第41表）

P12の覆土より、丸瓦が1点出土した。一方の側縁部と両端部が欠損しており、全体の形や法量は不明である。厚さ1.9㎝、残存長10.2㎝である。凸面はナデで調整され、凹面は布目痕がある。側面は凹面側を面取りしている。

（2）道路状遺構出土の瓦

第３号溝跡（SD-03）（第60図、第41表）

東側の第３号溝跡の覆土より丸瓦と平瓦が合わせて３点出土した。

１の丸瓦は一方の側縁部と端部が欠損しており、全体の形や法量は不明である。厚さ1.8㎝、残存長12.6㎝である。凸面はナデで調整され、凹面は糸切り痕が残り布目痕がある。側面は凹面側に分割痕が残る。

２と３は平瓦で欠損により全体の形や法量は不明である。２は残存長11.2㎝で、厚さは1.8㎝である。凹面は布目が残り、凸面は平行タタキ目が施され、部分的に布目が残る。狭端面まで布目がみられる。３は残存長7.5㎝で、厚さは1.7㎝である。凹面は布目が残り、凸面は平行タタキ目が施される。側面には分割痕がみられ、広端面に削りが施されている。

（３）溝跡出土の瓦

第１号溝跡（SD-01）（第61図、第41表）

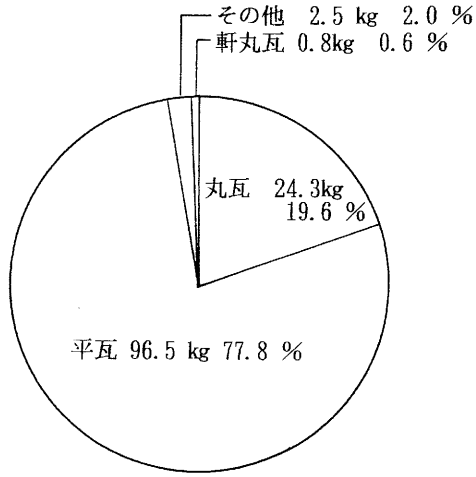
本遺構からは、丸瓦・平瓦合わせて９点出土した。小片は図化しなかった。

１から３は丸瓦で、４と５は平瓦である。全体の形や法量は不明である。１は残存長5.5㎝で、厚さは1.4㎝である。凹面は布目が残り、凸面はナデが施される。２は残存長9.3㎝で、厚さは2.3㎝である。凹面は布目が残り広端部は削られている。凸面はナデが施される。側面は凹面側を面取りしている。３は残存長10.2㎝で、厚さは1.9㎝である。凹面は布目が残り、布目には綴じ合わせ目がある。凸面はナデが施される。側面は凹面側を面取りしている。４は残存長9.8㎝で、厚さは2.3㎝である。凹面は布目が残り、凸面は平行タタキ目が斜状に施される。側面まで布目がみられ、スジ状の窪みがある。５は残存長5.1㎝で、厚さは1.8㎝である。凹面は布目が残り、部分的にナデがみられる。凸面は縄タタキ目が施され、糸切り痕がある。側面には削りが施されている。

第７号溝跡(SD-07)（第62～75図、第41～48表）

本遺構から出土した瓦類を分類してみると図のようになる。平瓦は全体の総重量の77.8%を占め、丸瓦は19.6%であった。平瓦のうち凸面の調整が縄タタキ目のものが多く42.0%で、平行タタキ目のものが35.6%であった。また、焼成は還元炎のものが63.4%、酸化炎は36.6%で、灰色に焼かれた瓦が過半数を占めていた。

軒丸瓦は、それとわかったものすべてを本書に掲載した。丸瓦と道具瓦は、規模がある程度推測できる大きさのものを掲載した。平瓦等は側面２面と端面２面の４面のうちどれか２つを残存しているもの、特徴のあるもの、残りの大きいものを選んで図化し掲載した。



ＳＤ－０７出土瓦種類別重量割合

ア　軒丸瓦

本遺構から出土した軒丸瓦の瓦当文様は４種類ある。１と２は九葉単弁蓮華文、３と６は九葉素弁蓮華文、４は十葉（九葉）単弁蓮華文、５は信濃国分寺創建期の八葉複弁蓮華文である。瓦当文様が完全に残存しているものはない。

１と２の九葉単弁蓮華文と同じ文様構成の瓦は、平成８年上田市立第一中学校建設に伴なう**古城遺跡**の発掘調査により出土している。これらは、『信濃国分寺―本編―』（上田市教育委員会1974吉川弘文館）に所収されている現国分寺本堂東南隅から出土した九葉単弁蓮華文とも同じである。１の残存する大きさは、縦10.2ｃｍ、横10.1ｃｍ、瓦当厚は2.1から2.5㎝である。２の残存する大きさは、縦7.5ｃｍ、横9.1ｃｍ、瓦当圧2.1㎝である。

3の残存する大きさは縦7.8ｃｍ、横5.9ｃｍ、瓦当厚は2.0㎝である。6の残存する大きさは、縦4.1ｃｍ、横5.2㎝である。3と6の軒丸瓦は、信濃国分寺跡やその周辺からの出土がこれまで知られていない新資料である。

イ　丸瓦

7から46は丸瓦である。玉縁部が残るものは、7・11・33・34・35・36・37・38である。これらは玉縁式の軒丸瓦であるといえる。これ以外の中で有段か無段かが明確にわかる程度に残存するものは無かった。玉縁部の長さはそれぞれ異なっている。玉縁長はそれぞれで、7は8.3㎝、11は2.7㎝、33は4.9㎝、34は5.7㎝、35は4.2cm、36は4.6㎝、37は4.0㎝である。また、38は肩部のつくりが極めて浅い。

横幅が判るものは、8・9・10・33・34である。8は14.5cm、9は12.0cm、10は14.8㎝、33は14.1㎝、29は15.5㎝である。

厚さは1㎝から3㎝の幅に分布する。2.2㎝前後の厚さのものが最も多く、次に1.5㎝前後のものが多い。

調整は10と43を除いて、凸面にナデを施し凹面に布目があるものである。10の凹面は横方向に削られて布目がみられない。43の凸面は平行タタキ目が施されている。16と18の凸面の調整はナデが主体であるが、部分的に平行タタキ目がみられる。7と12の凸面はナデのほかに削りもみられる。側面が残るもののほとんどは凹面を面取りしているが、17と19は両面を面取りしている。また、広端部が残るもののほとんどは凹面に削りが施されているが、14は凸面が削られている。玉縁部が残るもののうち35と36の玉縁部凹面は削られている。そのほか、12・18・23・45の凹面と、14の凸面とに糸切り痕がみられる。24・25と41は玉縁部が欠損している。24の凸面は無文でナデが施され、凹面は布目である。側面は凸面側に面取りが施されている。25の凸面は無文で削りとナデが施されている。凹面には布目がみられる。側面は凹面側に面取りが施されている。26～28・42は広端部である。26の厚さは比較的薄い。凸面には横方向のナデが施され、凹面には布目がみられる。側面は凹面側に面取りが施されている。また、広端部は凹面側を広く削っている。28の凸面には横方向のナデが施され、凹面には布目がみられる。側面は凹凸両面に面取りが施されている。42の凸面には縦の粗い削りがみられる。側縁部と広端部の凹面側に広く削りがみられる。27の厚さは比較的薄い。凸面は無文で横位のナデが施され、凹面には布目がみられる。側面は凹凸両面に面取りが施され、広端面も面取りが施されている

そのほか、17と23の布目には布綴じ合わせ目がみられる。23は側面にまで布目がみられる。21の凸面には深いヘラ痕が刻まれており、刻字の可能性もある。

ウ　平瓦

本遺構から出土した平瓦は瓦類全体の重量の8割近くを占めている。

凸面の調整は縄タタキ目、平行タタキ目、押型文、無文がみられる。その中で縄タタキ目のものが多く平瓦の総重量の4割以上を占め、次に多いのが平行タタキ目であった。凹面の調整はほとんどが布目で、僅かにナデによる無文のものがあった。布目の1㎝四方の密度は、第54表のように4本×4本から11本×13本まであった。そのうち、7本×7本前後のものが最も多かった。

側縁が削られて面を取るものとそうでないものがあった。削りを施しているものは、凹面側が削られているものと、凸面側が削られているものと、両面が削られているものがあった。凹面に施されて布目を消しているものが最も多かった。また、側縁に削りを施した後、さらに側面に面取りを入れるものもみられた。

狭端部や広端部が削られて面を取るものとそうでないものがあった。削りが施されているものの多くは凹面側であるが、凸面側に施されているものもあった。

模骨の枠板痕跡の有無も、痕跡の無いものがほとんどで、痕跡のあるものは少数であった。　一枚作りの可能性のあるものがあった。側面にまで布目が及んでいるものが小数であるがみられた。

エ　道具瓦及び文字瓦

幅の狭い熨斗瓦と思われる瓦も出土した。141 から 146 の幅は、8 cmから 16.5 cmの間の中にある。凹面が布目で凸面が平行タタキ目を施しているものが多い。144 は、凹面は布目で凸面は縄タタキ目が施されている。凹面には模骨痕がみられる。143 の凸面は平行タタキ目をたてよこに組み合わせて格子目をつくっている。

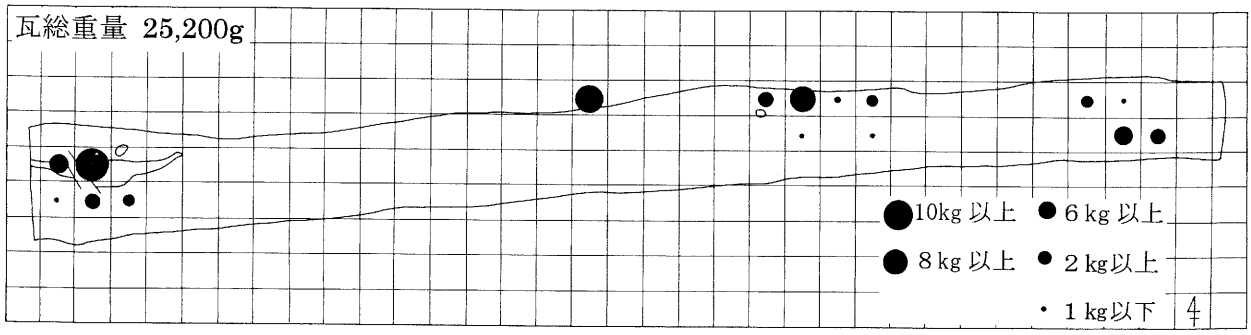
刻書による文字瓦と思われるものも存在した。76 と 77 は細いヘラによって線が刻まれており、記号か文字の可能性がある。

（4）遺構外出土の瓦

軒平瓦・軒丸瓦と道具瓦は、それと判ったものすべてを本書に掲載した。丸瓦は、側縁か端縁のどれかが残存しているものを掲載した。平瓦等は側面 2 面と端面 2 面の 4 面のうちどれか 2 つを残存しているもの、特徴のあるもの、残りの大きいものを選んで図化し掲載した。

I 区（平成 9 年度調査）（第 76～78 図、第 48・49 表）

この地区からは軒平瓦、軒丸瓦、丸瓦、平瓦、熨斗瓦が出土した。II区、III区に比べて、出土数が多い。下の図は、グリッドごとの出土量及び分布を示した図である。



ア　軒平瓦

1 は偏行唐草文軒平瓦である。I 区東部から出土した。これと同一文様のものが現信濃国分寺本堂北西から出土し『本編』に掲載されている。大きさは縦 5.5 cm、横 6.9 cmで、瓦当面の上弦の残存長は 3.4 cm、下弦の残存長は 5.5 cm、残存厚は 2.2 cmである。

イ　軒丸瓦

2 は軒丸瓦と思われるが、残存部が小さく詳細は不明である。1 と同じグリッドから出土した。残存長は 9.4 cmである。瓦当面の外区と珠文のような文様が存在する。内面は布目が施されている。

ウ　丸瓦

3 から 10 は丸瓦である。

3 から 5 は玉縁部が残る。3 は玉縁部から端部まで残存し、全長は 35.7 cmである。玉縁長は 4.5 cmである。凸面はナデが施され、凹面は布目である。側面は凹面側を面取りしている。4 は玉縁が 3 より短く、2.4 cmである。凸面は斜状の平行タタキ目で、凹面はナデを施している。肩の作りも 3 より小さく丸みをもっている。5 は玉縁部の先が欠損しており玉縁長は不明である。凸面はナデが施され、凹面は布目である。側面は凹面側を面取りしている。

6 は、凸面は斜状の平行タタキ目が施され凹面は布目である。側面は凹面側を面取りしている。

7から9は、凸面はナデが施され凹面は布目である。側面は凹面側を面取りしている。10は凸面と凹面にナデが施され、側面は凹面側を面取りしている。

エ　平瓦

11から23は平瓦である。これらの凹面は13を除いて布目が施されている。13は、布目はみられない。また、14は布目とタタキ目のような痕がみられる。凸面は、15はナデが施され、22・23は縄タタキ目が施されている。それ以外は平行タタキ目が施されている。12の凸面と13の凹面には糸切り痕がみられる。22の広端面の凹面には削りによって面が取られている。10・13・18・22の側面は凹面に面取りが施されている。また、11の端面と側面に布目がおよび一枚作りの可能性がある。

オ　道具瓦及び文字瓦

24と25は熨斗瓦かと思われる。幅は24が14.2㎝、25が13.1㎝である。断面形は曲線状を呈している。どちらも凸面は平行タタキ目で、凹面は布目である。

21は文字瓦と思われる。凹凸両面に布目が施され、凸面には布目を部分的にナデて磨り消し、そこにヘラ状工具で文字か記号を刻書している。

Ⅱ区（平成11年度5月・6月調査）（第79図、第49表）

先にも述べたように、この調査地区の包含層等から出土した遺物量は少ない。軒丸瓦2点、丸瓦1点と布目瓦の平瓦11点が出土している。

1の瓦当文様は九葉素弁蓮華文で、第7号溝跡から出土したものと同一文様である可能性がある。第1号道路状遺構（ＳＤ－０２）の南部の上層から出土した。破片の残存する大きさは、縦11.5㎝、横14.2㎝、瓦当厚2.2㎝である。

2は十葉（九葉）単弁蓮華文で、第7号溝跡から出土したものと同一文様である可能性がある。残存する大きさは、縦7.9ｃｍ、横12.2ｃｍ、瓦当厚1.8㎝である。

3は丸瓦で玉縁部が欠損している。凹面に押型文が施されている。４の平瓦の凸面は平行タタキ目を施し、５の凸面は縄タタキ目を施している。

Ⅲ区（平成11年度7月～9月調査）（第80図、第49表）

軒丸瓦、平瓦等が出土した。

ア　軒丸瓦

1は軒丸瓦の瓦当部であると思われるが、残存部分が小さすぎるため、文様等の詳細は不明である。残存長は縦3.5㎝、横6.5㎝である。

イ　平瓦

２と４は平瓦で、２の凹面は布目で凸面はナデが施されている。側面には削りなどの調整が行われおらず、端面まで布目が及んでいる。

４の凹面は布目で凸面は平行タタキ目が施されている。側面には削りなどの調整が行われていない。側面まで布目が及んでおり、一枚作りの可能性がある。

ウ　文字瓦

3は平瓦の文字瓦と思われる。凹面は布目で、凸面は布目に部分的にナデで布目を消している。ヘラ状工具で文字を刻書している。「大」という字に読める。

文様の分類			
鐙瓦（軒丸瓦）	A	八葉複弁蓮華文	
	B	わらび手文	
	C	四葉単弁蓮華文	
	D	三重圏文	
	E	十二葉素弁蓮華文	
	F	文様不明	
	G	九葉単弁蓮華文	
	●	九葉素弁蓮華文	
	◎	十（九）葉単弁蓮華文	
宇瓦（軒平瓦）	A	均斉唐草文	
	B	均斉蓮華文	
	C	遍行唐草文	
	D	針葉文	

出土地点別	
☆僧寺…金堂・講堂跡	☆明神前遺跡
鐙瓦　A・B	鐙瓦　Aほか
宇瓦　A・B	☆字道場地域（比丘尼井戸周辺）
☆尼寺…金堂・講堂跡	鐙瓦　A・E
鐙瓦　A・B・C・D・E・F	宇瓦　A
宇瓦　A・B	☆現国分寺周辺
☆瓦窯跡	鐙瓦　B・E・G
宇瓦　B	宇瓦　C・D
	☆古城遺跡（平成８年調査）
	鐙瓦　G
	☆国分遺跡群（平成9.11年調査）
	鐙瓦　A・F・G・G・●・◎
	宇瓦　C

信濃国分寺跡及びその周辺遺跡出土の軒瓦の一覧表
（五十嵐幹雄先生、1999『考古雑録(319)』の表をもとに作成）

3　金属製品（第81図、第50表）

合計 31 点出土している。素材は鉄であると思われる。遺存状態は良くなく、器種や全体の形態を把握できるものはほとんど無い。これらのほとんどは第７号溝跡（ＳＤ－０７）から出土した。そのほかは包含層から出土したものもある。Ⅰ区から３点、Ⅲ区から２点出土した。Ⅱ区からは遺構からも包含層からも出土しなかった。

１と２は刀子で、３から 21 は釘であると思われる。いずれもほぼ断面方形に成形されていて、完成品は少ない。４は比較的細く、緩やかに湾曲し、断面形も扁平である。釘ではないかもしれない。その他の鉄製品は明確に器種は分らない。

4　鍛冶関連遺物（第82～83図、第51表）

Ⅰ区の包含層から錫杖鋳型が３点出土した。羽口はⅠ区の包含層と第７号溝跡（ＳＤ－０７）の覆土から５点出土した。鍛冶滓は第７号溝跡の覆土から 14 点出土した。

ア　錫杖鋳型

１から３はⅠ区の東部のグリッドから出土した。胎土は砂質で部分的に剥落しているが、１はほぼ完形に近いものと思われる。２と３は破片であるが、同一個体ではない。いずれも焼けた痕や付着物がみられ、使用されていると思われる。１は長さ 16.3 cm、厚さ 3.1 cmである。２は残存長 10.8 cm、厚さ 3.1 cmである。３は残存長 7.8cm、厚さ 2.9 cmである。鋳型の成形方法は蝋型によるものと木型によるものとがあるが、これらは後者の粘土に木型を押し付けて型をとったものと思われる。錫杖は「逆ハート型」を呈し、中央部は相輪風である。東京国立博物館法隆寺宝物室長の原田一敏先生のご教示によると、この形式

の錫状は８世紀から11世紀に属するということである。

イ　羽口

いずれも小破片で全体の形態を把握できるものは無い。焼成を受け。青灰色に変色している。第７号溝跡（ＳＤ－０７）出土の４と５は先端部付近の破片と思われ、部分的に溶解している。包含層出土の７には薄緑色の釉が付着している。

ウ　鍛冶滓

本調査で出土した鍛冶滓はすべて第７号溝跡（ＳＤ－０７）から出土した。全体で2480.4g、計14点出土した。形態や大きさはそれぞれ異なる。ほとんどに礫や砂の付着がみられ、木炭を付着しているものもある。また、第７号溝跡から２点の銅滓が出土した。いずれも緑青に覆われ、形態は不明であり、製品である可能性もある。９は木炭と小礫が付着している。

5　石器等（第84・85図、第52表）

打製石鏃、砥石、敲石、擦石、凹石が出土した。

１は打製石鏃でⅡ区の遺構外から出土した。材質は黒曜石で先端と基部が欠損している。

６は砥石で、材質は輝石安山岩である。板状を呈して手ごろな大きさであり、中央が緩やかにくびれている。両端部が欠損している。７も砥石で柱状を呈し、両端部が欠損している。材質は輝石安山岩である。Ⅰ区の東端付近のグリッドから出土した。熱を受けた痕跡があるが、連続して何度も被熱していないようである。

８は敲石で、材質は輝石安山岩である。Ⅰ区の遺構外から出土した。柱状を呈した転石を利用している。両端部に敲打ちした痕がみられる。

10は擦石でⅠ区の遺構外から出土した。手ごろな大きさで、平面形は円形を呈している。断面形は扁平な形態で、一方の面は平坦で使用面と思われる。材質は輝石安山岩で河原礫のような転石を利用している。

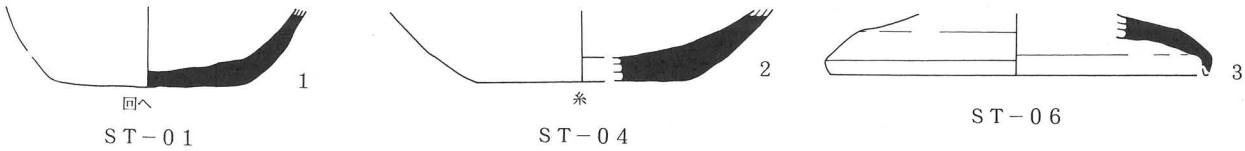
９・11・12は凹石で、いずれも第７号溝跡（ＳＤ－０７）から出土した。９の石材は輝石安山岩で、1/3程が欠損していが、重量5,800gを超える。厚みのある石材を用いて深い凹部を持ち、石鉢のような形態を呈する。凹部の反対側の面は平坦であり、明らかに置いて使用したものと考えられる。11の石材は輝石安山岩で、重量7,500gを超える。扁平だが厚みのある石材を用いている。深い凹部を持ち石鉢のような形態を呈するが、その凹部の面の反対面にも小規模の凹部をもち、両面の凹部により石は貫かれている。両面の凹部の周辺には敲打した痕がみられる。12の石材は輝石安山岩で、厚みのある石材を用いている。深い凹部を持ち石鉢のような形態を呈するが、その凹部の面の反対面にも小規模の凹部をもつ。重量は990gで９・11と比べて小型である。

14は粘板岩で、薄い板状に剥離した石材を使用している。両面の平坦面に擦り痕がみられる。

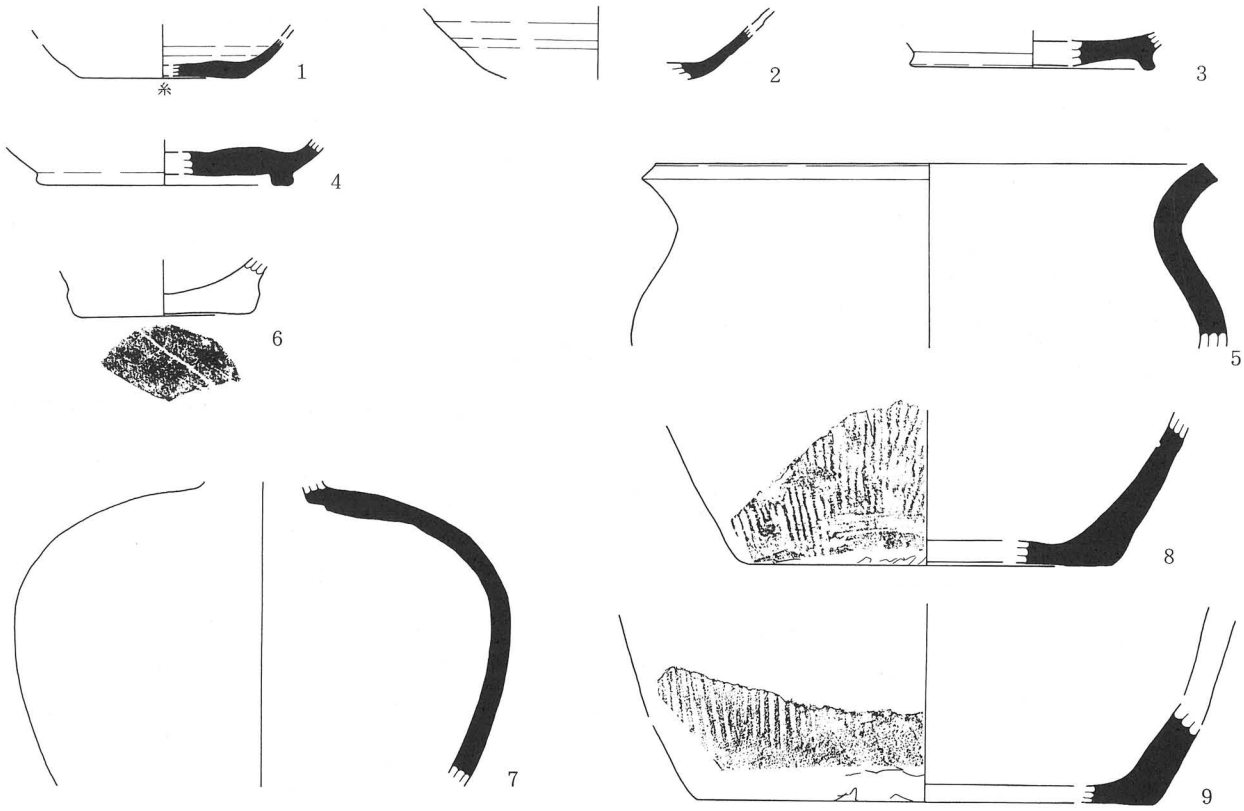
6　獣骨類（第53表）

第１号道路状遺構の溝跡ＳＤ－０２、第１号溝跡（ＳＤ－０１）、第７号溝跡（ＳＤ－０７）、及びⅠ区とⅢ区の遺構外から獣骨類が出土した。細片がほとんどであった。上田市立塩尻小学校の関谷圭史先生のご教示をいただいた。

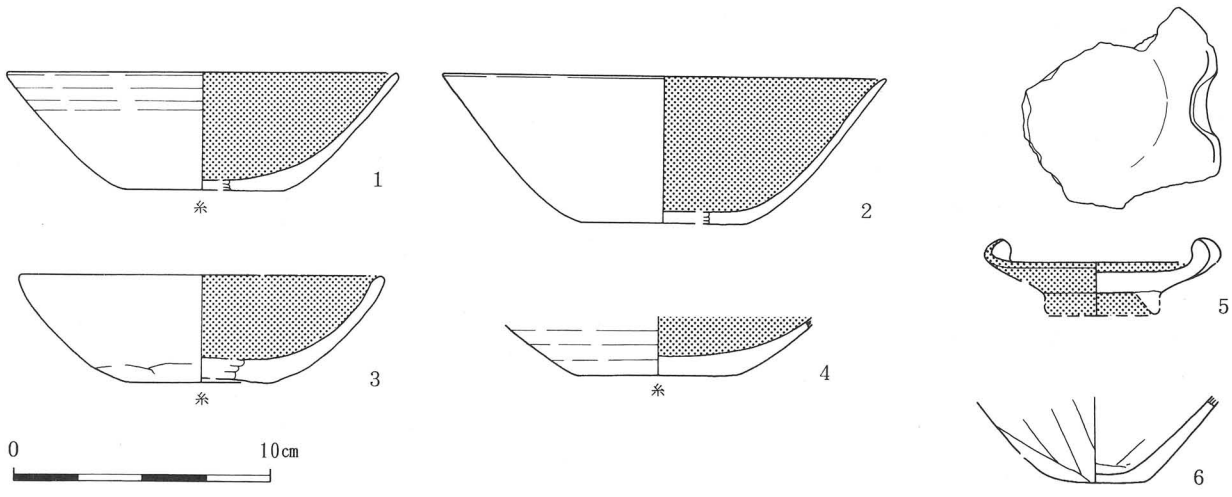
第１号道路状遺構の溝跡ＳＤ－０２から、重量にして合計40.6gのウシの角が出土した。第１号溝跡からは、16.9gの骨が出土したが、どれも細片であり種類は不明である。第７号溝跡からは、合計299.9gのウマの歯が３ヶ所に分布して出土した。その他、Ⅰ区の遺構外からは合計4.5gのウシの角と思われるものが出土した。また、Ⅲ区の遺構外からは、合計34.4gのウマの歯が２ヶ所から出土した。



第 26 図　掘立柱建物跡出土土器実測図

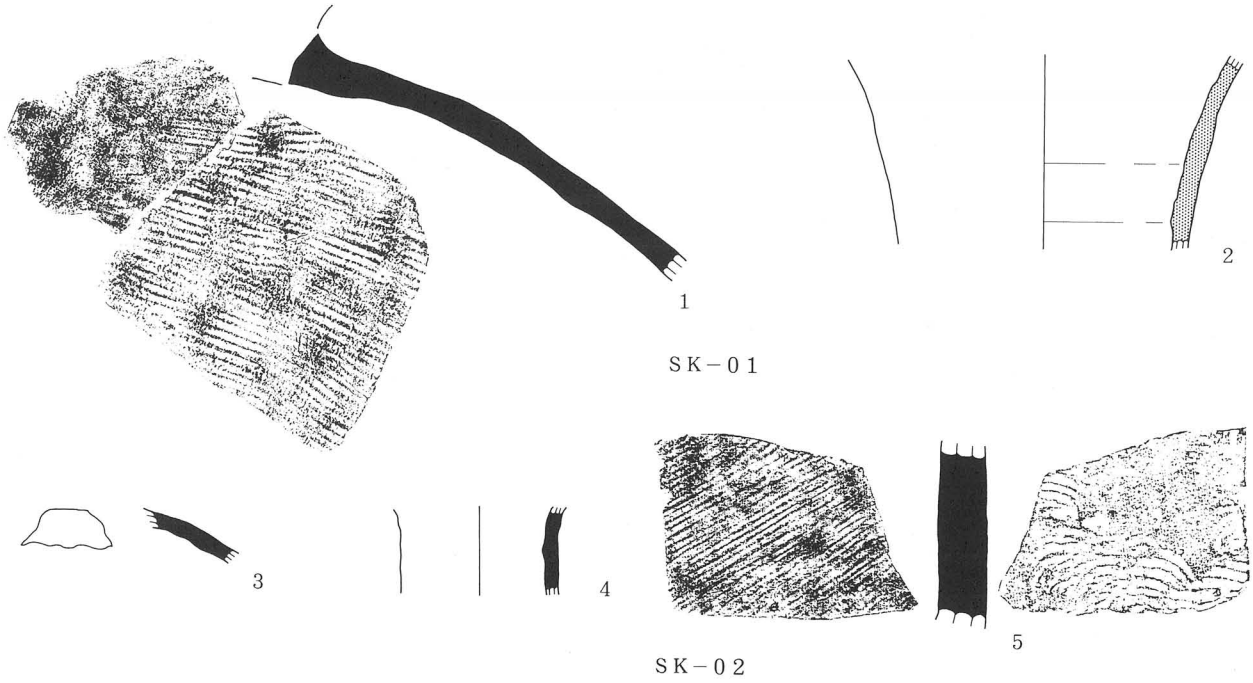


第 27 図　道路状遺構（第２号溝跡）出土土器実測図

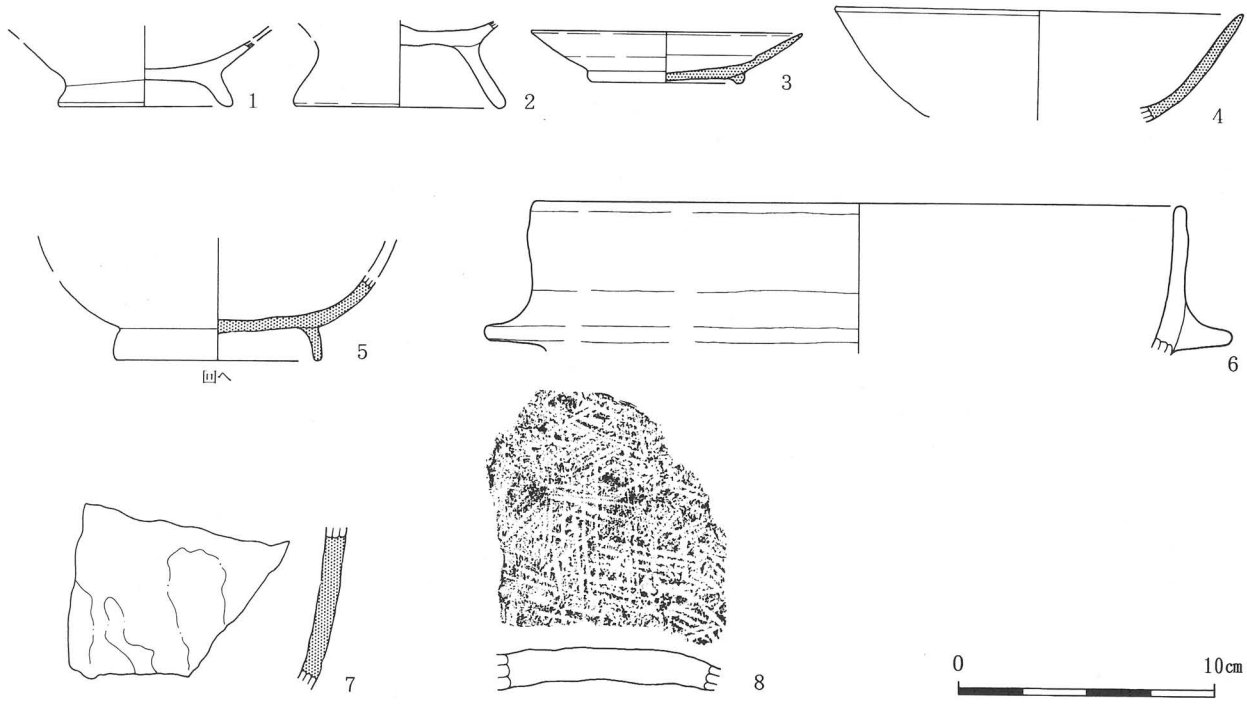


第 28 図　道路状遺構（第３号溝跡）出土土器実測図

第 29 図　道路状遺構（第５号溝跡）出土土器実測図

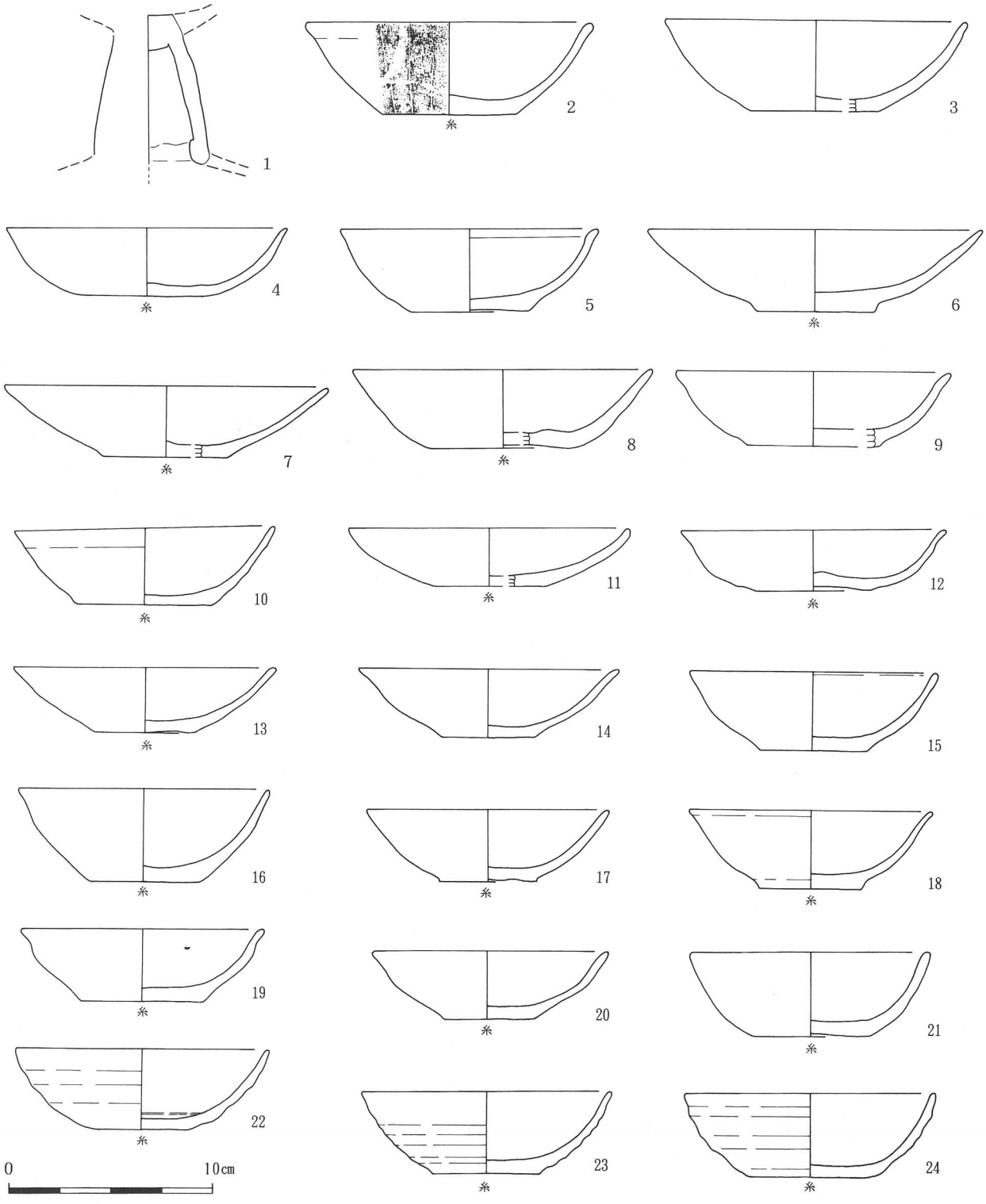


第 30 図　土壙出土土器実測図

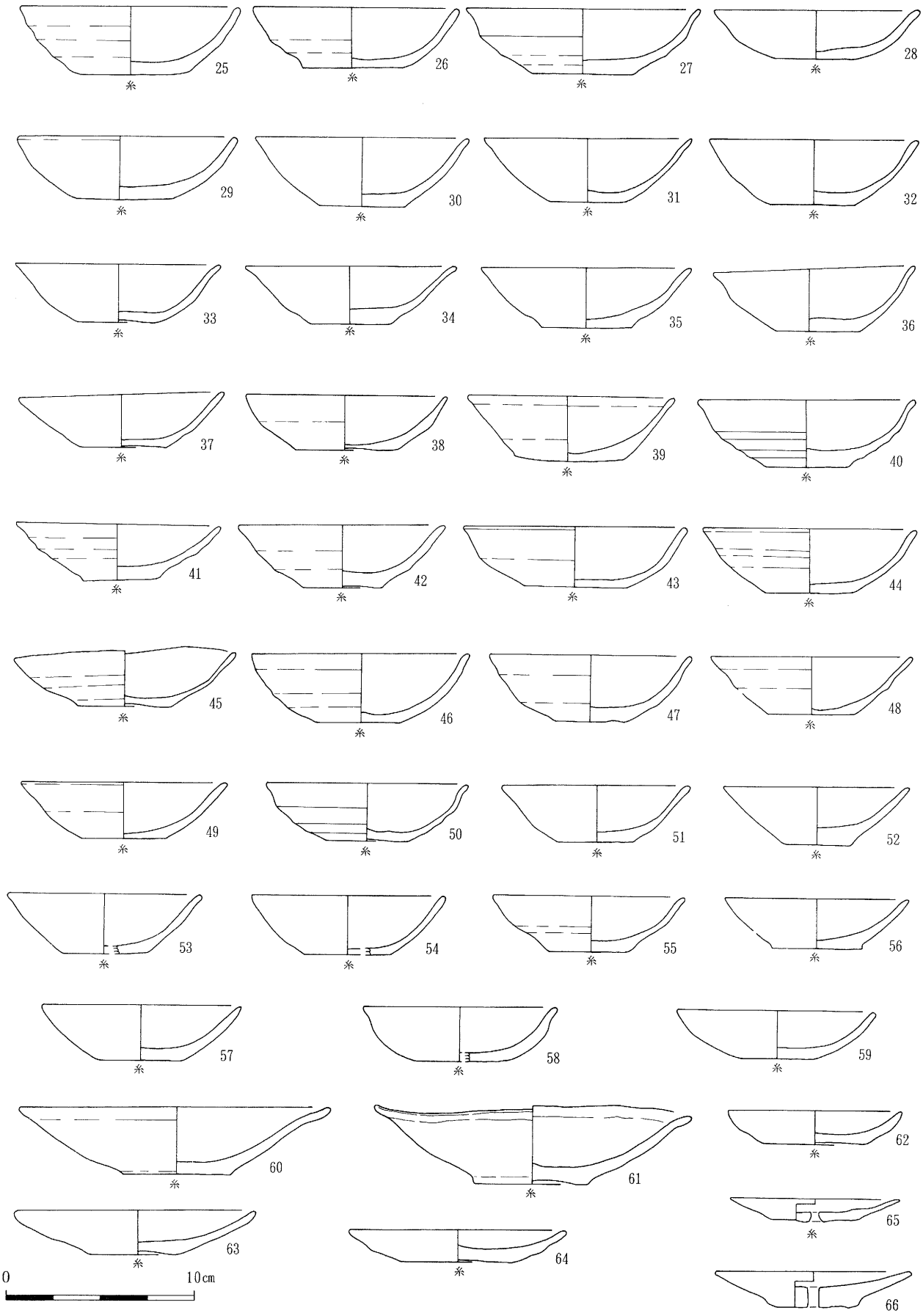


第 31 図　第１号溝跡出土土器実測図

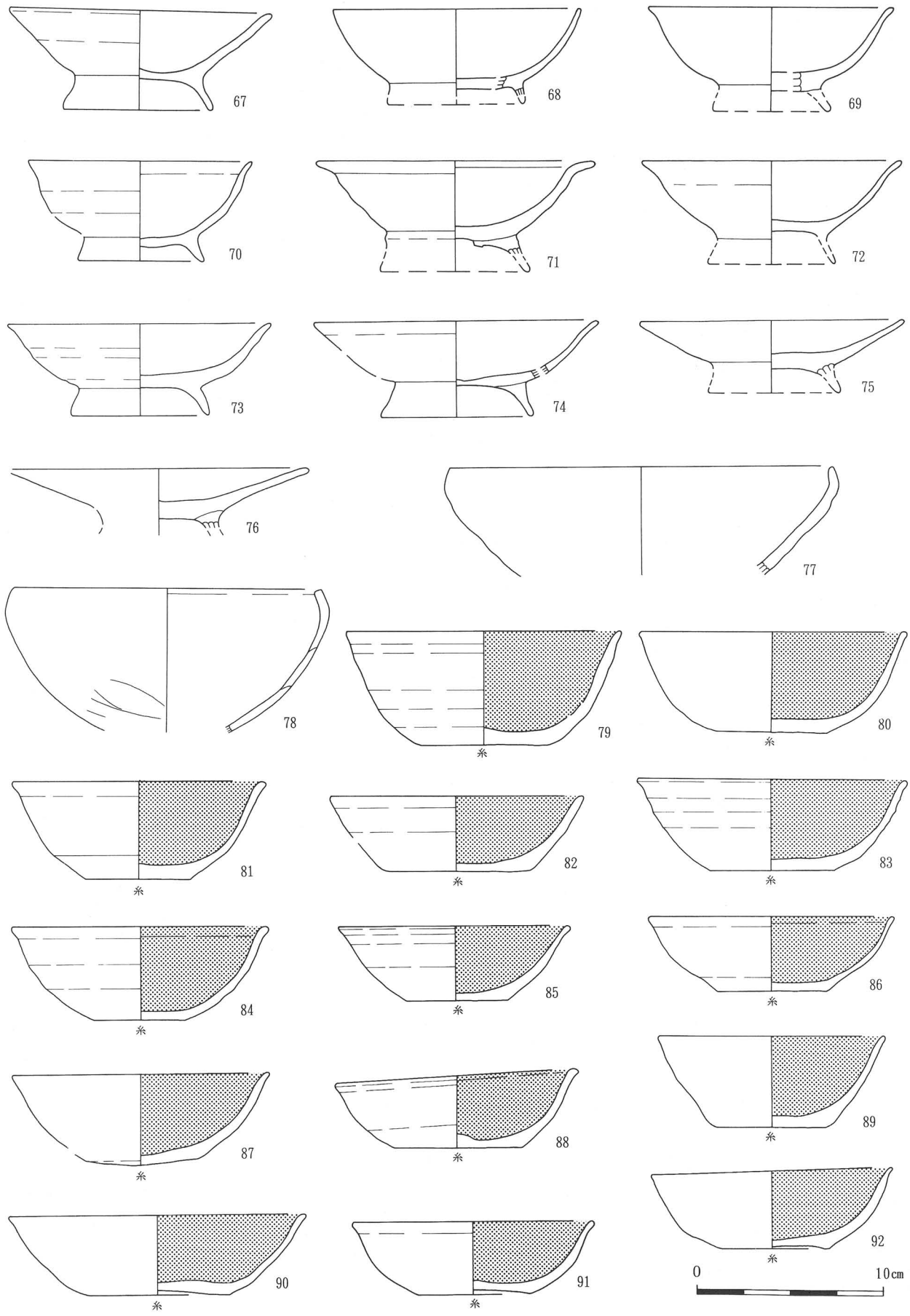
第 32 図　第 4 号溝跡出土土器実測図



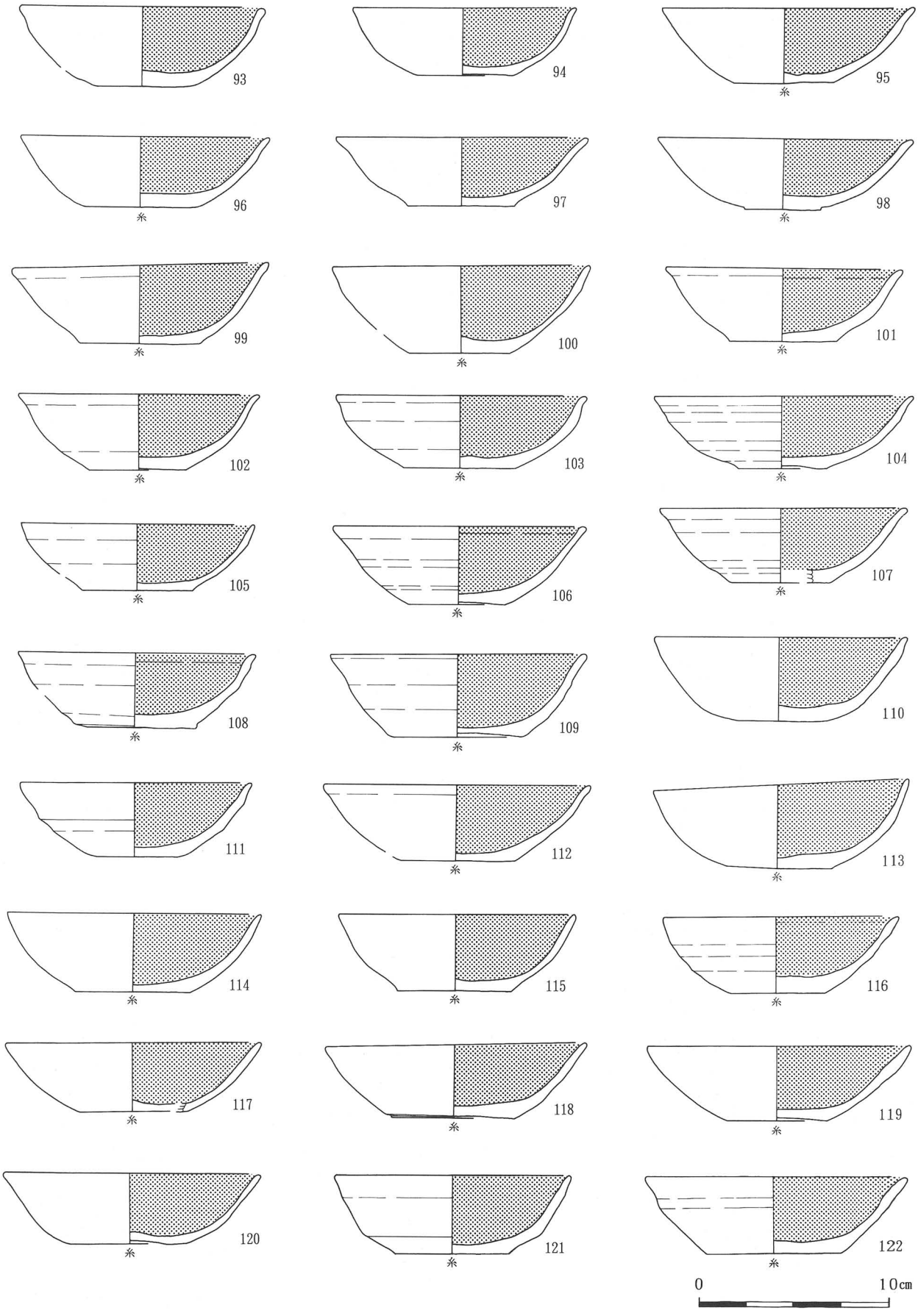
第 33 図　第 7 号溝跡出土土器実測図 (1)



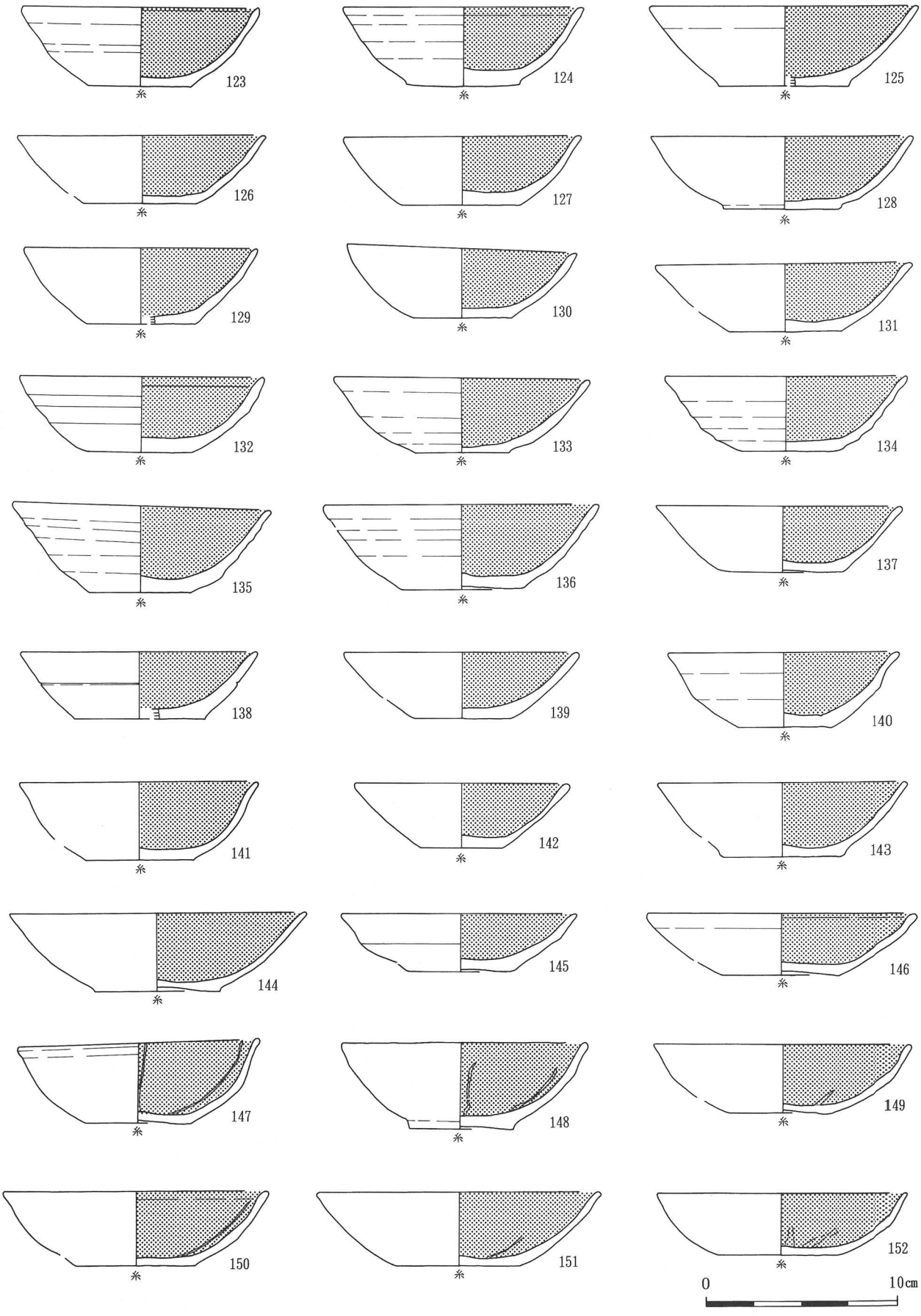
第 34 図　第 7 号溝跡出土土器実測図(2)



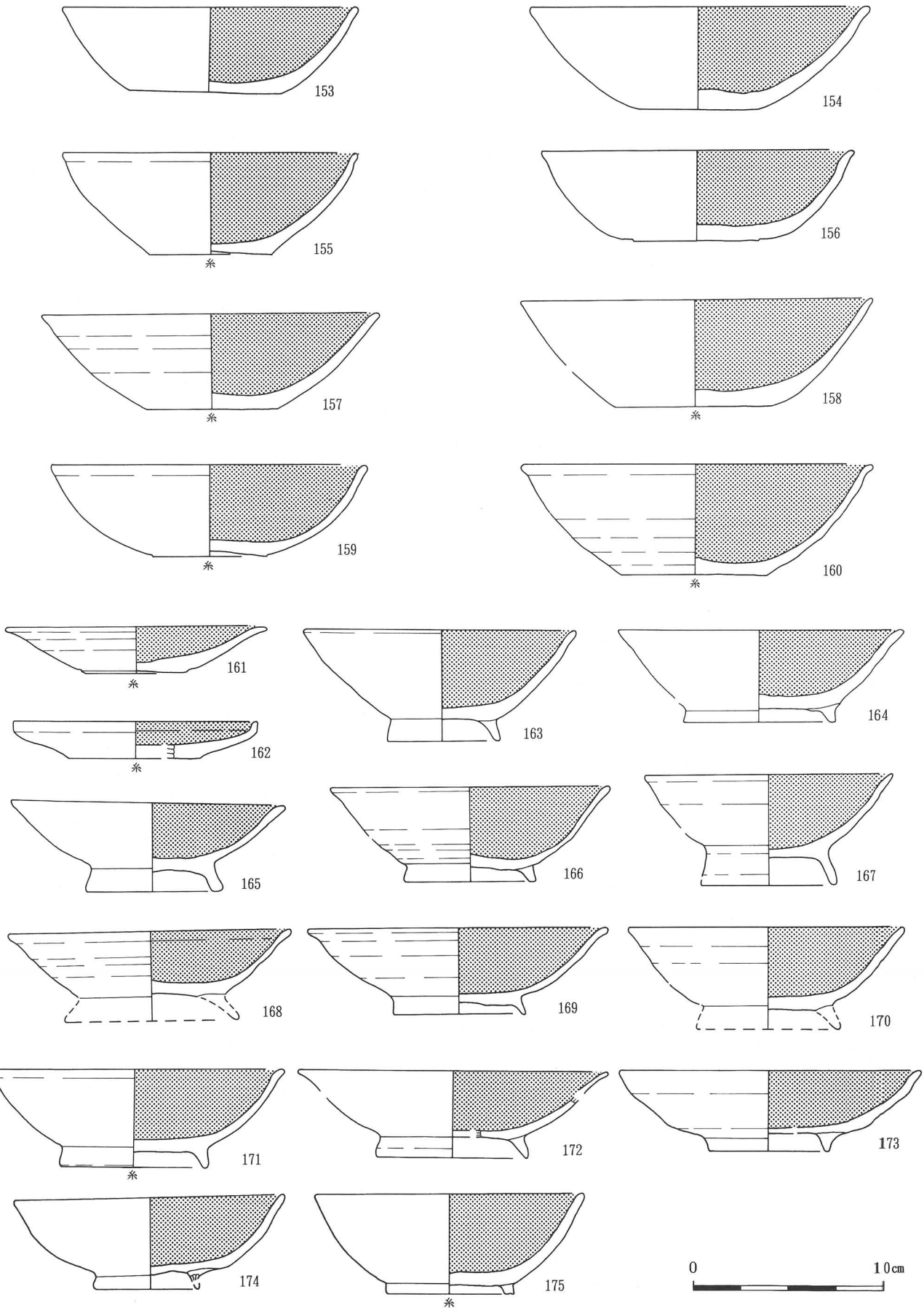
第 35 図　第 7 号溝跡出土土器実測図 (3)



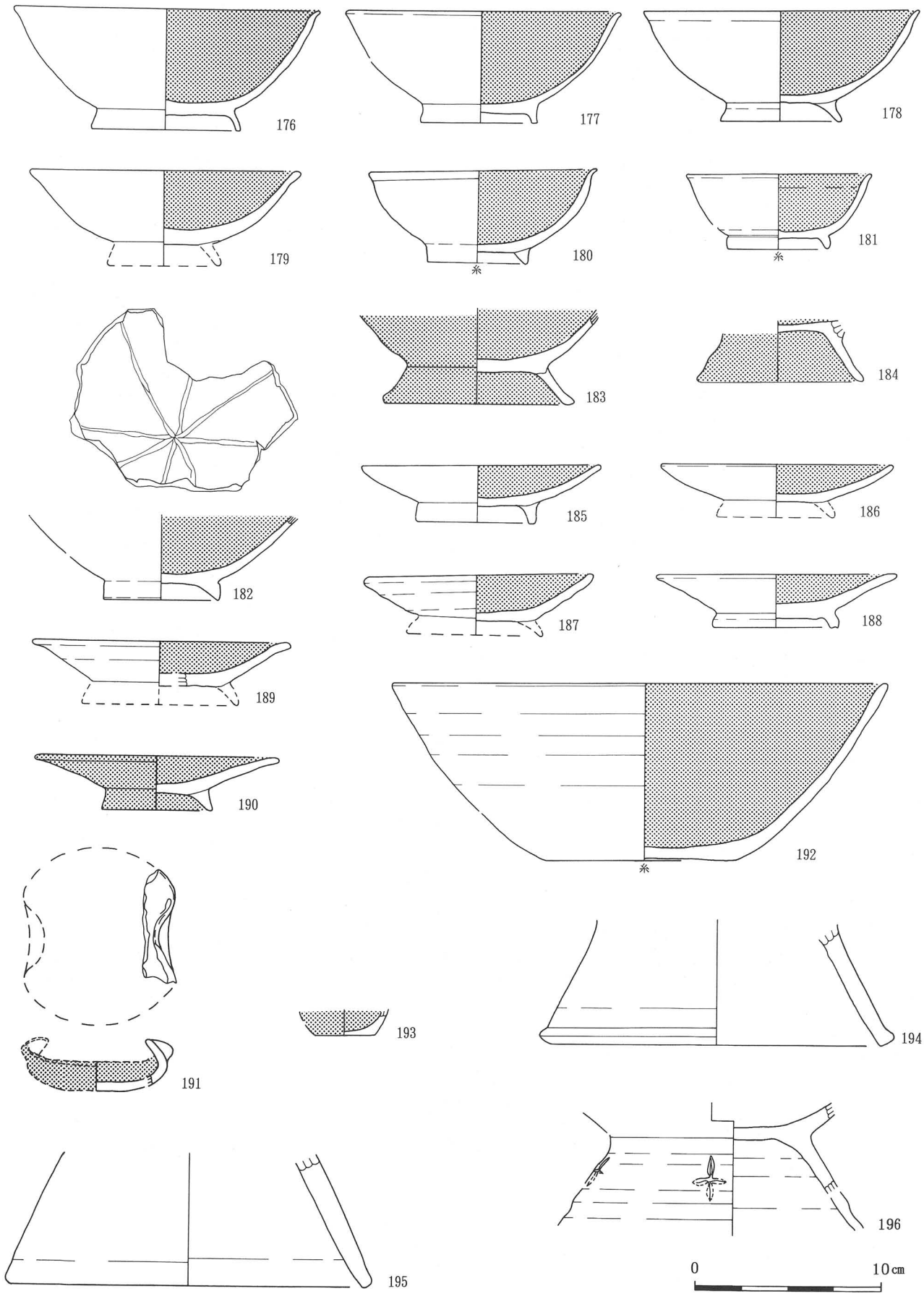
第 36 図　第 7 号溝跡出土土器実測図(4)



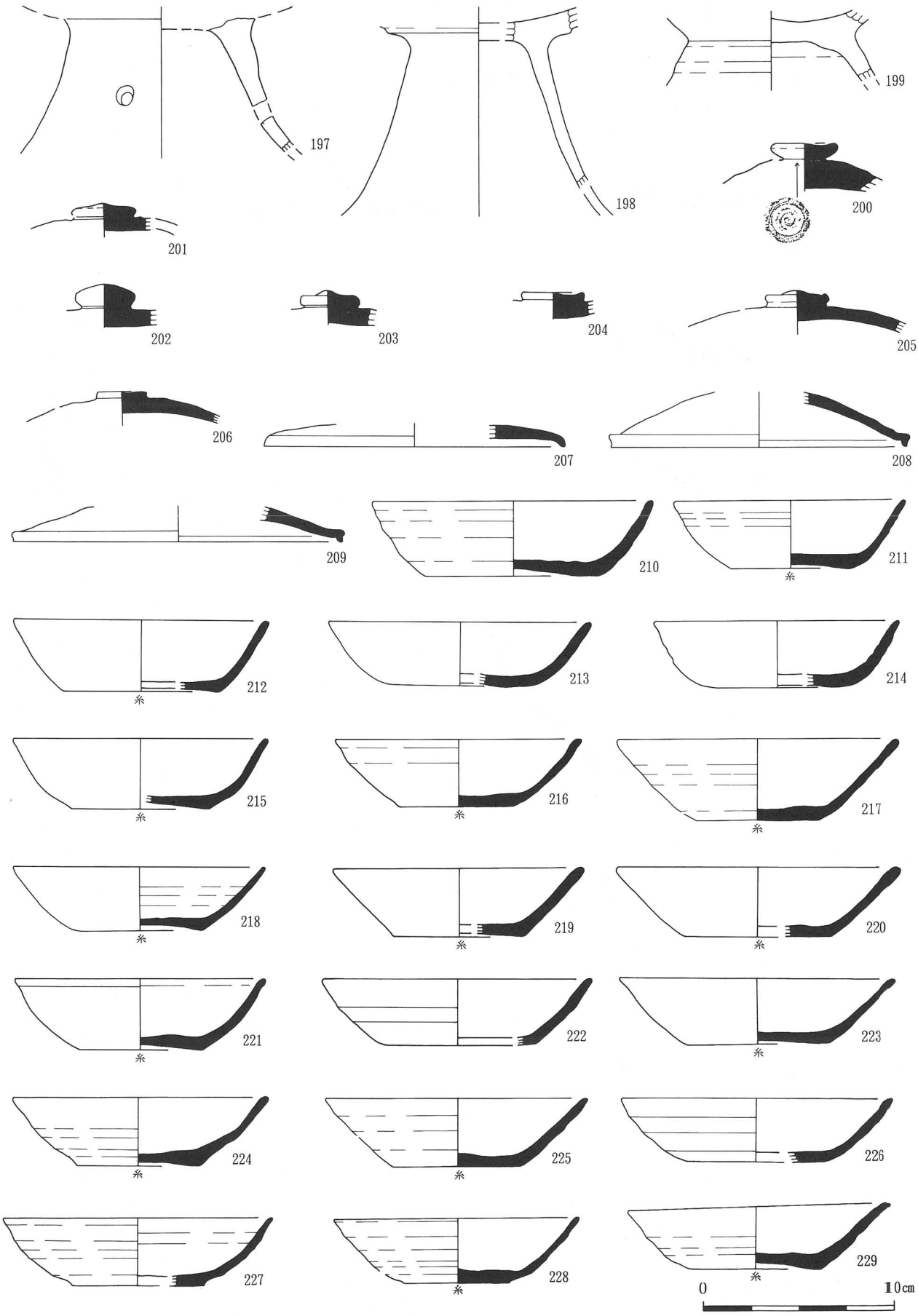
第 37 図　第 7 号溝跡出土土器実測図(5)



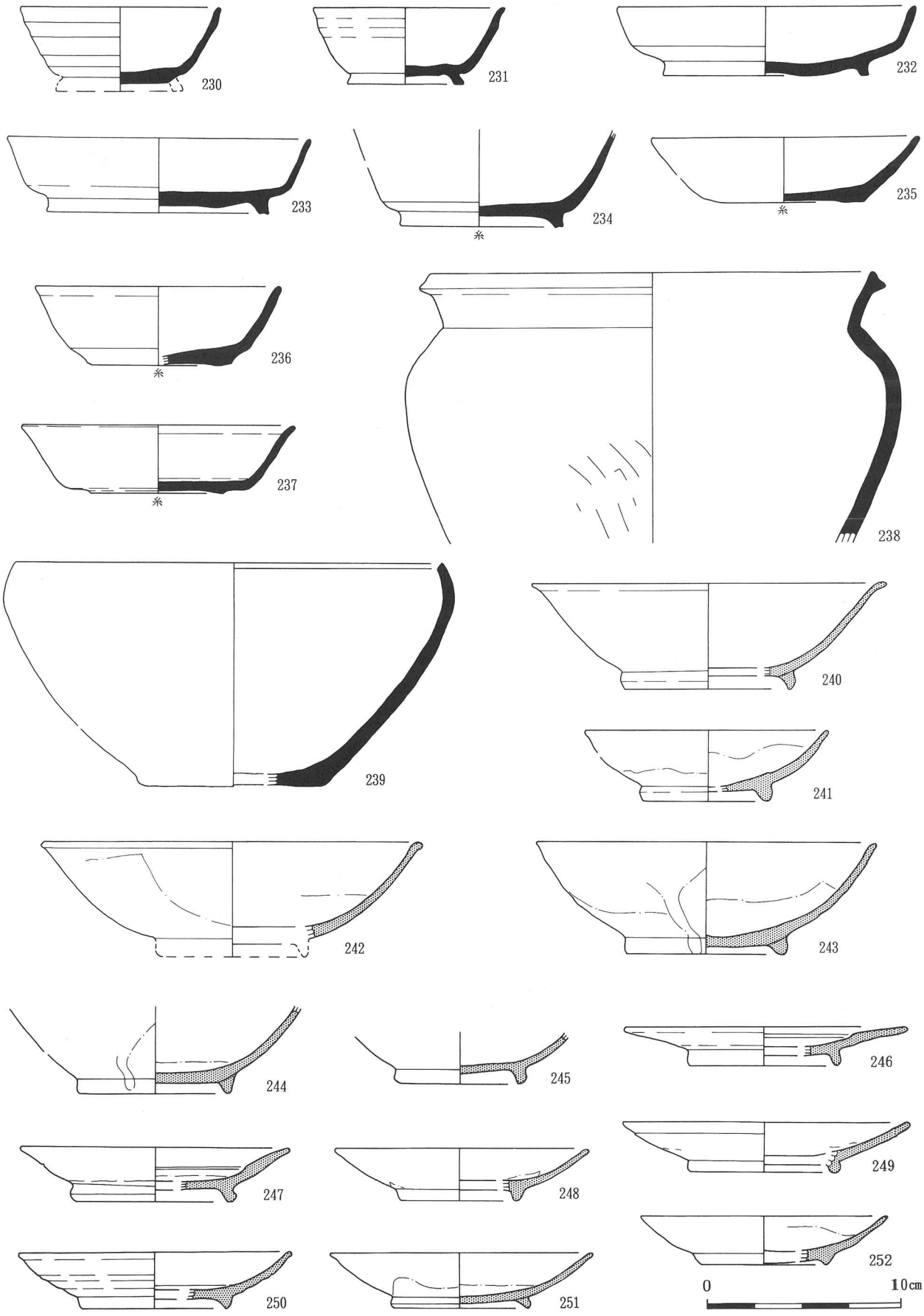
第 38 図　第 7 号溝跡出土土器実測図(6)



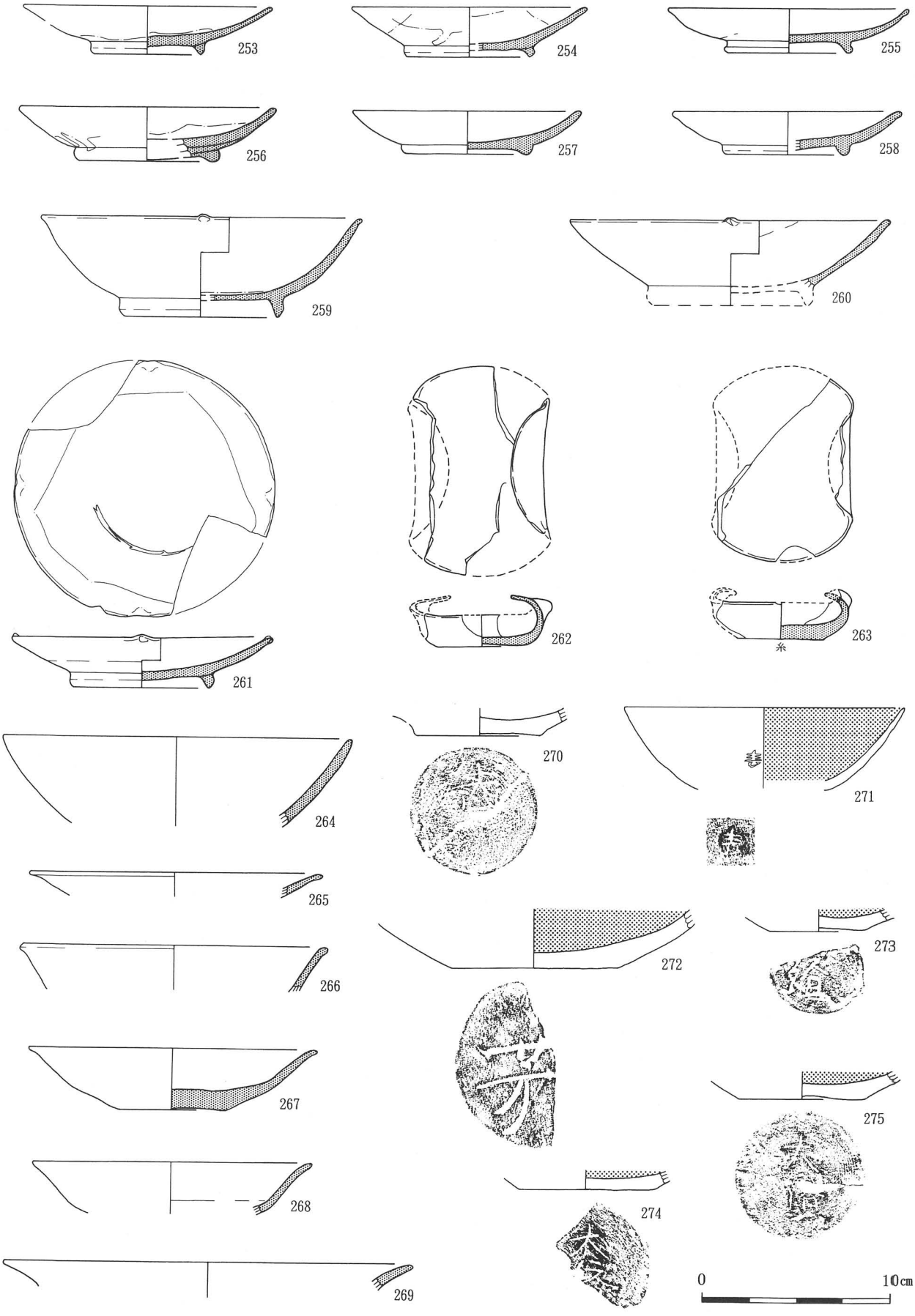
第 39 図　第 7 号溝跡出土土器実測図 (7)



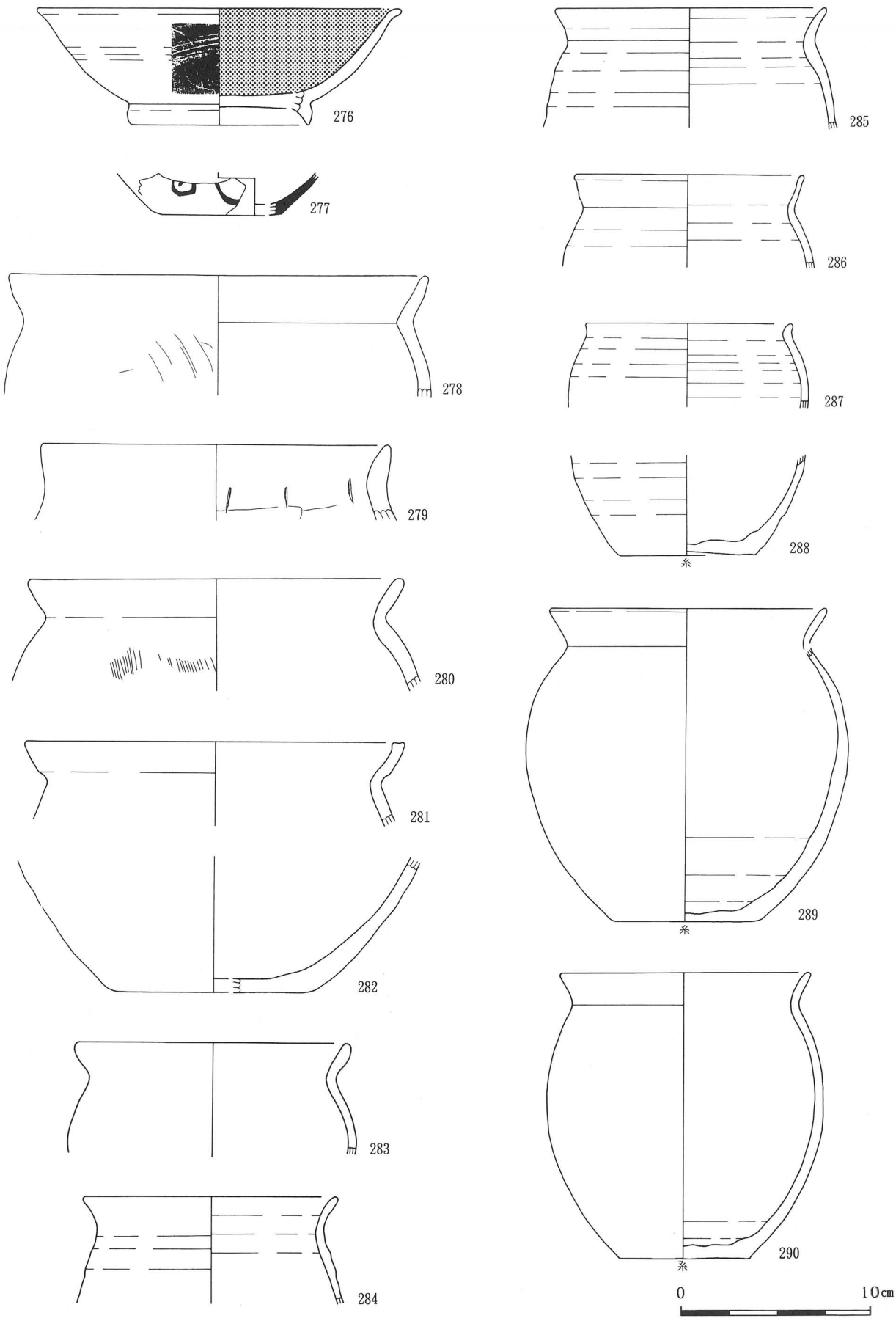
第 40 図　第 7 号溝跡出土土器実測図 (8)



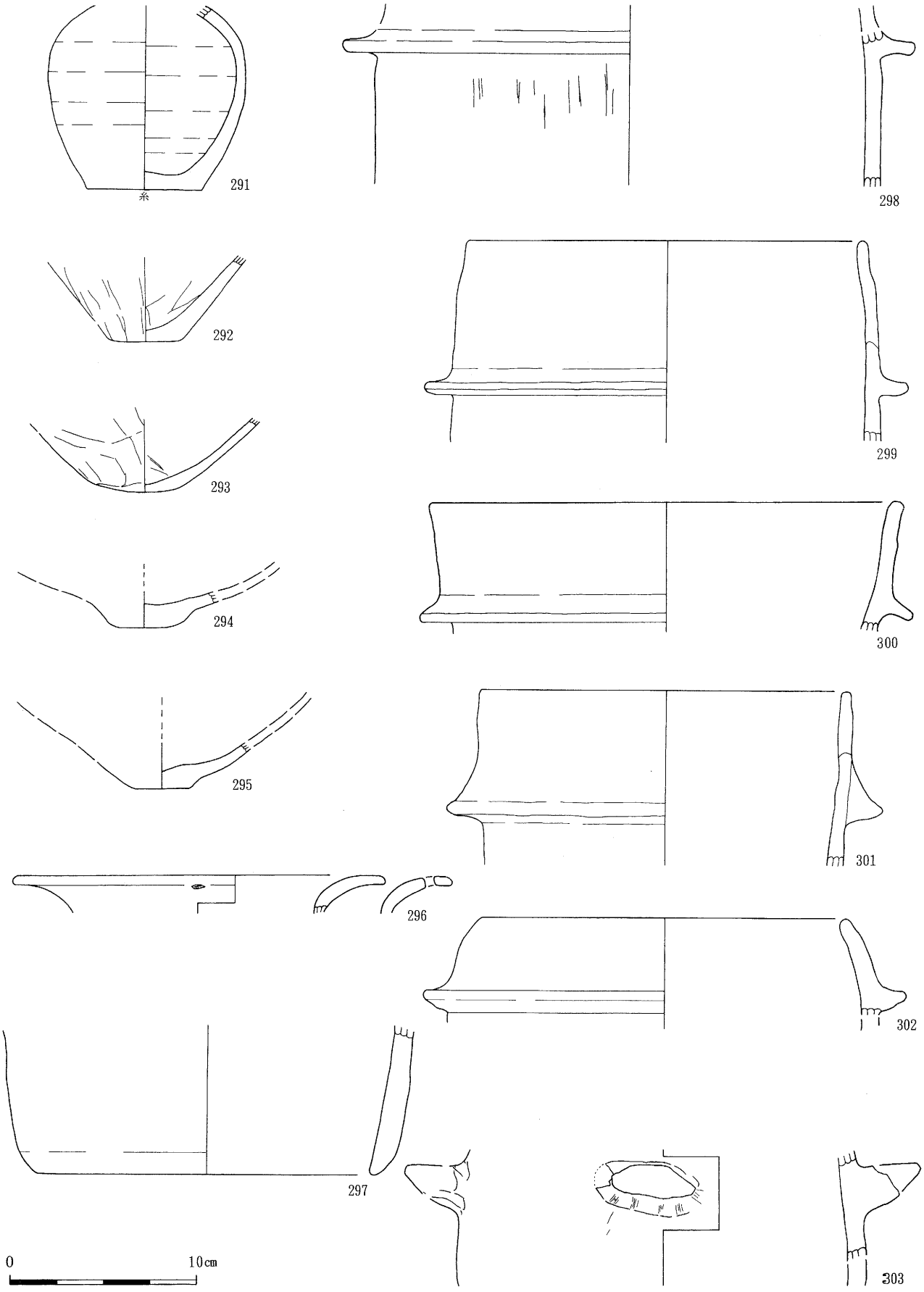
第 41 図　第 7 号溝跡出土土器実測図 (9)



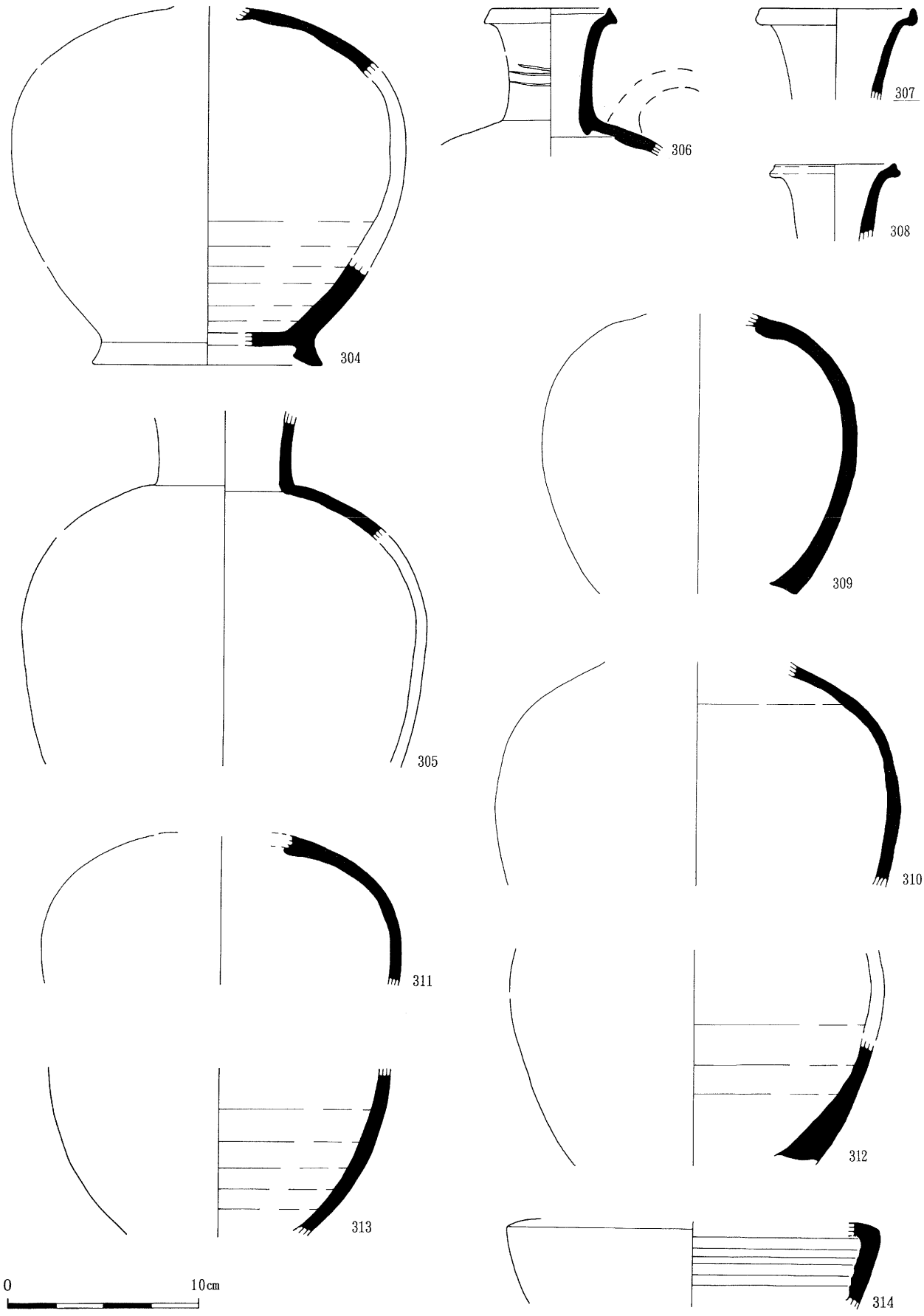
第 42 図　第 7 号溝跡出土土器実測図 (10)



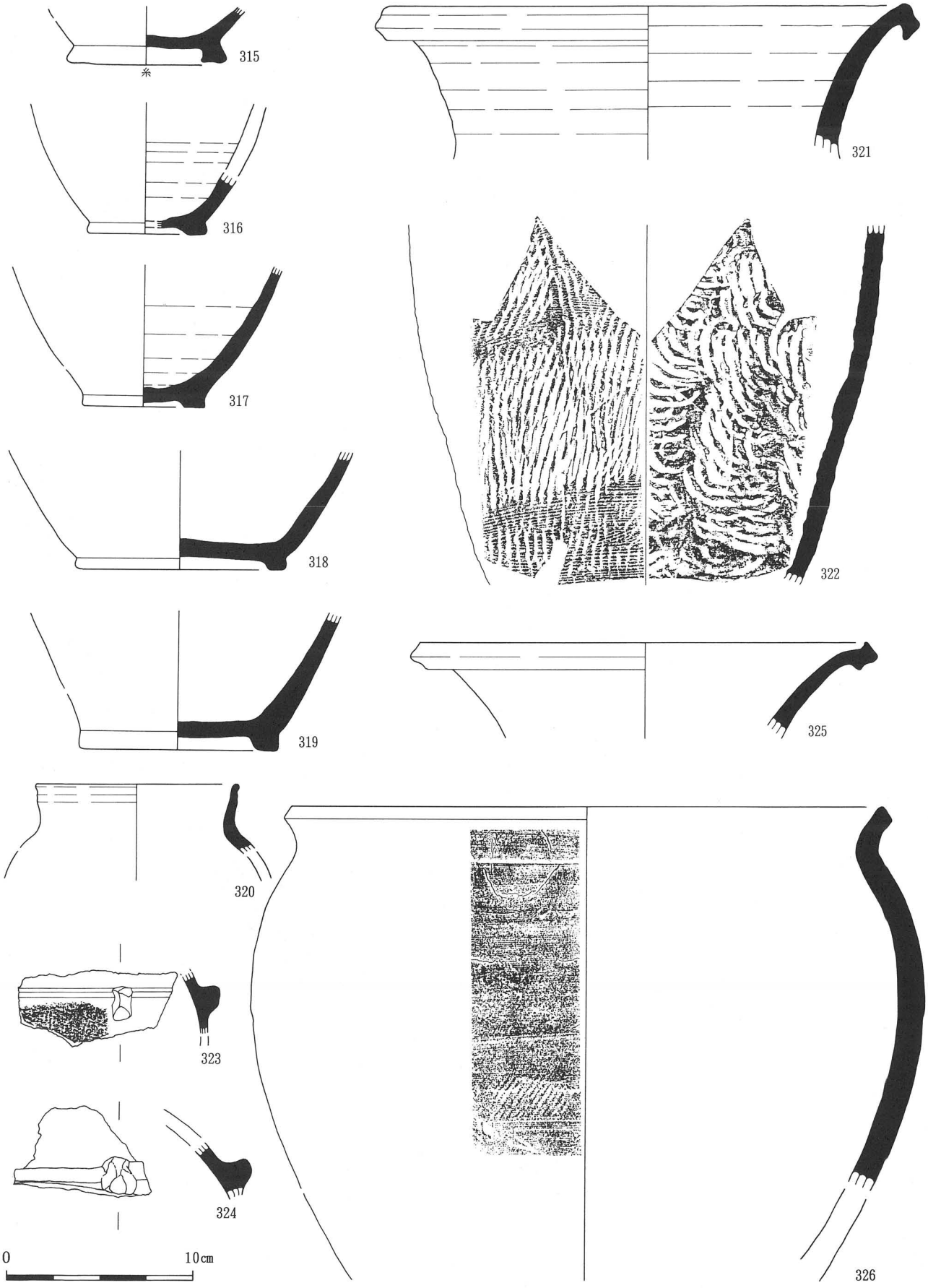
第 43 図　第 7 号溝跡出土土器実測図 (11)



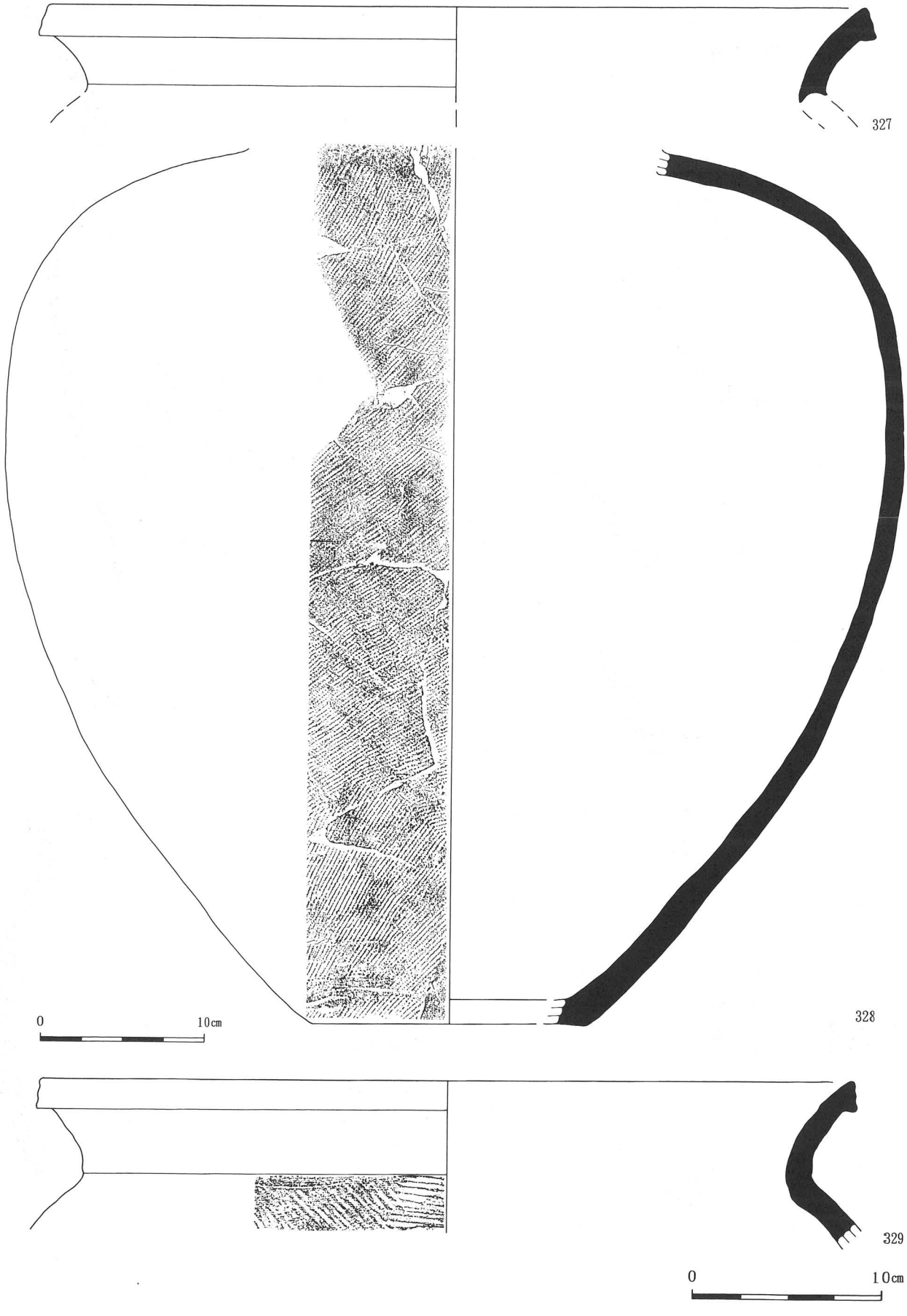
第 44 図　第 7 号溝跡出土土器実測図(12)



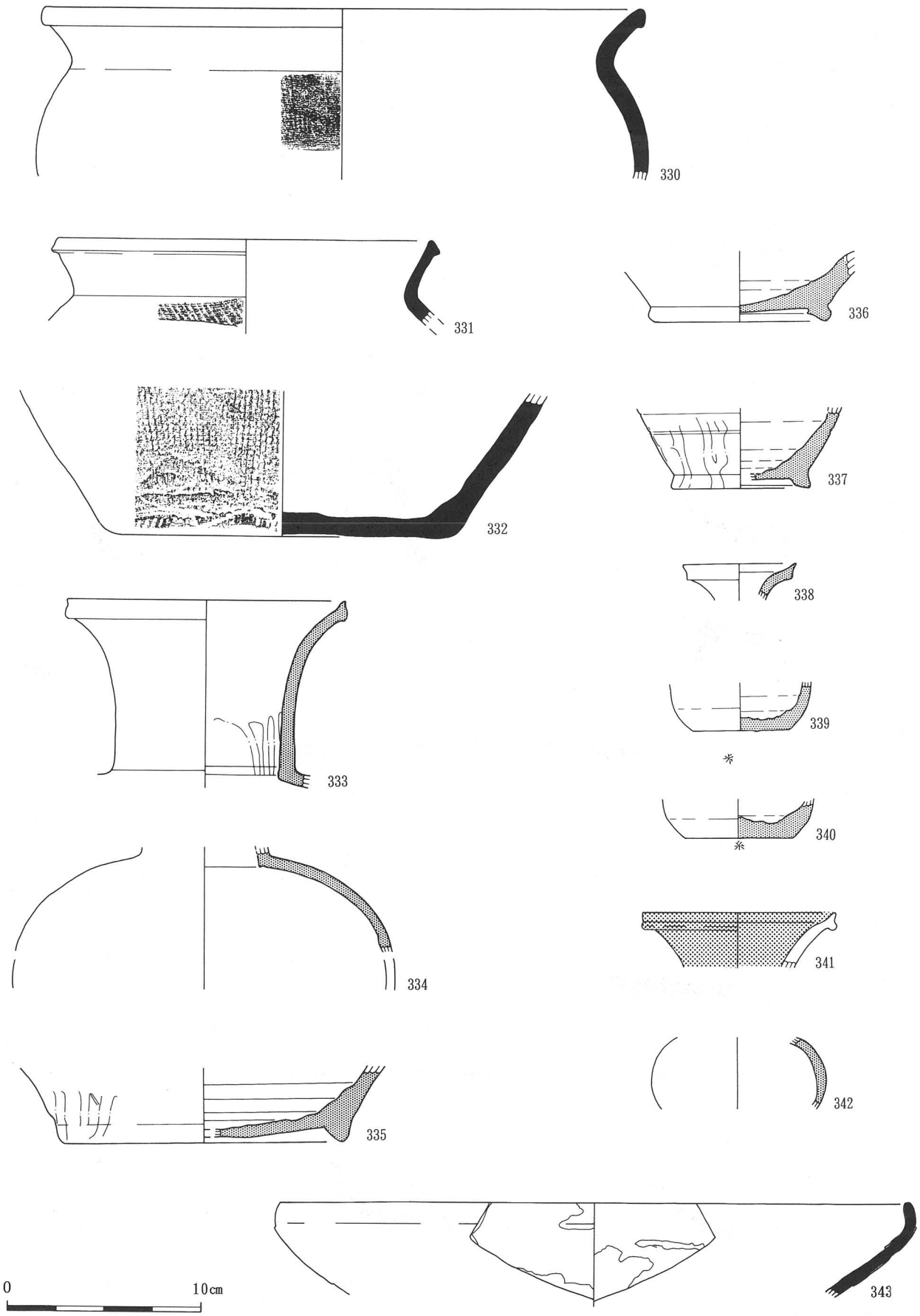
第 45 図　第 7 号溝跡出土土器実測図 (13)



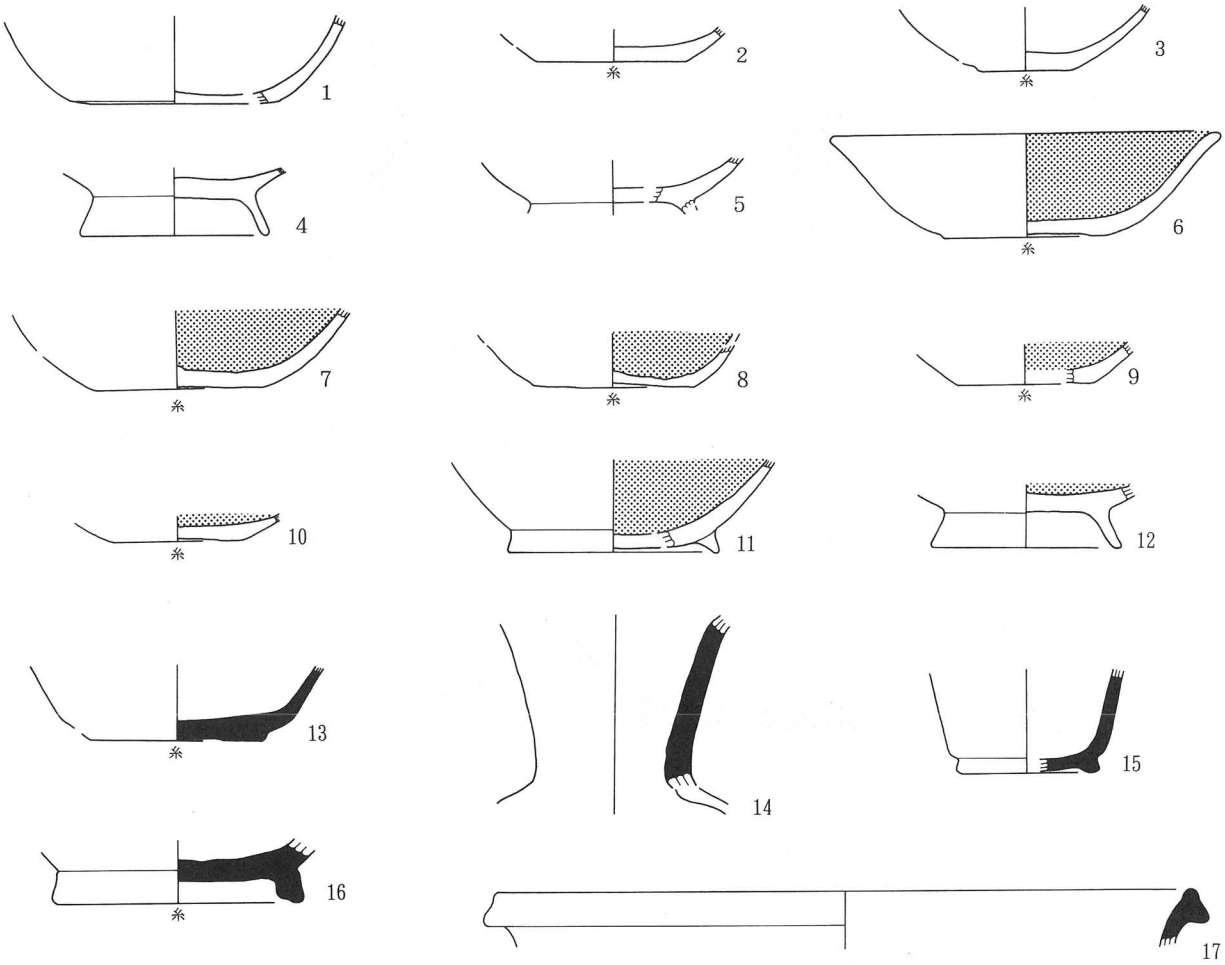
第 46 図　第 7 号溝跡出土土器実測図 (14)



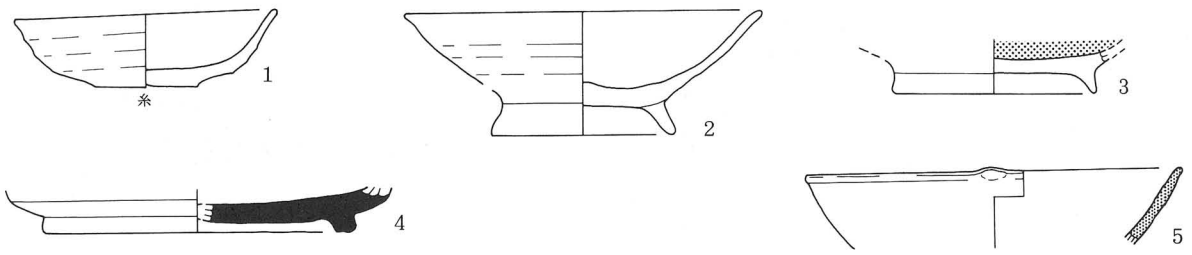
第 47 図　第 7 号溝跡出土土器実測図(15)



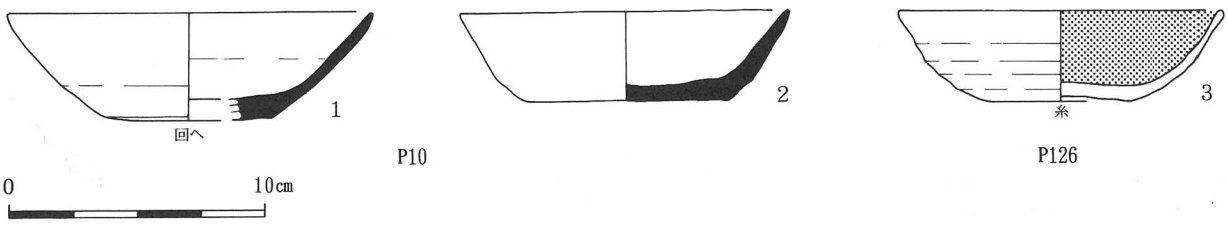
第 48 図　第 7 号溝跡出土土器実測図(16)



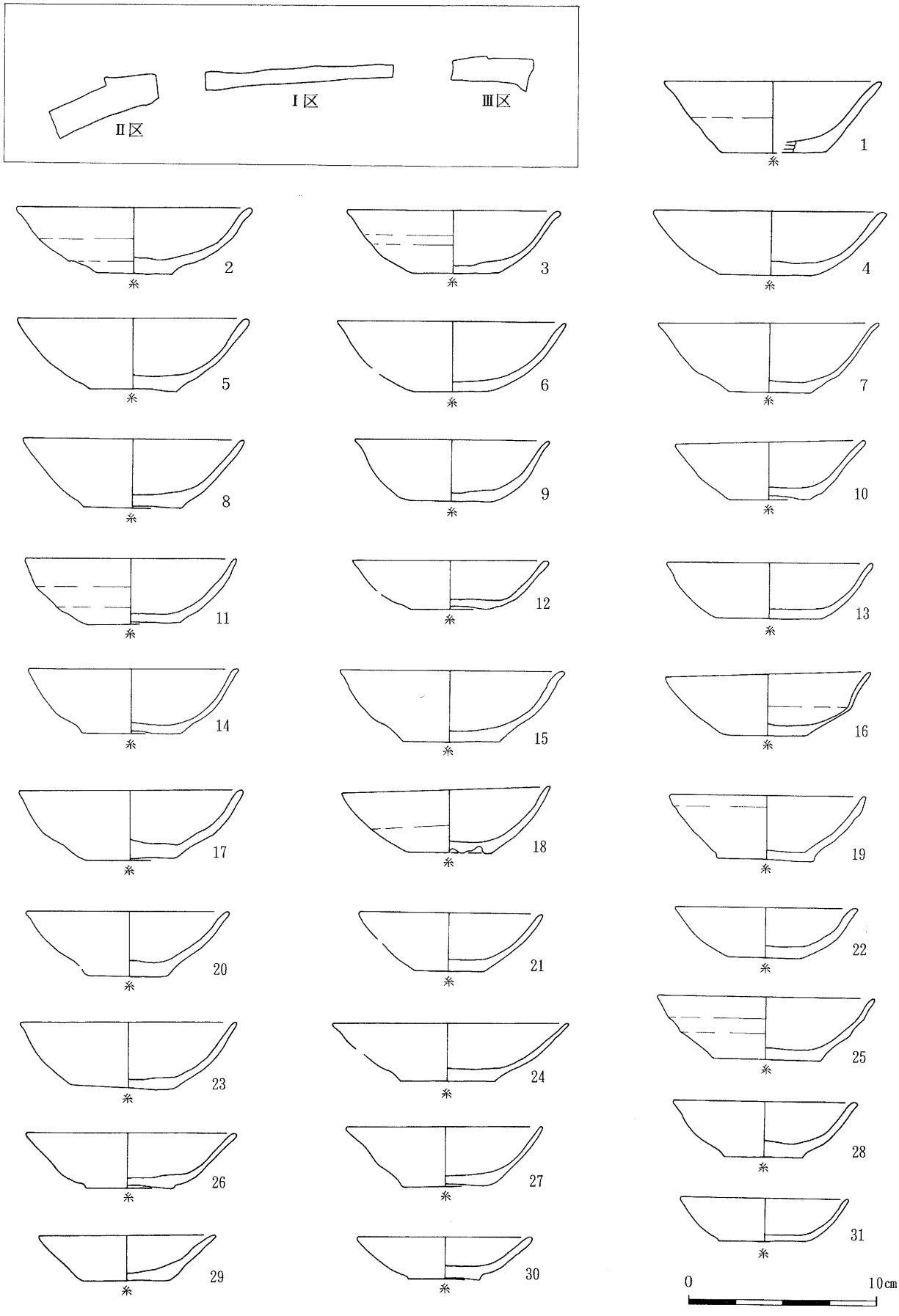
第 49 図　第 8 号溝跡出土土器実測図



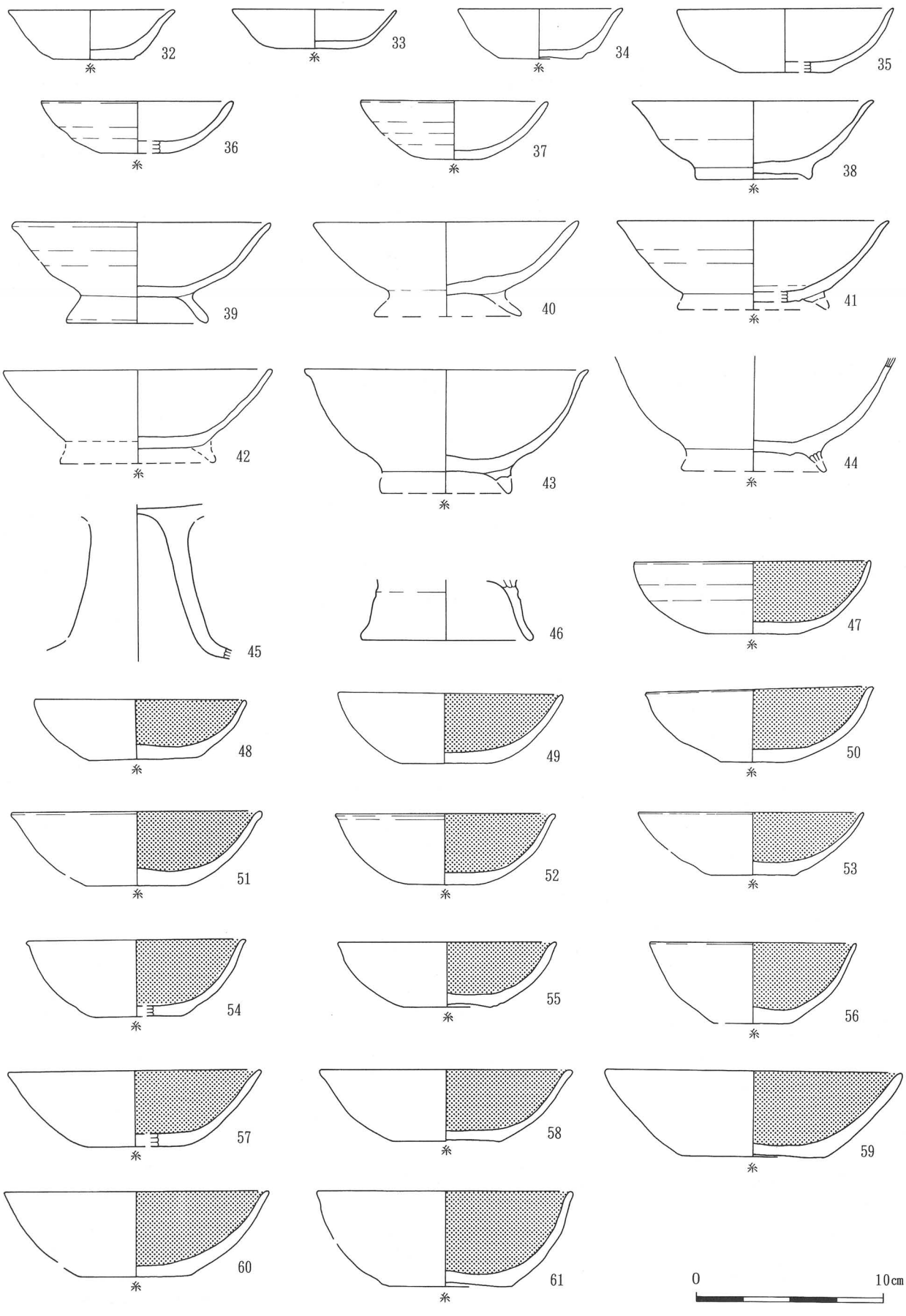
第 50 図　第 9 号溝跡出土土器実測図



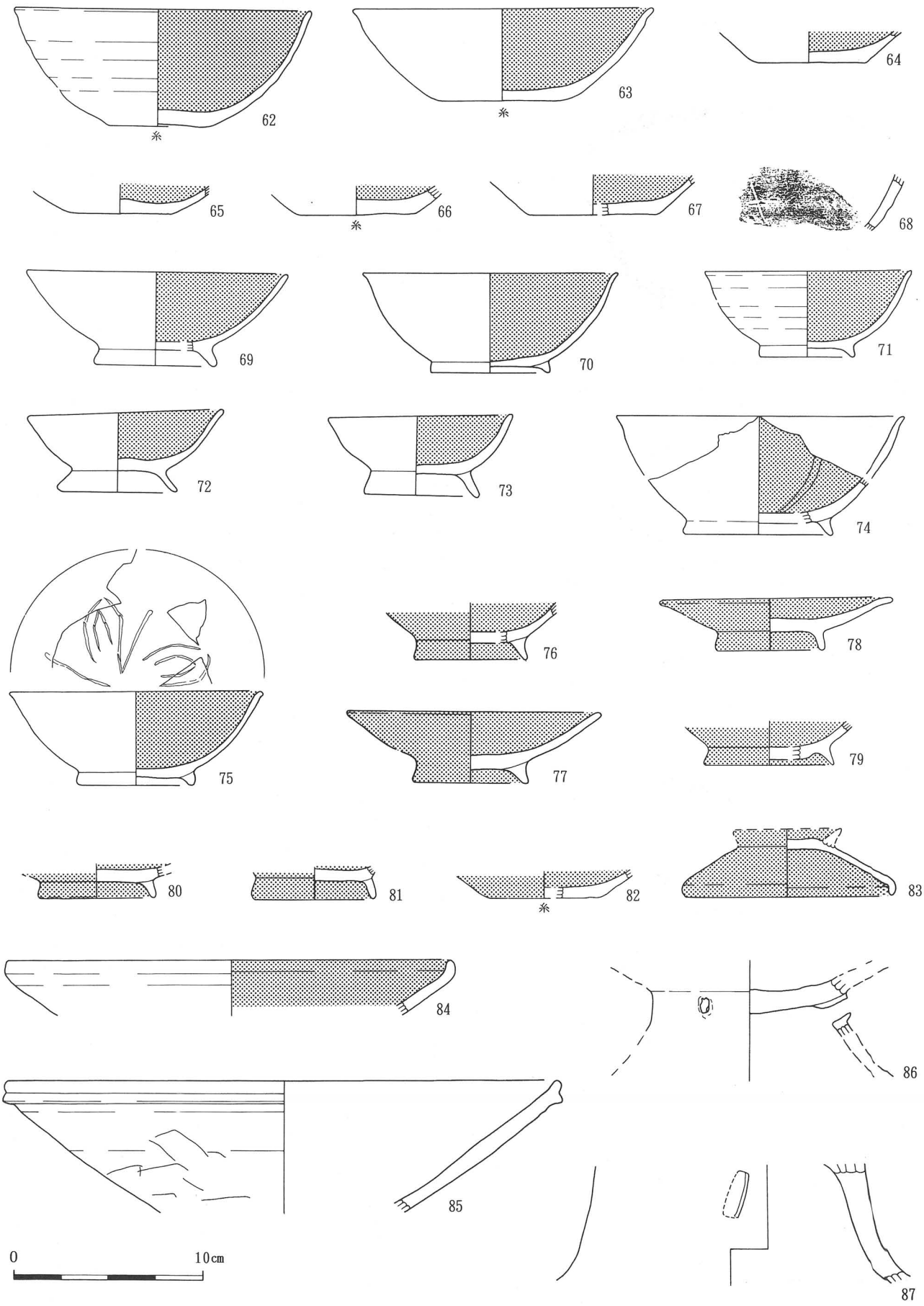
第 51 図　ピット出土土器実測図



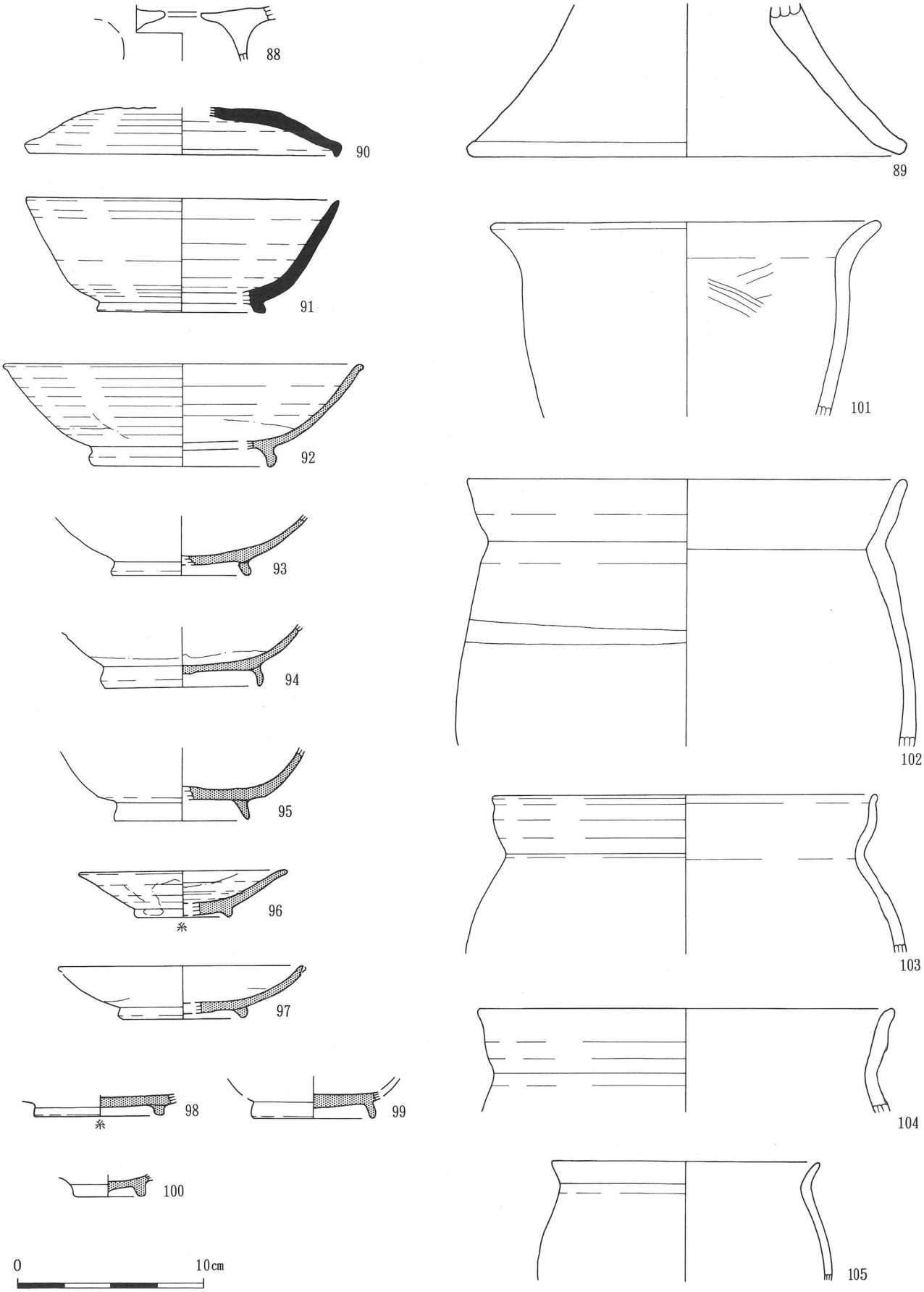
第 52 図　遺構外Ⅰ区出土土器実測図(1)



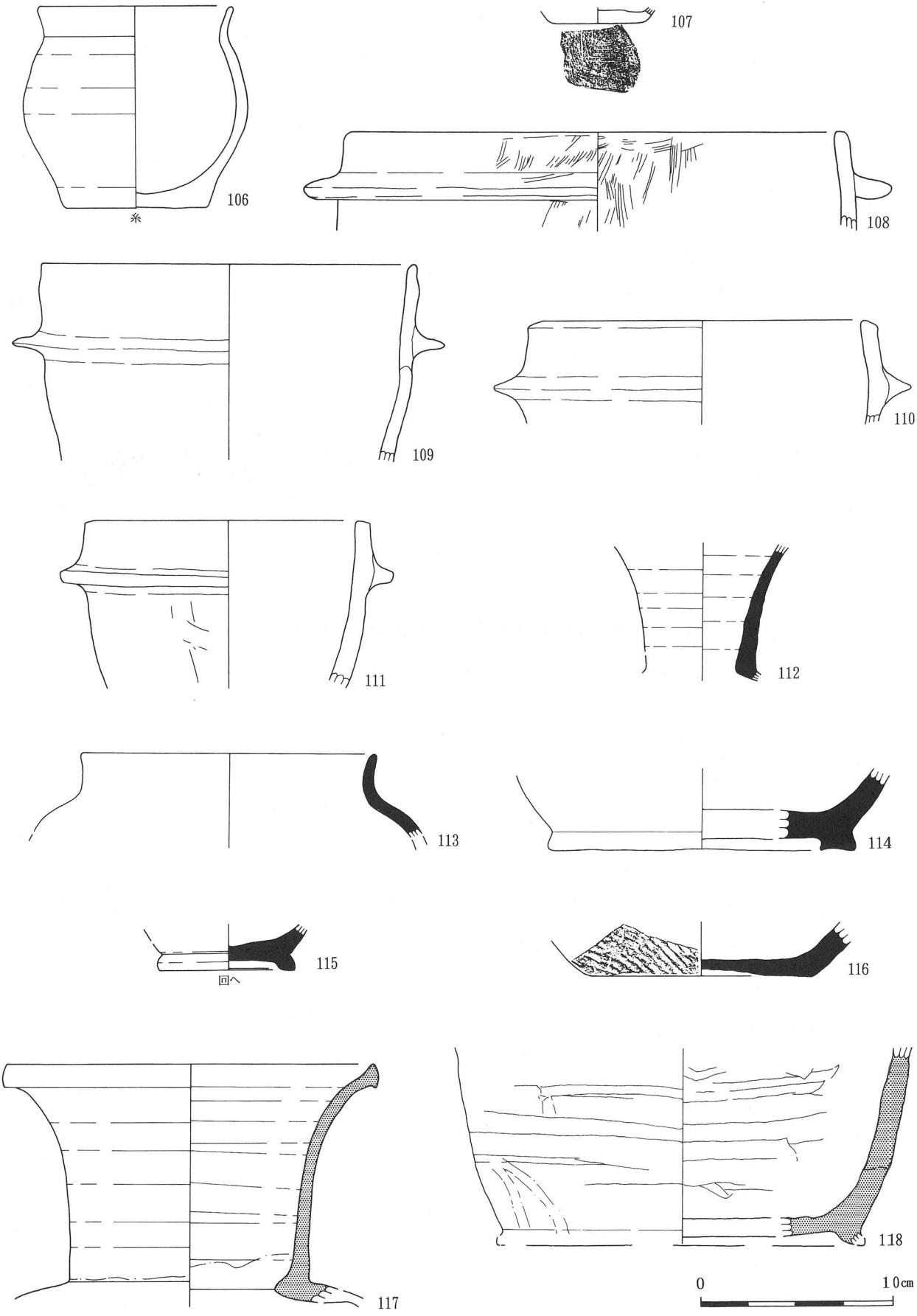
第 53 図　遺構外 I 区出土土器実測図(2)



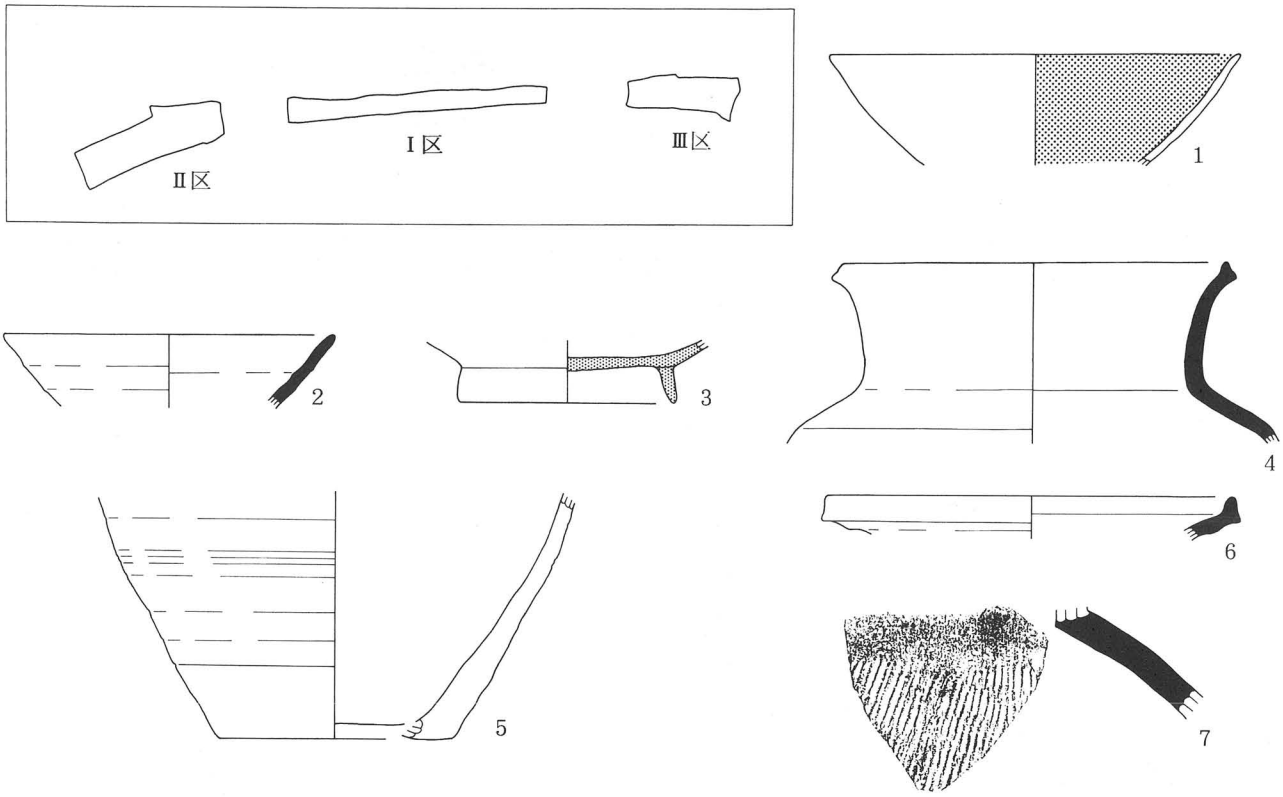
第 54 図　遺構外 I 区出土土器実測図(3)



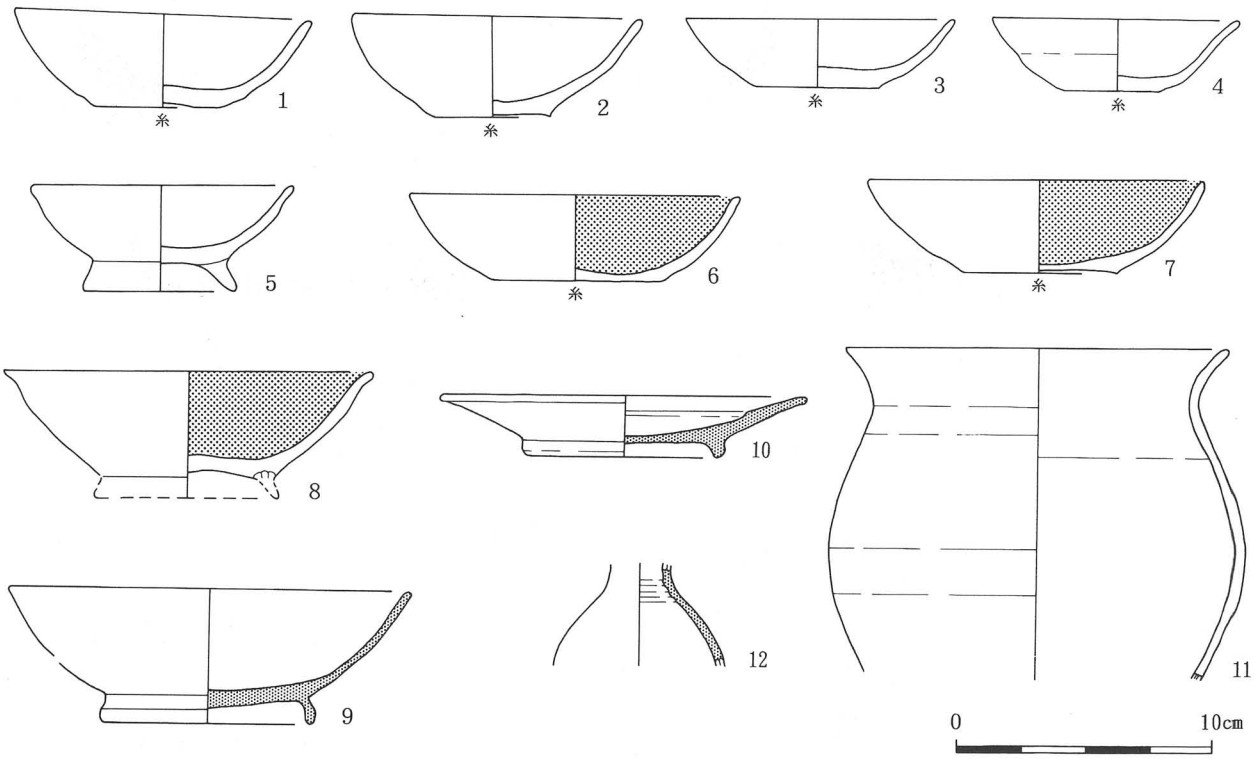
第 55 図　遺構外Ⅰ区出土土器実測図(4)



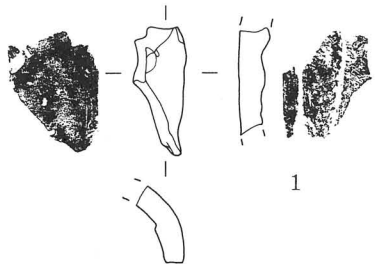
第 56 図　遺構外 I 区出土土器実測図(5)



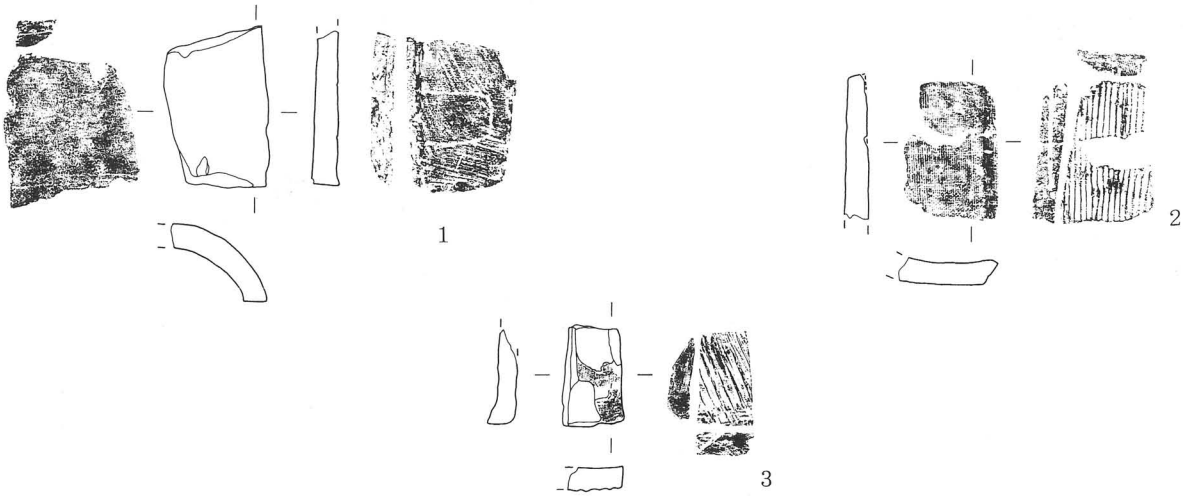
第 57 図　遺構外Ⅱ区出土土器実測図



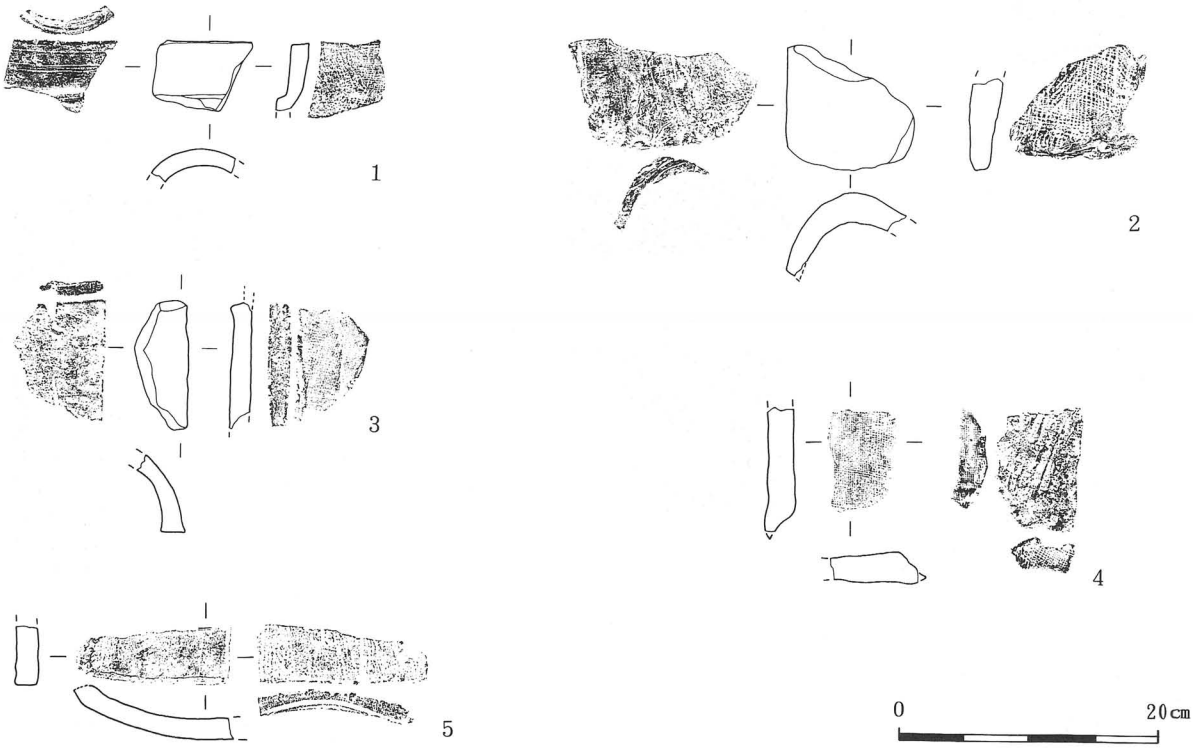
第 58 図　遺構外Ⅲ区出土土器実測図



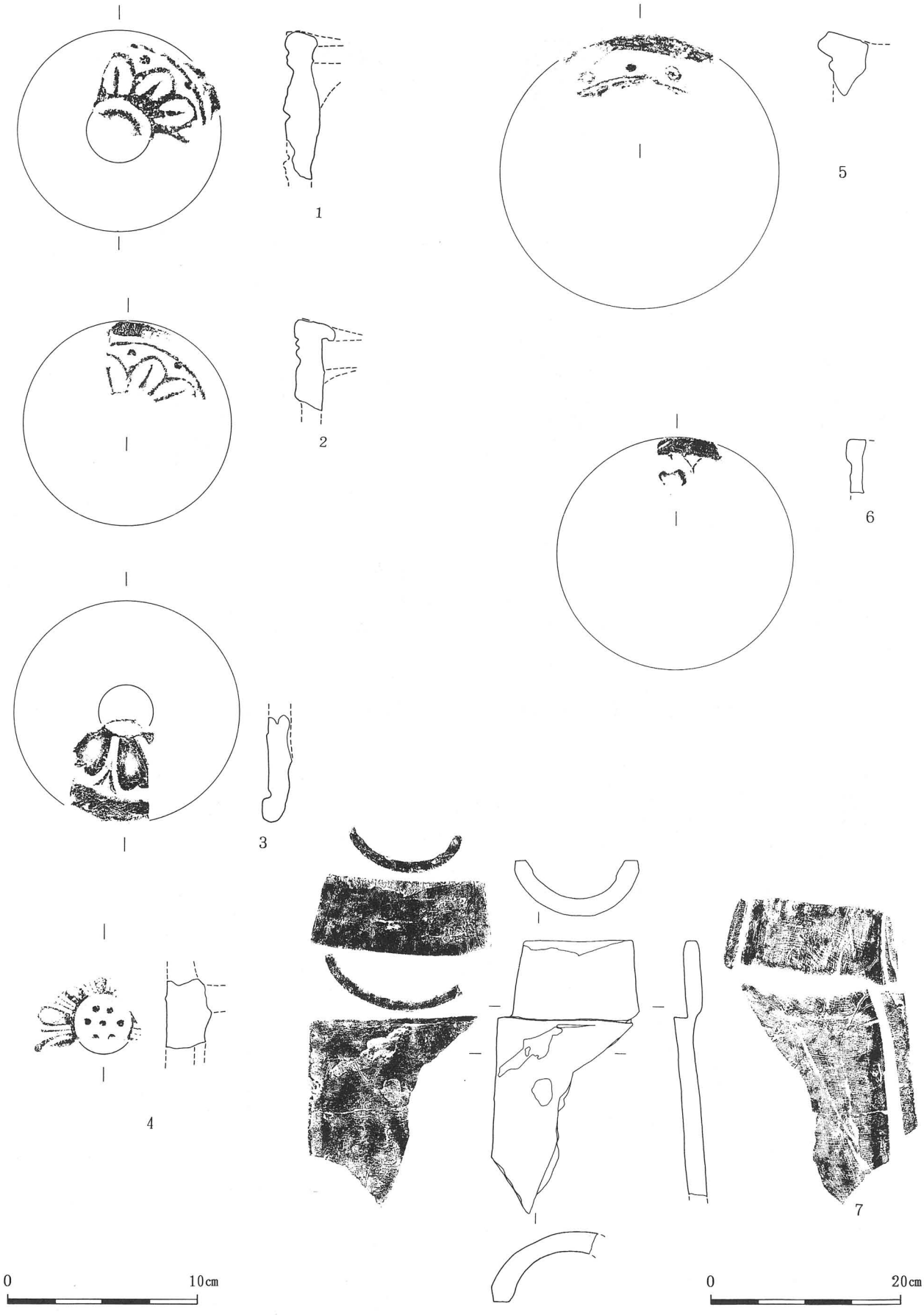
第 59 図　掘立柱建物跡出土瓦実測図



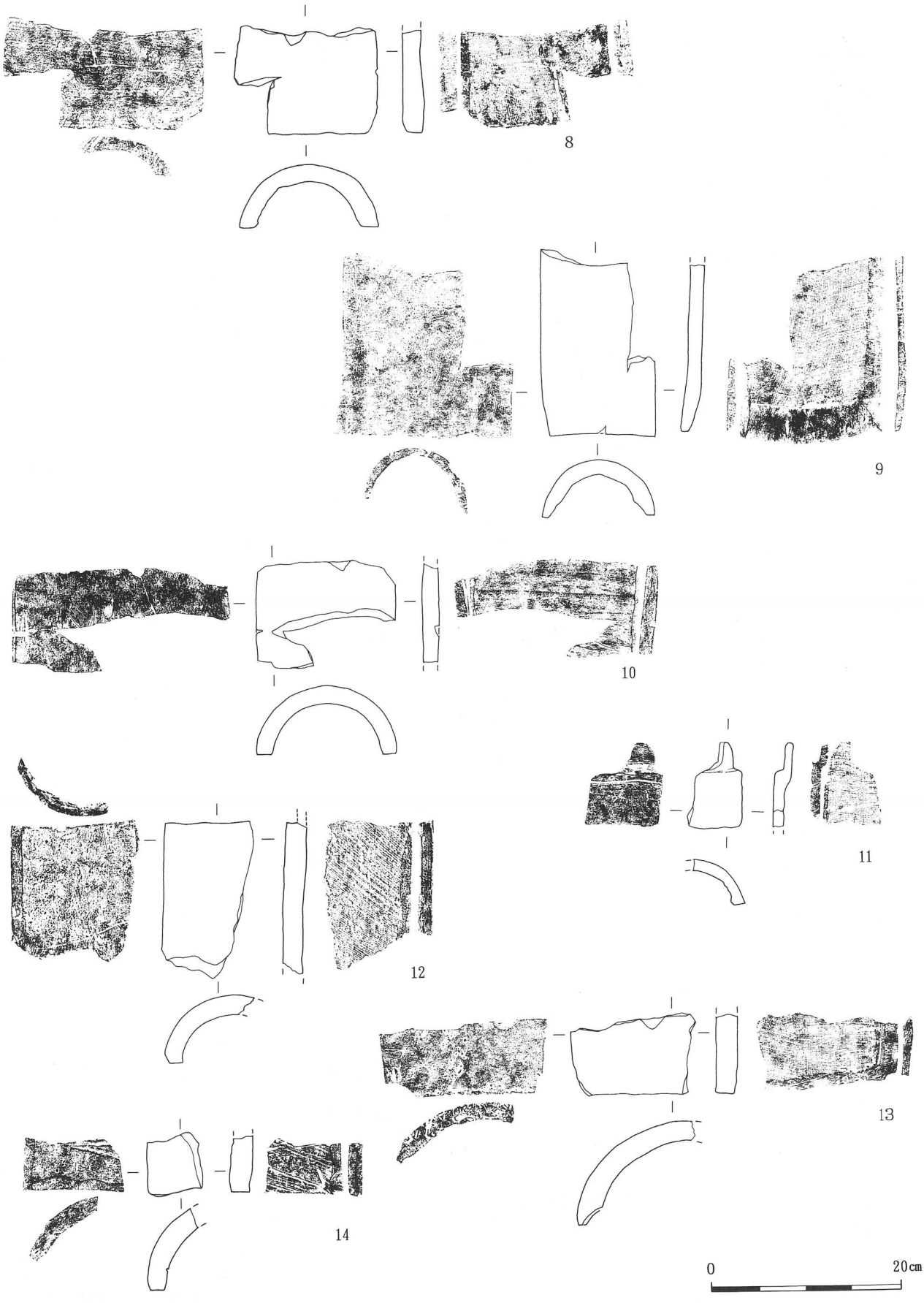
第 60 図　道路状遺構（第３号溝跡）出土瓦実測図



第 61 図　第１号溝跡出土瓦実測図

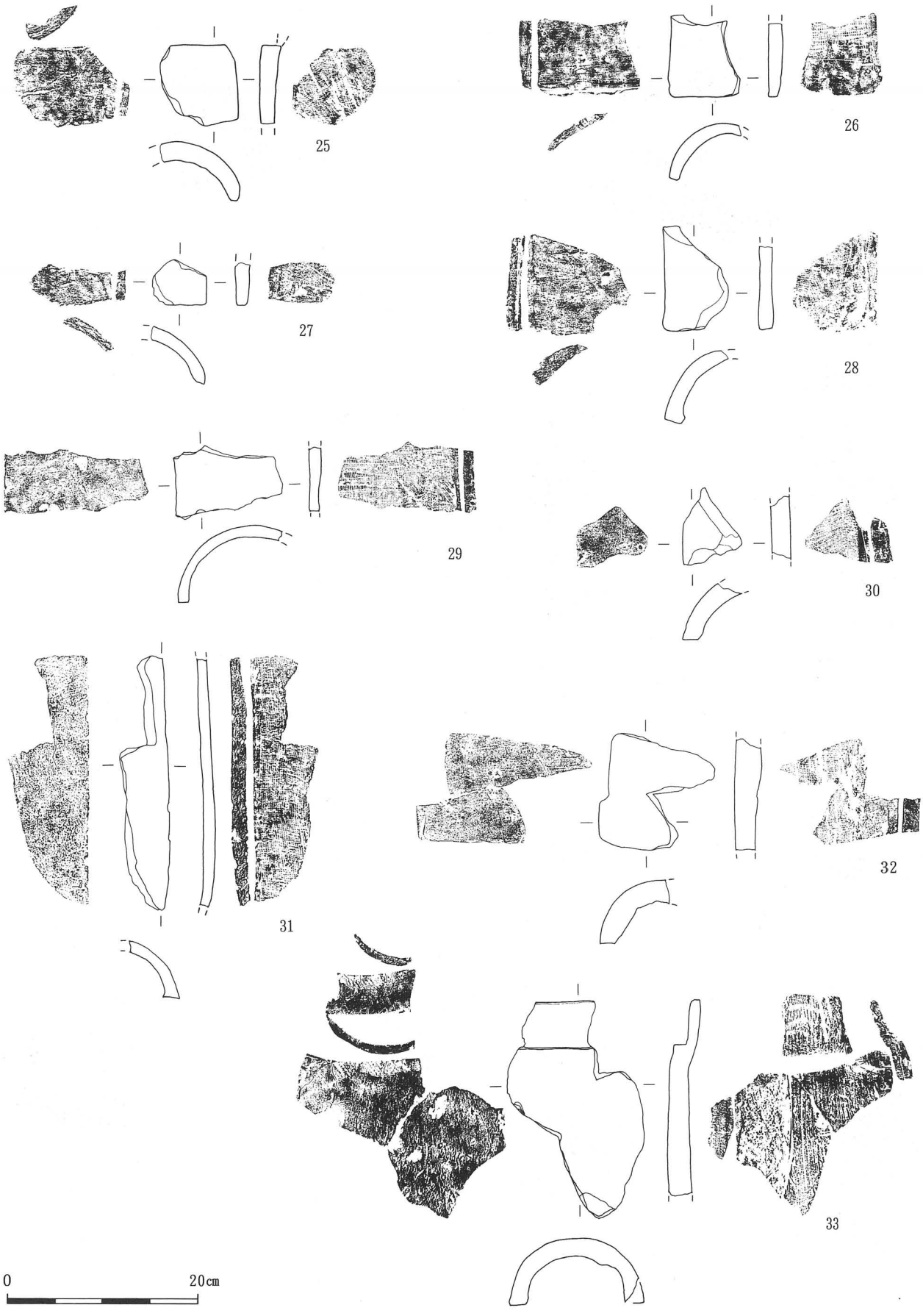


第 62 図　第 7 号溝跡出土瓦実測図(1)

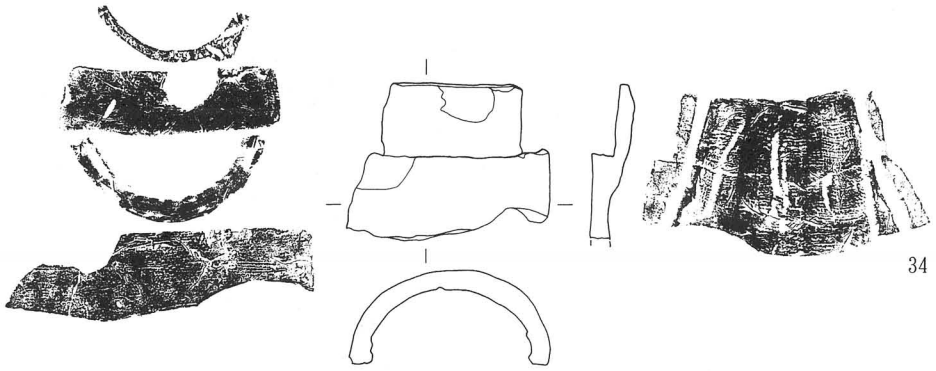


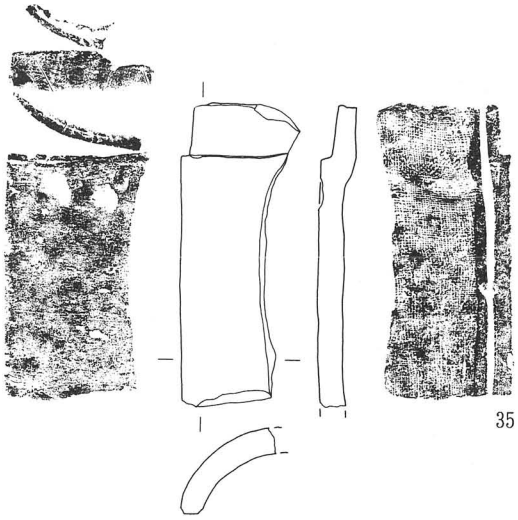
第 63 図　第 7 号溝跡出土瓦実測図 (2)

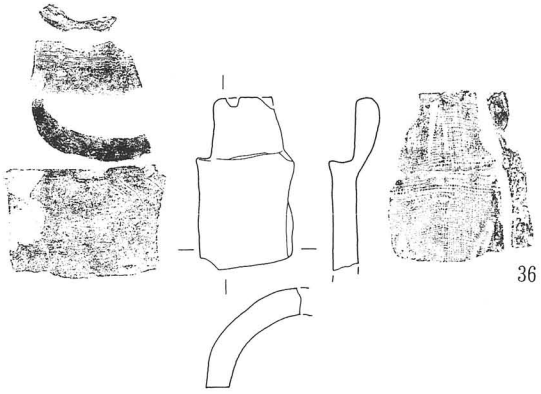
第 64 図　第 7 号溝跡出土瓦実測図 (3)

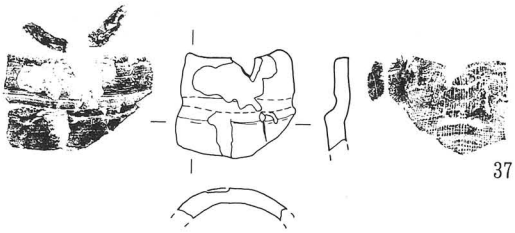


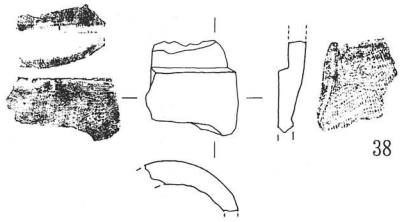
第 65 図　第 7 号溝跡出土瓦実測図 (4)

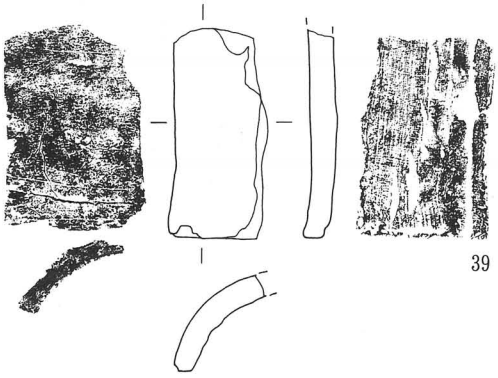


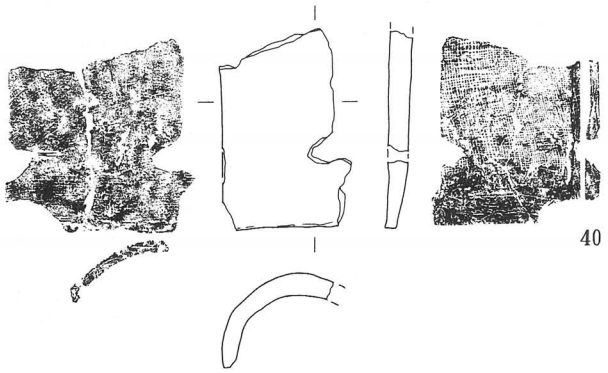




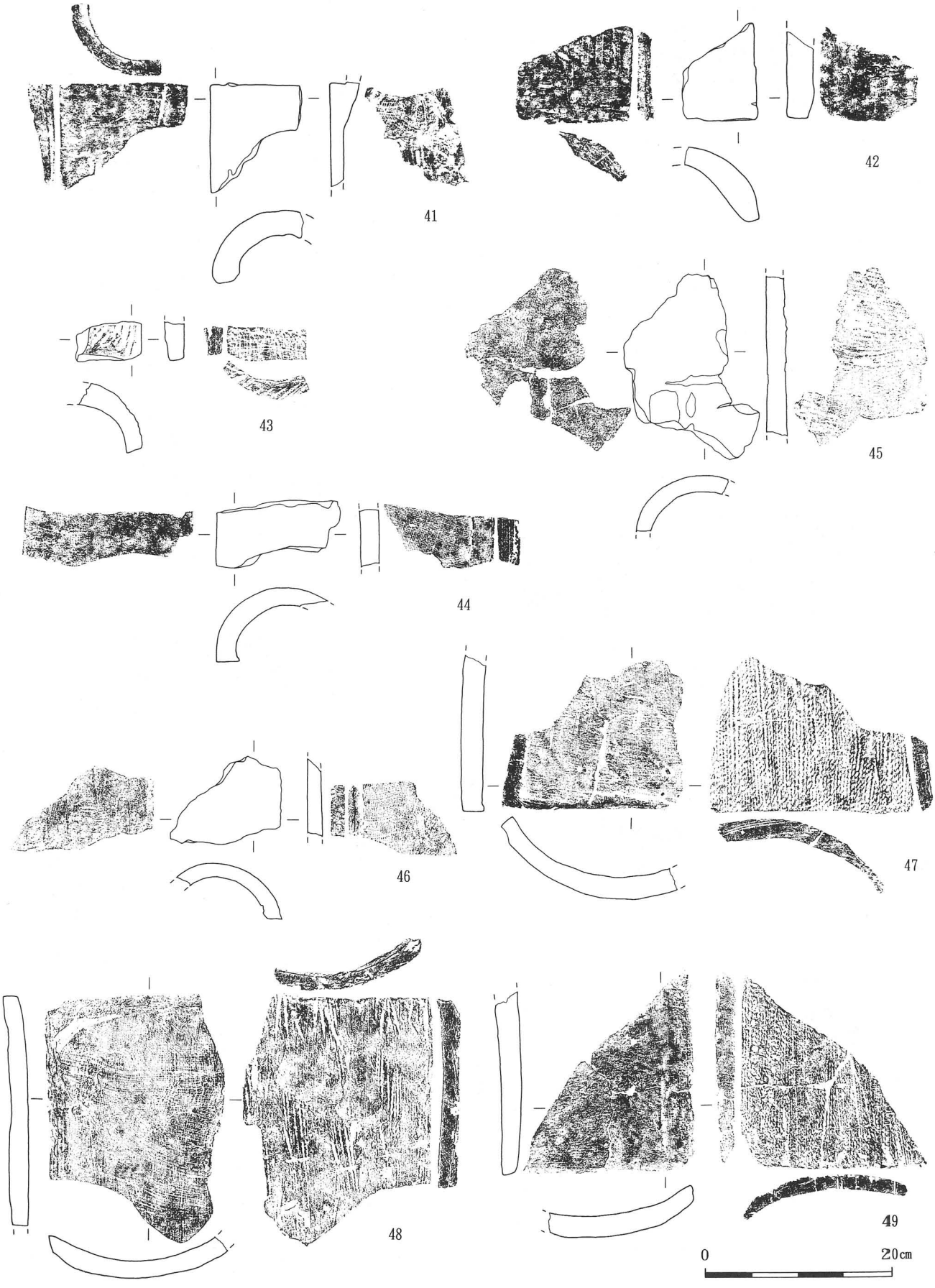




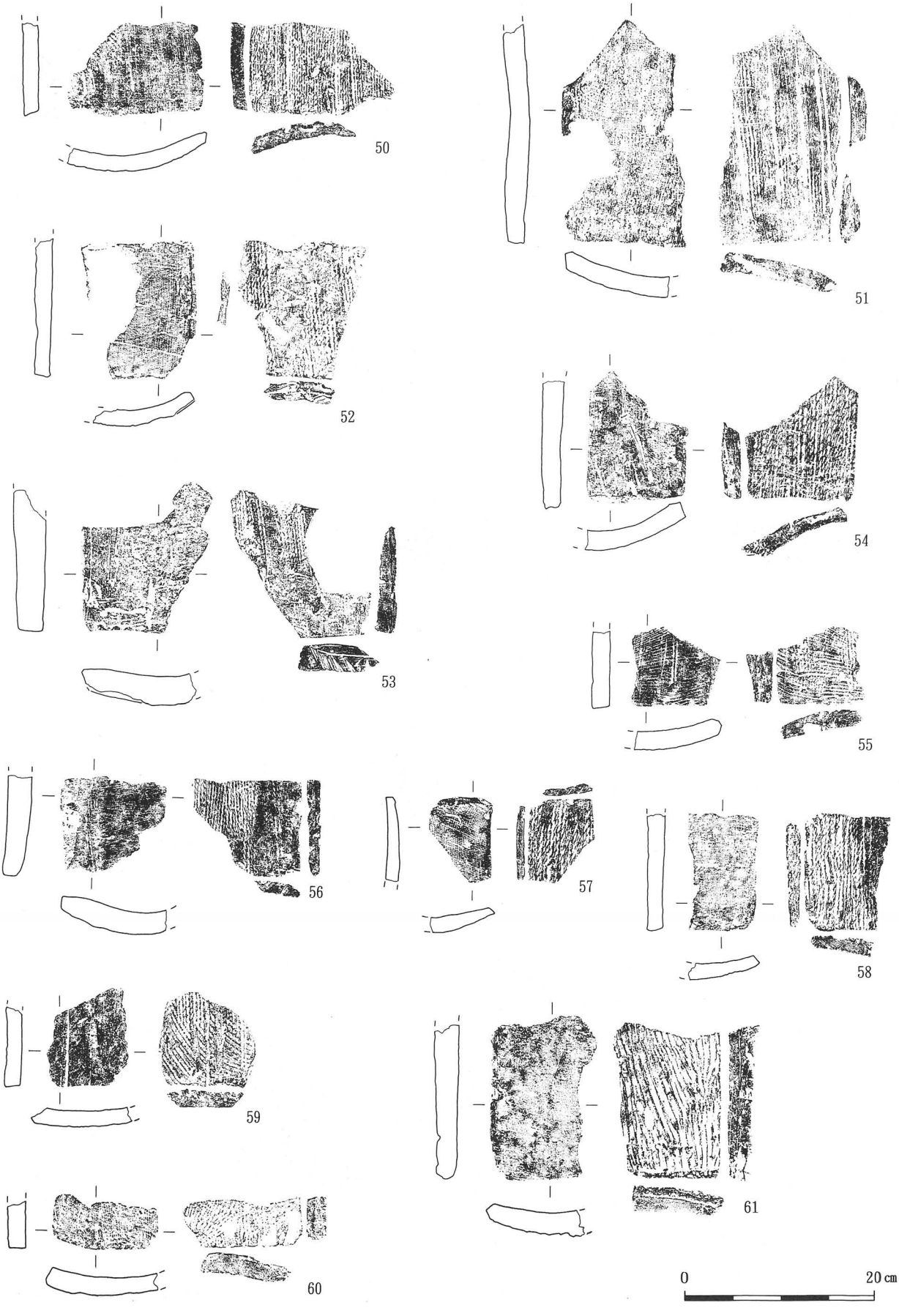




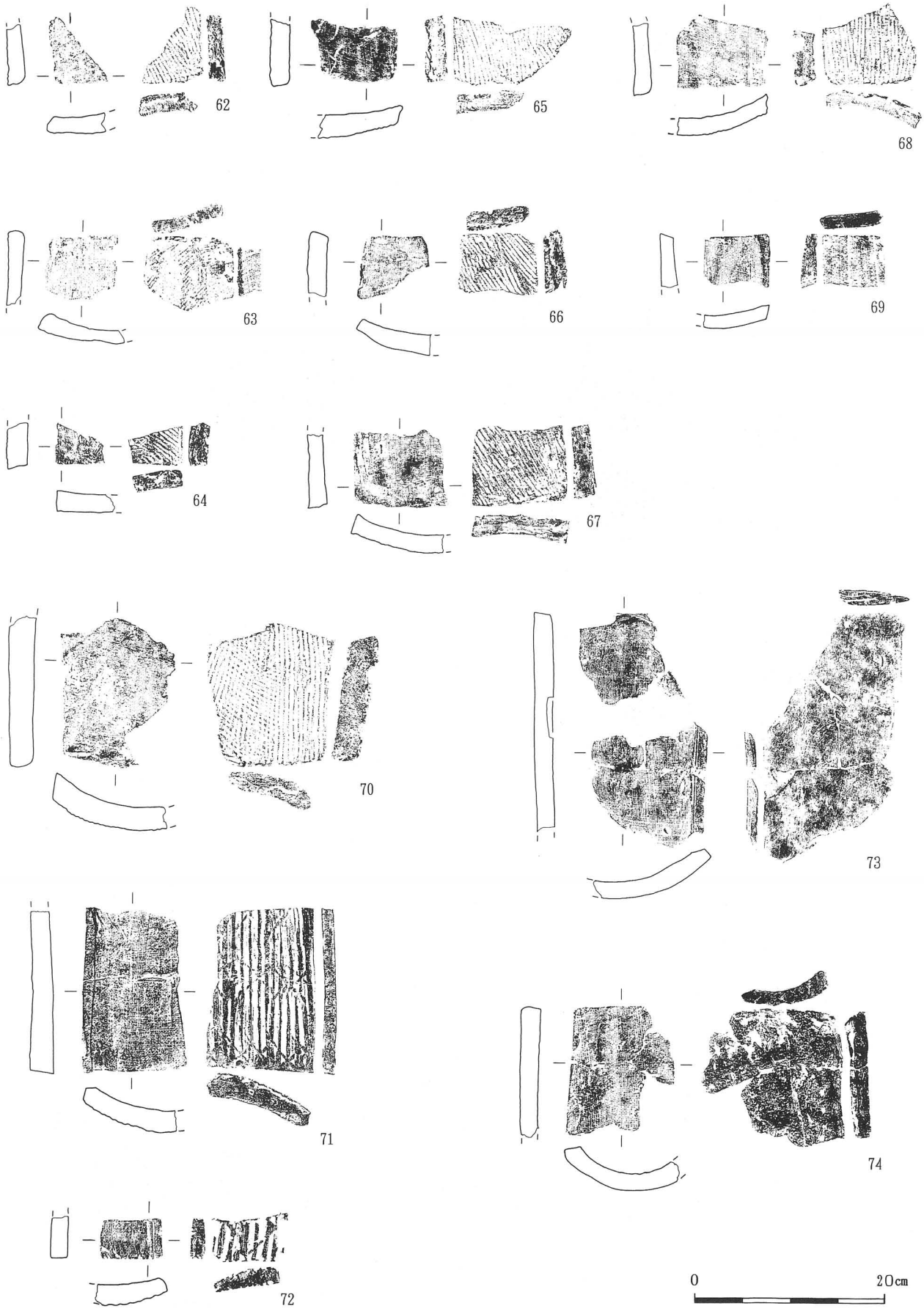
第 66 図　第 7 号溝跡出土瓦実測図(5)



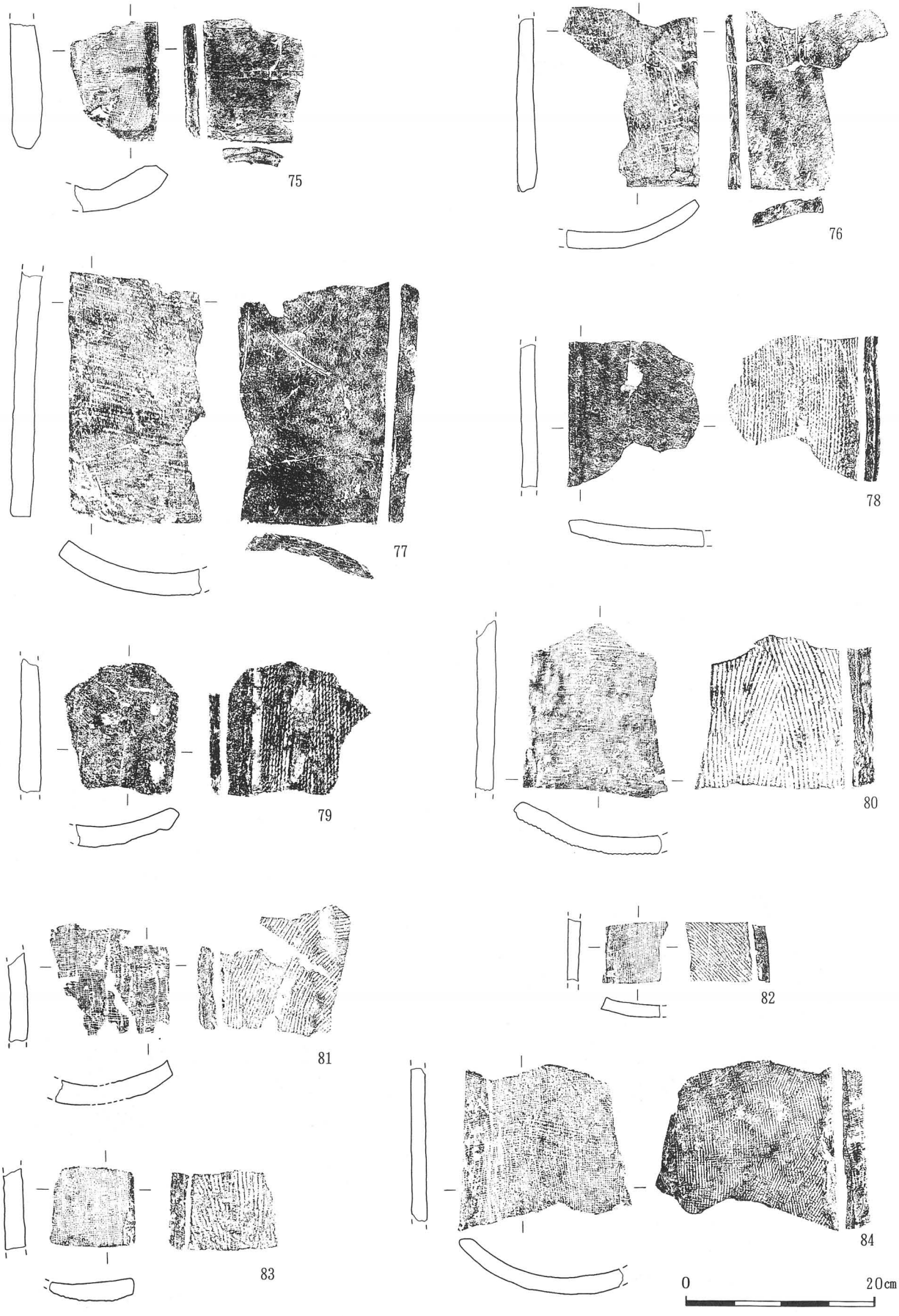
第 67 図　第 7 号溝跡出土瓦実測図 (6)



第 68 図　第 7 号溝跡出土瓦実測図(7)

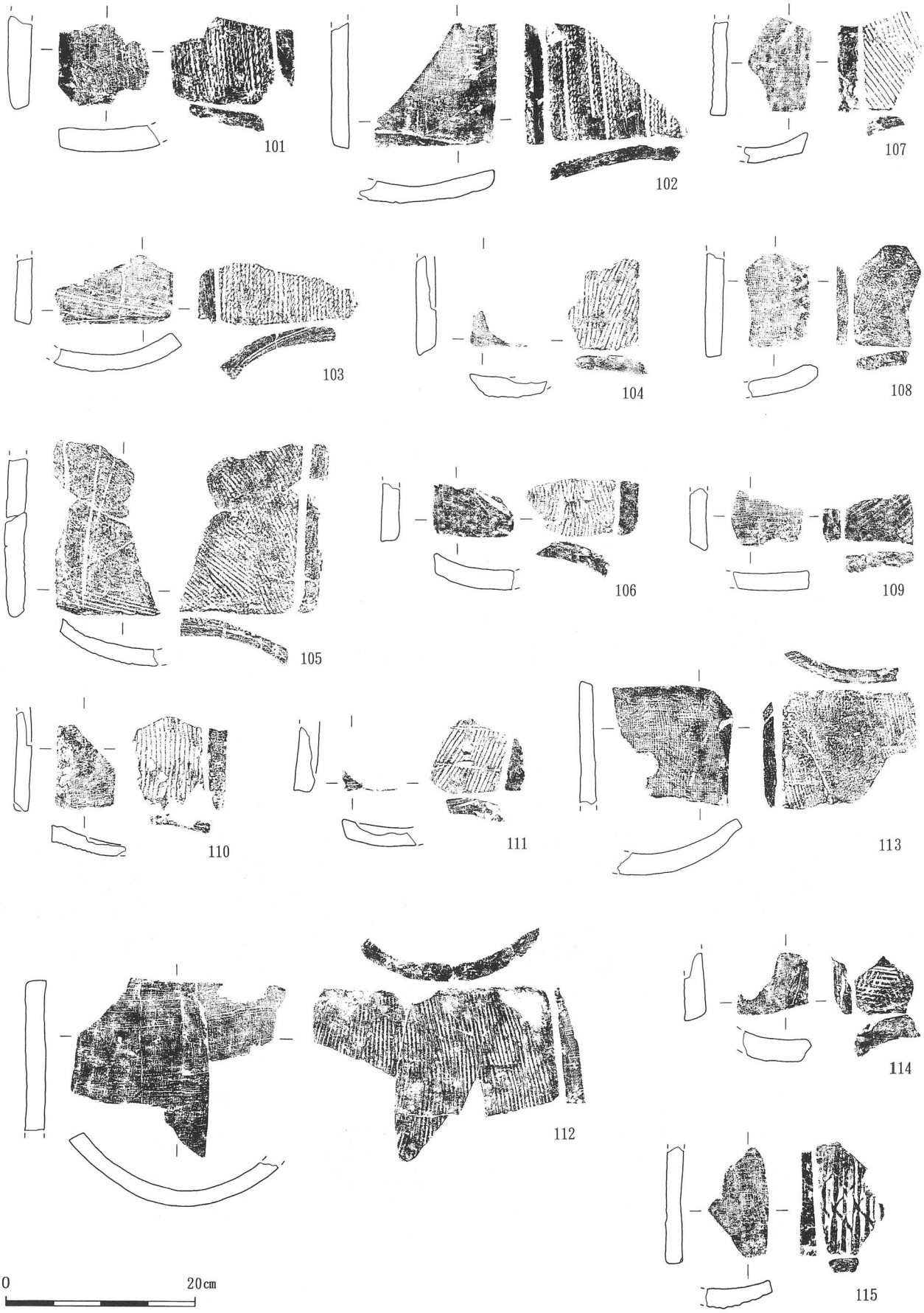


第 69 図　第 7 号溝跡出土瓦実測図(8)

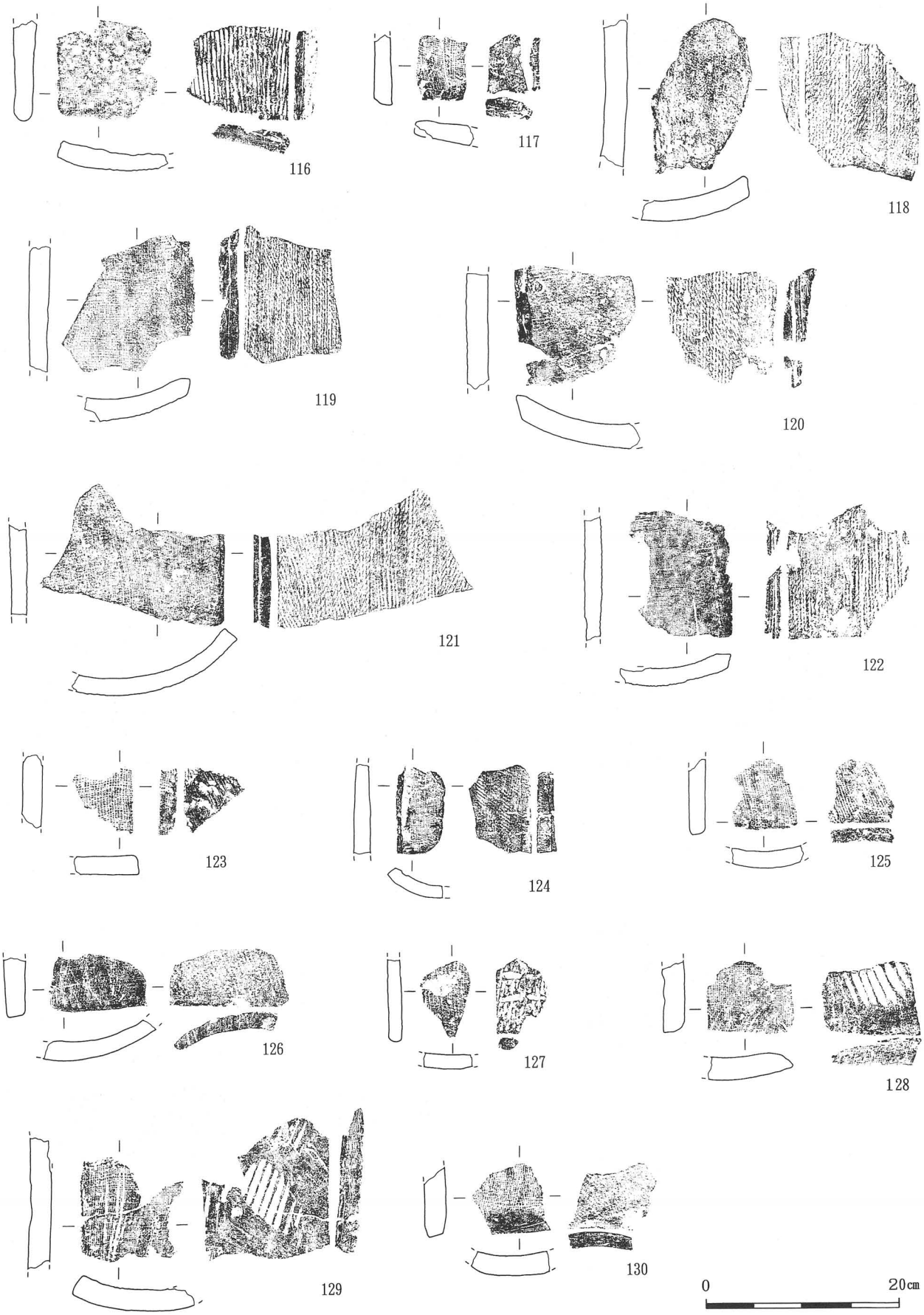


第 70 図　第 7 号溝跡出土瓦実測図(9)

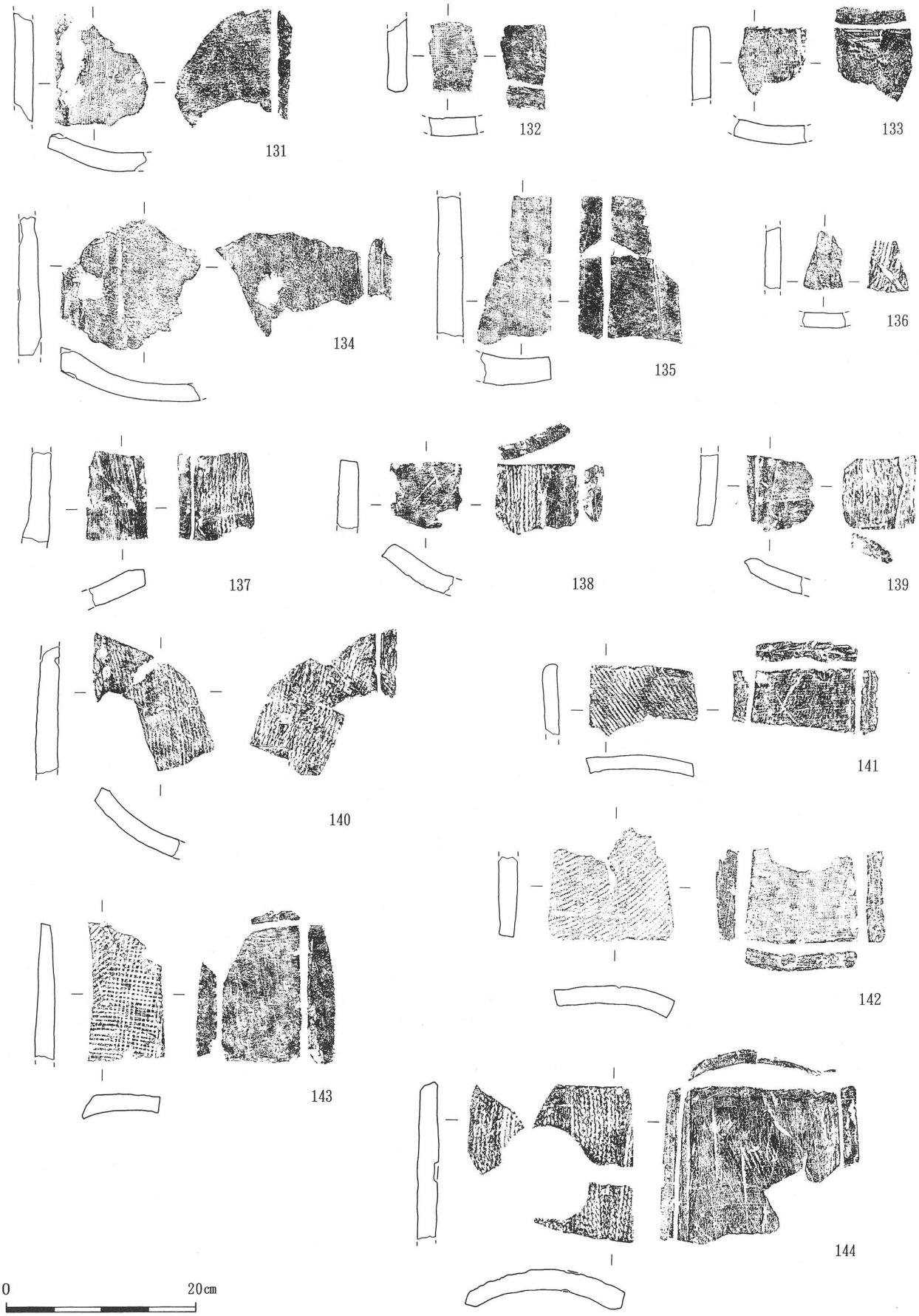
第 71 図　第 7 号溝跡出土瓦実測図(10)



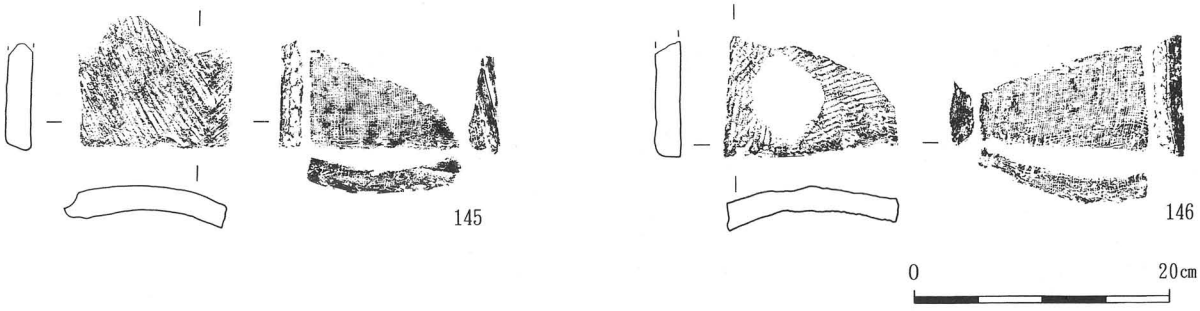
第 72 図　第 7 号溝跡出土瓦実測図(11)



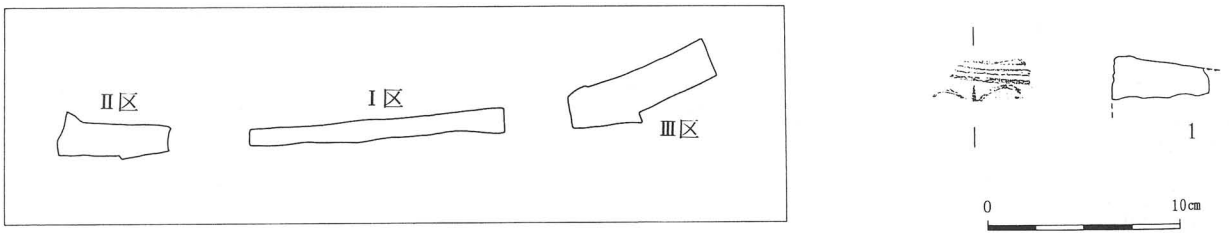
第 73 図　第 7 号溝跡出土瓦実測図 (12)

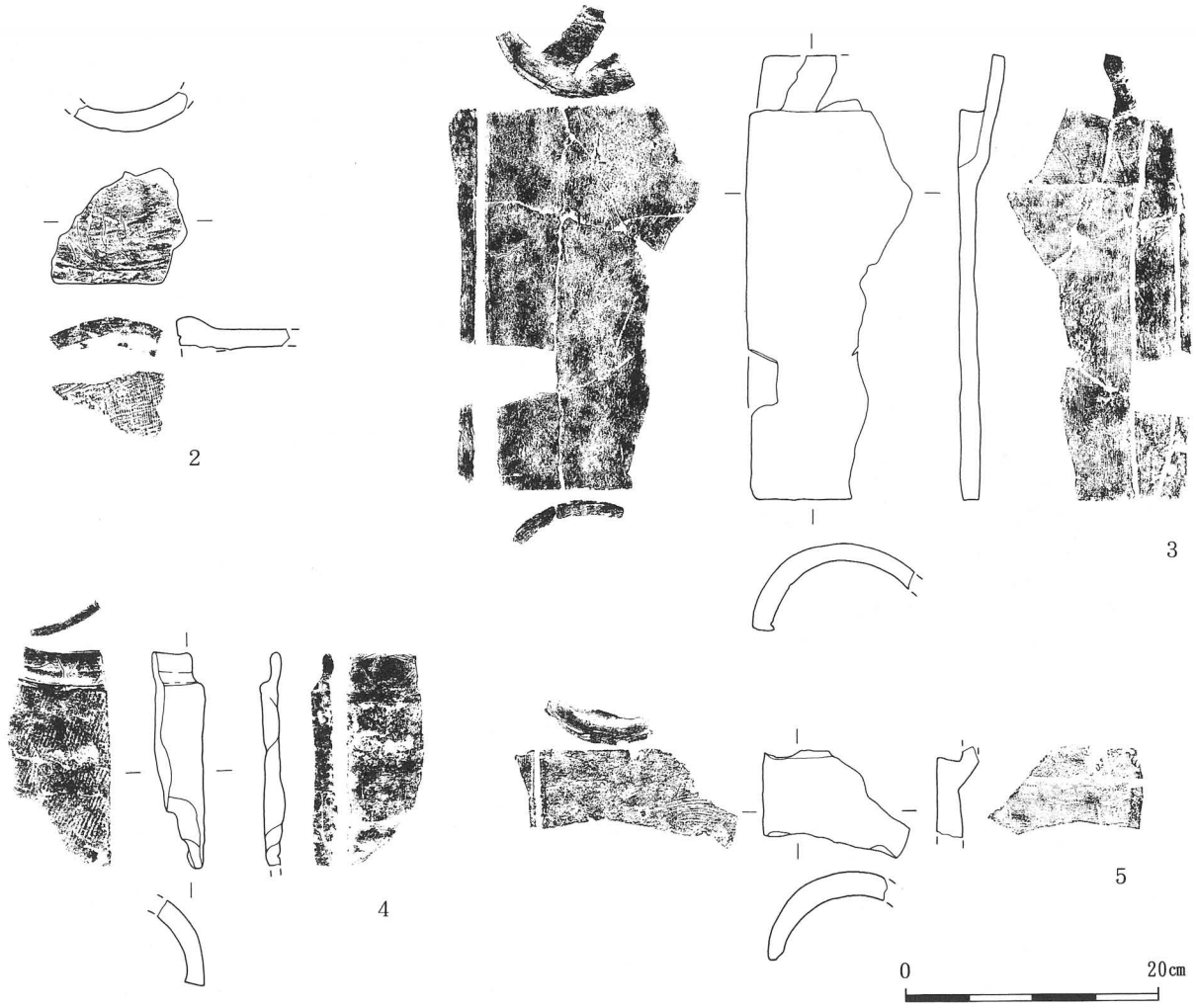


第 74 図　第 7 号溝跡出土瓦実測図(13)

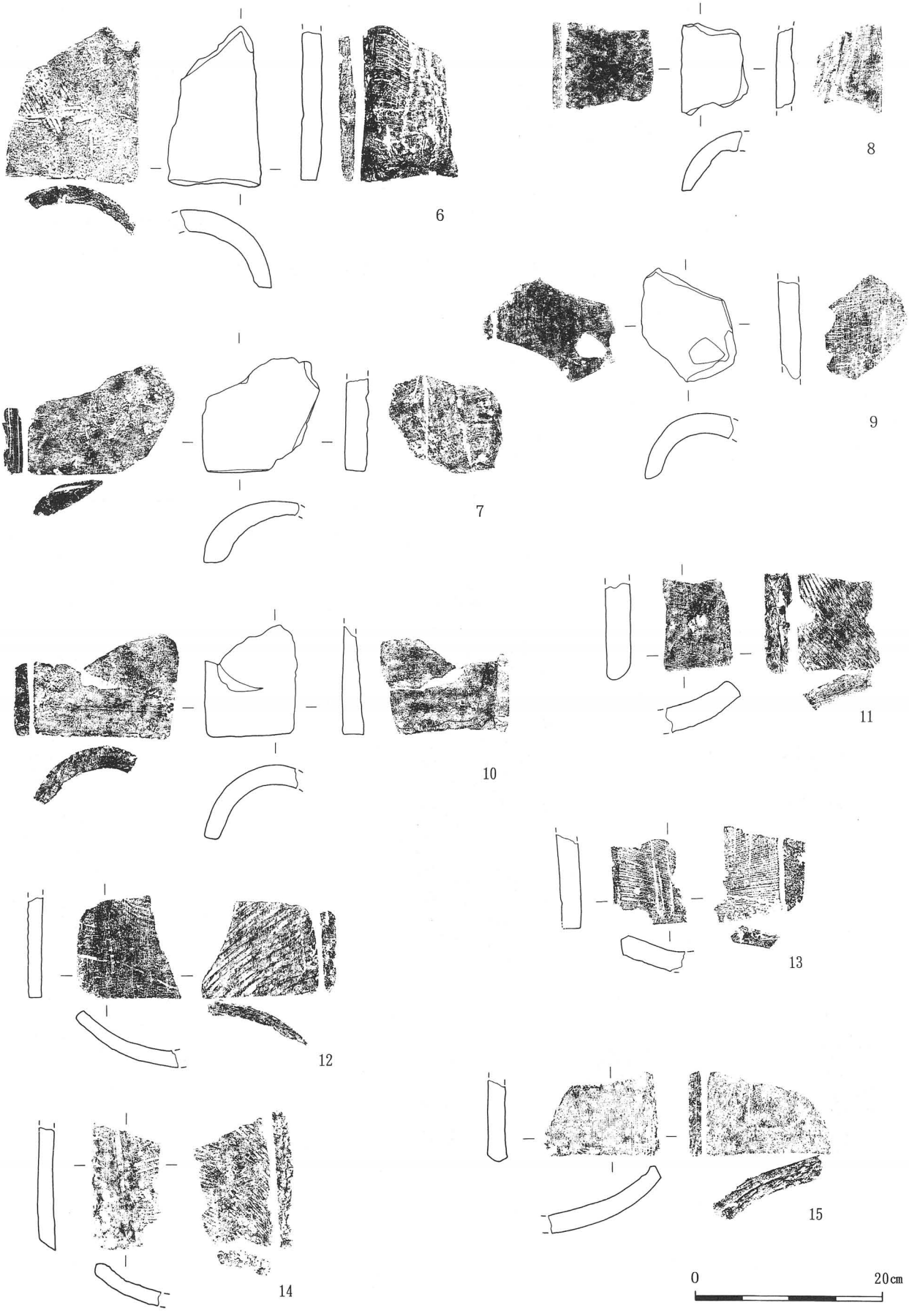


第 75 図　第 7 号溝跡出土瓦実測図(14)

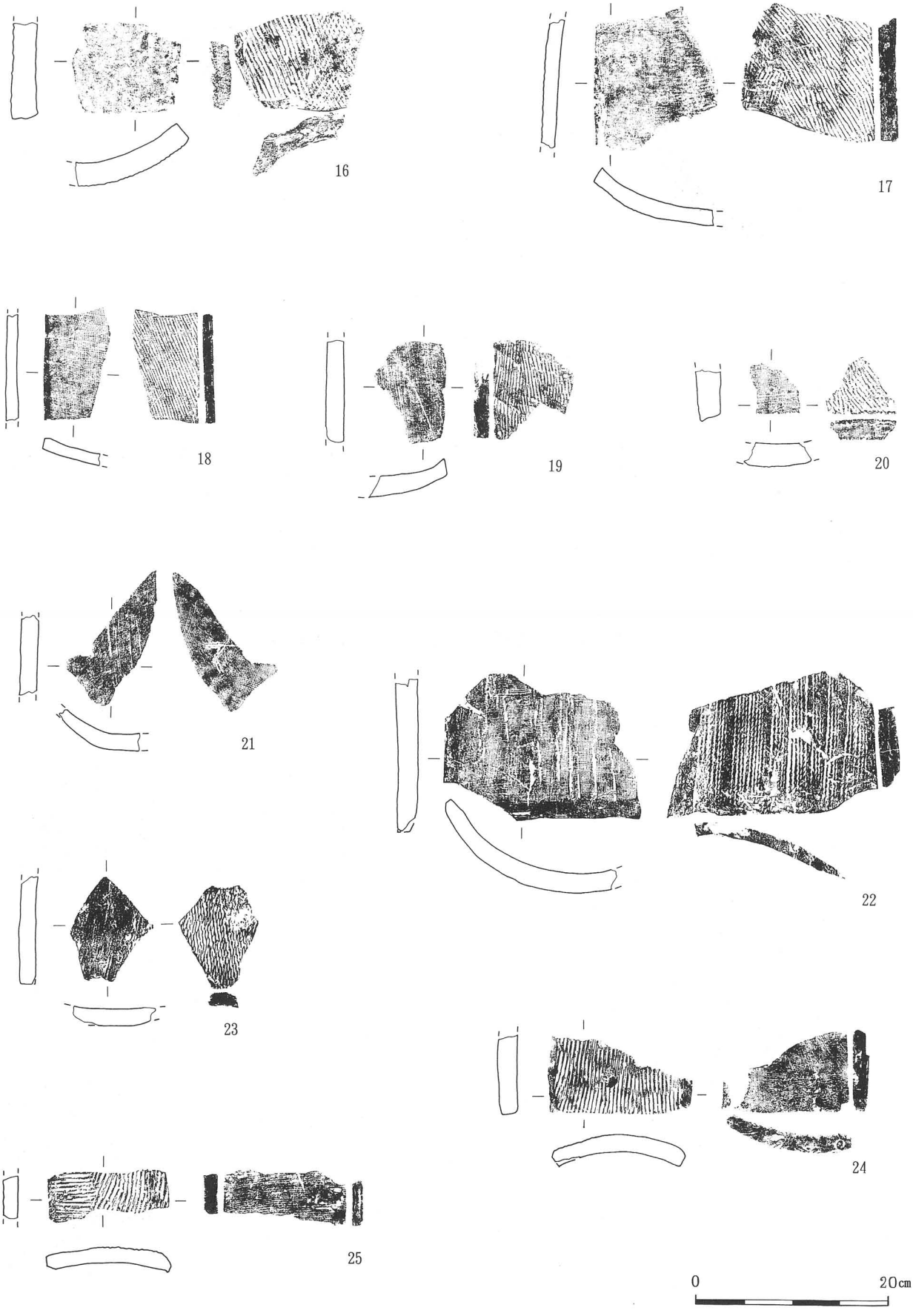




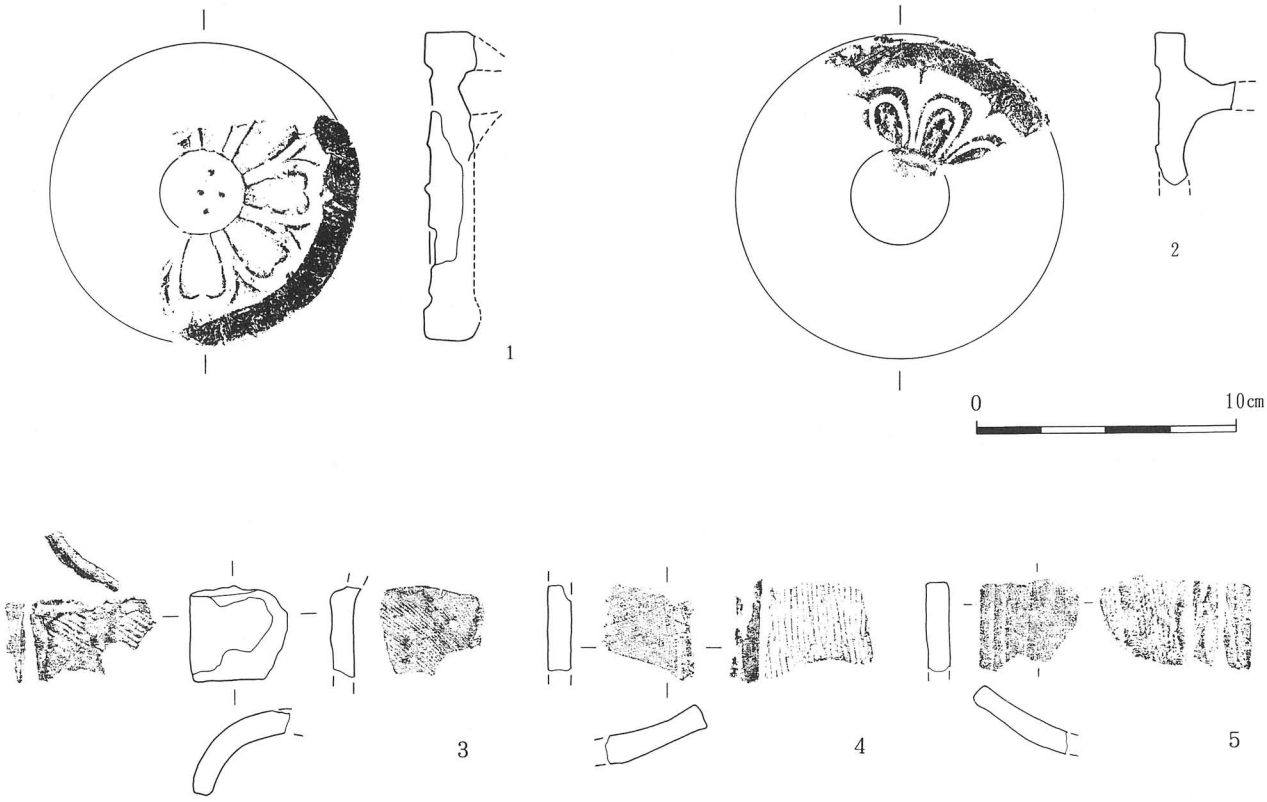
第 76 図　遺構外Ⅰ区出土瓦実測図(1)



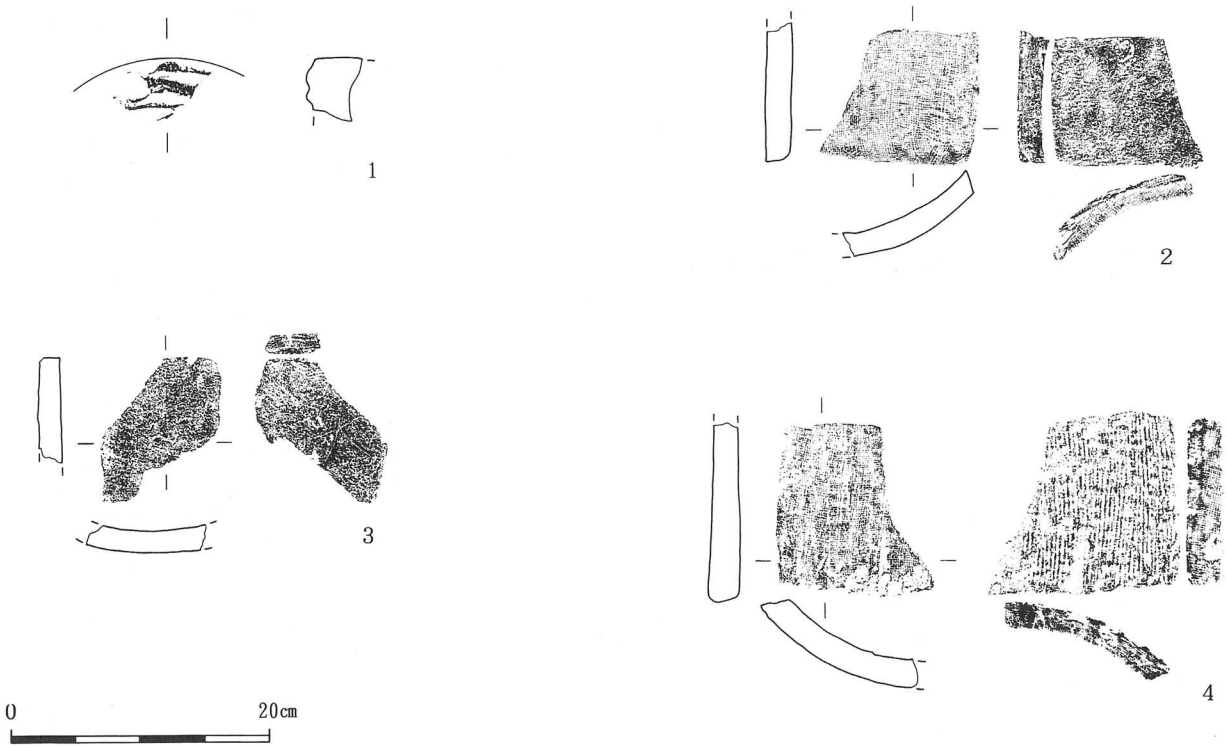
第 77 図　遺構外 I 区出土瓦実測図(2)



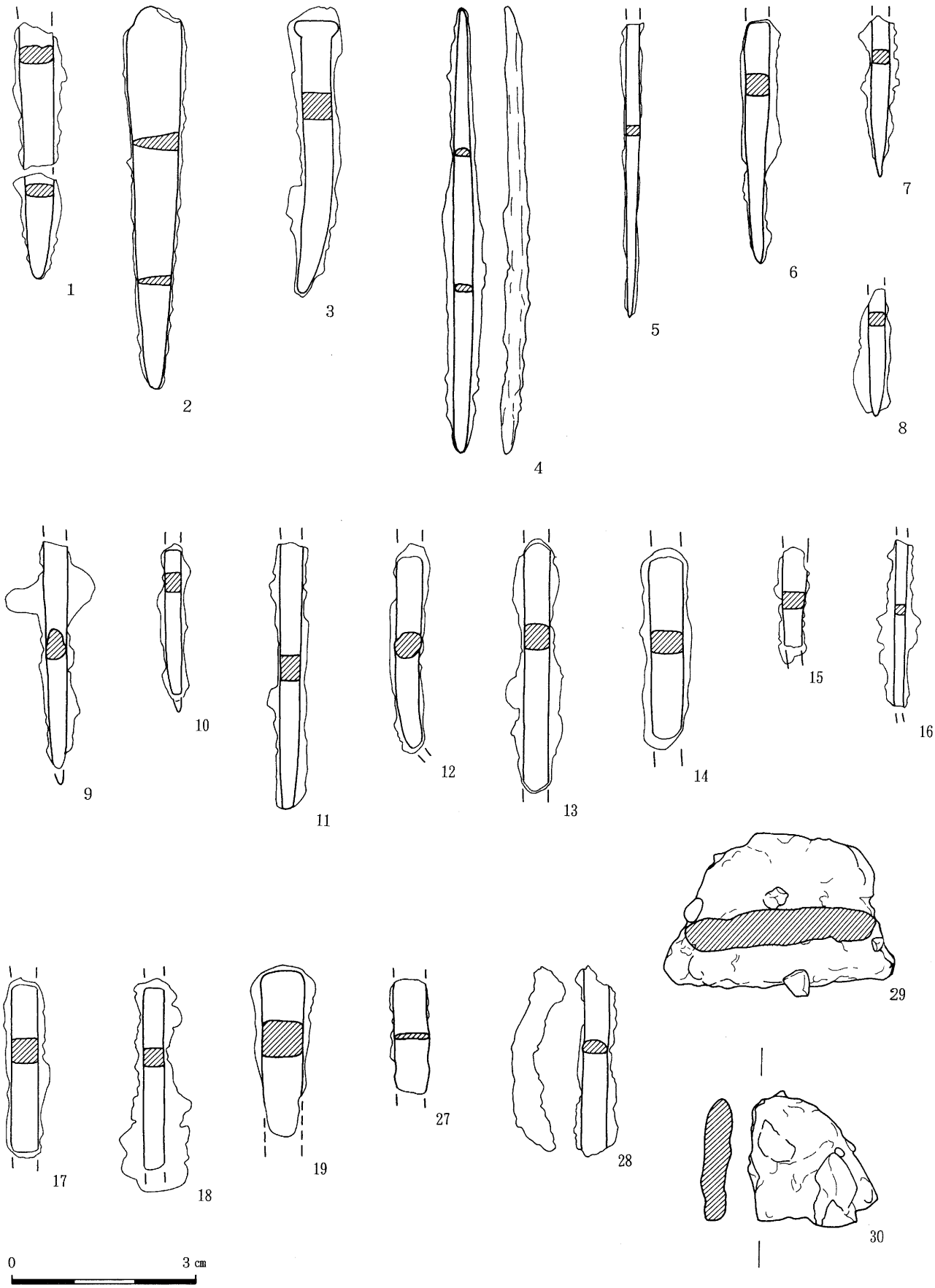
第 78 図　遺構外 I 区出土瓦実測図(3)



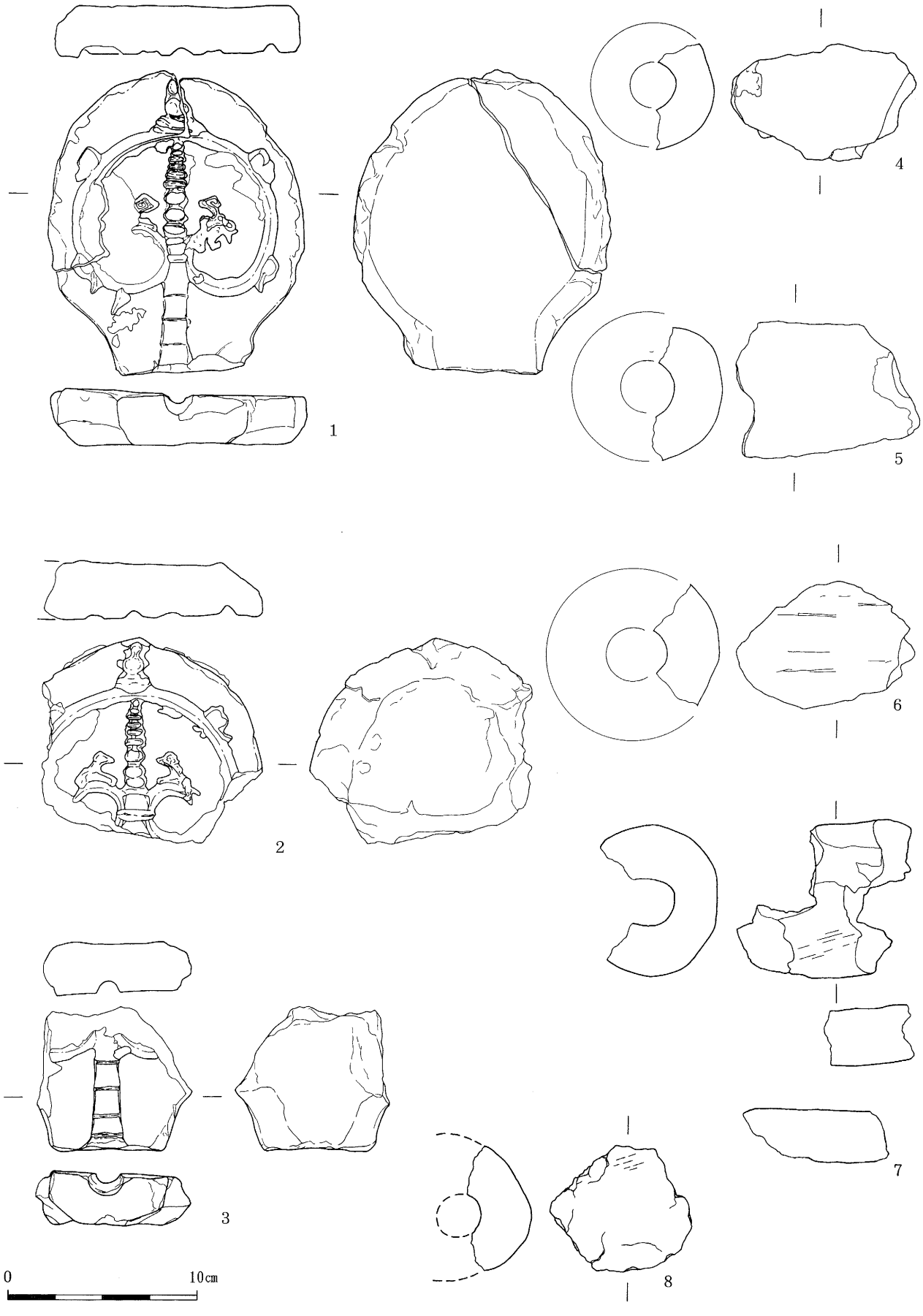
第 79 図　遺構外Ⅱ区出土瓦実測図



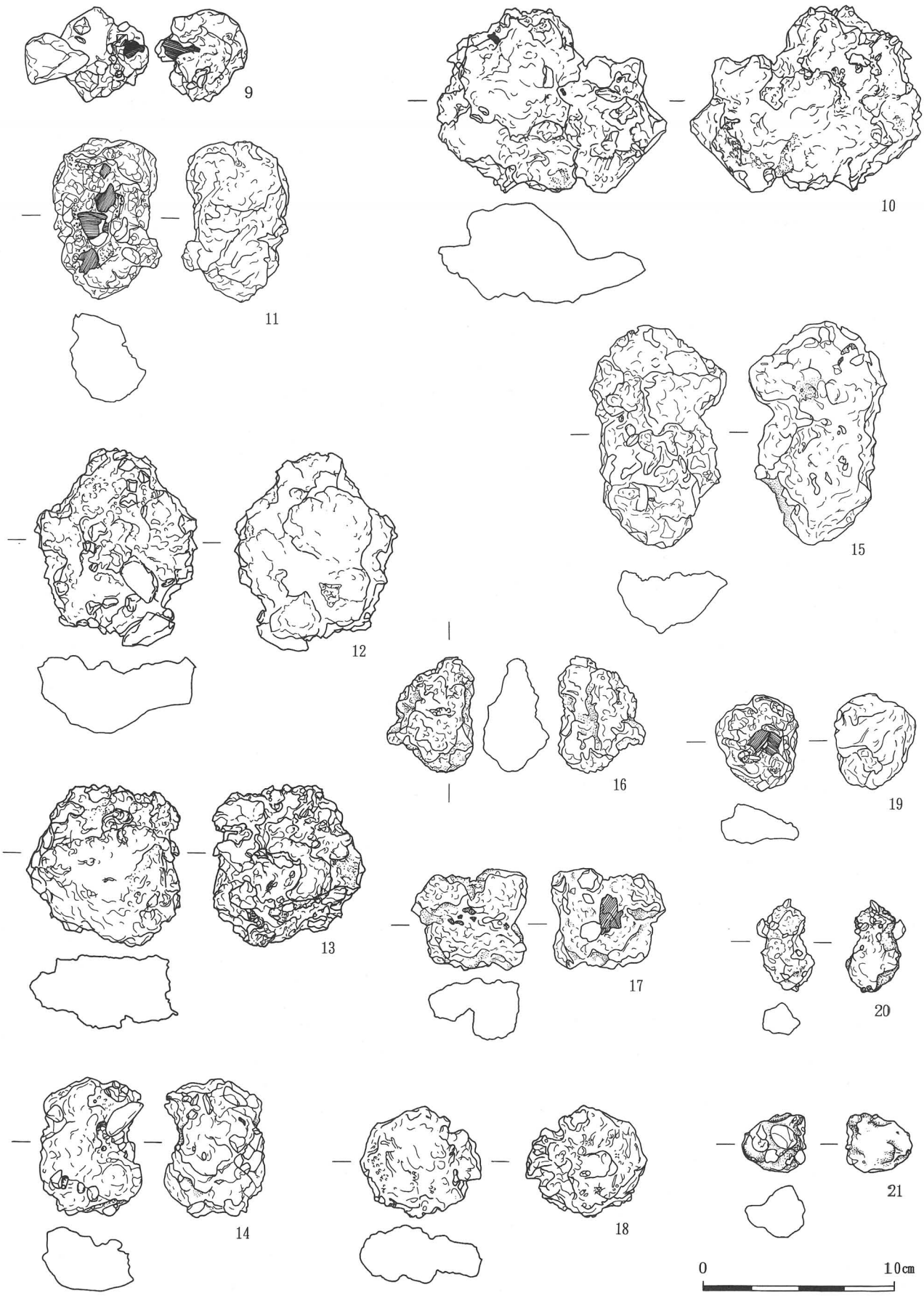
第 80 図　遺構外Ⅲ区出土瓦実測図



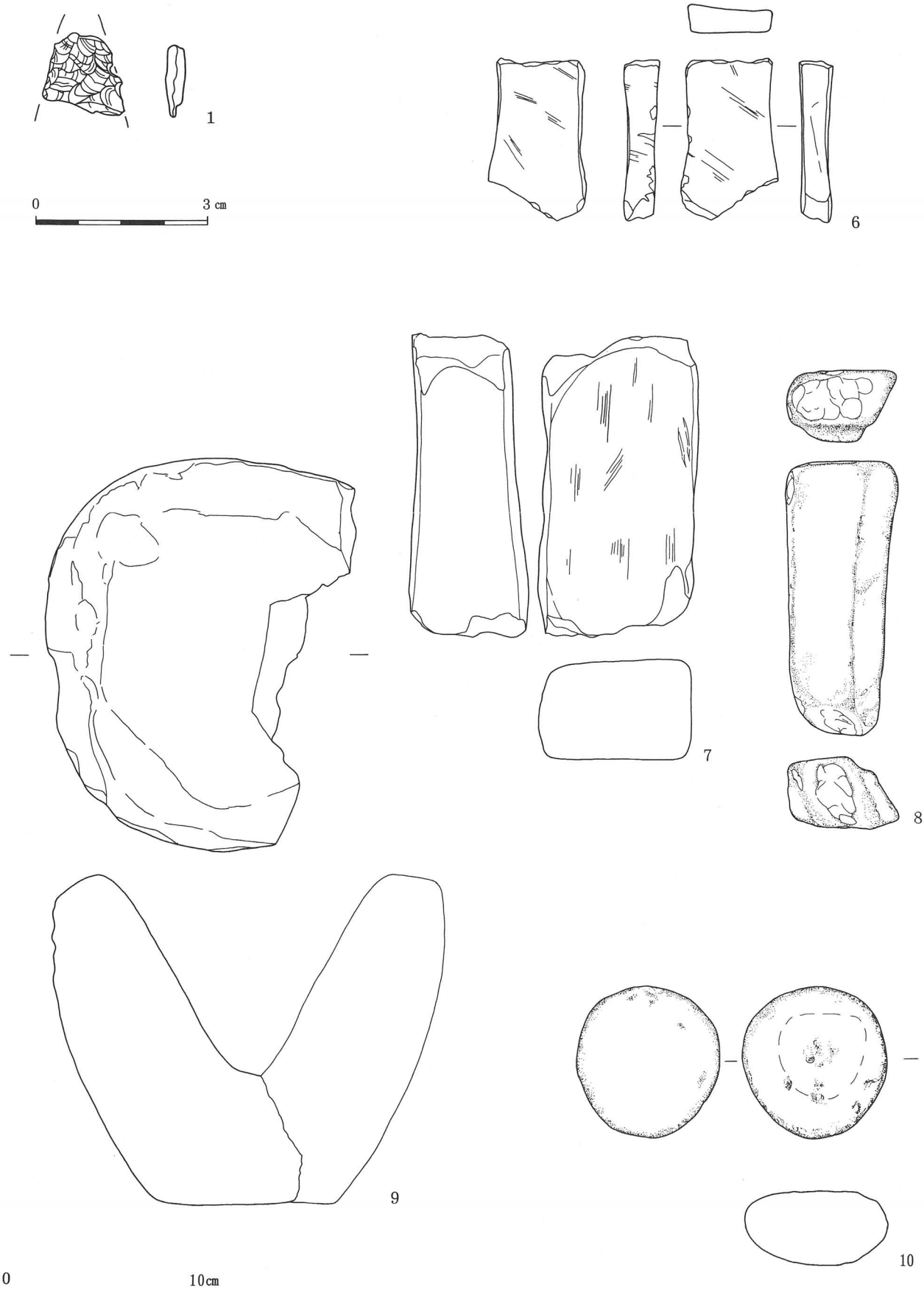
第 81 図　金属製品実測図



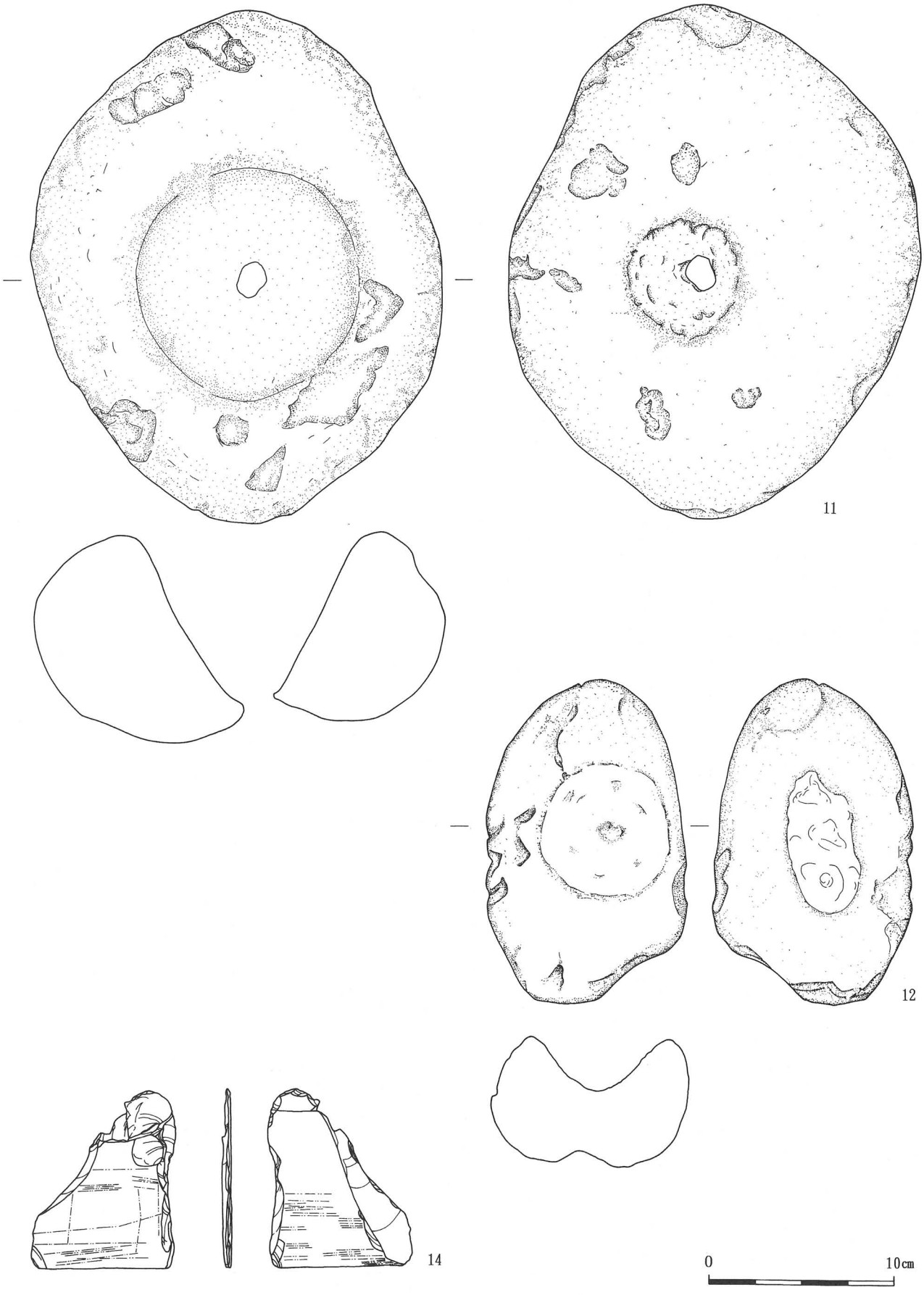
第 82 図　鍛冶関連実測図(1)



第 83 図　鍛冶関連実測図(2)



第 84 図　石器実測図(1)



第 85 図　石器実測図(2)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
ST－01 P5 26－1	坏 須恵	口径 残高 3.1 底径 (7.6) 底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰 (内)7.5Y5/1灰	丸みをもった平底	(外) 底部回転ヘラ切り 未調整 (内)
ST－04 P10 26－2	鉢 須恵	口径 残高 2.8 底径 (8.0) 底部1/2	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y5/1灰 (内)5Y4/1灰	平底	(外) 底部回転糸切り (内)
ST－06 P2 26－3	坏蓋 須恵	口径(14.8) 残高 2.2 底径 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N5/灰	口縁部端部で折れる	(外) ロクロナデ (内)
SD－02 (道路状 遺構) 27－1	坏 須恵	口径 － 残高 2.1 底径 (6.4) 底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N6/灰 (内)N6/灰	上げ底ぎみの底部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内)
SD－02 (道路状 遺構) 27－2	坏 須恵	口径 － 残高 2.9 底径 － 体部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5GY5/1 オリーブ灰 (内)5GY5/1 オリーブ灰	大きく開く体部	(外) ロクロ目が強く残る (内) ロクロナデ
SD－02 (道路状 遺構) 27－3	坏 須恵	口径 － 残高 1.5 底径 (9.0) 底部1/2	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N4/灰	高台の断面は平行四辺形	(外) ナデ (内)
SD－02 (道路状 遺構) 27－4	坏 須恵	口径 － 残高 1.8 底径 (9.8) 底部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)N5/灰	高台中央にくぼみを有する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－02 (道路状 遺構) 27－5	鉢 須恵	口径(21.4) 残高 7.2 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N5/灰	口縁部は外反し口唇部は面取りが施される	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－02 (道路状 遺構) 27－6	甕 土師	口径 － 残高 2.2 底径 (6.8) 底部1/2	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR4/4 褐	上げ底ぎみの底部	(外) 底部に木葉痕有り (内)
SD－02 (道路状 遺構) 27－7	壺 須恵	口径 － 残高 12.0 底径 － 体部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N4/灰	長頸壺 球形胴に細い頸部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 自然釉
SD－02 (道路状 遺構) 27－8	甕 須恵	口径 － 残高 6.1 底径(14.5) 底部1/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N5/灰	平底より立ち上がる	(外) タタキ目 ケズリ (内)
SD－02 (道路状 遺構) 27－9	甕 須恵	口径 － 残高 7.8 底径(18.0) 底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)N5/灰	平底より立ち上がる	(外) タタキ目 (内) 自然釉
SD－03 (道路状 遺構) 28－1	坏 土師	口径 15.2 残高 4.6 底径 (6.4) 1/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)N2/黒	平底 体部は直線的に開いてそのまま口縁部に至る	(外) 口縁部ロクロナデ 体部下位ヘラケズリ (内) ていねいなヘラミガキ 黒色処理
SD－03 (道路状 遺構) 28－2	坏 土師	口径(17.3) 残高 5.8 底径 (6.5) 口縁部～底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N3/暗灰 (内)N2/黒	平底 体部は直線的に開いてそのまま口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部ヘラケズリ (内) ていねいなミガキ 黒色処理
SD－03 (道路状 遺構) 28－3	坏 土師	口径(14.0) 器高 4.2 底径 (5.4) 口縁部～底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)N2/黒	上げ底ぎみの底部 口縁部で内湾する	(外) 体部下位ヘラケズリ 口縁部 ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ヘラミガキ 黒色処理
SD－03 (道路状 遺構) 28－4	坏 土師	口径 － 残高 2.3 底径 6.0 底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)N2/黒	平底	(外) 体部下半回転ヘラケズリ ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ていねいなヘラミガキ 黒色処理

第７表　土器観察表（1）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－03 (道路状遺構) 28－5	耳皿 土師	口径(10.0) 残高 1.2 底径 (4.5) 1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N2/黒 (内)N2/黒	口縁部の２カ所を内側に折る	(外) ミガキ 黒色処理 (内) ミガキ 黒色処理
SD－03 (道路状遺構) 28－6	甕 土師	口径 － 残高 3.4 底径 4.0 底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR4/2灰黄褐 (内)10YR4/2灰黄褐	底部は小さく丸みをもつ	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ　ミガキ
SD－05 (道路状遺構) 29－1	坏 土師	口径 － 残高 2.6 底径(10.0) 底部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N3/暗灰	丸みをもった底部	(外) 底部は手持ちヘラケズリ (内) 黒色処理
SD－05 (道路状遺構) 29－2	坏蓋 須恵	口径 － 残高 0.9 裾径 － 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；不良（酸化） 色；(外)5YR7/6 橙 (内)5YR7/6 橙	口縁部端部で折れる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－05 (道路状遺構) 29－3	坏蓋 須恵	口径 － 残高 1.1 裾径 － 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；不良（酸化） 色；(外)7.5YR5/1 灰 (内)7.5YR5/1 灰	口縁部端部で折れる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SK－01 30－1	甕 須恵	口径 － 残高 9.0 底径 － 胴部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y7/1灰白 (内)N6 灰		(外) タタキ目が施される (内) おさえ痕
SK－01 30－2	広口 瓶 灰釉	口径 － 残高 7.6 底径 － 頸部一部	胎；石英、礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y4/2,6/2 オリーブ灰 (内)10Y6/1 灰		(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SK－02 30－3	坏蓋 須恵	口径 － 残高 2.0 裾径 － 一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y7/2灰白 (内)5Y4/1灰		(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SK－02 30－4	長頸 壺 須恵	口径 － 残高 3.6 底径 － 頸部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5GY3/1 暗オリーブ灰 (内)2.5GY4/1 暗オリーブ灰		(外) (内)
SK－02 30－5	甕 須恵	口径 － 残高 7.2 底径 － 底部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N3/灰		(外) タタキ目 (内) タタキ目　青海波
SD－01 31－1	椀 土師	口径 － 残高 3.2 底径 6.6 底部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR5/6 明褐	高台を付す	(外) ナデ調整 (内) ナデ調整
SD－01 31－2	盤 土師	口径 － 残高 3.4 裾径 8.0 底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/2灰黄褐 (内)10YR6/2灰黄褐	足高高台を付す	(外) ナデ調整 (内) ナデ調整
SD－01 31－3	段皿 灰釉	口径 10.6 器高 2.0 底径 (5.8) 口縁部～底部一部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y8/1灰白 (内)5Y8/1灰白	有台で坏部の内側に段を有する	(外) ナデ調整 (内) ナデ調整 東濃
SD－01 31－4	椀 灰釉	口径(16.0) 残高 4.3 底径 － 口縁部～体部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y8/1灰白 (内)5Y8/1灰白	釉はつけ掛けと思われる	(外) (内) 東濃
SD－01 31－5	椀 灰釉	口径 － 残高 5.4 底径 (8.0) 底部1/2～体部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y8/1,7/1灰白 (内)2.5Y8/1,7/1灰白	漬け掛け施釉 高台断面三日月形	(外) 底部周辺回転ヘラケズリ (内) 黒色の付着物 東濃
SD－01 31－6	羽釜 土師	口径(15.2) 残高 5.9 底径 － 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	体部上位に鍔状の突起を付す	(外) ナデ調整 (内) ナデ調整

第８表　土器観察表（2）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－01 31－7	広口 瓶 灰釉	口径 － 残高 6.1 底径 － 胴部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y6/2ｵﾘｰﾌﾞ灰 5Y7/1灰白 (内)5Y7/1灰白		(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 東濃
SD－01 31－8	不明 土師	口径 － 残高 － 底径 － 一部	胎；石英、雲母、粗砂粒を含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 5/3にぶい褐 (内)7.5YR5/3 にぶい褐	不明 沈線が縦横、斜めに施される	(外) (内) 付着物あり
SD－04 32－1	坏 土師	口径 － 残高 2.8 底径 (5.0) 底部1/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/2 明褐灰 (内)N3/暗灰	平底	(外) 底部回転糸切り (内) 黒色処理
SD－04 32－2	坏 土師	口径 － 残高 2.2 底径 (5.0) 底部3/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/3 にぶい橙 (内)N3/暗灰	平底	(外) 底部回転糸切り (内) 黒色処理
SD－07 33－1	高坏 土師	口径 － 残高 7.5 裾径 － 脚部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	脚部	(外) ミガキ (内) ナデ
SD－07 33－2	坏 土師	口径 14.0 器高 4.6 底径 6.6 1/2	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)10YR4/3にぶい黄褐	平底 三条の沈線による刻印あり	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 33－3	坏 土師	口径 14.6 器高 4.5 底径 (6.0) 1/2	胎；雲母、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR8/4浅黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 33－4	坏 土師	口径(13.8) 器高 3.4 底径 (5.4) 口縁部～底部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR8/4 淡橙 (内)N6/灰～2.5Y7/3 浅黄	平底 浅く丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 33－5	坏 土師	口径(12.8) 器高 4.1 底径 5.8 口縁部一部～底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4にぶい橙～4/1 褐灰 (内)5YR7/4 にぶい橙	上げ底ぎみの底部 丸みのある体部 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 33－6	坏 土師	口径(16.6) 器高 4.1 底径 (6.0) 1/2	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/3 浅黄橙 (内)7.5YR8/3 浅黄橙	平底 浅く大きく開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 33－7	坏 土師	口径(15.8) 器高 3.5 底径 6.2 口縁部～底部1/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	平底 浅く大きく開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 33－8	坏 土師	口径(14.8) 器高 3.9 底径 (6.8) 口縁部～底部1/3	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)7.5YR7/3 にぶい橙	上げ底ぎみの底部 直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 33－9	坏 土師	口径(13.4) 器高 3.7 底径 (6.6) 口縁部～底部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	丸みのある体部 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 33－10	坏 土師	口径 12.7 器高 3.9 底径 6.7 ほぼ完存	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/3にぶい褐～4/1褐灰 (内)10YR6/2灰黄褐	平底	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 33－11	坏 土師	口径(13.7) 器高 2.9 底径 (5.5) 口縁部～底部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/3にぶい橙~N3/暗灰	平底 浅い体部 口縁部は内湾する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 33－12	坏 土師	口径 13.2 器高 3.0 底径 5.6 口縁部～底部3/4	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR8/3 浅黄橙~7/4にぶい橙	上げ底ぎみの底部 浅い体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ

第９表　土器観察表（3）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 33－13	坏 土師	口径(12.8) 器高 3.2 底径 5.0 口縁部一部~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)5YR7/4 にぶい橙	平底 大きく開く浅い体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 33－14	坏 土師	口径(12.6) 器高 3.4 底径 4.7 口縁部1/3~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)5YR6/6 橙	平底 丸みのある体部 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 33－15	坏 土師	口径(12.2) 器高 4.6 底径 5.4 口縁部1/2~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR8/4 淡橙~8/2 灰白 (内)5YR8/1 灰白~8/3 淡橙	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 33－16	坏 土師	口径(12.1) 器高 3.9 底径 5.2 口縁部~底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)7.5YR7/3 にぶい橙	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 33－17	坏 土師	口径(11.8) 器高 3.6 底径 (4.8) 口縁部~底部1/2	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/2にぶい黄橙 (内)10YR7/2にぶい黄橙	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 33－18	坏 土師	口径 11.8 器高 3.9 底径 5.0 口縁部1/3~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)7.5YR7/3 にぶい橙	平底 丸みのある体部 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) 口縁部ヨコミガキ 部分的に焦げている
SD－07 33－19	坏 土師	口径(12.0) 器高 3.6 底径 (6.0) 口縁部~底部2/3	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	平底 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 33－20	坏 土師	口径(11.5) 器高 3.5 底径 4.4 口縁部2/3~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)5YR6/4 にぶい橙	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 33－21	坏 土師	口径(11.6) 器高 4.2 底径 5.7 口縁部1/4~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/2にぶい黄橙 (内)10YR7/2にぶい黄橙	上げ底ぎみの底部 深めの体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 33－22	坏 土師	口径 12.3 器高 4.0 底径 4.6 口縁部3/4~底部完	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切りの後ヘラ調整 (内) ロクロナデ ミガキ
SD－07 33－23	坏 土師	口径(12.2) 器高 4.1 底径 5.3 口縁部~底部3/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/3 浅黄橙 (内)7.5YR8/3 浅黄橙	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) 口縁部ヨコミガキ
SD－07 33－24	坏 土師	口径(12.2) 器高 4.2 底径 6.0 口縁部1/3~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)5YR6/4 にぶい橙	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－25	坏 土師	口径(11.5) 器高 3.7 底径 (6.0) 1/2	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/3 にぶい橙 (内)5YR6/3 淡橙	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切りの後ヘラ調整 (内) ロクロナデ
SD－07 34－26	坏 土師	口径 10.8 器高 3.3 底径 5.4 ほぼ完存	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/3 浅黄橙 (内)7.5YR8/3 浅黄橙	平底 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－27	坏 土師	口径(12.4) 器高 3.5 底径 5.4 口縁部一部~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)7.5YR7/3にぶい橙~N4/灰	平底 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－28	坏 土師	口径(10.8) 器高 2.6 底径 4.2 口縁部1/4~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	平底 浅く小さい坏	(外) ロクロナデ 底部回転糸切りの後ヘラ調整 (内) ロクロナデ

第 10 表　土器観察表（4）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 34－29	坏 土師	口径 11.4 器高 3.4 底径 5.2 1/2	胎；石英、雲母、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/3 にぶい褐 (内)10YR5/3にぶい黄褐	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－30	坏 土師	口径(11.3) 器高 3.7 底径 (4.6) 口縁部～底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR6/4 にぶい橙 (内)2.5YR7/6 橙	平底	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－31	坏 土師	口径(11.0) 器高 3.4 底径 4.2 口縁部一部～底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/4 浅黄橙 (内)7.5YR7/3 にぶい橙	平底 直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－32	坏 土師	口径 11.0 器高 3.5 底径 4.5 口縁部3/4～底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－33	坏 土師	口径(11.0) 器高 3.1 底径 4.4 口縁部1/3～底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	上げ底ぎみの底部 直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ 繊維痕有り
SD－07 34－34	坏 土師	口径(11.2) 器高 3.1 底径 4.3 口縁部一部～底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/3 浅黄橙～R8/2灰白 (内)7.5YR8/3 浅黄橙～R8/2灰白	平底 直線的な体部 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－35	坏 土師	口径(11.2) 器高 3.2 底径 (4.8) 口縁部～底部3/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)5YR7/4 にぶい橙	大きく開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－36	坏 土師	口径 10.7 器高 3.7 底径 4.5 ほぼ完存	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/3 浅黄橙 (内)7.5YR8/3 浅黄橙	平底 丸みのある体部 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－37	坏 土師	口径 10.8 器高 3.0 底径 4.5 口縁部～底部3/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/3 浅黄橙~8/1灰白 (内)7.5YR8/3 浅黄橙	上げ底ぎみの底部 直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－38	坏 土師	口径 10.8 器高 3.0 底径 6.6 口縁部1/2～底部完	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR8/3浅黄橙 (内)10YR8/3浅黄橙	上げ底ぎみの底部 浅く丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－39	坏 土師	口径 10.9 器高 3.6 底径 5.8 口縁部3/4～底部完	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/4 浅黄橙 (内)7.5YR8/4 浅黄橙	底部より直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－40	坏 土師	口径(11.4) 器高 3.6 底径 4.4 口縁部1/4～底部完	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)7.5YR7/3 にぶい橙	平底 丸みのある体部 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－41	坏 土師	口径 10.8 器高 3.1 底径 4.1 口縁部2/3～底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/2にぶい黄橙 (内)10YR7/2にぶい黄橙	平底 粗雑なつくり	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ　ミガキ
SD－07 34－42	坏 土師	口径(10.9) 器高 3.4 底径 4.2 口縁部一部～底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/1灰白～8/2 灰白 (内)10YR8/2灰白	上げ底ぎみの底部 直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－43	坏 土師	口径 11.8 器高 3.3 底径 5.4 完存	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)5YR7/4 にぶい橙	平底 丸みのある体部 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－44	坏 土師	口径 11.3 器高 3.5 底径 4.7 ほぼ完存	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)10YR6/3にぶい黄橙	平底	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ヨコミガキ

第 11 表　土器観察表 (5)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 34－45	坏 土師	口径 11.7 器高 3.2 底径 5.0 ほぼ完存	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/4 浅黄橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	上げ底ぎみの平底 歪みが大きい	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－46	坏 土師	口径 11.5 器高 3.8 底径 4.6 口縁部2/3~底部完	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)5YR7/4 にぶい橙	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) 口縁部ヨコナデ
SD－07 34－47	坏 土師	口径 10.6 器高 3.6 底径 3.8 口縁部3/4~底部完	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/2にぶい黄橙 (内)10YR7/2にぶい黄橙	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 34－48	坏 土師	口径 10.7 器高 3.1 底径 5.6 口縁部3/4~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/3 浅黄橙 (内)7.5YR8/3 浅黄橙	平底	(外) ロクロ目が強く残る ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－49	坏 土師	口径 10.7 器高 3.0 底径 4.6 口縁部3/4~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/3 にぶい橙 (内)5YR7/3 にぶい橙	平底	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－50	坏 土師	口径(10.6) 器高 3.1 底径 (4.4) 口縁部~底部1/2	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR8/2灰白 (内)10YR8/3浅黄橙	上げ底ぎみの底部 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－51	坏 土師	口径 (9.8) 器高 3.1 底径 4.1 口縁部~底部3/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/6 橙 (内)5YR7/6 橙	平底 直線的に開く体部 口縁部はわずかに反る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ 付着物有り
SD－07 34－52	坏 土師	口径 (9.8) 器高 3.1 底径 (3.6) 口縁部1/3~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)5YR7/4 にぶい橙	平底 浅く小さい坏 直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－53	坏 土師	口径(10.1) 器高 3.1 底径 (4.6) 口縁部~底部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/6 橙～5/8明赤褐 (内)5YR7/6 橙	平底 直線的に開く体部 口縁部はわずかに外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－54	坏 土師	口径(10.3) 器高 3.2 底径 (4.6) 口縁部~底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR6/6 橙 (内)2.5YR7/6 橙	平底 直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－55	坏 土師	口径 10.0 器高 3.0 底径 4.4 口縁部1/2~底部完	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)5YR6/8 橙	平底 浅い体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－56	坏 土師	口径 (9.8) 器高 2.7 底径 4.8 口縁部1/4~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	平底 小さい坏 直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－57	坏 土師	口径 10.5 器高 3.0 底径 4.4 口縁部1/2~底部完	胎；石英、雲母、礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	平底 浅く小さい坏	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－58	坏 土師	口径(10.2) 器高 3.1 底径 4.6 口縁部~底部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)7.5YR7/3にぶい橙~4/1黒	平底 浅い体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－59	坏 土師	口径(10.4) 器高 2.6 底径 4.0 口縁部1/4~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/2灰黄褐~N3/暗灰 (内)10YR6/2灰黄褐~N3/暗灰	平底	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－60	坏 土師	口径 16.4 器高 3.6 底径 5.8 完存	胎；石英、雲母、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/2灰黄褐 (内)10YR6/3にぶい黄橙	平底 浅く大きく傾く体部 先端で屈折して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ

第 12 表　土器観察表（6）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 34－61	坏 土師	口径 16.8 器高 4.2 底径 6.0 完存	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3にぶい橙~6/3にぶい褐 (内)5YR7/4 にぶい橙	上げ底ぎみの底部 歪みが大きい 体部の先端で屈折して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－62	坏 土師	口径 (9.2) 器高 1.8 底径 (5.4) 口縁部~底部1/2	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/1褐灰 (内)10YR7/2にぶい黄橙	上げ底ぎみの底部	(外) 底部回転糸切り (内)
SD－07 34－63	坏 土師	口径 12.6 器高 2.5 底径 4.0 1/2	胎；石英、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	上げ底ぎみの底部 浅い体部 口縁部の先端は面取りが施される	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－64	坏 土師	口径(11.6) 器高 1.7 底径 6.0 口縁部一部~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/1 褐灰 (内)7.5YR4/1褐灰~7/1 明褐灰	上げ底ぎみの底部 浅い体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 34－65	坏 土師	口径 (9.2) 器高 1.5 底径 (4.0) 口縁部~底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/2にぶい黄橙 (内)10YR7/2にぶい黄橙	底部に孔を穿つ	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り痕有り (内) ロクロナデ
SD－07 34－66	坏 土師	口径(10.4) 器高 1.9 底径 (4.8) 口縁部~底部1/2	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/2 浅黄橙 (内)7.5YR8/2 浅黄橙	底部に孔を穿つ	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 35－67	椀 弥生	口径 13.8 器高 5.5 底径 8.0 口縁部~底部1/2	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)5YR7/4 にぶい橙~6/6橙	高台を付す 直線的な体部 高台は高めである	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 35－68	椀 土師	口径(13.2) 残高 5.1 底径 － 口縁部~底部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/2 灰褐 (内)7.5YR5/2 灰褐	高台を付す 丸みのある体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 35－69	椀 土師	口径(13.2) 残高 4.5 底径 － 口縁部~体部1/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)5YR6/6 橙~6/3にぶい橙	丸みのある体部より先端で外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 35－70	椀 土師	口径 11.8 器高 5.4 底径 6.8 ほぼ完存	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)5YR6/3 にぶい橙	高台を付す 丸みのある体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 35－71	椀 土師	口径 15.0 残高 5.0 底径 － 体部3/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)5YR6/4 にぶい橙	高台を付す 丸みのある体部より折れて外傾し口縁部に至る	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 35－72	椀 土師	口径(14.1) 残高 4.6 底径 － 口縁部~底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)5YR6/4 にぶい橙	高台を付す 丸みのある体部 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 35－73	椀 土師	口径(14.2) 器高 5.0 底径 (6.4) 口縁部~底部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/2灰黄褐 (内)10YR6/2灰黄褐	高台を付す 丸みのある体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 35－74	椀 土師	口径(15.0) 器高 5.2 底径 8.0 口縁部~底部3/4	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	高台を付す 丸みのある体部 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 35－75	椀 土師	口径(14.5) 残高 3.0 底径 － 口縁部~体部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	浅い直線的な体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 35－76	椀 土師	口径(16.0) 残高 (3.2) 底径 － 口縁部~体部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR6/6 橙 (内)2.5YR6/6 橙	高台を付す	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ

第 13 表　土器観察表 (7)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 35－77	鉢 土師	口径(20.6) 残高 5.9 底径 － 口縁部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)5YR6/3 にぶい橙	口縁部は先端で折れて内湾する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 35－78	鉢 土師	口径(16.6) 残高 7.8 底径 － 口縁部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/3 ～6 /3にぶい橙 (内)5YR7/3 ～6/3 にぶい橙	丸みのある体部より折れて内湾して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 体部下位ヘラケズリ（斜位） (内) ロクロナデ
SD－07 35－79	坏 土師	口径(14.7) 器高 6.2 底径 (7.0) 1/3	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)N2/黒	平底 深めの体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り 底部回転ヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 35－80	坏 土師	口径 14.2 器高 5.5 底径 6.0 口縁部1/2~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3にぶい橙~N3/暗灰 (内)N3/暗灰	平底 体部は深めで立上がりの外傾が小さい	(外) 体部下半回転ヘラケズリ 口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 底部回転糸切り (内) ミガキ中心部放射状、口縁部ヨコ 黒色処理
SD－07 35－81	坏 土師	口径(13.6) 器高 5.3 底径 (5.6) 1/3	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)N3/暗灰	平底 体部下位は張りがある 口縁部は小さく外反する	(外) ロクロナデ 体部下半ヘラケズリ 底部回転糸切り (内) 黒色処理
SD－07 35－82	坏 土師	口径(13.5) 器高 4.1 底径 8.0 1/2	胎；石英、長石、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)N2/黒	平底 大きめの底部 直線的に開く体部	(外) 体部下半回転ヘラケズリ 底部回転糸切りの後ヘラ調整 (内) ていねいなヘラミガキ 黒色処理
SD－07 35－83	坏 土師	口径 14.4 器高 5.0 底径 6.7 1/2	胎；金雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	平底 丸みのある体部 口縁部は先端で外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切りの後回転ヘラ調整 (内) 口縁部ヨコミガキ 坏部タテミガキ 黒色処理
SD－07 35－84	坏 土師	口径(13.8) 器高 5.0 底径 (4.9) 口縁部~底部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)N2/黒	平底 丸みのある体部より短く外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) 黒色処理
SD－07 35－85	坏 土師	口径 12.4 器高 4.0 底径 5.5 ほぼ完存	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)N2/黒	平底 丸みのある体部より口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 35－86	坏 土師	口径 13.0 器高 4.0 底径 5.8 口縁部1/2~底部完	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)7.5YR8/1 灰白 (内)N2/黒	平底 張りのある体部より外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 35－87	坏 土師	口径(13.8) 器高 4.9 底径 6.0 口縁部~底部3/4	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/1 褐灰 (内)N3/暗灰	丸みをもって開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 35－88	坏 土師	口径 12.8 器高 4.2 底径 6.9 ほぼ完存	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	平底	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ていねいなミガキ 黒色処理
SD－07 35－89	坏 土師	口径 12.1 器高 4.9 底径 6.2 口縁部3/4~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3にぶい橙~N3/暗灰 (内)N3/暗灰	平底 深めの体部直線的に開く	(外) 底部回転糸切りの後ヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 35－90	坏 土師	口径(15.9) 器高 4.3 底径 (7.5) 口縁部~底部1/2	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)N2/黒	上げ底ぎみの底部 丸みのある体部より外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 35－91	坏 土師	口径(12.8) 器高 4.0 底径 6.0 口縁部~底部1/2	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)N2/黒	上げ底ぎみの底部 丸みのある体部より外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切りの後ヘラ調整 (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 35－92	坏 土師	口径 12.9 器高 4.5 底径 5.7 口縁部2/3~底部完	胎；石英、礫、白砂粒、租礫含 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4にぶい橙~4/2褐灰 (内)N3/暗灰	上げ底ぎみの底部 浅く張りのある体部よりわずかに外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理

第 14 表　土器観察表（8）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 36－93	坏 土師	口径(12.7) 器高 4.3 底径 4.7 口縁部1/4~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)N3/暗灰	平底 口縁部は外反する	(外) 底部手持ちヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－94	坏 土師	口径(11.8) 器高 3.6 底径 (5.2) 口縁部~底部2/3	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/2にぶい黄橙 (内)5Y2/1黒	上げ底ぎみの底部 丸みのある体部よりわずかに外反して口縁部に至る	(外) 口縁部ロクロナデ 底部ヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－95	坏 土師	口径 13.1 器高 4.0 底径 5.3 1/2	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR2/1 黒	平底 丸みのある体部よりわずかに外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－96	坏 土師	口径 13.1 器高 3.8 底径 6.0 口縁部2/3~底部完	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR2/1 黒	平底 ゆるい丸みのある体部よりわずかに外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ中心部放射状　口縁部ヨコミガキ　黒色処理
SD－07 36－97	坏 土師	口径(13.2) 器高 3.7 底径 (5.6) 口縁部~底部1/2	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/3 にぶい橙 (内)N3/暗灰	平底 丸みのある体部より外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ ケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－98	坏 土師	口径(13.4) 器高 3.8 底径 4.0 口縁部~底部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)N2/黒	平底 張りのある体部よりそのまま口縁部に至る	(外) 底部回転糸切り (内) 黒色処理
SD－07 36－99	坏 土師	口径 13.5 器高 4.4 底径 6.3 口縁部1/2~底部完	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/3 にぶい褐 (内)10Y2/1 黒	平底 丸みのある体部 口縁部はわずかに外反する	(外) ロクロナデ　底部回転糸切り　体部下位回転ヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－100	坏 土師	口径(13.5) 器高 4.7 底径 5.3 口縁部1/3~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)N2/黒	平底 直線的に開く体部より折れて外反する口縁部に至る	(外) 底部回転糸切り 体部下半ケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－101	坏 土師	口径 12.3 器高 4.0 底径 5.7 口縁部1/2~底部完	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)2.5YR5/6 明赤褐 (内)7.5YR2/1 黒	平底 丸みのある体部よりゆるく外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切りの後ヘラ調整 (内) 黒色処理
SD－07 36－102	坏 土師	口径(12.6) 器高 4.1 底径 5.1 1/3	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)N2/黒	上げ底ぎみの底部 浅く丸みのある体部より外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－103	坏 土師	口径(13.2) 器高 3.9 底径 6.0 1/4	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)N2/黒	平底 丸みのある体部より折れて外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－104	坏 土師	口径(13.5) 器高 3.9 底径 4.7 1/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)N2/黒	上げ底ぎみの底部 丸みのある体部より外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－105	坏 土師	口径(12.0) 器高 3.6 底径 5.7 口縁部一部~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	平底 直線的に開く体部よりわずかに折れて口縁部に至る	(外) ロクロナデ　底部回転糸切り　窯印有り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－106	坏 土師	口径(13.3) 器高 4.2 底径 5.2 口縁部一部~底部完	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	上げ底ぎみの底部 丸みのある体部よりわずかに外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切りの後ヘラ調整 (内) ていねいなミガキ 黒色処理
SD－07 36－107	坏 土師	口径(12.8) 器高 4.0 底径 (5.3) 口縁部~底部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)10YR8/3浅黄橙 (内)2.5Y8/2淡黄~N3/ 暗灰	平底 口縁部はゆるく外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ　剥落 黒色処理
SD－07 36－108	坏 土師	口径 12.5 器高 4.0 底径 5.6 口縁部1/4~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ　底部回転糸切り　体部下半回転ヘラケズリ (内) ミガキ中央タテミガキ　口縁部ヨコミガキ　黒色処理

第 15 表　土器観察表 (9)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 36－ 109	坏 土師	口径(13.4) 器高 4.5 底径 7.1 1/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)N2/黒	上げ底ぎみの大きめの底部 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り 体部下半ケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－ 110	坏 土師	口径(13.0) 器高 4.5 底径 (5.0) 1/4	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y7/2灰黄 (内)5G2/1緑黒	平底 丸みのある体部	(外) 底部手持ちヘラケズリ 口縁部ナデ (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－ 111	坏 土師	口径(12.0) 器高 4.0 底径 4.8 口縁部3/4~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)N3/暗灰	丸みのある体部よりそのまま口縁部に至る	(外) ロクロナデ 体部下部手持ちヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－ 112	坏 土師	口径(14.0) 器高 4.1 底径 6.1 口縁部一部~底部完	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/3 にぶい褐 (内)N2/黒	平底 丸みのある体部よりわずかに外反して口縁部に至る	(外) 底部回転糸切りの後ヘラ調整 (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－ 113	坏 土師	口径 13.3 器高 4.8 底径 5.7 2/3	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/2 灰褐 (内)N2/黒	平底 丸みのある体部よりそのまま口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－ 114	坏 土師	口径(13.2) 器高 4.2 底径 5.9 口縁部~底部1/4	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/2 明褐灰 (内)N1.5/黒	平底 丸みのある体部 内湾ぎみの口縁部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切りの後ヘラ調整 (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－ 115	坏 土師	口径(12.4) 器高 4.1 底径 6.0 口縁部1/3~底部完	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y2/1黒~10YR7/2にぶい黄橙 (内)7.5Y2/1黒	丸みのある体部	(外) 体部下半回転ヘラケズリ 口縁部ロクロナデ 底部転糸切り (内) ミガキ中心放射状 口縁部ヨコミガキ 付着物有り 黒色処理
SD－07 36－ 116	坏 土師	口径 12.3 器高 4.1 底径 5.1 ほぼ完存	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)10YR2/1黒	平底 丸みのある体部よりそのまま口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) 黒色処理
SD－07 36－ 117	坏 土師	口径(13.3) 器高 3.7 底径 5.7 口縁部~底部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)N3/暗灰		(外) ロクロナデ 体部下半ケズリ 底部回転糸切りの後ヘラ調整 (内) 黒色処理
SD－07 36－ 118	坏 土師	口径 13.6 器高 4.1 底径 6.5 ほぼ完存	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N3/暗灰	上げ底ぎみの底部 直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－ 119	坏 土師	口径(13.7) 器高 4.0 底径 5.4 口縁部一部~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/2 灰褐 (内)N4/灰	上げ底ぎみの底部 直線的に開いてそのまま口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－ 120	坏 土師	口径(13.5) 器高 3.9 底径 6.0 口縁部1/3~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)10Y2/1 黒	上げ底ぎみの平底	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 36－ 121	坏 土師	口径(12.4) 器高 4.2 底径 6.0 口縁部1/3~底部完	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)5Y2/1黒~7.5YR7/2明褐灰	平底 体部下位に張りをもち直線的に開く	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) 黒色処理 剥落
SD－07 36－ 122	坏 土師	口径 13.6 器高 4.2 底径 7.1 ほぼ完存	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)N2/黒	平底 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 37－ 123	坏 土師	口径(12.5) 器高 4.3 底径 5.4 口縁部一部~底部完	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5Y2/1黒	平底 丸みのある体部よりそのまま口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 37－ 124	坏 土師	口径 12.7 器高 4.3 底径 6.1 1/2	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/4 にぶい赤褐 (内)7.5YR3/1 黒褐	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) 口縁部ヨコナデ 黒色処理

第 16 表　土器観察表(10)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 37－ 125	坏 土師	口径(14.0) 器高 4.3 底径 6.8 口縁部~底部1/2	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)7.5Y2/1黒~10YR7/1灰白	平底 直線的に開いてそのまま口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理　剥落
SD－07 37－ 126	坏 土師	口径(13.1) 器高 3.6 底径 6.3 口縁部一部~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)N2/　黒	平底 直線ぎみに開く体部より口縁部に至る	(外) ナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 4条の放射状の暗紋 黒色処理
SD－07 37－ 127	坏 土師	口径(12.5) 器高 3.7 底径 (6.3) 口縁部~底部2/3	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/2にぶい黄橙 (内)N3/　暗灰	平底 丸みのある体部よりわずかに外反して口縁部に至る	(外) ヨコナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ　中央部放射状、口縁部ヨコミガキ　黒色処理
SD－07 37－ 128	坏 土師	口径(13.7) 器高 3.9 底径 6.2 口縁部1/2~底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙~3/1黒褐 (内)5Y2/1黒	丸みのある体部 上げ底ぎみの底部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ　ミガキ 黒色処理
SD－07 37－ 129	坏 土師	口径 12.4 器高 4.1 底径 5.8 口縁部~底部1/2	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)N2/黒	平底	(外) ロクロナデ 底部回転糸切りの後ヘラ調整 (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 37－ 130	坏 土師	口径 12.1 器高 4.0 底径 5.3 ほぼ完存	胎；石英、白砂粒、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/3 にぶい橙~N4/灰 (内)N4/灰	平底 口縁部でわずかに内側に折れる	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) 黒色処理
SD－07 37－ 131	坏 土師	口径(13.4) 器高 3.6 底径 6.0 口縁部一部~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)2.5GY2/1 黒	平底 直線的に開く体部より口縁部に至る	(外) ナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 37－ 132	坏 土師	口径 12.8 器高 4.1 底径 5.6 口縁部3/4~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3にぶい橙~N4/灰 (内)N4/灰	平底 丸みのある体部	(外) ロクロ目が強く残る 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 37－ 133	坏 土師	口径 13.4 器高 4.1 底径 5.1 口縁部1/2~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)2.5GY2/1 黒	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切りの後ヘラ調 (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 37－ 134	坏 土師	口径(12.7) 器高 4.0 底径 (5.0) 口縁部~底部3/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/3 浅黄橙 (内)N3/暗灰	平底 直線的に大きく開く体部	(外) ロクロ目が強く残る 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 37－ 135	坏 土師	口径 13.5 器高 4.9 底径 5.5 口縁部1/3~底部完	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)N2/黒	平底 直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 37－ 136	坏 土師	口径 14.5 器高 4.6 底径 6.5 口縁部~底部1/2	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)7.5YR3/1 黒褐	上げ底ぎみの底部 直線的に開く体部よりそのまま口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) 黒色処理
SD－07 37－ 137	坏 土師	口径 12.8 器高 3.5 底径 6.4 ほぼ完存	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR3/1 黒褐	直線的な体部より口縁部は、わずかに外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 37－ 138	坏 土師	口径(12.5) 器高 3.6 底径 6.9 口縁部~底部1/3	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR2/1 黒	平底 浅く直線的に開く体部	(外) ロクロナデ (内) ミガキ 黒色処理　付着物あり
SD－07 37－ 139	坏 土師	口径(12.3) 器高 3.5 底径 (5.2) 口縁部~底部1/4	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR3/1 黒褐	平底 大きく直線的に開く体部	(外) 体部下半から底部へラケズ (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 37－ 140	坏 土師	口径 12.1 器高 4.0 底径 5.0 口縁部2/3~底部完	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)7.5YR2/1 黒	平底 丸みのある体部より折れて外反する口縁部に至る	(外) ロクロナデ　体部下半ケズ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理

第 17 表　土器観察表 (11)

遺構NO 図版	器種 NO種	法量 類残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 37－ 141	坏 土師	口径(12.5) 器高 4.2 底径 5.7 口縁部1/4~底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5Y2/1黒	平底 張りのある体部より外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 37－ 142	坏 土師	口径(11.3) 器高 3.5 底径 4.4 口縁部一部~底部	胎；細砂粒 焼；良好 色；(外)N2/黒～7.5YR3/1黒褐 (内)N2/黒～7.5YR5/1褐灰	平底 直線的に開く体部よりそのまま口縁部に至る 内外面におびただしい量の付着物あり	(外) 口縁部ヨコナデ 底部回転糸切り (内) 口縁部ヨコナデ 黒色処理
SD－07 37－ 143	坏 土師	口径(13.2) 器高 4.0 底径 6.6 口縁部1/4~底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR8/3浅黄橙 (内)N2/黒	平底 張りのない体部よりそのまま口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 37－ 144	坏 土師	口径(15.6) 器高 4.2 底径 6.6 口縁部~底部1/3	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)10YR2/1黒	上げ底ぎみの底部 浅く直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 中央部は放射状、口縁部ヨコミガキ 黒色処理
SD－07 37－ 145	坏 土師	口径 12.4 器高 3.1 底径 5.4 ほぼ完存	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N3/暗灰 (内)N3/暗灰	浅い体部 口縁部は外反する 上げ底ぎみの底部	(外) ロクロナデ (内) 付着物あり 黒色処理
SD－07 37－ 146	坏 土師	口径(14.5) 器高 3.3 底径 6.2 口縁部一部~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)N3/暗灰	上げ底ぎみの底部 浅い体部	(外) 底部回転糸切り (内) 黒色処理
SD－07 37－ 147	坏 土師	口径 12.7 器高 4.6 底径 5.6 ほぼ完存	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	上げ底ぎみの底部	(外) ロクロナデ 体部下半回転ヘラケズリ 底部回転糸切り (内) 6条の放射状ヘラミガキによる暗文を施す 黒色処理
SD－07 37－ 148	坏 土師	口径 13.0 器高 4.6 底径 5.6 ほぼ完存	胎；石英、礫、白砂粒、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 橙～N3/1オリーブ黒 (内)N3/1 オリーブ黒	上げ底ぎみの底部 丸みのある体部よりゆるく外反する口縁部に至る	(外) ヨコナデ 体部大半はケズリ 底部回転糸切り (内) 4条の放射状の暗文を施す 黒色処理
SD－07 37－ 149	坏 土師	口径(13.5) 器高 3.7 底径 5.0 口縁部一部~底部完	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	上げ底ぎみの底部 丸みのある体部より内湾して口縁部に至る	(外) 体部下半ヘラケズリ 底部回転糸切り (内) 4条の放射状ヘラミガキによる暗文を施す 黒色処理
SD－07 37－ 150	坏 土師	口径(14.0) 器高 4.0 底径 6.3 口縁部一部~底部完	胎；石英、長石、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)N2/黒	平底 丸みがあって大きく開く体部	(外) 底部回転糸切りの後ヘラ調整 (内) 4条の放射状の暗文を施す 黒色処理
SD－07 37－ 151	坏 土師	口径(14.9) 器高 4.0 底径 6.5 口縁部一部~底部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)N2/黒~2.5YR6/4にぶい橙	平底	(外) 底部回転糸切り (内) ミガキ 5条の放射状ヘラミガキによる暗文を施す 黒色処理
SD－07 37－ 152	坏 土師	口径(13.1) 器高 3.3 底径 6.5 口縁部1/4~底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR8/1灰白 (内)7.5YR1.7/1 黒	平底 体部は浅く丸みがある	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 6条の放射状の暗文を施す 黒色処理
SD－07 38－ 153	坏 土師	口径 15.8 器高 4.8 底径 8.2 口縁部~底部1/2	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N3/暗灰	平底 大型の坏 丸みのある体部	(外) 底面手持ちヘラケズリ (内) ていねいなミガキ 黒色処理
SD－07 38－ 154	坏 土師	口径(17.8) 器高 5.6 底径 6.4 口縁部一部~底部一部	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N3/暗灰	平底 大型の坏 大きく開く丸みのある体部よりわずかに外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ ケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 38－ 155	坏 土師	口径(15.6) 器高 5.5 底径 6.6 口縁部~底部3/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	上げ底ぎみの底部 大型の坏 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 体部下半ヘラケズリ 底部回転糸切りの後ヘラ調整 (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 38－ 156	坏 土師	口径(16.5) 器高 4.9 底径 (6.6) 口縁部~底部1/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR6/3 にぶい橙 (内)2.5GY2/1 黒	大型の坏 平底 体部下位が張る 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内) ミガキ 黒色処理

第 18 表　土器観察表（12）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 38－ 157	坏 土師	口径(18.0) 器高 5.2 底径 7.0 口縁部一部~底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)N3/暗灰	大型の坏 平底 丸みを持って大きく開く体部	(外) ロクロナデ 底部に窯印有り 底部回転糸切り (内) 付着物あり 黒色処理
SD－07 38－ 158	坏 土師	口径(18.6) 器高 5.8 底径 8.2 口縁部一部~底部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR6/6 橙 (内)N2/黒	大型の坏 平底 直線的に開く体部	(外) 体部下半ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 38－ 159	坏 土師	口径 16.8 器高 5.0 底径 6.1 口縁部~底部1/2	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)N3/暗灰	大型の坏 上げ底ぎみの底部 張りのある体部 口縁部の端で小さく外反する	(外) 体部下半ヘラケズリ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 38－ 160	坏 土師	口径(18.5) 器高 6.0 底径 (7.7) 口縁部~底部1/3	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)N2/黒	大型の坏 平底	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ていねいなミガキ 黒色処理
SD－07 38－ 161	坏 土師	口径(13.9) 器高 2.6 底径 5.4 口縁部一部~底部完	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	Ⅲ型 上げ底ぎみの底部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) 黒色処理
SD－07 38－ 162	坏 土師	口径(12.8) 器高 2.0 底径 7.0 口縁部~底部1/3	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)N2/黒	Ⅲ型 平底 底部より大きく開き口縁部の先端で折れて立つ	(外) ナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 38－ 163	椀 土師	口径 14.4 器高 6.2 底径 5.9 口縁部2/3~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)2.5GY5/1 オリーブ灰	高台を付す 深く直線的に開く体部	(外) ロクロナデ (内) 坏部黒色処理
SD－07 38－ 164	椀 土師	口径(15.0) 器高 5.0 底径 8.0 口縁部一部~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)N2/黒	高台を付す 体部は浅く直線的に開き外傾の角度は小さい	(外) 口縁部ヨコナデ (内) ミガキ 中央放射状 口縁ヨコミガキ 坏部黒色処理
SD－07 38－ 165	椀 土師	口径(14.4) 器高 5.0 底径 7.0 口縁部1/2~底部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい橙 (内)N3/暗灰	高台を付す 浅く大きく開く体部	(外) ロクロナデ 体部下半ケズリ (内) ミガキ 坏部黒色処理
SD－07 38－ 166	椀 土師	口径(14.8) 器高 5.2 底径 6.9 口縁部1/2~底部完	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/6 橙 (内)N3/暗灰~10YR7/2にぶい黄橙	高台を付す 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 体部下半ケズリ (内) 坏部黒色処理
SD－07 38－ 167	椀 土師	口径 13.1 器高 6.0 底径 7.0 口縁部一部~底部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)10YR2/1黒	高台を付す 体部の傾きは小さい 高台は高めである	(外) 口縁部ロクロナデ (内) 坏部黒色処理
SD－07 38－ 168	椀 土師	口径(15.0) 残高 3.5 底径 (9.1) 体部1/4	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)N2/黒	高台を付す 浅く直線的に開く体部	(外) ロクロナデ (内) 坏部黒色処理
SD－07 38－ 169	椀 土師	口径(15.8) 器高 4.7 底径 7.0 口縁部1/2~底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)N2/黒	高台を付す 浅く丸みをもって大きく開く体部 粗っぽいつくり	(外) ロクロナデ (内) 坏部黒色処理
SD－07 38－ 170	椀 土師	口径 14.4 残高 4.6 底径 － 体部2/3	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/6 橙 (内)N2/黒	丸みのある体部 口縁部はわずかに外反する 高台痕	(外) ロクロナデ ケズリ (内) ミガキ 坏部黒色処理
SD－07 38－ 171	椀 土師	口径 15.4 器高 5.3 底径 7.7 口縁部~底部3/4	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)N2/黒	高台を付す 丸みをもった体部より口縁部の先端で外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) 坏部黒色処理
SD－07 38－ 172	椀 土師	口径(16.4) 器高 4.7 底径 (8.0) 口縁部一部~底部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR8/2灰白~5/2灰黄褐 (内)N3/暗灰	高台を付す 体部は浅めで丸みがある 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内) 付着物あり 坏部黒色処理

第 19 表　土器観察表（13）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 38－ 173	椀 土師	口径(15.9) 器高 4.4 底径 6.2 口縁部一部~底部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/3 にぶい橙 (内)N2/黒	高台を付す	(外) ロクロナデ ロクロ目がつよく残る (内) 口縁部ミガキ（ヨコ） 坏部黒色処理
SD－07 38－ 174	椀 土師	口径(14.3) 器高 4.9 底径 (5.5) 口縁部1/2~底部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)N3/暗灰	高台を付す 体部下位に張りがある	(外) ロクロナデ 体部下半ヘラケズリ (内) ミガキ 坏部黒色処理
SD－07 38－ 175	椀 土師	口径 14.2 器高 5.4 底径 6.7 口縁部1/2~底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)N3/暗灰	高台を付す 体部は張っている 高台の断面は四角形を呈する	(外) 口縁部ロクロナデ 底部回転糸切り (内) 口縁部ロクロナデ　剥落 坏部黒色処理
SD－07 39－ 176	椀 土師	口径(16.4) 器高 6.6 底径 7.9 口縁部一部~底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/3 浅黄橙 (内)N1.5/黒	高台を付す 張りのある体部 口縁部の先端でわずかに外反する	(外) ロクロナデ (内) ミガキ 坏部黒色処理
SD－07 39－ 177	椀 土師	口径 14.7 器高 6.1 底径 6.2 口縁部1/3~底部完	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N3/暗灰	高台を付す 深めで丸みのある体部	(外) 口縁部ヨコナデ (内) 坏部黒色処理
SD－07 39－ 178	椀 土師	口径(14.7) 器高 6.0 底径 (6.5) 口縁部1/4~底部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/3 浅黄橙 (内)N3/暗灰	高台を付す 体部に張りがある 口縁部は先端で外反する	(外) ロクロナデ (内) ミガキ 坏部黒色処理
SD－07 39－ 179	椀 土師	口径(14.4) 残高 4.0 底径 (6.0) 口縁部~体部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/3 にぶい褐 (内)N3/暗灰	体部は丸みをもち、口縁部は外反する 高台痕	(外) ロクロナデ (内) ミガキ 坏部黒色処理
SD－07 39－ 180	椀 土師	口径 12.1 器高 5.3 底径 5.4 口縁部~底部1/2	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/2にぶい黄橙 (内)10YR4/1褐灰	高台を付す 丸みのある体部、口縁部先端で外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 坏部黒色処理
SD－07 39－ 181	椀 土師	口径 (9.9) 器高 4.1 底径 5.5 口縁部~底部1/4	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/2灰黄褐 (内)N3/暗灰	高台を付す 小型の椀	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ　付着物あり 坏部黒色処理
SD－07 39－ 182	椀 土師	口径 － 残高 4.6 底径 6.1 体部一部~底部完	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)N2/黒	高台を付す	(外) ロクロナデ (内) 放射状の暗文を施す 坏部黒色処理
SD－07 39－ 183	椀 土師	口径 － 残高 5.2 底径 10.2 体部~底部3/4	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N2/黒 (内)N2/黒	高台を付す	(外) ミガキ 黒色処理 (内) ていねいなミガキ 黒色処理
SD－07 39－ 184	椀 土師	口径 － 残高 3.3 底径 9.0 底部のみ	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N2/黒 (内)N2/黒	高台を付す	(外) ナデ 黒色処理 (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 39－ 185	Ⅲ 土師	口径 12.7 器高 3.3 底径 6.3 口縁部1/2~底部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/4 にぶい赤褐 (内)N2/黒	高台を付す 浅い体部	(外) (内) 口縁部ロクロナデ 坏部黒色処理
SD－07 39－ 186	Ⅲ 土師	口径(12.2) 残高 2.1 底径 － 口縁部~体部1/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)N2/黒	体部は浅く大きく開き内湾する 高台痕	(外) (内) 坏部黒色処理
SD－07 39－ 187	Ⅲ 土師	口径 12.0 残高 2.7 底径 (7.3) 口縁部~体部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)10YR2/ 黒	浅い体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 坏部黒色処理
SD－07 39－ 188	Ⅲ 土師	口径(12.8) 器高 2.9 底径 (6.8) 口縁部~底部1/2	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/3 にぶい褐 (内)N3/暗灰	高台を付す 体部は浅く口縁部は外反する	(外) 口縁部ロクロナデ 体部下半回転ヘラケズリ (内) 口縁部ミガキ（ヨコ） 坏部黒色処理

第20表　土器観察表(14)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 39－ 189	皿 土師	口径(13.6) 残高 2. 底径 (8.2) 口縁部～体部1/3	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；口縁部は外反する 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR3/1 黒褐	浅い体部 高台痕	(外) ロクロナデ (内) 付着物あり 坏部黒色処理
SD－07 39－ 190	皿 土師	口径(13.0) 器高 2.9 底径 (5.8) 口縁部～底部1/2	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N2/黒 (内)N2/黒	高台を付す 浅い体部	(外) ケズリ ミガキ 黒色処理 (内) ロクロナデ 黒色処理
SD－07 39－ 191	耳皿 土師	口径 (9.6) 残高 2.8 底径 (3.5) 一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5GY2/1 黒 (内)2.5GY2/1 黒	耳皿	(外) ていねいなミガキ 黒色処理 (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 39－ 192	鉢 土師	口径(26.5) 器高 9.6 底径(10.0) 口縁部～底部2/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)N2/黒	上げ底ぎみの底部 体部は丸みをもって開く	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ロクロナデ 黒色処理
SD－07 39－ 193	ミニチュア 土師	口径 － 残高 1.4 底径 3.2 底部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N3/暗灰 (内)N3/暗灰	小型 ロクロ作りと思われる	(外) 黒色処理 (内) 黒色処理
SD－07 39－ 194	盤 土師	口径 － 残高 6.8 裾径(17.6) 脚部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)10YR7/4にぶい黄橙	脚台	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 39－ 195	盤 土師	口径 － 残高 7.2 裾径(18.6) 脚部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)5YR5/4 にぶい褐	脚台	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 39－ 196	盤 土師	口径 － 残高 7.0 裾径 － 接合部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)5YR6/8 橙	脚部４カ所にヘラ状工具による「＋」字の孔を有する 内面に付着物あり	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 40－ 197	盤 土師	口径 － 残高 7.5 裾径 － 脚部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/4 浅黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	脚部に３カ所の円型の透かしを有する	(外) ケズリ ナデ (内) ケズリ ナデ
SD－07 40－ 198	盤 土師	口径 － 残高(11.6) 裾径 － 接合部4/5～脚部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/6 橙 (内)2.5YR6/8 橙～N4/ 灰	高い脚台	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 40－ 199	盤 土師	口径 － 残高 4.3 裾径 － 接合部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/8 橙 (内)5YR6/8 橙		(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 40－ 200	蓋 須恵	抓み径3.6 残高 2.7 裾径 － 抓み部2/3～天井部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/1灰 (内)10YR6/1灰	抓み部の接合部はくびれる	(外) 回転ヘラケズリ ナデ (内) ナデ
SD－07 40－ 201	蓋 須恵	抓み径3.4 残高 1.8 裾径 － 抓み部～天井部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N6/灰 (内)N6/灰		(外) (内)
SD－07 40－ 202	蓋 須恵	抓み径3.2 残高 2.3 裾径 － 抓み部ほぼ完存	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)7.5YR7/3 にぶい橙	偏平な宝珠形の抓み	(外) (内) ミガキ
SD－07 40－ 203	蓋 須恵	抓み径3.1 残高 1.9 裾径 － 抓み部～天井部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)N5/灰		(外) (内)
SD－07 40－ 204	蓋 須恵	抓み径3.2 残高 1.4 裾径 － 抓み部ほぼ完存	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N4/灰		(外) (内)

第 21 表　土器観察表（15）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 40－ 205	蓋 須恵	抓み径3.4 残高 2.4 裾径 － 抓み部～天井部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y4/2灰褐~N1.5/黒 (内)N1.5/黒	抓み部接合部はくびれが小さい	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 40－ 206	蓋 須恵	抓み径1.7 残高 1.7 裾径 － 抓み部～天井部1/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N5/灰～N4/ 灰 (内)N5/灰～N4/ 灰	抓み部の突出は小さく、接合部はくびれが小さい	(外) ヘラケズリ ナデ (内) ナデ
SD－07 40－ 207	蓋 須恵	抓み径－ 残高 1.2 裾径(16.0) 一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰～N7/ 灰白 (内)N5/灰	口縁部端部はやや外側へ開きぎみに折れる	(外) (内) ナデ
SD－07 40－ 208	蓋 須恵	抓み径－ 残高 3.0 裾径(15.8) 天井部～縁部1/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰～N6/ 灰 (内)N4/灰～N6/ 灰	口縁部端部が「く」字状に屈曲する	(外) ヘラケズリ ナデ (内) ナデ
SD－07 40－ 209	蓋 須恵	抓み径－ 残高 1.9 裾径(17.6) 一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/3にぶい褐～5/1 褐灰 (内)5YR5/3にぶい褐～5/1 褐灰	口縁部端部が「く」字状に屈曲する	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 40－ 210	坏 須恵	口径(14.8) 器高 4.1 底径 (9.4) 口縁部一部～底部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y4/1黄灰 (内)2.5YR4/1 黄灰	上げ底ぎみの底部 直線的に開く体部	(外) 底部ヘラ切り (内) ナデ
SD－07 40－ 211	坏 須恵	口径(12.2) 器高 3.7 底径 (6.2) 口縁部～底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5GY5/1 オリーブ灰 (内)2.5GY5/1 オリーブ灰	上げ底ぎみの底部 直線的な体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 40－ 212	坏 須恵	口径(13.6) 器高 3.9 底径(18.4) 一部	胎；礫、白砂粒、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y5/1 灰～N3/ 暗灰 (内)10Y5/1 灰～N3/ 暗灰	直線的に開く体部	(外) ナデ 底部回転糸切り (内) 火襷あり
SD－07 40－ 213	坏 須恵	口径(14.0) 器高 3.4 底径 (7.8) 一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR5/2灰黄褐～N5/ 灰 (内)10YR5/2灰黄褐～N5/ 灰	直線的に開く体部	(外) 底部ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SD－07 40－ 214	坏 須恵	口径(13.0) 器高 3.6 底径 (7.0) 口縁部～底部1/3	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N5/灰～N3/ 暗灰 (内)N5/灰～N3/ 暗灰	体部の外傾は大きくない	(外) ロクロナデ 底部ヘラケズリ (内) ロクロナデ 火襷あり
SD－07 40－ 215	坏 須恵	口径(13.6) 器高 3.8 底径 (7.6) 口縁部～底部1/2	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N6/灰～N4/ 灰 (内)N6/灰～N4/ 灰	上げ底ぎみの底部 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 40－ 216	坏 須恵	口径(12.8) 器高 3.7 底径 6.4 口縁部一部～底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5GY6/1 オリーブ灰 (内)2.5GY6/1 オリーブ灰	平底 大きく開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ 火襷あり
SD－07 40－ 217	坏 須恵	口径 14.8 器高 4.4 底径 6.4 口縁部～底部1/3	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/4にぶい黄橙 (内)10YR7/4にぶい黄橙	平底 体部は直線的に開く	(外) 底部回転糸切り (内) ロクロナデ 火襷あり
SD－07 40－ 218	坏 須恵	口径 13.4 器高 3.5 底径 6.6 ほぼ完存	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/3にぶい黄橙~N3/暗 (内)10YR6/3にぶい黄橙~N3/暗	上げ底ぎみの底部 体部は大きく傾く	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ 火襷あり
SD－07 40－ 219	坏 須恵	口径(13.4) 器高 3.7 底径 (7.0) 口縁部～底部1/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/2灰褐~10YR5/1 褐灰 (内)10YR4/1褐灰	上げ底ぎみの底部 直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 40－ 220	坏 須恵	口径(15.2) 器高 3.7 底径 (8.4) 口縁部1/2~底部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4にぶい橙~10YR6/1 褐 (内)2.5Y6/2灰黄	直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ

第 22 表　土器観察表（16）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 40－ 221	坏 須恵	口径(13.4) 器高 3.8 底径 (6.6) 口縁部一部～底部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)N5/灰	上げ底ぎみの底部 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 40－ 222	坏 須恵	口径(14.4) 器高 3.6 底径 (8.4) 口縁部～底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N6/灰 (内)2.5Y5/1黄灰	大きく開く体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 40－ 223	坏 須恵	口径 14.6 器高 3.7 底径 7.6 口縁部1/3～底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y6/1 灰 (内)10Y6/1 灰	上げ底ぎみの底部 大きく開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ 火襷あり
SD－07 40－ 224	坏 須恵	口径 13.6 器高 3.7 底径 6.6 口縁部1/2～底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y5/1 灰 (内)10Y5/1 灰	上げ底ぎみの底部 大きく開く体部	(外) ロクロ目が強く残る 底部回転糸切り (内) ナデ 火襷あり
SD－07 40－ 225	坏 須恵	口径(13.8) 器高 3.7 底径 6.8 口縁部1/3～底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5GY7/1 明オリーブ灰 (内)2.5GY7/1 明オリーブ灰	平底 大きく開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内)
40－07 40－ 226	坏 須恵	口径(14.4) 器高 3.4 底径 (7.2) 一部	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/3にぶい橙~N5/灰 (内)10YR6/3にぶい橙~N5/灰	丸みをもって大きく開く体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 火襷あり
SD－07 40－ 227	坏 須恵	口径(14.4) 器高 3.7 底径 (7.0) 口縁部～底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N6/灰 (内)N5/灰	少し丸みをもって開く体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 40－ 228	坏 須恵	口径(12.8) 器高 3.5 底径 5.6 口縁部一部～底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5GY6/1 オリーブ灰 (内)2.5GY6/1 オリーブ灰	平底 大きく傾く体部 薄手	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ 火襷あり
SD－07 40－ 229	坏 須恵	口径 13.8 器高 3.5 底径 6.8 口縁部～底部2/3	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N7/灰白～N3/ 暗灰 (内)N7/灰白～N4/ 灰	上げ底ぎみの底部 大きく傾く体部 厚め	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 41－ 230	坏 須恵	口径 10.6 残高 4.1 底径 － 口縁部～体部はぼ完存	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N6/灰～N5/ 灰 (内)N6/灰～N5/ 灰	箱形の体部 口縁部はわずかに外反する 高台痕	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 41－ 231	坏 須恵	口径 10.0 器高 4.1 底径 6.2 口縁部2/3～底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N6/灰～N4/ 灰 (内)N6/灰～N4/ 灰	高台を付す 箱形の体部 口縁部はわずかに外反する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 41－ 232	坏 須恵	口径(15.6) 器高 3.7 底径(11.0) 口縁部一部～底部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5GY5/1 緑灰 (内)7.5GY5/1 緑灰	高台を付す 箱形の体部 重ね焼	(外) 底部へラケズリ (内) ナデ
SD－07 41－ 233	坏 須恵	口径(16.0) 器高 4.0 底径(11.6) 口縁部一部～底部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)N5/灰	高台を付す 箱形の体部	(外) 底部へラケズリ (内) 口縁部ナデ
SD－07 41－ 234	坏 須恵	口径 － 残高 5.2 底径 8.6 体部一部～底部完存	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N3/暗灰～N5/ 灰 (内)N5/灰	高台を付す 箱形の体部	(外) 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 41－ 235	坏 須恵	口径(13.5) 器高 3.5 底径 － 口縁部～体部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰 (内)7.5Y5/1灰		(外) ロクロナデ 底部周縁へ ラケズリ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 41－ 236	坏 須恵	口径(12.8) 器高 4.2 底径 7.6 口縁部～底部1/2	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰 (内)7.5Y5/1灰	上げ底ぎみの底部 箱形の体部	(外) ロクロナデ 底部周辺へ ラケズリ 底部回転糸切り (内)

第 23 表　土器観察表（17）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 41－ 237	坏 須恵	口径(14.0) 器高 3.6 底径 7.0 口縁部一部～底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5GY7/1 明オリーブ灰 (内)2.5GY7/1 明オリーブ灰	上底ぎみの底部 箱形の体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り後底部周辺ヘラケズリ (内) 火襷あり
SD－07 41－ 238	鉢 須恵	口径(23.2) 残高 14.5 底径 － 口縁部～胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)5Y4/1灰	緩く締まる頸部より外反して口縁部に至る	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 41－ 239	鉢 須恵	口径(22.5) 器高 12.0 底径 (9.8) 口縁部～底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y5/1 灰 (内)10Y5/1 灰	平底より立上がり、体部上位で張り内湾して口縁部に至る 口唇部は面取りが施される	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 41－ 240	椀 灰釉	口径(18.6) 器高 5.7 底径 (8.6) 口縁部～底部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y7/1 灰白 (内)10Y7/1 灰白	高台を付す 丸みのある体部 外反する口縁部 重ね焼 刷毛塗り	(外) ロクロナデ 体部下位回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 41－ 241	椀 灰釉	口径(13.0) 器高 2.8 底径 6.6 口縁部1/2～底部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)N7/灰白 (内)N7/灰白	高台を付す 浅めの丸みのある体部 漬け掛け	(外) ロクロナデ 体部下位回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 41－ 242	椀 灰釉	口径(22.0) 残高 5.3 底径 － 口縁部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y8/1灰白～5Y7/1 灰白 (内)5Y8/1灰白～5Y7/1 灰白	大きく開き丸みのある体部 漬け掛け 高台痕	(外) ロクロナデ 体部下半回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 41－ 243	椀 灰釉	口径(18.0) 器高 6.0 底径 (8.6) 口縁部～底部1/2	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)N7/灰白 (内)N7/灰白	高台を付す 丸みのある体部 漬け掛け	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 41－ 244	椀 灰釉	口径 － 残高 4.7 底径 8.0 底部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y7/2灰白～5Y7/1 灰白 (内)5Y7/2灰白~5Y7/1灰白	高台を付す	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 41－ 245	椀 灰釉	口径 － 残高 2.7 底径 (7.0) 底部1/2	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y7/灰白~2.5Y6/2 灰黄 (内)7.5Y6/1灰白~2.5Y6/2灰黄	高台を付す 刷毛塗り 重ね焼き	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 猿投
SD－07 41－ 246	Ⅲ 灰釉	口径(14.6) 器高 2.1 底径 (8.2) 口縁部～底部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y6/1黄灰 (内)2.5Y6/1黄灰	段Ⅲ 高台を付す 刷毛塗り	(外) ロクロナデ 体部下半回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 41－ 247	Ⅲ 灰釉	口径 14.1 器高 2.9 底径 7.0 口縁部～底部2/3	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y7/1灰白~2.5Y6/1黄灰 (内)2.5Y7/1灰白~2.5Y6/1黄灰	段Ⅲ 高台を付す 体部内面に段を有する 漬け掛け	(外) ロクロナデ 回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ回転ヘラケズリ 東濃
SD－07 41－ 248	Ⅲ 灰釉	口径(13.2) 器高 2.8 底径 (6.6) 口縁部～底部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y6/2ｵﾘｰﾌﾞ灰～N7/ 灰白 (内)10Y6/2ｵﾘｰﾌﾞ灰～N7/ 灰白	高台を付す 浅い体部 漬け掛け	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 41－ 249	Ⅲ 灰釉	口径(15.0) 器高 2.7 底径 (8.0) 一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y6/2灰ｵﾘｰﾌﾞ~N7/ 灰白 (内)7.5Y6/2灰ｵﾘｰﾌﾞ~N7/ 灰白	高台を付す 浅い体部 漬け掛け	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 41－ 250	Ⅲ 灰釉	口径(14.2) 器高 3.0 底径 (8.0) 一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y7/1灰白～5Y7/2 灰白 (内)5Y7/1灰白～5Y7/2 灰白	高台を付す 浅い体部 漬け掛け	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 41－ 251	Ⅲ 灰釉	口径(13.8) 器高 2.9 底径 7.2 口縁部一部～底部完	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5GY6/1ｵﾘｰﾌﾞ灰～7/1灰白 (内)2.5GY6/1ｵﾘｰﾌﾞ灰～7/1灰白	高台を付す 浅い体部 漬け掛け	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 猿投
SD－07 41－ 252	Ⅲ 灰釉	口径(12.8) 器高 2.6 底径 (6.6) 口縁部～底部1/4	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y7/1灰白 (内)5Y7/1灰白	高台を付す 浅い体部 漬け掛け	(外) ロクロナデ ケズリ (内) ロクロナデ 東濃

第 24 表　土器観察表（18）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 42－ 253	Ⅲ 灰釉	口径(13.4) 器高 2.6 底径 6.2 口縁部一部～底部完	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y7/1灰白～N7/ 灰白 (内)2.5Y7/1灰白～N7/ 灰白	高台を付す 浅い体部 漬け掛け	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 42－ 254	Ⅲ 灰釉	口径(12.6) 器高 2.8 底径 (7.0) 口縁部～底部1/2	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)N8/灰白～N7/ 灰白 (内)N8/灰白～N7/ 灰白	高台を付す 浅い体部 漬け掛け	(外) ロクロナデ　ケズリ (内) ロクロナデ　ケズリ 東濃
SD－07 42－ 255	Ⅲ 灰釉	口径(12.8) 器高 2.4 底径 (6.8) 口縁部～底部1/4	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)N8/灰白～N7/ 灰白 (内)N8/灰白～N7/ 灰白	高台を付す 浅い体部 漬け掛け	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 42－ 256	Ⅲ 灰釉	口径(13.8) 器高 2.9 底径 6.8 口縁部～底部1/4	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y8/1灰白～7/1 灰白 (内)2.5Y8/1灰白～7/1 灰白	高台を付す 浅い体部 漬け掛け	(外) ロクロナデ　ケズリ (内) ロクロナデ　ケズリ 東濃
SD－07 42－ 257	Ⅲ 灰釉	口径(12.2) 器高 2.3 底径 (6.8) 口縁部一部～底部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y8/1灰白 (内)5Y8/1灰白	高台を付す 浅い体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 42－ 258	Ⅲ 灰釉	口径(12.2) 器高 2.3 底径 (6.4) 口縁部～底部1/3	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y8/1灰白 (内)7.5Y8/1灰白	高台を付す 浅い体部	(外) ロクロナデ 回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 42－ 259	椀 灰釉	口径(17.0) 器高 5.4 底径 (8.4) 口縁部～底部1/4	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y6/1灰 (内)10GY6/1緑灰～5Y6/1 灰	高台を付す 深めで丸みのある体部 口縁部の一部がヘラでつまみ 上げられている	(外) ロクロナデ 体部下位回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ 東濃　輪花椀
SD－07 42－ 260	椀 灰釉	口径(17.0) 残高 3.8 底径 － 口縁部1/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y7/1灰白 (内)5Y7/1灰白	口縁部の一部がヘラでつまみ 上げられている 高台痕	(外) 体部回転ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ (内) ロクロナデ 猿投　輪花椀
SD－07 42－ 261	Ⅲ 灰釉	口径 13.8 器高 2.8 底径 7.2 口縁部3/4～底部完	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y7/1灰白 (内)2.5Y7/1灰白	口縁部に４カ所ヘラで口唇部 を持ち上げている 漬掛け　重ね焼き 高台を付す	(外) ロクロナデ 体部下位回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ 東濃　輪花椀
SD－07 42－ 262	耳Ⅲ 灰釉	口径 (7.6) 器高 2.7 底径 4.7 口縁部1/2～底部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y7/1灰白 (内)5Y6/4ｵﾘｰﾌﾞ黄～6/2ｵﾘｰﾌﾞ灰	平底	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 42－ 263	耳Ⅲ 灰釉	口径 (7.6) 器高 2.7 底径 (4.7) 口縁部～底部3/4	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y7/1灰 (内)5GY6/1 ｵﾘｰﾌﾞ灰 ～5Y7/1灰	平底	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 42－ 264	椀 緑釉	口径(18.5) 残高 4.7 底径 － 口縁部一部	胎；淡黄褐色　軟質 焼；良好 色；釉は淡黄緑色	剥落が激しい	(外) (内) 猿投
SD－07 42－ 265	Ⅲ 緑釉	口径 15.5 残高 1.3 底径 － 口縁部一部	胎；灰白色　硬質 焼；良好 色；釉は淡黄緑色	口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 猿投
SD－07 42－ 266	椀 緑釉	口径 16.3 残高 2.8 底径 － 口縁部一部	胎；灰白色　硬質 焼；良好 色；釉は淡黄緑色		(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 猿投
SD－07 42－ 267	Ⅲ 白磁	口径(15.2) 残高 3.2 底径 － 口縁部一部～体部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y6/2灰オリーブ (内)7.5Y6/2灰オリーブ	丸みのある浅い体部 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内)
SD－07 42－ 268	椀 白磁	口径(14.7) 残高 2.8 底径 － 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/2灰オリーブ (内)7.5Y5/2灰オリーブ	口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 輪花椀

第 25 表　土器観察表（19）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 42－ 269	Ⅲ 白磁	口径(21.6) 残高 1.4 底径 － 口縁部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y6/2 オリーブ灰 (内)10Y6/2 オリーブ灰	口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内)
SD－07 42－ 270	坏 土師	口径 － 残高 1.5 底径 6.8 底部	胎；粗砂粒を多く含む 焼；良好 色；(外)5YR6/8 橙 (内)5YR5/6 明赤褐	上げ底ぎみの底部	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ 底部外面に刻書を有す
SD－07 42－ 271	椀 土師	口径 14.8 残高 4.3 底径 － 口縁部～体部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)2.5Y2/1黒	丸みのある体部	(外) ロクロナデ (内) 丁寧なミガキ 黒色処理 体部に刻書を有す
SD－07 42－ 272	坏 土師	口径 － 残高 3.2 底径 6.9 底部1/2	胎；粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)2.5Y2/1黒	平底	(外) ヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理 底部外面に刻書を有す
SD－07 42－ 273	坏 土師	口径 － 残高 1.2 底径 5.2 底部1/2	胎；粗砂粒をわずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)2.5Y3/1黒褐	上げ底ぎみの平底	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ 黒色処理 底部外面に刻書を有す
SD－07 42－ 274	坏 土師	口径 － 残高 1.1 底径 7.2 底部1/4	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)5YR4/1 褐灰	平底	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ 黒色処理 底部外面に刻書を有す
SD－07 42－ 275	坏 土師	口径 － 残高 1.5 底径 6.8 底部	胎；細砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい褐 (内)2.5Y3/1黒褐	上げ底ぎみの平底	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ 黒色処理 底部に刻書有り
SD－07 43－ 276	椀 土師	口径(19.4) 器高 6.3 底径 (9.6) 口縁部～底部一部	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙～6/2灰黄褐 (内)N3/暗灰	高台を付す 丸みのある体部よりゆるやかに小さく外反して口縁部に至る	(外) ナデ 体部へラ状工具による刻みが施される (内) ていねいなミガキ 黒色処理
SD－07 43－ 277	坏 須恵	口径 － 残高 2.3 底径 6.8 体部～底部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y6/6オリーブ (内)10Y5/1 灰	平底 直線的に開く体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 体部外面に墨書有り
SD－07 43－ 278	甕 土師	口径(11.0) 残高 6.5 底径 － 口縁部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)5YR5/6 明赤褐	長胴甕 口縁部は「く」字状に外反する	(外) 胴部ヘラケズリ（タテ） (内) ナデ
SD－07 43－ 279	甕 土師	口径(18.4) 残高 4.1 底径 － 口縁部1/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR6/6 橙	長胴甕	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ ヘラケズリ
SD－07 43－ 280	甕 土師	口径(19.6) 残高 6.0 底径 － 口縁部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)5YR4/4 にぶい赤褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	長胴甕 口縁部は「く」字状に外反する	(外) 刷毛調整 (内) ヨコナデ
SD－07 43－ 281	甕 土師	口径(19.8) 残高 4.5 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR6/6 橙	長胴甕 口縁部は段を有する 口唇部は面取りを施す	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 43－ 282	甕 土師	口径 － 残高 7.3 底径 10.0 胴部～底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)7.5YR7/1 明褐灰	平底より立上がり丸みのある胴部に移行する	(外) ナデ (内) ナデ ミガキ
SD－07 43－ 283	甕 土師	口径(14.0) 残高 5.9 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	小型甕 丸みのある胴部より外反して口縁部に至る	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 43－ 284	甕 土師	口径(13.7) 残高 5.7 底径 － 口縁部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	小型甕	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ

第 26 表　土器観察表（20）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 43－ 285	甕 土師	口径(14.2) 残高 6.4 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR5/2灰黄褐 (内)10YR5/2灰黄褐	小型甕 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 43－ 286	甕 土師	口径(12.0) 残高 5.0 底径 － 口縁部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR4/2灰黄褐 (内)10YR3/1黒褐	小型甕	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 43－ 287	甕 土師	口径(10.8) 残高 4.5 底径 － 口縁部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR3/1黒褐 (内)10YR2/1黒	小型甕	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－07 43－ 288	甕 土師	口径 － 残高 5.4 底径 (7.2) 胴部一部~底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR4/2灰黄褐 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	小型甕 上げ底ぎみの底部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り痕有り (内) ロクロナデ
SD－07 43－ 289	甕 土師	口径(14.6) 器高 16.8 底径 (7.4) 口縁部~底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/3 にぶい褐 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	小型甕 平底より立上がり丸みのある胴部より外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り痕有り (内) ロクロナデ
SD－07 43－ 290	甕 土師	口径 13.0 器高 15.3 底径 6.8 口縁部1/4~底部完	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	小型甕 平底より立上がり丸みのある胴部より外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り痕有り (内) ロクロナデ
SD－07 44－ 291	甕 土師	口径 － 残高 10.0 底径 6.2 胴部底部完	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/2灰黄褐 (内)10YR6/1褐灰	小型甕 平底より立ち上がる丸みのある胴部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－07 44－ 292	甕 土師	口径 － 残高 4.6 底径 3.7 胴部一部~底部4/5	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/4にぶい黄橙 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	平底	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SD－07 44－ 293	甕 土師	口径 － 残高 4.0 底径 5.0 胴部一部~底部完	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR7/6 橙		(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SD－07 44－ 294	甕 土師	口径 － 残高 2.0 底径 3.0 底部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR3/4 暗褐 (内)7.5YR3/1 黒褐	小さい底部 張りのある胴部	(外) ケズリ (内) ケズリ
SD－07 44－ 295	甕 土師	口径 － 残高 2.2 底径 3.0 胴部一部~底部完	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/4 にぶい赤褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	小さい底部 張りのある胴部	(外) ケズリ (内) ケズリ
SD－07 44－ 296	甕 土師	口径(20.0) 残高 2.1 底径 － 口縁部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙~5/1褐灰	口縁部に１孔を慣つ	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 44－ 297	甑 土師	口径 － 残高 8.1 底径(17.8) 底部一部	胎；金雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)5YR5/6 明赤褐		(外) ケズリ (内) ケズリ
SD－07 44－ 298	羽釜 土師	口径 － 残高 9.8 底径 － 体部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR6/6 橙	体部に鍔状の突帯を付している　突帯は下向きである	(外) 胴部ヘラケズリ（縦位） (内) ナデ
SD－07 44－ 299	羽釜 土師	口径(21.0) 残高 10.0 底径 － 口縁部1/4	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	体部に鍔状の突帯を付している　突帯は下向きである	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 44－ 300	羽釜 土師	口径(25.0) 残高 7.0 底径 － 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)5YR5/6 明赤褐	体部に鍔状の突帯を付している　突帯は下向きである	(外) ナデ (内) ナデ

第 27 表　土器観察表（21）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 44－ 301	羽釜 土師	口径(19.6) 残高 9.5 底径 － 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	体部に鍔状の突帯を付している	(外) ナデ ヘラケズリ (内) ナデ
SD－07 44－ 302	羽釜 土師	口径(19.6) 残高 6.0 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	体部に鍔状の突帯を付している 突帯は上を向いている	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 44－ 303	羽釜 土師	口径 － 残高 7.4 底径 － 胴部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)5YR6/6 橙	体部に鍔状の突帯を付している 突帯は数ケ所で短く切れている	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 45－ 304	壺 須恵	口径 － 残高 19.2 底径(12.0) 胴部1/3~底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N3/暗灰 (内)N4/灰	長頸壺 球形を呈する胴部	(外) ケズリ (内) ナデ
SD－07 45－ 305	壺 須恵	口径 － 残高 19.0 底径 － 頸部~胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N5/灰	長頸壺 胴部は肩で張る	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 45－ 306	壺 須恵	口径 (6.3) 残高 7.9 底径 － 口縁部~体部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰 (内)2.5Y5/1黄灰	長頸壺 体部より細い頸部が直立ぎみにのびる	(外) 頸部に２条の沈線をひく (内) ナデ 把手の付いていた痕有り
SD－07 45－ 307	壺 須恵	口径 (8.0) 残高 4.9 底径 － 口縁部~頸部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y4/1灰 (内)7.5Y4/1灰	長頸壺 口縁部に折り返し口縁帯を有する	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 45－ 308	壺 須恵	口径 (6.2) 残高 4.1 底径 － 口縁部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰 (内)10Y5/1 灰	長頸壺 口縁部に折り返し口縁帯を有する	(外) (内)
SD－07 45－ 309	壺 須恵	口径 － 残高 15.0 底径 － 胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N4/灰	長頸壺 張りのある胴部	(外) ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SD－07 45－ 310	壺 須恵	口径 － 残高 12.0 底径 － 胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5GY5/1 オリーブ灰 (内)N5/灰	長頸壺の体部 肩部で張る	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 45－ 311	壺 須恵	口径 － 残高 7.9 底径 － 胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)N5/灰	長頸壺の体部 肩部で張る	(外) (内) ナデ
SD－07 45－ 312	壺 須恵	口径 － 残高 11.5 底径 － 胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y6/1灰 (内)5Y6/1灰	長（短）頸壺の胴部	(外) ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SD－07 45－ 313	壺 須恵	口径 － 残高 8.9 底径 － 胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)N4/灰	長（短）頸壺の胴部	(外) ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SD－07 45－ 314	壺 須恵	口径 － 残高 4.5 底径 － 胴部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y4/3暗オリーブ~10Y7/1灰白 (内)5Y7/2灰白	長頸壺 体部肩の部分で屈曲する	(外) 自然釉が施される (内)
SD－07 46－ 315	壺 須恵	口径 － 残高 3.2 底径 8.6 底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N3/暗灰 (内)7.5R4/2灰赤	長頸壺の底部 高台は「八」字形に開く	(外) ナデ 底部回転糸切り痕残す (内) ナデ
SD－07 46－ 316	壺 須恵	口径 － 残高 7.2 底径 (6.4) 胴部一部~底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y5/1 灰 (内)5Y5/1灰	長頸壺 高台は踏ん張りが弱く断面は長方形を呈する	(外) ケズリ (内) ケズリ

第 28 表　土器観察表（22）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 46－ 317	壺 須恵	口径 － 残高 7.8 底径 6.6 胴部一部～底部完	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)5Y5/1灰	長頸壺の底部 高台は踏ん張りが弱く断面は長方形を呈する	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 46－ 318	壺 須恵	口径 － 残高 6.5 底径 (5.5) 底部1/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y5/1灰 (内)5Y5/1灰	長頸壺の底部 高台は踏ん張りが弱く断面は四角形を呈する	(外) ケズリ (内) ナデ
SD－07 46－ 319	壺 須恵	口径 － 残高 7.6 底径 10.6 胴部一部～底部完	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y5/1 灰 (内)N5/灰	長（短）頸壺の底部 高台は踏ん張りが弱く断面は長方形を呈する	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 46－ 320	壺 須恵	口径(10.8) 残高 5.3 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N4/灰	短頸壺	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 46－ 321	甕 須恵	口径(27.6) 残高 8.4 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N5/灰	甕の口縁部	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 46－ 322	甕 須恵	口径 － 残高 19.7 底径 － 胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y6/1灰 (内)7.5Y6/1灰	張りのない胴部	(外) タタキ目 (内) タタキ目
SD－07 46－ 323	甕 須恵	口径 － 残高 4.0 底径 － 胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y4/1灰 (内)5Y4/1灰	肩部に突帯を回し耳状の突起を付す　突帯の断面は三角形で耳に孔は無い	(外) タタキ目 (内) ナデ
SD－07 46－ 324	甕 須恵	口径 － 残高 5.3 底径 － 体部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/1 褐灰 (内)N5/灰	肩部に断面が三角形の突帯を回し耳状の突起を付す	(外) (内) ナデ
SD－07 46－ 325	甕 須恵	口径(24.0) 残高 5.2 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N5/灰		(外) (内)
SD－07 46－ 326	甕 須恵	口径(32.0) 残高 25.7 底径 － 口縁部～胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N3/暗灰 (内)7.5Y5/1灰	張りのある胴部より短く外反して口縁部に至る	(外) タタキ目　ロクロナデ (内) ナデ
SD－07 47－ 327	甕 須恵	口径(43.6) 残高 5.2 底径 － 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR4/1褐灰 (内)10YR4/1褐灰	口縁部は短く外反する	(外) ナデ (内) ナデ
SD－07 47－ 328	甕 須恵	口径 － 残高 54.5 底径(17.0) 胴部1/3～底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N3/暗灰 (内)N4/灰	平底より立上がり張りのある胴部に移行する 胴部上位が強く張る	(外) 胴部タタキ目 (内) ナデ
SD－07 47－ 329	甕 須恵	口径(43.4) 残高 8.2 底径 － 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR5/2灰黄褐 (内)7.5YR5/3 にぶい褐		(外) タタキ目 (内) ナデ
SD－07 48－ 330	甕 須恵	口径(31.4) 残高 9.1 底径 － 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR4/2 灰褐	粘土帯積み上げ	(外) タタキ目 (内) ナデ
SD－07 48－ 331	甕 須恵	口径(19.6) 残高 5.0 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰 (内)7.5Y5/1灰	広口の甕	(外) タタキ (内) ナデ
SD－07 48－ 332	甕 須恵	口径 － 残高 7.8 底径(17.0) 胴部一部～底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y5/1 灰 (内)10Y5/1 灰	粘土帯積み上げ	(外) タタキ目 (内) ナデ

第 29 表　土器観察表（23）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－07 48－ 333	広口 瓶 灰釉	口径 14.6 残高 10.0 底径 － 口縁部～頸部2/3	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y6/2ｵﾘｰﾌﾞ灰～10Y7/1灰白 (内)10Y6/2ｵﾘｰﾌﾞ灰～10Y7/1灰白	体部より頸部が直立ぎみにのびる 口縁部に折り返し口縁帯をつくる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 48－ 334	壺 灰釉	口径 － 残高 7.6 底径 － 胴部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y5/2 オリーブ灰 (内)5Y6/1灰	長頸壺 球形を呈する体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 猿投
SD－07 48－ 335	壺 灰釉	口径 － 残高 4.0 底径(15.2) 底部1/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y8/1灰白~2.5Y6/1黄灰 (内)10Y5/2ｵﾘｰﾌﾞ灰~2.5Y6/1黄灰	高台を付す	(外) 体部下位ヘラケズリ (内) ロクロナデ 猿投
SD－07 48－ 336	壺 灰釉	口径 － 残高 3.7 底径 (9.6) 胴部一部～底部3/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y5/2ｵﾘｰﾌﾞ灰~7.5Y7/1灰白 (内)10Y5/2ｵﾘｰﾌﾞ灰~7.5Y7/1灰白	高台を付す	(外) 底部から体部下位回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ 猿投
SD－07 48－ 337	壺 灰釉	口径 － 残高 4.3 底径 (7.4) 胴部一部～底部1/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y5/2ｵﾘｰﾌﾞ灰～7/1灰白 (内)10Y5/2ｵﾘｰﾌﾞ灰～7/1灰白	高台を付す	(外) 体部下位ヘラケズリ 底部ヘラケズリ (内) ロクロナデ 東濃
SD－07 48－ 338	小瓶 灰釉	口径 6.0 残高 1.9 底径 － 口縁部1/4	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y7/1灰白 (内)2.5Y6/1黄灰	口縁帯をもつ	(外) ナデ (内) ナデ 東濃
SD－07 48－ 339	小瓶 灰釉	口径 － 残高 2.5 底径 (5.0) 胴部一部～底部1/2	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y5/1 灰 (内)10Y5/1 灰～7/1 灰白	平底	(外) 体部下位ヘラケズリ 底部回転糸切り (内) 猿投
SD－07 48－ 340	小瓶 灰釉	口径 － 残高 2.1 底径 (5.8) 底部1/2	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y5/2 ｵﾘｰﾌﾞ～7/1 灰白 (内)10Y5/2 ｵﾘｰﾌﾞ～7/1 灰白	平底	(外) 体部下位ヘラケズリ 底部回転糸切り (内) 東濃
SD－07 48－ 341	壺 土師	口径(10.2) 残高 2.9 底径 － 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N3/暗灰 (内)N3/暗灰	折り返し口縁帯をつける	(外) ミガキ 黒色処理 (内) ミガキ 黒色処理
SD－07 48－ 342	小壺 緑釉	口径 － 残高 3.8 底径 － 体部一部	胎；青灰色 硬質 焼；良好 色；釉は濃緑色	球形の体部	(外) ロクロナデ ヘラケズリ (内) ロクロナデ 猿投
SD－07 48－ 343	鉢 須恵	口径(32.8) 残高 5.5 漆器 口縁部一部		口縁部は先端で折れて内傾する	(外)(内)うるしを施す
SD－08 49－1	坏 土師	口径 － 残高 3.5 底径 (8.2) 体部～底部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)10YR5/2灰黄褐		(外) ナデ (内) ナデ
SD－08 49－2	坏 土師	口径 － 残高 1.3 底径 5.8 底部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5Y5/1灰 (内)5Y4/1灰	平底	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ナデ
SD－08 49－3	坏 土師	口径 － 残高 2.5 底径 (3.7) 底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR8/3浅黄橙 (内)10YR8/2灰白	平底	(外) ナデ 底部回転糸切り痕有り (内) ナデ
SD－08 49－4	椀 土師	口径 － 残高 2.7 底径 7.2 底部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/3 にぶい褐 (内)7.5YR6/3 にぶい褐	高台を付す	(外) ナデ (内) ミガキ
SD－08 49－5	椀 土師	口径 － 残高 2.2 底径 － 体部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)10YR8/2灰白		(外) ナデ (内) ナデ

第 30 表　土器観察表（24）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－08 49－6	坏 土師	口径 14.8 器高 4.1 底径 6.4 口縁部1/4~底部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)N2/黒	上げ底ぎみの底部 口縁部は外反する	(外) ナデ 底部回転糸切り痕有り (内) ナデ 黒色処理
SD－08 49－7	坏 土師	口径 － 残高 3.1 底径 6.6 底部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)N2/黒	上げ底ぎみの底部	(外) ナデ 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ 黒色処理
SD－08 49－8	坏 土師	口径 － 残高 2.1 底径 6.3 底部3/4	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)N3/暗灰	上げ底ぎみの底部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り痕有り (内) ロクロナデ 黒色処理
SD－08 49－9	坏 土師	口径 － 残高 1.6 底径 (5.4) 底部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR5/2灰黄褐 (内)N3/暗灰		(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ナデ 黒色処理
SD－08 49－10	坏 土師	口径 － 残高 1.0 底径 (5.0) 底部1/3	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N3/暗灰	上げ底ぎみの底部	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) 黒色処理
SD－08 49－11	椀 土師	口径 － 残高 3.7 底径 (8.2) 体部~底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)N4/黒	高台を付す	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 黒色処理
SD－08 49－12	椀 土師	口径 － 残高 2.5 底径 (7.2) 高台部2/3	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N3/暗灰	高台を付す	(外) (内) 黒色処理
SD－08 49－13	坏 須恵	口径 － 残高 3.0 底径 6.8 底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y5/1 灰 (内)10Y5/1 灰	平底	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ロクロナデ
SD－08 49－14	壺 須恵	口径 － 残高 7.9 底径 － 頸部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y4/1灰 (内)10YR4/1褐灰	長頸壺の頸部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－08 49－15	壺 須恵	口径 － 残高 4.1 底径 (5.2) 体部~底部一部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)N3/暗灰 (内)N6/灰	小型の壺 高台を付す	(外) 体部から底部に自然釉がつく (内) ロクロナデ
SD－08 49－16	壺 須恵	口径 － 残高 2.5 底径 (9.4) 底部1/2	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)N3/暗灰 (内)N5/灰	高台は「八」字形に開く	(外) 底部周囲ヘラケズリ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
SD－08 49－17	甕 須恵	口径(26.8) 残高 2.3 底径 － 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y6/1灰 (内)7.5Y6/1灰	口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD－09 50－1	坏 土師	口径 10.3 器高 3.0 底径 4.0 口縁部3/4~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/2 明褐灰 (内)7.5YR8/3 浅黄橙	小さい底部 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り痕有り (内) ロクロナデ
SD－09 50－2	椀 土師	口径(14.0) 器高 4.9 底径 7.2 口縁部一部~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4にぶい橙~7/1明褐灰 (内)7.5YR6/1 褐灰~6/2灰褐	高台を付す 大きく開く体部	(外) ナデ　ケズリ (内) ナデ　ミガキ
SD－09 50－3	椀 土師	口径 － 残高 1.8 底径 8.0 底部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4にぶい橙~8/2淡橙 (内)N4/灰	高台を付す	(外) ナデ (内) ナデ 黒色処理
SD－09 50－4	坏 須恵	口径 － 残高 1.7 底径 12.2 底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/1 灰 (内)7.5YR6/1 灰	高台を付す	(外) 底部から体部下位回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ

第 31 表　土器観察表 (25)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD－09 50－5	椀 灰釉	口径(14.6) 残高 2.9 底径 － 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y7/1 灰白 (内)10Y7/1 灰白	口縁部をヘラでつみ上げている	(外) ナデ (内) ナデ 東濃 輪花椀
P－10 51－1	坏 須恵	口径(14.4) 器高 4.2 底径 (6.4) 口縁部～底部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)N5/灰	直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転ヘラ切り (内) ロクロナデ
P－10 51－2	坏 須恵	口径(13.0) 器高 3.5 底径 (8.0) 口縁部～底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N6/灰 (内)N6/灰	平底 直線的に開く体部	(外) 底部刻みによる窯印有り (内) ロクロナデ
P-126 51－3	坏 土師	口径(12.6) 器高 3.6 底径 (5.4) 1/3	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/2灰褐~6/3にぶい褐 (内)N3/暗灰	上げ底ぎみの底部 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ 黒色処理
遺構外 I 52－1	坏 土師	口径 11.6 器高 3.8 底径 (5.6) 1/4	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	平底より外反ぎみに立ち上がる	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ
遺構外 I 52－2	坏 土師	口径 12.5 器高 3.5 底径 4.0 ほぼ完存	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6橙~5YR5/6明赤褐 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	平底 体部に丸みをもち口縁部で外傾する	(外) ナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－3	坏 土師	口径 11.4 器高 3.2 底径 4.0 2/3	胎；石英、雲母、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	平底 口縁部近くに稜をもち口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－4	坏 土師	口径 12.3 器高 3.4 底径 5.0 2/3	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	平底より内湾して立ち上がる	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－5	坏 土師	口径 12.2 器高 3.9 底径 4.8 2/3	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/1褐灰~6/4にぶい橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	平底 体部にゆるく丸みをもってそのまま口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
遺構外 I 52－6	坏 土師	口径 12.2 器高 3.8 底径 4.2 2/3	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3にぶい橙~7/6橙 (内)7.5YR7/6 橙	平底より内湾して立上がり口縁部でわずかに外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－7	坏 土師	口径 11.7 器高 4.0 底径 4.4 ほぼ完存	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/6橙~10YR8/4浅黄橙 (内)5YR7/6橙~10YR8/4浅黄橙	平底 丸みのある体部より口縁部で外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内)
遺構外 I 52－8	坏 土師	口径 11.7 器高 3.7 底径 5.3 口縁部一部~底部完	胎；石英、雲母、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/6橙~7.5YR8/4浅黄橙 (内)7.5YR8/4 浅黄橙	平底より直線的に開いて口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－9	坏 土師	口径 10.3 器高 3.3 底径 4.6 2/3	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR8/3浅黄橙 (内)10YR8/2灰白	平底 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ
遺構外 I 52－10	坏 土師	口径 10.1 器高 3.1 底径 4.5 ほぼ完存	胎；石英、雲母、礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR8/3 浅黄橙	上げ底ぎみの底部より立上がり底部近くに稜をもち口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－11	坏 土師	口径 11.2 器高 3.4 底径 5.3 ほぼ完存	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/6 橙～10Y5/1灰 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	上げ底ぎみの底部 体部は内湾する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－12	坏 土師	口径(10.4) 器高 2.7 底径 4.2 口縁部一部~底部完	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)7.5YR6/6 橙	上げ底ぎみの底部 口縁部はゆるく外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ

第 32 表　土器観察表（26）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
遺構外 I 52－13	坏 土師	口径 11.0 器高 3.0 底径 5.7 1/2	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)5YR7/6 橙	平底 口縁部でわずかに外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－14	坏 土師	口径 11.2 器高 3.5 底径 5.3 完存	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/6 橙 (内)5YR7/6 橙	上げ底ぎみの底部より内湾して立ち上がる	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－15	坏 土師	口径 11.9 器高 3.8 底径 5.2 2/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 にぶい橙 (内)5YR7/4 にぶい橙	平底 体部は内湾して口縁部でわずかに外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－16	坏 土師	口径 10.9 器高 3.3 底径 4.3 完存	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	平底 口縁部で外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－17	坏 土師	口径 11.8 器高 3.6 底径 4.6 2/3	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR5/3にぶい黄褐 (内)10YR4/2灰黄褐	平底より内湾して立ち上がる	(外) ナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－18	坏 土師	口径 11.1 器高 3.3 底径 4.3 2/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/6 橙 (内)2.5YR7/6橙~10YR8/3浅黄橙	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内)
遺構外 I 52－19	坏 土師	口径 10.4 器高 3.4 底径 5.1 3/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	平底 体部にうすく稜をもつ	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－20	坏 土師	口径 10.7 器高 3.5 底径 4.2 1/2	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	平底 口縁部でわずかに外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－21	坏 土師	口径 9.7 器高 3.2 底径 3.8 2/3	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR8/3浅黄橙 (内)10YR8/3浅黄橙	平底 直線的に開く体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内)
遺構外 I 52－22	坏 土師	口径 9.7 器高 2.7 底径 4.0 ほぼ完存	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)10YR7/4にぶい黄橙	平底 口縁部で外反する	(外) ナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－23	坏 土師	口径 11.5 器高 3.6 底径 5.2 3/4	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/4 浅黄橙 (内)7.5YR8/4浅黄橙~10R6/6赤橙	平底より立ち上がり口縁部でわずかに外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－24	坏 土師	口径 12.5 器高 3.1 底径 5.0 1/3	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/3 にぶい褐 (内)7.5YR6/3 にぶい褐	平底より内湾して立ち上がる	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－25	坏 土師	口径 11.6 器高 3.3 底径 5.8 ほぼ完存	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/6 橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	平底 体部は丸みを持ち段を有する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ　付着物あり
遺構外 I 52－26	坏 土師	口径 11.0 器高 2.7 底径 4.6 1/4	胎；石英、雲母、礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4にぶい橙~6/6橙 (内)7.5YR8/4 浅黄橙	上げ底ぎみの底部 体部はゆるく外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 52－27	坏 土師	口径 10.6 器高 3.1 底径 4.8 ほぼ完存	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR6/8 橙 (内)2.5YR6/8 橙	上げ底ぎみの底部より外傾して立上がり口縁部に至る	(外) 底部回転糸切り (内)
遺構外 I 52－28	坏 土師	口径 9.7 器高 3.0 底径 4.1 1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/3浅黄橙～5YR7/6橙 (内)7.5YR8/3 浅黄橙	平底 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ

第 33 表　土器観察表 (27)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
遺構外 I 52－29	坏 土師	口径 9.4 器高 2.5 底径 4.6 2/3	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/2にぶい黄橙 (内)10YR7/2にぶい黄橙	平底 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ
遺構外 I 52－30	坏 土師	口径 9.1 器高 2.3 底径 3.8 3/4	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/3 にぶい褐 (内)7.5YR7/3 にぶい橙	平底 直線的に開く体部	(外) 底部回転糸切り (内)
遺構外 I 52－31	坏 土師	口径 8.9 器高 2.5 底径 5.0 完存	胎；石英、礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/3 浅黄橙 (内)7.5YR8/3 浅黄橙	平底より内湾して立ち上がる	(外) ナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 53－32	坏 土師	口径 8.9 器高 2.6 底径 4.5 2/3	胎；石英、礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y8/2灰白~10YR4/1褐灰 (内)2.5Y8/2灰白~10YR4/1褐灰	平底 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ
遺構外 I 53－33	坏 土師	口径 8.8 器高 2.1 底径 4.0 1/2	胎；石英、雲母、礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	小型の坏 平底より直線的に立上がり口縁部に至る	(外) ナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 53－34	坏 土師	口径 8.8 器高 2.6 底径 4.6 2/3	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)10YR7/2にぶい黄橙	平底 体部はゆるく外反する	(外) ナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 53－35	坏 土師	口径 11.6 器高 3.5 底径 － 口縁部~底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	口縁部は内湾する	(外) ナデ (内) ナデ
遺構外 I 53－36	坏 土師	口径(10.4) 器高 2.8 底径 (4.0) 口縁部~底部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N3/暗灰 (内)N3/暗灰	小型の坏	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ
遺構外 I 53－37	坏 土師	口径(10.0) 器高 3.1 底径 3.2 1/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR8/3浅黄橙 (内)N2/黒	平底 小型の坏	(外) 底部回転糸切りと思われる痕有り (内) ミガキ 付着物有り
遺構外 I 53－38	椀 土師	口径 12.8 器高 4.3 底径 6.0 3/4	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)5YR6/6 橙	高台を付す 丸みのある体部より口縁部で小さく外反して口縁部に至る	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
遺構外 I 53－39	椀 土師	口径(13.7) 器高 5.4 底径 7.4 口縁部1/2~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	高台を付す 丸みのある体部 口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
遺構外 I 53－40	椀 土師	口径(14.1) 残高 5.1 底径 － 1/3	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/2 明褐灰 (内)7.5YR7/3 にぶい橙	高台を付す 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 体部下位回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ
遺構外 I 53－41	椀 土師	口径(14.6) 残高 4.3 底径 (8.0) 1/4	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y8/2灰白 (内)2.5Y8/2灰白	高台を付す 内湾して立上がり口縁部で外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り痕有り (内) ロクロナデ
遺構外 I 53－42	椀 土師	口径 14.3 器高 4.2 底径 7.2 1/3	胎；石英、雲母、礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)7.5YR8/4 浅黄橙	平底より直線的に開く	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 53－43	椀 土師	口径 15.2 残高 6.2 底径 6.9 2/3	胎；石英、雲母、礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4にぶい橙~3/1黒褐 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	高台を付す 張りのある体部 口縁部にてわずかに外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
遺構外 I 53－44	椀 土師	口径 － 残高 5.6 底径 7.5 口縁部~底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4にぶい橙~N3/暗灰 (内)2.5Y5/1黄灰	高台を付す 内湾して立ち上がる	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内)

第 34 表　土器観察表（28）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
遺構外 I 53－45	高坏 土師	口径 － 残高 8.2 裾径 － 接合部~脚部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/6 橙 (内)10YR7/4にぶい黄橙~N3/暗灰		(外) ロクロナデ (内) ケズリ ナデ
遺構外 I 53－46	盤 土師	口径 － 残高 3.3 裾径 9.2 脚部1/2	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR8/4 浅黄橙 (内)7.5YR8/4 浅黄橙	高台を付す	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
遺構外 I 53－47	坏 土師	口径 12.6 器高 3.9 底径 5.0 口縁部一部~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)N1.5/黒	平底 口縁部付近で内湾ぎみとなる	(外) 底部回転糸切り (内) ヘラミガキ 中心に向かって縦方向に施され、口縁部付近で横方向に施される 黒色処理
遺構外 I 53－48	坏 土師	口径 11.3 器高 3.2 底径 5.9 口縁部1/2~底部完	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	平底 体部は浅い	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 53－49	坏 土師	口径 12.0 器高 3.8 底径 4.9 口縁部1/2~底部完	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)N2/黒	平底 体部はゆるい丸みをもちそのまま口縁部に至る	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 53－50	坏 土師	口径 12.1 器高 3.9 底径 3.4 口縁部2/3~底部完	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)N2/黒	平底 底部は小さく体部はゆるい丸みをもち口縁部でわずかに外反する	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ中心に向かって縦に施される 黒色処理
遺構外 I 53－51	坏 土師	口径 13.2 器高 4.0 底径 5.4 口縁部一部~底部完	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)N2/黒	平底 体部にゆるい丸みをもち口縁部の先端で小さく外反する	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 53－52	坏 土師	口径 11.6 器高 3.7 底径 4.3 口縁部3/4~底部完	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)N2/黒	平底 口縁部の先端で小さく外傾する	(外) 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 53－53	坏 土師	口径(12.0) 器高 3.4 口径 4.5 口縁部一部~底部完	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)N1.5/黒	平底 口縁部付近で内湾する	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ていねいなミガキ 黒色処理
遺構外 I 53－54	坏 土師	口径(11.6) 器高 4.1 底径 4.8 1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	体部に丸みをもつ	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 53－55	坏 土師	口径(11.6) 器高 3.5 底径 4.8 1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)N2/黒	体部に丸みをもち口縁部の先端で小さく外反する	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 53－56	坏 土師	口径(11.0) 器高 4.4 底径 4.1 口縁部~底部3/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)N2/黒	平底 体部に緩い丸みをもちそのまま口縁部に至る	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 53－57	坏 土師	口径(13.4) 器高 4.1 底径 5.2 口縁部~底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	体部は直線的に開きそのまま口縁部に至る	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ていねいなミガキ 黒色処理
遺構外 I 53－58	坏 土師	口径(13.4) 器高 3.8 底径 6.0 口縁部~底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)N2/黒	体部に丸みをもち口縁部で小さく外反する	(外) 底部回転糸切り (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 53－59	坏 土師	口径(15.9) 器高 4.6 底径 7.6 口縁部~底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	体部は直線的に開いてそのまま口縁部に至る	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－60	坏 土師	口径 14.1 器高 4.6 底径 6.0 2/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)7.5YR7/3 にぶい橙	平底	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ミガキ 口縁部に付着物有り 黒色処理

第 35 表　土器観察表（29）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
遺構外 I 54－61	坏 土師	口径(13.6) 器高 5.1 底径 6.9 口縁部一部~底部完	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)N2/黒	上げ底ぎみの底部 体部はゆるい丸みをもち口縁部がわずかに外反する	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－62	坏口 土師	径(16.0) 器高 6.4 底径 5.4 口縁部一部~底部完	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/3 にぶい橙 (内)N2/黒	大型の坏 上げ底ぎみの底部 体部にゆるい丸みを持つ	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－63	坏 土師	口径(16.1) 器高 5.1 底径 6.7 口縁部~底部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/2にぶい黄橙 (内)N2/黒	平底 体部にゆるい丸みがあり口縁部の先端で小さく外反する	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ミガキ中央に向かって縦に施される 黒色処理
遺構外 I 54－64	坏 土師	口径 － 残高 1.7 底径 6.0 底部1/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/4 にぶい赤褐 (内)N2/黒	平底	(外) 底部回転糸切り 底部に窯印？有り (内) 黒色処理
遺構外 I 54－65	坏 土師	口径 － 残高 1.6 底径 5.6 底部1/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)N1.5/黒	平底	(外) 底部回転糸切り痕有り 底部に窯印有り (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－66	坏 土師	口径 － 残高 1.6 底径 (6.2) 底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)N3/黒	平底	(外) 底部回転糸切り痕有り 底部に窯印有り (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－67	坏 土師	口径 － 残高 2.2 底径 (7.0) 底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	平底	(外) 底部に窯印有り (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－68	坏 土師	口径 － 残高 3.0 底径 － 体部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)10YR7/4にぶい黄橙		(外) 体部に「十」字の刻みあり (内)
遺構外 I 54－69	椀 土師	口径(13.9) 器高 5.1 底径 (6.4) 口縁部~底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)N3/暗灰	高台を付す 丸みのある体部	(外) ロクロナデ (内) ていねいなミガキ 口縁部ヨコミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－70	椀 土師	口径 13.8 器高 5.5 底径 6.4 口縁部~底部1/2	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)N5/灰	高台を付す 内湾して立上がり口縁部で小さく外反する	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ナデ 黒色土器が二次焼成をうけたもの
遺構外 I 54－71	椀 土師	口径(11.1) 器高 4.7 底径 5.1 口縁部1/3~底部完	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR5/1褐灰 (内)10YR5/1褐灰	高台を付す 小型の椀 体部の腰が強く張る	(外) 体部へラケズリ 口縁部ナデ (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－72	椀 土師	口径 10.3 器高 4.6 底径 6.2 ほぼ完存	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/6 橙 (内)N3/暗灰	高台を付す 小型の椀 体部に張りがある	(外) 体部下半へラケズリ 口縁部ロクロナデ (内) ミガキ 中央部放射線状、口縁部ヨコミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－73	椀 土師	口径 10.0 器高 4.5 底径 6.1 ほぼ完存	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N3/ 暗灰~10YR7/2 にぶい橙	高台を付す 小型の椀 丸みのある体部	(外) ロクロナデ (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－74	椀 土師	口径(15.4) 器高 6.5 底径 (8.0) 口縁部~底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR8/3浅黄橙 (内)N3/暗灰	高台を付す 深めで張りのある体部	(外) 体部下位へラケズリ (内) ロクロナデ ミガキ 暗文 黒色処理
遺構外 I 54－75	椀 土師	口径(13.2) 器高 5.1 底径 (6.0) 口縁部~底部1/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N3/暗灰	高台を付す 丸みのある体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ ミガキ 暗文 黒色処理
遺構外 I 54－76	椀 土師	口径 － 残高 3.1 底径 6.0 底部1/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N3/暗灰 (内)N3/暗灰	高台を付す	(外) 黒色処理 (内) ていねいなミガキ 黒色処理

第 36 表　土器観察表(30)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
遺構外 I 54－77	皿 土師	口径(13.8) 器高 3.9 底径 6.1 口縁部一部～底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N3/暗灰 (内)N2/黒	高台を付す 浅く直線的に開く体部	(外) ミガキ 黒色処理 (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－78	皿 土師	口径(12.5) 器高 2.8 底径 5.8 口縁部一部～底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N1.5/黒 (内)N1.5/黒	直線的にのびる偏平な体部に高台を付す 口縁部は外反する	(外) 黒色処理 (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－79	皿 土師	口径 － 残高 2.4 底径 7.0 底部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N4/灰	高台を付す	(外) 黒色処理 (内) 黒色処理
遺構外 I 54－80	皿 土師	口径 － 残高 1.9 底径 6.2 底部1/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N1.5/黒 (内)N1.5/黒	高台を付す	(外) 黒色処理 (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－81	皿 土師	口径 － 残高 1.8 底径 6.4 底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N1.5/黒 (内)N1.5/黒	高台を付す	(外) 黒色処理 (内) 黒色処理
遺構外 I 54－82	坏 土師	口径－ 残高 1.5 底径 (6.0) 底部～体部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y4/1黄灰 (内)2.5Y4/1黄灰	坏かあるいは壺の底部と思われる	(外) 黒色処理 底部回転糸切り (内) 黒色処理
遺構外 I 54－83	蓋 土師	抓み径－ 残高 3.2 裾径(10.6) 口縁部1/4～底部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)N2/黒 (内)N2/黒	体部は直線的に開き口縁部が折れて内傾する 椀蓋？	(外) ていねいなミガキ 黒色処理 (内) ていねいなミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－84	鉢 土師	口径(23.7) 残高 3.0 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)N1.5/黒	口縁部が折れて立ち上がる	(外) ヨコナデ (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 I 54－85	盤 土師	口径(29.4) 残高 7.2 裾径 － 口縁部1/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	口縁部に面取りが施される	(外) ロクロナデの後ヘラケズリ (内) ナデ 付着物有り
遺構外 I 54－86	盤 土師	口径 － 残高 (3.3) 裾径 － 接合部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR6/8 橙～5YR6/6橙 (内)2.5YR6/4 にぶい橙	脚台の裾部３カ所に紡錘形の透かしを有する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
遺構外 I 54－87	盤 土師	口径 － 残高 6.6 裾径 － 脚部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/3 にぶい橙		(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
遺構外 I 55－88	盤 土師	口径 － 残高 3.0 裾径 － 接合部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y6/2灰黄～7/2 灰黄 (内)2.5Y6/2灰黄	焼成後坏部に一孔を穿つ	(外) (内)
遺構外 I 55－89	盤 土師	口径 － 残高 8.3 裾径(30.6) 脚部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	裾部先端に稜を有する	(外) (内)
遺構外 I 55－90	蓋 須恵	抓み径－ 残高 2.6 裾径(16.4) 一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N6/灰 (内)N6/灰	口縁端部を折り曲げる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
遺構外 I 55－91	坏 須恵	口径(16.8) 器高 6.2 底径 (9.0) 口縁部～底部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N6/灰 (内)N6/灰	高台を付す 直線的に開く体部に高台を付す	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
遺構外 I 55－92	椀 灰釉	口径(18.8) 器高 5.6 底径 (9.4) 口縁部～底部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y7/1灰白 (内)5Y7/1灰白	丸みをもつ体部 口縁部が小さく外反する 高台を付す	(外) 胴部下半回転ヘラケズリ ハケ塗り施釉 (内) ハケ塗り施釉 東濃

第 37 表　土器観察表（31）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
遺構外 I 55－93	椀 灰釉	口径 － 残高 3.3 底径 7.4 底部～体部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y8/1～7/1 灰白 (内)7.5Y8/1～7/1 灰白	高台を付す	(外) 底部、体部下半回転ヘラケズリ (内) 東濃
遺構外 I 55－94	椀 灰釉	口径 － 残高 3.3 底径 8.6 底部～体部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y7/2灰白 2.5Y6/1黄灰 (内)5Y7/2灰白 2.5Y6/1黄灰	高台の断面形は三日月形	(外) 底部、体部下半回転ヘラケズリ (内) 猿投
遺構外 I 55－95	椀 灰釉	口径 － 残高 4.0 底径 (7.4) 底部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y7/2～8/2 灰白 (内)5Y7/2～8/2 灰白	高台を付す	(外) 底部、体部下半回転ヘラケズリ (内) 東濃
遺構外 I 55－96	Ⅲ 灰釉	口径(11.0) 器高 2.5 底径 (5.0) 口縁部～底部1/4	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)N8/灰白 (内)N7/灰白	段Ⅲ 内面に段を有する 高台を付す	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) 東濃
遺構外 I 55－97	Ⅲ 灰釉	口径(12.0) 器高 3.0 底径 (6.0) 底部～体部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y7/1～5Y7/2 灰白 (内)7.5Y7/1～5Y7/2 灰白	高台を付す	(外) 底部、体部下半回転ヘラケズリ (内) 東濃
遺構外 I 55－98	椀 緑釉	口径 － 残高 1.1 底径 6.8 底部2/3	胎；青灰色 硬質 焼；良好 色；(外)10GY6/1緑灰 (内)10GY6/1緑灰	高台を付す	(外) 底部回転糸切り痕有り (内) ヘラミガキ 猿投
遺構外 I 55－99	椀 緑釉	口径 － 残高 2.4 底径 (6.4) 底部1/2	胎；青灰色 硬質 焼；良好 色；(外)10GY5/1緑灰 (内)10GY5/1緑灰	高台を付す	(外) ナデ ケズリ (内) ヘラミガキを施していない 猿投
遺構外 I 55－ 100	椀 磁器	口径 － 残高 1.2 底径 (3.6) 底部	胎；白色硬質 焼；良好 色；(外)5GY6/1 オリーブ灰 (内)5GY6/1 オリーブ灰	丸椀 削り出し高台？	(外) 透明釉 (内) 透明釉 瀬戸・美濃
遺構外 I 55－ 101	甕 土師	口径(20.6) 残高 10.6 底径 － 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	長胴甕 張りのない胴部より緩やかに外反して口縁部に至る	(外) ナデ調整 (内) 刷毛調整
遺構外 I 55－ 102	甕 土師	口径(23.4) 残高 14.5 底径 － 1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	長胴甕 張りのない胴部より「く」字状に外反して口縁部に至る	(外) 回転台を利用したナデ (内)
遺構外 I 55－ 103	甕 土師	口径(20.6) 残高 8.6 底径 － 口縁部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	長胴甕 胴部より「く」字状に外反しさらに口縁部の先端で外反する	(外) 回転台を利用したと思われるナデ (内) ナデ ケズリ
遺構外 I 55－ 104	甕 土師	口径(22.4) 残高 5.6 底径 － 口縁部1/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	長胴甕 胴部より「く」字状に外反しさらに口縁部の先端でゆるく外反する	(外) 口縁部回転台を利用したナデ (内)
遺構外 I 55－ 105	甕 土師	口径 14.2 残高 6.4 底径 － 口縁部3/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	小型甕 胴部より小さく外反して口縁部に至る	(外) ナデ 口縁部ヨコナデ ケズリ調整 (内) ナデ ケズリ調整
遺構外 I 56－ 106	甕 土師	口径 (9.8) 器高 10.8 底径 7.5 1/2	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/3 にぶい褐 (内)5YR7/4 にぶい橙	小型甕 胴部は中位に最大径をもちゆるく小さく外反して口縁部に至る	(外) ロクロ調整のナデ 底部回転糸切り (内) ナデ
遺構外 I 56－ 107	甕 土師	口径 － 残高 0.9 底径 (4.6) 底部2/3	胎；金雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR5/4にぶい黄褐 (内)7.5YR5/3 にぶい褐	平底	(外) 底部木葉痕を有する (内)
遺構外 I 56－ 108	羽釜 土師	口径(25.6) 残高 5.3 底径 － 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)5YR6/6 橙	体部上位に鍔状の突帯を付す	(外) 刷毛調整 (内) 刷毛調整

第 38 表　土器観察表（32）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
遺構外 I 56－ 109	羽釜 土師	口径(19.6) 残高 10.6 底径 － 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	体部上位に鍔状の突帯を付す	(外) ナデ調整 (内) ナデ　ミガキ調整
遺構外 I 56－ 110	羽釜 土師	口径(17.0) 残高 5.6 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y7/2灰黄 (内)2.5Y7/2灰黄	体部上位に鍔状の突帯を付す 口縁部に強い面取りが施される	(外) ヨコナデ (内)
遺構外 I 56－ 111	羽釜 土師	口径(15.0) 残高 9.0 底径 － 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい橙 (内)7.5YR5/4 にぶい橙	体部上位に鍔状の突帯を付す 口縁部に大きく面取りが施される	(外) ケズリ調整 (内) ナデ調整
遺構外 I 56－ 112	壺 須恵	口径 － 残高 7.4 底径 － 頸部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/1 褐灰 (内)7.5YR4/1 褐灰	長頸壺	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
遺構外 I 56－ 113	壺 須恵	口径(15.4) 残高 5.1 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10R5/2 灰赤 (内)10R4/2 灰赤	短頸壺 口縁部から頸部が短く肩が張る	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ
遺構外 I 56－ 114	壺 須恵	口径 － 残高 4.4 底径(16.2) 底部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR4/1褐灰 (内)N4/灰	高台を付す	(外) (内)
遺構外 I 56－ 115	壺 須恵	口径 － 残高 2.5 底径 7.0 底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)N4/灰	高台を付す	(外) 底部ヘラ切り (内) ロクロナデ
遺構外 I 56－ 116	甕 須恵	口径 － 残高 2.9 底径(12.0) 底部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR5/4 にぶい赤褐 (内)N5/灰	平底	(外) タタキ目 (内) ケズリ 指頭によるナデ
遺構外 I 56－ 117	広口 瓶 灰釉	口径(19.4) 残高 12.9 底径 － 口縁部～頸部一部	胎；緻密 焼；良好 色；(外)N7/灰白 (内)N7/灰白	広口瓶	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ　灰釉を施す 東濃
遺構外 I 56－ 118	壺 灰釉	口径 － 残高 10.5 底径 － 胴部～底部一部	胎；緻密 焼；良好 色；(外)2.5Y7/1灰白 (内)2.5Y7/1灰白	高台を付す	(外) 胴部下半ヘラケズリ 釉が施される (内) ナデ 東濃
遺構外 II 57－1	椀 土師	口径(16.0) 残高 4.4 底径 － 口縁～体部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR3/1 黒褐		(外) (内) 黒色処理
遺構外 II 57－2	坏 須恵	口径(13.0) 残高 2.9 底径 － 口縁～体部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y6/1黄灰 (内)2.5Y6/1黄灰		(外) 火襷が見られる (内)
遺構外 II 57－3	椀 灰釉	口径 － 残高 2.5 底径 (8.4) 底部1/2 弱	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y7/2灰黄 (内)7.5Y6/3オリーブ黄	高台は比較的高め	(外) 底部、体部下半回転ヘラケズリ (内) 東濃
遺構外 II 57－4	鉢 須恵	口径(14.8) 残高 7.0 底径 － 口縁～胴部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y7/1 灰白 (内)10Y6/1 灰	口唇部に面取りが施され口縁帯をつくる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
遺構外 II 57－5	甕 土師	口径 － 残高 9.8 底径 (9.0) 底部～胴部一部	胎；雲母、石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	ロクロあるいは回転台を用いて成形している	(外) ロクロナデ (内)
遺構外 II 57－6	甕 須恵	口径(16.0) 残高 1.9 底径 － 口縁部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR4/1褐灰~5/2灰黄褐 (内)10YR5/2灰黄褐	甕か壺の口縁部と思われる 口縁帯を持つ	(外) ロクロナデ (内)

第 39 表　土器観察表 (33)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
遺構外 Ⅱ 57－7	甕 須恵	口径 － 残高 4.5 底径 － 胴部一部	胎；粗砂粒、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰～6/1 灰 (内)7.5Y6/1灰		(外) タタキ目 (内)
遺構外 Ⅲ 58－1	坏 土師	口径 11.6 器高 3.8 底径 5.0 ほぼ完存	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/2にぶい黄橙~N3/暗灰 (内)10YR7/2にぶい黄橙~N3/暗灰	上げ底ぎみの底部 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
遺構外 Ⅲ 58－2	坏 土師	口径 11.2 器高 4.0 底径 4.6 完存	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR8/4 淡橙 (内)5YR8/4 淡橙	上げ底ぎみの底部 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
遺構外 Ⅲ 58－3	坏 土師	口径 10.6 器高 2.7 底径 4.4 口縁部2/3~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR8/3浅黄橙 (内)10YR8/3浅黄橙	小型の坏 平底	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
遺構外 Ⅲ 58－4	坏 土師	口径 9.6 器高 2.9 底径 3.8 口縁部2/3~底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/1褐灰 (内)10YR6/1褐灰	小型の坏 平底	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
遺構外 Ⅲ 58－5	椀 土師	口径 10.3 器高 4.2 底径 6.0 口縁部~底部3/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)7.5YR7/3 にぶい橙	小椀 高台を付す	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
遺構外 Ⅲ 58－6	坏 土師	口径(12.8) 器高 3.5 底径 (6.2) 1/2	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y7/2灰黄~N2/ 黒 (内)N2/黒	平底 丸みのある体部	(外) ミガキ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ 黒色処理
遺構外 Ⅲ 58－7	坏 土師	口径 13.0 器高 3.7 底径 6.0 口縁部2/3~底部完	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR4/1 赤灰 (内)N2/黒	上げ底ぎみの底部 丸みのある体部	(外) ロクロナデ 底部回転糸切り (内) ロクロナデ 黒色処理
遺構外 Ⅲ 58－8	椀 土師	口径(14.4) 残高 4.2 底径 － 口縁部~底部一部	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR7/4 橙 (内)N3/暗灰	口縁部は外反する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 黒色処理
遺構外 Ⅲ 58－9	椀 灰釉	口径(15.6) 器高 5.3 底径 8.2 口縁部~底部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y8/1灰白~7.5Y6/1 灰 (内)7.5Y8/1灰白~7.5Y6/1 灰	丸みのある体部 高台断面は三日月型を呈する 漬け掛け	(外) 体部下位から底部回転ヘラケズリ (内) ナデ 東濃
遺構外 Ⅲ 58－10	段Ⅲ 灰釉	口径(14.4) 器高 2.4 底径 (8.0) 1/4	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y8/1灰白~7.5Y6/1 灰 (内)7.5Y8/1灰白~7.5Y6/1 灰	内面に段を有するⅢ 高台を付す	(外) 体部下半から底部回転ヘラケズリ (内) ナデ 東濃
遺構外 Ⅲ 58－11	甕 土師	口径(14.9) 残高 13.0 底径 － 口縁部~胴部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6明赤褐~5YR4/1褐灰 (内)5YR4/1 褐灰	小形甕	(外) ナデ (内) ナデ
遺構外 Ⅲ 58－12	小瓶 灰釉	口径 － 残高 4.0 底径 － 胴部~体部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5GY6/1オリーブ灰~N6/灰 (内)N6/灰	体部から頸部へゆるやかにすぼまる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ 東濃

第 40 表　土器観察表 (34)

遺構NO 図版NO	種類 残存	法量	瓦質	調整	備考
ST-05 59－1	丸瓦 体部	長さ(10.2) 幅 (3.8) 厚さ 1.9	胎；灰色粒子を多く含む 焼；還元 色；N3/ 暗灰	凹面；布目(本/1cm²)9×7 側縁ケズリ 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
SD-03 道路状遺構 60－1	丸瓦 端部	長さ(12.6) 幅 (8.1) 厚さ 1.8	胎；白色粒子、褐色小礫を含む 焼；酸化 色；10YR7/3にぶい黄橙～6/2灰黄褐	凹面；布目(本/1cm²)8×9 糸切り痕 凸面；ナデ 側面；分割痕	無段
SD-03 道路状遺構 60－2	平瓦 体部	長さ(11.2) 幅 (7.1) 厚さ 1.8	胎；白色粒子、褐色小礫を含む 焼；酸化 色；5YR5/6明赤褐～6/4にぶい橙	凹面；布目(本/1cm²)6×8 凸面；平行タタキ目 布目 側面；	狭端面まで布目痕
SD-03 道路状遺構 60－3	平瓦 体部	長さ (7.5) 幅 (4.2) 厚さ 1.7	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR6/2灰黄褐7.5YR7/3にぶい橙	凹面；布目(本/1cm²)9×13 凸面；平行タタキ目 側面；分割痕 広端面ケズリ	
SD-01 61－1	丸瓦 玉縁部	長さ (5.5) 幅 (7.3) 厚さ 1.4	胎；褐色粒子を含む 焼；還元 色；10YR6/1 灰～7/1 灰白	凹面；布目(本/1cm²)6×6 ナデ 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；	
SD-01 61－2	丸瓦 端部	長さ (9.3) 幅 (10.2) 厚さ 2.3	胎；白色、褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR7/4 にぶい黄橙	凹面；布目(本/1cm²)5×7 広端部ケズリ 凸面；ケズリ 側面；凹面側を面取り	
SD-01 61－3	丸瓦 体部	長さ(10.2) 幅 (4.2) 厚さ 1.9	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR6/6橙～6/1 褐灰	凹面；布目(本/1cm²)9×10 布綴合せ目 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；凹面側を面取り	
SD-01 61－4	平瓦 体部	長さ (9.8) 幅 (6.6) 厚さ 2.3	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR6/4にぶい橙	凹面；布目(本/1cm²)7×9 凸面；押型文 側面；布目	側面まで布目痕 側面に幅約1cmのスジ状のくぼみあり
SD-01 61－5	平瓦 体部	長さ (5.1) 幅 (12.3) 厚さ 1.8	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；N5/ 灰	凹面；布目(本/1cm²)6×9 ナデ 凸面；縄タタキ目 糸切り痕 側面；ケズリ	
SD-07 62－1	軒丸瓦 瓦当部 1/4	縦 (10.2) 横 (10.1)	胎；褐色粒子が多い 焼；酸化 色；5YR6/6橙		九葉単弁蓮華文 復元瓦当径 13.5 瓦当厚2.1~2.5
SD-07 62－2	軒丸瓦 瓦当部 1/5	縦 (7.5) 横 (9.1)	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；N3/ 暗灰		九葉単弁蓮華文 復元瓦当径 14.8 瓦当厚2.1
SD-07 62－3	軒丸瓦 瓦当部 一部	縦 (7.8) 横 (5.9)	胎；褐色小礫を含む 焼；酸化気味 色；7.5YR4/1褐灰 5YR6/6橙		九葉素弁蓮華文 復元瓦当径 16.0 瓦当厚2.0
SD-07 62－4	軒丸瓦 瓦当部 1/8	縦 (5.2) 横 (8.7)	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；5Y4/1 灰 10YR5/2 灰黄褐		十（九）葉単弁蓮華文 中房径4.1 蓮子径0.5~0.6 瓦当厚2.8
SD-07 62－5	軒丸瓦 瓦当部 一部	縦 (4.6) 横 (10.5)	胎；黒色、白色粒子を含む 焼；還元 色；N3/ 暗灰 2.5Y5/1 黄灰		八葉複弁蓮華文 復元瓦当径19.6 瓦当厚2.6 ＊創建期信濃国分寺のもの
SD-07 62－6	軒丸瓦 瓦当部 一部	縦 (4.1) 横 (5.2)	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR7/3 にぶい黄橙		九葉素弁蓮華文 復元瓦当径 16.6 瓦当厚1.5
SD-07 62－7	丸瓦 玉縁部 ～体部	長さ(28.9) 幅 (14.3) 厚さ 2.2	胎；黒色粒子を多く含む 焼；還元 色；N5/ 灰 N4/ 灰	凹面；布目(本/1cm²)7×7 凸面；ナデ ケズリ 側面；両面を面取り	布目は玉縁部から筒部まで同一
SD-07 63－8	丸瓦 端部	長さ(11.0) 幅 14.5 厚さ 2.2	胎；黒色粒子を含む 焼；還元気味 色；5YR4/1褐灰	凹面；布目(本/1cm²)6×8 広端部ケズリ 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；凹面側を面取り	
SD-07 63－9	丸瓦 体部～ 端部	長さ(20.1) 幅 12.0 厚さ 1.5	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；7.5Y5/1 灰 10Y4/1灰	凹面；布目(本/1cm²)6×6 広端部ケズリ 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；凹面側を面取り	
SD-07 63－10	丸瓦 体部	長さ(11.4) 幅 14.8 厚さ 1.9	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；2.5Y5/1 ～4/1 黄灰	凹面；横ケズリ 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 63－11	丸瓦 玉縁部 ～体部	長さ (9.2) 幅 (5.7) 厚さ 1.2	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；10Y4/1～5/1 灰	凹面；布目(本/1cm²)7×6 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 63－12	丸瓦 体部	長さ(16.7) 幅 (9.3) 厚さ 2.2	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；5Y6/1 ～5/1 灰	凹面；布目(本/1㎠)11×8 糸切り痕 凸面；ナデ ケズリ 側面；両面を面取り	

第 41 表　瓦観察表（１）

遺構NO 図版NO	種　類 残　存	法　量	瓦　　質	調　　整	備　　考
SD-07 63－13	丸瓦 端部	長さ (8.8) 幅　(13.0) 厚さ　2.3	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；N5/ 灰	凹面；布目(木/1cm)7×7　広端部ケズリ 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 63－14	丸瓦 端部	長さ (6.3) 幅　(5.8) 厚さ　2.3	胎；白色、黒色粒子を含む 焼；還元 色；N4/ ～5/灰	凹面；布目(木/1cm)11×11 凸面；広端部ケズリ　糸切り痕 側面；両面を面取り	
SD-07 64－15	丸瓦 端部	長さ(13.7) 幅　(8.0) 厚さ　1.5	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；7.5Y5/1 灰	凹面；布目(木/1cm)5×6　広端部ケズリ 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 64－16	丸瓦 体部	長さ(13.0) 幅　(9.2) 厚さ　1.9	胎；白色、褐色粒子を含む 焼；還元 色；5Y5/1 灰	凹面；布目(木/1cm)7×7 凸面；ナデ　平行タタキ目 側面；両面を面取り	
SD-07 64－17	丸瓦 体部～ 端部	長さ(11.1) 幅　(8.4) 厚さ　1.5	胎；褐色粒子を含む 焼；還元 色；2.5Y4/1 黄灰　5Y4/1 灰	凹面；布目(木/1cm)8×9 布綴合せ目 広端部ケズリ 凸面；ナデ 側面；両面を面取り	
SD-07 64－18	丸瓦 体部	長さ(13.3) 幅　(11.3) 厚さ　2.2	胎；白色粒子、石英を含む 焼；還元 色；N6/ 灰　N5/ 灰	凹面；布目(木/1cm)7×7　糸切り痕 凸面；平行タタキ目（斜状）　ナデ 側面；両面を面取り	
SD-07 64－19	丸瓦 端部	長さ (8.9) 幅　(7.8) 厚さ　2.5	胎；褐色、白色粒子、雲母を含む 焼；還元気味 色；5Y6/1 灰　2.5Y4/1 黄灰	凹面；布目(木/1cm)7×6　広端部ケズリ 凸面；ナデ 側面；両面を面取り	
SD-07 64－20	丸瓦 端部	長さ (5.0) 幅　(5.1) 厚さ　1.6	胎；白色粒子を多く含む 焼；還元 色；N3/ 暗灰	凹面；布目(木/1cm)5×7　広端部ケズリ 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 64－21	丸瓦 玉縁部	長さ (8.4) 幅　(5.5) 厚さ　2.1	胎；白色粒子を多く含む 焼；還元 色；7.5Y5/～6/　灰	凹面；布目(木/1cm)11×13　玉縁部ケズリ 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	刻字？
SD-07 64－22	丸瓦 端部	長さ (8.0) 幅　(10.8) 厚さ　2.3	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；N5/ 灰	凹面；布目(木/1cm)7×6　広端部ケズリ 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 64－23	丸瓦 体部	長さ(12.0) 幅　(4.9) 厚さ　1.8	胎；白色粒子を多く含む 焼；還元 色；5Y4/1 灰　7.5Y5/1 灰	凹面；布目(木/1cm)6×5　布綴合せ目　糸切り痕 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；	側面まで布目痕
SD-07 64－24	丸瓦 体部	長さ(11.4) 幅　(8.3) 厚さ　2.5	胎；褐色粒子を含む 焼；還元 色；10Y6/1灰	凹面；布目(木/1cm)5×5 凸面；ナデ　ケズリ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 65－25	丸瓦 体部	長さ (8.5) 幅　(8.0) 厚さ　2.0	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；10Y4/1灰	凹面；布目(木/1cm)7×6 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；凸面側を面取り	
SD-07 65－26	丸瓦 端部	長さ (8.2) 幅　(7.3) 厚さ　1.5	胎；褐色粒子を含む 焼；還元 色；10Y6/1灰	凹面；布目（木/1cm）6×6 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；凹面側を面取り　広端部、凹面にケズリ	
SD-07 65－27	丸瓦 端部	長さ (4.9) 幅　(5.7) 厚さ　1.4	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；10Y4/1灰	凹面；布目(木/1cm)6×6　ケズリ 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；両面を面取り　広端部を面取り	
SD-07 65－28	丸瓦 端部	長さ(11.2) 幅　(6.2) 厚さ　1.4	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；N4/Y灰	凹面；布目(木/1cm)11×10　ケズリ 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；両面を面取り	
SD-07 65－29	丸瓦 体部	長さ (7.4) 幅　(11.1) 厚さ　1.3	胎；褐色、白色粒子を含む 焼；還元 色；10YR5/1 褐灰 2.5Y5/1黄灰	凹面；布目(木/1cm)8×7 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 65－30	丸瓦 体部	長さ (8.1) 幅　(6.2) 厚さ　2.0	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；2.5Y4/1 ～5/1 黄灰	凹面；布目(木/1cm)7×7 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 65－31	丸瓦 体部	長さ(27.2) 幅　(5.1) 厚さ　1.2	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；10BG4/1 暗灰　10Y4/1灰	凹面；布目(木/1cm)6×5 凸面；ナデ 側面；	
SD-07 65－32	丸瓦 体部	長さ(12.1) 幅　(11.2) 厚さ　2.9	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；N5/ 灰	凹面；布目(木/1cm)6×7 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；凹面側を面取り	
SD-07 65－33	丸瓦 玉縁部 ～体部	長さ(23.3) 幅　14.1 厚さ　2.4	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR7/6橙～7/4 にぶい橙	凹面；布目(木/1cm)6×7 凸面；ナデ（タテ） 側面；凹面側を面取り	

第 42 表　瓦観察表（２）

遺構NO 図版NO	種類 残存	法量	瓦質	調整	備考
SD-07 66－34	丸瓦 玉縁部 ～体部	長さ(12.4) 幅 15.5 厚さ 1.7	胎；褐色、白色粒子を含む 焼；酸化 色；5YR6/6橙～7.5YR6/4にぶい橙	凹面；布目(木/1cm)6×5 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；凹面側を面取り	
SD-07 66－35	丸瓦 玉縁部 ～体部	長さ(24.2) 幅 (8.6) 厚さ 2.0	胎；褐色、白色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR7/3にぶい橙～7.5YR6/6橙	凹面；布目(木/1cm)6×6 玉縁部ケズリ 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；凹面側を面取り	肩部のつくりが浅い玉縁から体部まで１枚の布
SD-07 66－36	丸瓦 玉縁部 ～体部	長さ(13.5) 幅 (7.6) 厚さ 1.9	胎；黒色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR7/4にぶい黄橙～N3/ 暗灰	凹面；布目(木/1cm)7×8 玉縁端部ケズリ 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；凹面側を面取り	
SD-07 66－37	丸瓦 玉縁部 ～体部	長さ (7.8) 幅 (9.0) 厚さ 1.4	胎；褐色粒子多く含む 焼；酸化気味 色；7.5YR5/1褐灰～7/4にぶい橙	凹面；布目(木/1cm)6×6 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；凹面側を面取り	
SD-07 66－38	丸瓦 玉縁部 ～体部	長さ (7.2) 幅 (7.2) 厚さ 1.8	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；5YR6/6橙～7.5YR6/4にぶい橙	凹面；布目(木/1cm)5×6 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；	
SD-07 66－39	丸瓦 体部～ 端部	長さ(16.5) 幅 (7.2) 厚さ 2.1	胎；褐色粒子を多く含む 焼；酸化 色；5YR4/6赤褐～4/3にぶい赤褐	凹面；布目(木/1cm)6×5 広端部ケズリ 凸面；ナデ ヘラスジ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 66－40	丸瓦 体部～ 端部	長さ(15.6) 幅 (10.1) 厚さ 1.7	胎；白色、褐色粒子を含む 焼；酸化気味 色；10YR4/1褐灰 5YR4/3にぶい赤褐	凹面；布目(木/1cm)7×7 広端部ケズリ 凸面；ナデ（ヨコ） 側面；凹面を面取り	
SD-07 67－41	丸瓦 体部	長さ(12.0) 幅 (9.8) 厚さ 2.8	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR6/4にぶい橙～黒	凹面；布目(木/1cm)5×4 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 67－42	丸瓦 端部	長さ(10.0) 幅 (8.0) 厚さ 3.0	胎；褐色、白色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR6/4にぶい橙	凹面；布目痕 4cm程の幅でケズリ 広端部ケズリ 凸面；ケズリ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 67－43	丸瓦 端部	長さ (4.2) 幅 7.1 厚さ 2.0	胎；白色粒子を含む 焼；酸化気味 色；2.5Y4/1 黄灰	凹面；布目(木/1cm)6×5 凸面；平行タタキ目 側面；	
SD-07 67－44	丸瓦 体部	長さ (6.5) 幅 (13.3) 厚さ 2.0	胎；褐色粒子多く含む 焼；酸化 色；7.5YR6/4にぶい橙	凹面；布目(木/1cm)8×7 凸面；ナデ 側面；	
SD-07 67－45	丸瓦 体部	長さ(20.0) 幅 (13.3) 厚さ 2.2	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR6/4にぶい橙	凹面；布目(木/1cm)8×7 糸切り痕 凸面；ナデ（タテ） 側面；	
SD-07 67－46	丸瓦 体部	長さ (9.0) 幅 (11.2) 厚さ 1.5	胎；褐色粒子多く含む 焼；酸化 色；7.5YR6/4にぶい橙	凹面；布目(木/1cm)7×6 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 67－47	平瓦 端部	長さ(16.8) 幅 (19.0) 厚さ 2.3	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；7.5Y6/灰 5Y5/灰	凹面；布目(木/1cm)8×7 側縁、広端部ケズリ 凸面；縄タタキ目 側面；	
SD-07 67－48	平瓦 端部～ 体部	長さ(27.2) 幅 (19.3) 厚さ 2.1	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；5Y6/1 灰 2.5Y6/1 黄灰	凹面；布目(木/1cm)8×8 凸面；縄タタキ目 ケズリ 狭端部ケズリ 指圧痕 側面；凹面側を面取り	
SD-07 67－49	平瓦 端部～ 体部	長さ(21.7) 幅 (15.5) 厚さ 2.4	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；7.5Y2/1 黒 2.5Y3/1 黒褐	凹面；布目(木/1cm)8×7 ナデ 凸面；縄タタキ目 側面；	
SD-07 68－50	平瓦 端部	長さ (9.8) 幅 (14.5) 厚さ 1.6	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；10YR5/1 褐灰 2.5Y6/2灰黄	凹面；布目(木/1cm)7×8 凸面；縄タタキ目 指圧痕 側面；凹面側を面取り	
SD-07 68－51	平瓦 端部～ 体部	長さ(24.0) 幅 (11.2) 厚さ 2.4	胎；褐色粒子を含む 焼；還元 色；10YR5/2 灰黄褐～5/1 褐灰	凹面；布目(木/1cm)6×6 凸面；縄タタキ目 指圧痕 ケズリ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 68－52	平瓦 端部	長さ(14.8) 幅 (10.4) 厚さ 1.8	胎；褐色粒子を含む 焼；還元 色；7.5YR6/1灰	凹面；布目(木/1cm)9×8 凸面；縄タタキ目 指圧痕 側面；凹面側を面取り	
SD-07 68－53	平瓦 端部	長さ(16.0) 幅 (12.2) 厚さ 3.3	胎；褐色粒子を含む 焼；還元 色；2.5Y5/1 黄灰	凹面；布目(木/1cm)7×6 ナデ 凸面；縄タタキ目 ケズリ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 68－54	平瓦 端部	長さ(13.5) 幅 (10.4) 厚さ 2.2	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；10YR5/2灰黄褐 2.5Y5/2暗灰黄	凹面；布目(木/1cm)7×6 ナデ 側縁、広端部ケズリ 凸面；縄タタキ目 側面；分割痕	

第 43 表　瓦観察表（３）

遺構NO 図版NO	種　類 残　存	法　量	瓦　　質	調　　整	備　　考
SD-07 68－55	平瓦 端部	長さ (8.3) 幅　(9.0) 厚さ　2.0	胎；白色粒子多く含む 焼；還元 色；2.5Y5/1 黄灰～5/2 暗灰黄	凹面；布目(木/1cm)5×7　糸切り痕 凸面；縄タタキ目　糸切り痕 側面；両面を面取り	模骨痕？
SD-07 68－56	平瓦 端部	長さ(10.7) 幅　(11.2) 厚さ　2.5	胎；黒色、白色粒子を含む 焼；還元 色；10YR5/2灰黄褐~7.5Y6/2灰オリーブ	凹面；ナデ　側縁ケズリ　指頭痕 凸面；縄タタキ目　ナデ 側面；	
SD-07 68－57	平瓦 端部	長さ (9.1) 幅　(6.9) 厚さ　1.6	胎；黒色小礫を含む 焼；還元 色；7/5YR5/3にぶい褐~4/1褐灰	凹面；布目(木/1cm)7×6 指頭痕　狭端部ケズリ 凸面；縄タタキ目 側面；凹面側を面取り	
SD-07 68－58	平瓦 端部	長さ(12.5) 幅　(7.5) 厚さ　1.8	胎；白色粒子多く含む 焼；還元 色；2.5Y5/1 黄灰	凹面；布目(木/1cm)10×9 凸面；縄タタキ目 側面；	端面まで布目痕
SD-07 68－59	平瓦 端部	長さ(10.3) 幅　(10.7) 厚さ　1.8	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；5Y4/1 灰　10Y4/1灰	凹面；布目(木/1cm)7×8 凸面；縄タタキ目　糸切り痕 側面；	模骨痕
SD-07 68－60	平瓦 端部	長さ (5.0) 幅　(11.8) 厚さ　1.9	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；N4/Y灰	凹面；布目(木/1cm)6×8 凸面；平行タタキ目 側面；凸面側を面取り　布目	側面まで布目痕
SD-07 68－61	平瓦 端部	長さ(17.3) 幅　(10.3) 厚さ　2.6	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；5Y5/1 灰　10Y5/1灰	凹面；布目(木/1cm)9×9 凸面；平行タタキ目（斜状）　布目 側面；凸面側を面取り　布目	端面、側面まで布目痕
SD-07 69－62	平瓦 端部	長さ (7.7) 幅　(6.2) 厚さ　1.9	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；10YR6/2 灰黄褐～5/1 褐灰	凹面；布目(木/1cm)12×11 凸面；平行タタキ目（斜状） 側面；	端面、側面まで布目痕
SD-07 69－63	平瓦 端部	長さ (9.2) 幅　(8.0) 厚さ　2.0	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；5Y5/2 灰オリーブ	凹面；布目(木/1cm)6×6 凸面；平行タタキ目（斜状）ケズリ 側面；布目　凸面側を面取り	側面まで布目痕
SD-07 69－64	平瓦 端部	長さ (4.7) 幅　(6.1) 厚さ　2.2	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；7.5Y5/1 灰　5Y5/1 灰	凹面；布目(木/1cm)9×9 凸面；平行タタキ目 側面；	凸面に刻字？
SD-07 69－65	平瓦 端部	長さ (7.2) 幅　(8.6) 厚さ　2.1	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；7.5Y3/2オリーブ黒～5/1 灰	凹面；布目(木/1cm)10×11 凸面；平行タタキ目 側面；	端面まで布目痕
SD-07 69－66	平瓦 端部	長さ (7.0) 幅　(8.3) 厚さ　2.0	胎；白色、褐色粒子を含む 焼；還元 色；2.5Y5/2 暗灰黄～5/1 黄灰	凹面；布目(木/1cm)9×9 凸面；平行タタキ目 側面；凸面側を面取り	端面まで布目痕
SD-07 69－67	平瓦 端部	長さ (8.0) 幅　(9.7) 厚さ　1.9	胎；褐色粒子を含む 焼；還元 色；2.5Y5/1 黄灰	凹面；布目(木/1cm)11×12　ナデ 凸面；平行タタキ目 側面；	端面まで布目痕
SD-07 69－68	平瓦 端部	長さ (7.8) 幅　(9.3) 厚さ　1.9	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化気味 色；2.5Y7/2 灰黄	凹面；布目(木/1cm)8×7 凸面；平行タタキ目 側面；	端面まで布目痕
SD-07 69－69	平瓦 端部	長さ (5.7) 幅　(7.2) 厚さ　1.8	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；N5/ 灰　N4/ 灰	凹面；布目(木/1cm)7×7 凸面；ケズリ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 69－70	平瓦 端部～ 体部	長さ(16.0) 幅　(12.2) 厚さ　2.7	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；5Y4/1 ～5/1 灰	凹面；布目(木/1cm)8×8 凸面；平行タタキ目 側面；	
SD-07 69－71	平瓦 端部～ 体部	長さ(17.4) 幅　(9.8) 厚さ　2.5	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；2.5Y5/21暗灰黄	凹面；布目(木/1cm)7×6 凸面；押型文 側面；凹面側を面取り	
SD-07 69－72	平瓦 端部	長さ (5.0) 幅　(7.3) 厚さ　1.8	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化気味 色；10YR7/3にぶい黄橙～6/1 褐灰	凹面；布目(木/1cm)7×7 凸面；押型文 側面；凹面側を面とり	
SD-07 69－73	平瓦 端部～ 体部	長さ(23.4) 幅　(12.9) 厚さ　2.1	胎；黒色、白色粒子を含む 焼；還元 色；5PB4/1暗青灰～5/1 青灰	凹面；布目(木/1cm)6×7 凸面；ナデ　狭端面ケズリ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 69－74	平瓦 端部～ 体部	長さ(14.0) 幅　(12.0) 厚さ　2.1	胎；白色粒子多く含む 焼；還元 色；2.5Y4/1 黄灰	凹面；布目(木/1cm)6×6 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 70－75	平瓦 端部	長さ(13.3) 幅　(10.0) 厚さ　3.1	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；5YR5/1褐灰 10Y5/1 灰	凹面；布目(木/1cm)6×7　広端部でふくれた 凸面；ナデ　ケズリ 側面；凹面側に面取り	

第 44 表　瓦観察表（４）

遺構NO 図版NO	種類 残存	法量	瓦質	調整	備考
SD-07 70－76	平瓦 端部	長さ(18.6) 幅 (14.0) 厚さ 2.0	胎；白色、黒色粒子を含む 焼；還元 色；N4/ 灰 N7/ 灰白	凹面；布目(本/1cm)8×8 側縁、端部ケズリ 凸面；ナデ 側面；	凸面に刻字？
SD-07 70－77	平瓦 端部～ 体部	長さ(26.3) 幅 (15.0) 厚さ 2.3	胎；白色、黒色粒子を含む 焼；還元 色；2.5Y6/1 黄灰 5Y5/1 灰	凹面；布目(本/1cm)7×7 凸面；ナデ 側面；	凸面に刻字？
SD-07 70－78	平瓦 体部	長さ(15.6) 幅 (14.3) 厚さ 1.7	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；5Y3/2ｵﾘｰﾌﾞ灰~2.5Y3/1 黒褐	凹面；ナデ 凸面；縄タタキ目 側面；凹面側を面取り	
SD-07 70－79	平瓦 体部	長さ(14.2) 幅 (11.0) 厚さ 2.3	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；5Y5/1 灰 2.5Y5/1 黄灰	凹面；ナデ 凸面；縄タタキ目 側面；凸面側を面取り	
SD-07 70－80	平瓦 体部	長さ(18.3) 幅 (15.7) 厚さ 2.0	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化気味 色；10YR6/3にぶい黄橙~5Y8/1灰白	凹面；布目(本/1cm)7×6 凸面；平行タタキ目（斜状） 側面；凸面側を面取り 布目	側面まで布目痕
SD-07 70－81	平瓦 体部	長さ(13.5) 幅 (12.6) 厚さ 1.9	胎；白色粒子を含む 焼；酸化気味 色；2.5Y6/2 ～6/1 黄灰	凹面；布目(本/1cm)6×4 凸面；平行タタキ目 側面；	
SD-07 70－82	平瓦 体部	長さ (6.4) 幅 (6.2) 厚さ 1.3	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；7.5Y5/1 灰～5/3 灰オリーブ	凹面；布目(本/1cm)6×5 凸面；平行タタキ目（斜状） 側面；凹面側を面取り	
SD-07 70－83	平瓦 体部	長さ (8.3) 幅 (8.8) 厚さ 2.0	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；N4/ 灰	凹面；布目(本/1cm)5×6 凸面；平行タタキ目 側面；	熨斗瓦の可能性もある
SD-07 70－84	平瓦 体部	長さ(17.0) 幅 (17.5) 厚さ 1.6	胎；褐色、白色粒子、黒雲母を含む 焼；還元 色；10YR4/2 灰黄褐~7.5Y5/1灰	凹面；布目(本/1cm)5×6 凸面；平行タタキ目 側面；凹面側を面取り 布目	側面まで布目痕
SD-07 71－85	平瓦 体部	長さ(10.5) 幅 (11.5) 厚さ 1.7	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；10YR5/2 灰黄褐~7.5Y5/1灰	凹面；布目(本/1cm)6×6 凸面；ナデ 平行タタキ目 側面；	
SD-07 71－86	平瓦 端部	長さ (9.0) 幅 (6.0) 厚さ 1.8	胎；褐色粒子を含む 焼；還元 色；10YR4/1 褐灰	凹面；布目(本/1cm)6×6 凸面；平行タタキ目（斜状） 側面；	
SD-07 71－87	平瓦 端部	長さ(10.0) 幅 (8.8) 厚さ 2.3	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；7.5Y5/1 灰	凹面；布目(本/1cm)8×10 凸面；平行タタキ目（斜状） 側面；	端面まで布目痕
SD-07 71－88	平瓦 端部	長さ (8.1) 幅 (7.0) 厚さ 2.7	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；10YR5/1 褐灰	凹面；布目(本/1cm)8×7 糸切り痕 凸面；平行タタキ目（斜状） 布目 側面；	端面まで布目痕
SD-07 71－89	平瓦 端部	長さ (9.5) 幅 (7.5) 厚さ 2.4	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化気味 色；2.5YR7/3浅黄～5/1 黄灰	凹面；布目(本/1cm)6×5 凸面；平行タタキ目（斜状） 側面；	側面まで布目痕
SD-07 71－90	平瓦 端部	長さ (7.3) 幅 (7.2) 厚さ 1.8	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；2.5Y5/1 黄灰～5/3にぶい黄褐	凹面；布目(本/1cm)7×7 端部面取り 凸面；平行タタキ目（斜状） 側面；	
SD-07 71－91	平瓦 端部	長さ (5.3) 幅 (6.0) 厚さ 1.2	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；7.5Y6/2 灰オリーブ	凹面；布目(本/1cm)7×6 凸面；平行タタキ目 布目 側面；	端面まで布目痕
SD-07 71－92	平瓦 端部	長さ (8.6) 幅 (8.0) 厚さ 2.5	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；10YR6/2 灰黄褐～5/1 褐灰	凹面；布目(本/1cm)10×10 凸面；平行タタキ目 側面；	端面まで布目痕
SD-07 71－93	平瓦 端部	長さ (8.0) 幅 (8.6) 厚さ 1.6	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；5Y5/3 灰オリーブ～2/1 黒	凹面；布目(本/1cm)6×7 凸面；押型文 側面；	
SD-07 71－94	平瓦 端部	長さ (9.6) 幅 (6.4) 厚さ 2.5	胎；白色粒子を多く含む 焼；還元 色；5Y3/1 オリーブ黒～5/1 灰	凹面；布目(本/1cm)7×8 凸面；ナデ ケズリ 側面；	端面まで布目痕
SD-07 71－95	平瓦 端部	長さ (9.3) 幅 (8.8) 厚さ 3.3	胎；黒色粒子を多く含む 焼；還元 色；N4/ 灰 N5/ 灰	凹面；布目(本/1cm)6×7 狭端部ケズリ 凸面；ナデ 平行タタキ目 側面；	ふくれた瓦
SD-07 71－96	平瓦 端部	長さ(13.6) 幅 (5.2) 厚さ 1.5	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；10Y4/1灰 N4/ 灰	凹面；布目(本/1cm)7×6 凸面；ナデ 側面；	凸面にヘラスジ

第 45 表　瓦観察表（５）

遺構NO 図版NO	種類 残存	法量	瓦質	調整	備考
SD-07 71－97	平瓦 端部～ 体部	長さ(15.9) 幅 (12.7) 厚さ 2.2	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR6/1 褐灰～6/2 灰黄褐	凹面；布目(本/1cm)6x6 ナデ 凸面；縄タタキ目 側面；凹面側を面取り	
SD-07 71－98	平瓦 端部～ 体部	長さ(14.6) 幅 (14.0) 厚さ 2.1	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR6/4にぶい橙～10YR6/2灰黄褐	凹面；布目(本/1cm)7x7 布ヨレ 凸面；縄タタキ目 側面；	横骨痕 端面面取り 糸切り痕
SD-07 71－99	平瓦 端部～ 体部	長さ(18.0) 幅 (8.2) 厚さ 2.3	胎；褐色、白色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR6/3にぶい黄橙～5/2灰黄褐	凹面；布目(本/1cm)8x8 側縁端部ケズリ 凸面；縄タタキ目 ケズリ 側面；	
SD-07 71－ 100	平瓦 端部	長さ(10.8) 幅 (11.5) 厚さ 2.5	胎；褐色粒子、黒雲母を含む 焼；酸化 色；5Y6/1 灰～10YR6/2 灰黄褐	凹面；布目 ナデ 凸面；縄タタキ目 側面；	
SD-07 72－ 101	平瓦 端部	長さ (9.9) 幅 (10.5) 厚さ 2.5	胎；褐色小礫を多く含む 焼；酸化 色；7.5YR6/4にぶい橙～6/3にぶい褐	凹面；布目(本/1cm)7x7 端部ケズリ 凸面；縄タタキ目 側面；凹面側を面取り	
SD-07 72－ 102	平瓦 端部	長さ(13.4) 幅 (14.3) 厚さ 2.0	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR5/4にぶい褐	凹面；布目(本/1cm)8x7 ナデ 側縁ケズリ 凸面；縄タタキ目 側面；凹面側を面取り	
SD-07 72－ 103	平瓦 端部	長さ (7.2) 幅 (13.6) 厚さ 1.8	胎；白色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR3/4 暗褐～5/3にぶい黄褐	凹面；布目(本/1cm)7x8 布ｽｼﾞ痕 端部面取り 凸面；縄タタキ目 側面；	
SD-07 72－ 104	平瓦 端部	長さ(10.7) 幅 (8.2) 厚さ 2.1	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR6/4にぶい橙	凹面；布目(本/1cm)7x6 凸面；平行タタキ目 布目 側面；	端面まで布目痕
SD-07 72－ 105	平瓦 端部～ 体部	長さ(18.4) 幅 (10.3) 厚さ 2.0	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR6/4 ～6/3 にぶい黄橙	凹面；布目(本/1cm)10x10 糸切り痕 凸面；平行タタキ目 側面；	端面に切り込み
SD-07 72－ 106	平瓦 端部	長さ (6.1) 幅 (9.0) 厚さ 2.0	胎；黒色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR6/6橙	凹面；布目(本/1cm)9x9 布目 凸面；平行タタキ目 側面；	端面まで布目痕
SD-07 72－ 107	平瓦 端部	長さ(10.0) 幅 (7.0) 厚さ 1.7	胎；白色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR5/3 にぶい黄褐	凹面；布目(本/1cm)7x7 凸面；平行タタキ目（斜状） 側面；	端面まで布目痕
SD-07 72－ 108	平瓦 端部	長さ(11.0) 幅 (7.4) 厚さ 1.9	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR7/3にぶい黄橙～8/2 灰白	凹面；布目(本/1cm)5x5 凸面；平行タタキ目（斜状） 側面；凹面側を面取り	端面まで布目痕
SD-07 72－ 109	平瓦 端部	長さ (6.0) 幅 (8.0) 厚さ 1.8	胎；白色粒子を含む 焼；酸化 色；5YR6/6橙	凹面；布目(本/1cm)5x6 凸面；平行タタキ目 糸切り痕 側面；	
SD-07 72－ 110	平瓦 端部	長さ(10.6) 幅 (8.0) 厚さ 1.6	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR6/2灰黄褐～2.5Y6/2灰黄	凹面；布目(本/1cm)6x6 凸面；平行タタキ目 側面；	端面まで布目痕
SD-07 72－ 111	平瓦 端部	長さ (6.8) 幅 (7.8) 厚さ 2.1	胎；黒色、褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR6/4にぶい橙	凹面；布目(本/1cm)6x6 ヘラ痕 凸面；平行タタキ目 側面；	
SD-07 72－ 112	平瓦 端部～ 体部	長さ(19.2) 幅 (22.0) 厚さ 2.2	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR7/4 ～7/3 にぶい黄橙	凹面；布目(本/1cm)7x8 凸面；平行タタキ目 側面；布目	側面、端面まで布目痕
SD-07 72－ 113	平瓦 端部～ 体部	長さ(13.2) 幅 (12.8) 厚さ 1.8	胎；褐色、白色、黒色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR4/2灰褐～5/4にぶい褐	凹面；布目(本/1cm)6x5 狭端部、側縁ケズリ 凸面；平行タタキ目 ナデ 側面；	端面まで布目痕
SD-07 72－ 114	平瓦 端部	長さ (7.2) 幅 (7.0) 厚さ 2.3	胎；褐色小礫を含む 焼；酸化 色；7.5YR5/3にぶい褐～5YR5/4にぶい赤褐	凹面；布目(本/1cm)9x8 凸面；平行タタキ目 側面；	端面まで布目痕
SD-07 72－ 115	平瓦 端部	長さ(12.4) 幅 (7.0) 厚さ 1.8	胎；白色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR7/4 にぶい黄橙	凹面；布目(本/1cm)6x7 凸面；押型文 側面；凹面側面取り	
SD-07 73－ 116	平瓦 端部	長さ(10.8) 幅 11.4 厚さ 2.4	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR5/4にぶい褐	凹面；布目(本/1cm)6x6 凸面；平行タタキ目 側面；分割痕	端面まで布目痕
SD-07 73－ 117	平瓦 端部	長さ (7.5) 幅 (6.2) 厚さ 1.9	胎；褐色、白色粒子を含む 焼；酸化 色；5YR6/4にぶい橙～7.5YR6/4にぶい橙	凹面；布目(本/1cm)5x6 凸面；ナデ 指頭痕 側面；布目	端面、側面まで布目痕

第 46 表　瓦観察表（6）

遺構NO 図版NO	種類 残存	法量	瓦質	調整	備考
SD-07 73－ 118	平瓦 体部	長さ(15.7) 幅 (11.2) 厚さ 2.3	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR7/2にぶい黄橙~2.5Y6/1黄	凹面；ナデ 布目 凸面；縄タタキ目 側面；	
SD-07 73－ 119	平瓦 体部	長さ(13.5) 幅 (11.2) 厚さ 2.2	胎；黒色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR7/3にぶい黄橙～6/6明黄褐	凹面；布目(本/1㎠)8×7 ナデ 側縁ケズリ 凸面；縄タタキ目 側面；	
SD-07 73－ 120	平瓦 体部	長さ(12.3) 幅 (13.5) 厚さ 2.3	胎；褐色小礫を多く含む 焼；酸化 色；5YR4/2灰褐～4/1 褐灰	凹面；布目(本/1㎠)6×6 ナデ 凸面；縄タタキ目 側面；凹面側を面取り	
SD-07 73－ 121	平瓦 体部	長さ(12.3) 幅 (18.5) 厚さ 1.8	胎；白色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR5/4にぶい褐～4/6 褐	凹面；布目(本/1㎠)10×9 凸面；縄タタキ目 側面；凹面側面取り	
SD-07 73－ 122	平瓦 体部	長さ(14.0) 幅 (12.0) 厚さ 1.9	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；2.5Y5/2 暗灰黄	凹面；布目(本/1㎠)8×8 凸面；縄タタキ目 側面；凹面側を面取り	
SD-07 73－ 123	平瓦 体部	長さ (7.8) 幅 (6.8) 厚さ 2.1	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；2.5YR6/4橙	凹面；布目(本/1㎠)4×4 凸面；平行タタキ目 側面；布目	側面まで布目痕
SD-07 73－ 124	平瓦 体部	長さ (9.6) 幅 (5.7) 厚さ 1.8	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR6/4にぶい橙~5/4にぶい褐	凹面；布目(本/1㎠)6×5 凸面；平行タタキ目 ナデ 側面；凹面側を面取り	
SD-07 73－ 125	平瓦 端部	長さ (8.3) 幅 (7.6) 厚さ 1.8	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR5/4にぶい褐~6/4にぶい橙	凹面；布目(本/1㎠)6×5 凸面；平行タタキ目 側面；	端面まで布目痕
SD-07 73－ 126	平瓦 端部	長さ (6.4) 幅 (11.7) 厚さ 2.2	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR5/2灰黄褐~6/3にぶい黄橙	凹面；布目(本/1㎠)6×7 広端面ケズリ 凸面；平行タタキ目 布目 側面；	
SD-07 73－ 127	平瓦 端部	長さ (8.7) 幅 (5.0) 厚さ 1.5	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；5YR5/4にぶい赤褐~6/4にぶい橙	凹面；布目(本/1㎠)6×7 ナデ 凸面；押し型文 タタキ目 ヘラナデ 側面；	
SD-07 73－ 128	平瓦 端部	長さ (7.6) 幅 (9.0) 厚さ 2.4	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR6/4 にぶい黄褐	凹面；布目(本/1㎠)6×5 凸面；平行タタキ目 側面；布目	側面、端面まで布目痕
SD-07 73－ 129	平瓦 端部	長さ(14.0) 幅 (12.8) 厚さ 2.2	胎；黒色、褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR3/3暗褐~5/4にぶい褐	凹面；布目(本/1㎠)7×6 凸面；平行タタキ目 ケズリ 側面；布目	側面まで布目痕
SD-07 73－ 130	平瓦 端部	長さ (7.4) 幅 (8.1) 厚さ 2.2	胎；黒色、白色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR3/3 暗褐	凹面；布目(本/1㎠)6×6 広端部ケズリ 凸面；ナデ 平行タタキ目 側面；	広端部まで布目
SD-07 74－ 131	平瓦 体部	長さ(11.7) 幅 (10.5) 厚さ 2.0	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR7/2~6/3 にぶい黄橙	凹面；布目(本/1㎠)6×6 凸面；ナデ 平行タタキ目 側面；凹面側を面取り	
SD-07 74－ 132	平瓦 端部	長さ (7.8) 幅 (5.0) 厚さ 2.0	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR6/4にぶい橙～6/6 橙	凹面；布目(本/1㎠)6×5 凸面；ナデ 側面；	端面まで布目痕
SD-07 74－ 133	平瓦 端部	長さ (7.8) 幅 (7.7) 厚さ 1.9	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR7/3 ～7/2 にぶい黄橙	凹面；布目(本/1㎠)6×5 凸面；ナデ 側面；	端面まで布目痕
SD-07 74－ 134	平瓦 体部	長さ(14.7) 幅 (14.8) 厚さ 2.4	胎；褐色、白色粒子を含む 焼；酸化 色；2.5YR6/6橙 7.5YR4/1褐灰	凹面；ナデ 布目 側縁ケズリ 凸面；ナデ 凸面；	
SD-07 74－ 135	平瓦 体部	長さ(14.9) 幅 (7.1) 厚さ 2.6	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR7/4 にぶい黄橙	凹面；布目(本/1㎠)7×6 凸面；ナデ 側面；	凸面に刻線
SD-07 74－ 136	平瓦 体部	長さ (6.5) 幅 (4.5) 厚さ 1.6	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；5YR6/6橙	凹面；布目 ナデ 凸面；縄タタキ目 側面；	凸面にヘラスジ状の刻線
SD-07 74－ 137	平瓦 体部	長さ (9.5) 幅 (5.9) 厚さ 2.0	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR6/3にぶい褐～6/4にぶい橙	凹面；布目(本/1㎠)5×6 凸面；縄タタキ目 側面；凹面面とり	
SD-07 74－ 138	平瓦 体部	長さ (7.2) 幅 (6.2) 厚さ 2.1	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR7/2明褐色	凹面；布目(本/1㎠)6×6 凸面；縄タタキ目 側面；	

第 47 表　瓦観察表（7）

遺構NO 図版NO	種　類 残　存	法　量	瓦　　質	調　　整	備　　考
SD-07 74－ 139	平瓦 体部	長さ (7.5) 幅　(6.2) 厚さ　1.8	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR6/8橙～7/4 にぶい橙	凹面；布目(本/1cm)6×6 凸面；縄タタキ目 側面；	
SD-07 74－ 140	平瓦 体部	長さ(12.9) 幅　(9.9) 厚さ　1.8	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR5/3にぶい褐～6/2 灰褐	凹面；布目(本/1cm)4×7 凸面；縄タタキ目 側面；凹面面とり	
SD-07 74－ 141	道具瓦 端部	長さ (7.5) 幅　11.3 厚さ　1.4	胎；白色粒子多く含む 焼；還元 色；N4/ 灰	凹面；布目(本/1cm)8×8 凸面；平行タタキ目（斜状） 側面；	熨斗瓦か
SD-07 74－ 142	道具瓦 端部	長さ(12.6) 幅　12.5 厚さ　1.9	胎；白色、黒色粒子を含む 焼；還元 色；7.5Y5/1 灰	凹面；布目(本/1cm)7×7 凸面；平行タタキ目　布目 側面；	熨斗瓦か
SD-07 74－ 143	道具瓦 端部	長さ(14.4) 幅　8.0 厚さ　1.9	胎；白色粒子多く含む 焼；還元 色；7.5Y5/1 灰　10Y5/1灰	凹面；布目(本/1cm)10×9 凸面；格子ﾀﾀｷ目　平行ﾀﾀｷ目（斜状） 側面；凹面側を面取り	熨斗瓦か
SD-07 74－ 144	道具瓦 端部～ 体部	長さ(16.5) 幅　16.7 厚さ　2.2	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR6/3にぶい黄褐~2.5Y5/2暗灰黄	凹面；布目(本/1cm)7×7 凸面；縄タタキ目　ナデ 側面；凹面側を面取り	熨斗瓦か　横骨痕
SD-07 75－ 145	道具瓦 端部	長さ (8.3) 幅　12.5 厚さ　2.0	胎；黒色粒子を含む 焼；酸化 色；5YR6/6橙	凹面；布目(本/1cm)8×7 凸面；平行タタキ目 側面；分割痕	端面まで布目痕 熨斗瓦
SD-07 75－ 146	道具瓦 端部	長さ (9.0) 幅　13.5 厚さ　2.1	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；10YR6/4にぶい橙~7/4にぶい黄橙	凹面；布目(本/1cm)7×7 凸面；平行タタキ目 側面；分割痕	端面まで布目痕 熨斗瓦
遺構外 Ⅰ 76－1	軒平瓦 瓦当部 一部	縦　(5.5) 横　(6.9)	胎；褐色粒子を含む 焼；還元 色；7.5YR7/3にぶい橙~2.5Y6/1黄灰		偏行唐草文 瓦当厚2.2
遺構外 Ⅰ 76－2	軒丸瓦 瓦当部 一部	長さ (9.4) 幅　(9.0) 厚さ　1.5	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；10R4/2灰赤～2.5YR2/1赤黒	凹面；布目(本/1cm)6×6　ナデ 凸面；ナデ	
遺構外 Ⅰ 76－3	丸瓦 玉縁部 ～端部	長さ 35.7 幅　(13.0) 厚さ　1.6	胎；白色粒子を多く含む 焼；還元 色；N4/ 灰	凹面；布目(本/1cm)8×9　ナデ 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り　スジ状の刻線	
遺構外 Ⅰ 76－4	丸瓦 玉縁部 ～体部	長さ(17.3) 幅　(3.7) 厚さ　1.7	胎；白色粒子を多く含む 焼；還元 色；N4/ 灰	凹面；ナデ 凸面；平行タタキ目（斜状）ナデ 側面；	玉縁部が短め
遺構外 Ⅰ 76－5	丸瓦 体部	長さ (8.3) 幅　(9.3) 厚さ　2.0	胎；褐色、白色粒子を含む 焼；還元 色；N4/ 灰～2.5GY6/1オリーブ灰	凹面；布目(本/1cm)9×9 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
遺構外 Ⅰ 77－6	丸瓦 端部～ 体部	長さ(17.5) 幅　(10.0) 厚さ　2.2	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；N5/ 灰	凹面；布目(本/1cm)10×12 凸面；平行タタキ目（斜状）　ナデ 側面；凹面側を面取り	
遺構外 Ⅰ 77－7	丸瓦 体部	長さ(12.0) 幅　(10.3) 厚さ　2.4	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；2.5GY4/1暗オリーブ灰	凹面；布目(本/1cm)8×8 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
遺構外 Ⅰ 77－8	丸瓦 体部	長さ (9.9) 幅　(7.1) 厚さ　2.0	胎；白色、黒色粒子を含む 焼；還元 色；N5/ 灰	凹面；布目(本/1cm)7×7 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
遺構外 Ⅰ 77－9	丸瓦 体部	長さ(12.5) 幅　(9.7) 厚さ　2.2	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；N6/ 灰	凹面；布目(本/1cm)7×10 凸面；ケズリ　ナデ 側面；凹面側を面取り	
遺構外 Ⅰ 77－10	丸瓦 端部	長さ(11.5) 幅　(9.8) 厚さ　2.3	胎；褐色、白色粒子を含む 焼；酸化 色；5YR6/6橙～7/3 にぶい橙	凹面；ナデ 凸面；ナデ 側面；凹面側を面取り	
遺構外 Ⅰ 77－11	平瓦 端部	長さ(10.2) 幅　(8.3) 厚さ　2.7	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；10Y5/1灰 5Y6/2灰オリーブ	凹面；布目(本/1cm)8×8 凸面；平行タタキ目（斜状） 側面；布目	端面、側面まで布目痕
遺構外 Ⅰ 77－12	平瓦 端部	長さ(10.8) 幅　(12.0) 厚さ　1.6	胎；白色、黒色粒子を含む 焼；還元 色；N6/ 灰	凹面；布目(本/1cm)5×6 凸面；平行タタキ目（斜状）　糸切痕 側面；	
遺構外 Ⅰ 77－13	平瓦 端部	長さ(10.3) 幅　(7.0) 厚さ　2.2	胎；白色、黒色粒子を含む 焼；還元 色；N4/ 灰	凹面；ケズリ　糸切痕 凸面；平行タタキ目　布目 側面；凹面側を面取り	

第 48 表　瓦観察表（８）

遺構NO 図版NO	種　類 残　存	法　量	瓦　　質	調　　整	備　　考
遺構外 Ⅰ 77－14	平瓦 端部	長さ(13.2) 幅　(7.8) 厚さ　1.8	胎；白色、黒色粒子を含む 焼；還元 色；10Y6/1灰	凹面；布目(木/1cm)11x11　タタキ 凸面；平行タタキ目（斜状） 側面；	
遺構外 Ⅰ 77－15	平瓦 端部	長さ　(9.3) 幅　(13.0) 厚さ　2.0	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；10Y6/1灰	凹面；布目(木/1cm)5x6 凸面；ナデ 側面；	端面まで布目痕
遺構外 Ⅰ 78－16	平瓦 端部	幅　(10.6) 厚さ(12.4) 厚さ　2.6	胎；白色、褐色粒子を含む 焼；還元 色；7.5Y6/1 灰	凹面；布目(木/1cm)8x11 凸面；平行タタキ目 側面；	端面まで布目痕
遺構外 Ⅰ 78－17	平瓦 体部	長さ(13.7) 幅　(13.0) 厚さ　1.6	胎；白色粒子を多く含む 焼；還元 色；N5/ 灰	凹面；布目(木/1cm)9x10 凸面；平行タタキ目 側面；	
遺構外 Ⅰ 78－18	平瓦 体部	長さ(11.3) 幅　(6.2) 厚さ　1.3	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化気味 色；10YR6/2灰黄褐~7/3にぶい黄褐	凹面；布目(木/1cm)6x6 凸面；平行タタキ目（斜状） 側面；凹面側を面取り	
遺構外 Ⅰ 78－19	平瓦 体部	長さ(11.0) 幅　(8.5) 厚さ　2.0	胎；白色粒子を多く含む 焼；還元 色；N4/ 灰　5GY6/ 灰	凹面；布目(木/1cm)9x10 凸面；平行タタキ目 側面；	
遺構外 Ⅰ 78－20	平瓦 端部	長さ　(5.4) 幅　(7.0) 厚さ　2.6	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；N4/ 灰	凹面；布目(木/1cm)6x7 凸面；平行タタキ目 側面；	端面まで布目痕
遺構外 Ⅰ 78－21	平瓦 体部	長さ(13.5) 幅　(8.3) 厚さ　1.8	胎；黒色粒子を含む 焼；還元 色；7.5Y6/1 灰　N6/ 灰	凹面；布目(木/1cm)7x7 凸面；布目　ナデ 側面；	凸面に刻字
遺構外 Ⅰ 78－22	平瓦 端部	長さ(16.2) 幅　(19.2) 厚さ　2.2	胎；白色、褐色粒子を含む 焼；酸化 色；5YR6/6橙　7.5YR6/3にぶい褐	凹面；布目(木/1cm)8x8　広端面面取り 凸面；縄タタキ目 側面；凹面側を面取り	
遺構外 Ⅰ 78－23	平瓦 端部	長さ(11.4) 幅　(8.7) 厚さ　1.7	胎；白色、黒色粒子を含む 焼；酸化 色；5YR6/4にぶい橙	凹面；布目(木/1cm)7x8 凸面；縄タタキ目 側面；	
遺構外 Ⅰ 78－24	道具瓦 端部	長さ　(8.5) 幅　14.2 厚さ　2.1	胎；白色粒子を多く含む 焼；還元 色；N4/ 灰　5PB5/1青灰	凹面；布目(木/1cm)6x8 凸面；平行タタキ目（斜状） 側面；凹面側を面取り	熨斗瓦？
遺構外 Ⅰ 78－25	道具瓦 端部	長さ　(5.5) 幅　13.1 厚さ　1.5	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；N5/ 灰　N4/ 灰	凹面；布目(木/1cm)9x9 凸面；平行タタキ目 側面；凹面側を面取り	熨斗瓦？
遺構外 Ⅱ 79－1	軒丸瓦 瓦当部 1/3	縦　(11.5) 横　(14.2)	胎；褐色、黒色粒子を含む 色；N5/ 灰 2.5Y7/2灰黄 焼；還元		九葉素弁蓮華文 復元瓦当径16.0 瓦当厚2.2
遺構外 Ⅱ 79－2	軒丸瓦 瓦当部 1/4	縦　(7.9) 横　(12.2)	胎；褐色粒子を含む 色；2.5Y6/1 黄灰 焼；酸化気味		十（九）葉単弁蓮華文 復元瓦当径17.0 瓦当厚1.8
遺構外 Ⅱ 79－3	丸瓦 体部	長さ　(7.5) 幅　(7.5 厚さ　1.7	胎；白色粒子を多く含む 焼；還元 色；N5/ 灰	凹面；布目(木/1cm)9x10 凸面；平行タタキ目（押型文） 側面；凸面側を面取り	
遺構外 Ⅱ 79－4	平瓦 体部	長さ　(7.2) 幅　(7.7) 厚さ　1.8	胎；褐色粒子を多く含む 焼；還元 色；10Y6/1灰	凹面；布目(木/1cm)7x8 凸面；平行タタキ目 側面；	
遺構外 Ⅱ 79－5	平瓦 体部	長さ　(7.5) 幅　(7.2) 厚さ　1.7	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；N5/ 灰	凹面；布目(木/1cm)7x7 凸面；縄目 側面；凸面側を面取り	
遺構外 Ⅲ 80－1	軒丸瓦 瓦当部 一部	縦　(3.5) 横　(6.5)	胎；褐色粒子多い 色；5YR6/4にぶい橙 焼；酸化		文様不明
遺構外 Ⅲ 80－2	平瓦 端部	長さ(11.0) 幅　(10.8) 厚さ　2.0	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；7.5Y4/1 灰~5/1 灰	凹面；布目(木/1cm)5x6 凸面；ナデ 側面；	端面に布目痕
遺構外 Ⅲ 80－3	平瓦 端部	長さ(11.5) 幅　(9.2) 厚さ　1.8	胎；白色粒子を含む 焼；還元 色；N4/ 灰	凹面；布目(木/1cm)9x9 凸面；布目　ナデ 側面；	凸面に刻字「大」
遺構外 Ⅲ 80－4	平瓦 端部	長さ(14.0) 幅　(13.5) 厚さ　2.4	胎；褐色粒子を含む 焼；酸化 色；7.5YR7/2明褐灰~7/4にぶい橙	凹面；布目(木/1cm)6x6 凸面；平行タタキ目 側面；布目	端面、側面まで布目痕

第 49 表　瓦観察表（９）

遺物No.	図版No.	遺構No.	種類	長さ	幅	厚さ	重量	備考
1	81－1	SD-07	鉄製品　刀子	9.0	1.7	6.0	19.7	
2	81－2	SD-07	金属製品　刀子	13.9	2.2	0.6	46.6	
3	81－3	SD-07	鉄製品　釘	10.5	1.9	0.9	38.1	
4	81－4	SD-07	鉄製品　釘	16.1	1.5	0.8	23.2	
5	81－5	遺構外Ⅰ	鉄製品　釘	10.6	0.8	0.3	8.7	
6	81－6	遺構外Ⅰ	鉄製品　釘	8.8	1.5	0.8	15.9	
7	81－7	SD-07	鉄製品　釘	5.7	1.3	0.5	6.9	
8	81－8	SD-07	鉄製品　釘	5.6	1.3	0.5	9.5	
9	81－9	SD-07	鉄製品　釘	8.6	3.2	1.1	20.4	
10	81－10	SD-07	鉄製品　釘	5.4	1.0	0.8	9.1	
11	81－11	遺構外Ⅲ	鉄製品　釘	9.5	1.5	0.9	17.6	
12	81－12	SD-07	鉄製品　釘	7.5	1.2	0.9	17.9	
13	81－13	SD-07	鉄製品　釘	9.0	2.0	0.9	28.9	
14	81－14	SD-07	鉄製品　釘	7.4	1.9	0.8	18.7	
15	81－15	SD-07	鉄製品　釘	4.2	1.2	0.6	5.3	
16	81－16	遺構外Ⅰ	鉄製品　釘	6.1	1.4	0.4	6.9	
17	81－17	SD-07	鉄製品　釘	6.6	1.6	0.9	20.8	
18	81－18	SD-07	鉄製品　釘	7.7	2.4	0.6	28.8	
19	81－19	SD-07	鉄製品　釘	6.1	2.3	1.3	35.6	
20		SD-07	鉄製品　釘	5.2	1.2	0.8	7.9	
21		SD-07	鉄製品　釘	3.7	1.3	1.0	7.9	
22		SD-07	鉄製品　釘	4.4	1.7	1.4	10.5	
23		SD-07	鉄製品　釘	8.0	2.3	2.0	28.6	
24		SD-07	鉄製品　釘	4.8	1.0	0.9	5.3	
25		遺構外Ⅲ	鉄製品　釘	6.4	1.2	1.0	4.8	
26		SD-07	鉄製品　釘	6.7	1.3	0.9	6.6	
27	81－27	SD-07	鉄製品　板状製品	4.1	1.3	0.2	4.2	
28	81－28	SD-07	金属製品	6.8	6.0	0.8	11.0	
29	81－29	SD-07	鉄製品不明板状器	5.6	8.2	1.3	149.0	
30	81－30	SD-07	鉄製品不明板状器	4.6	4.5	1.0	45.2	
31		SD-07	鉄製品不明板状器	1.6	1.3	0.3	1.4	

第50表　金属製品観察表

遺物No.	図版No.	遺構No.	種類	長さ	幅	厚さ	重さ	外径	口径	備考
1	82－1	遺構外Ⅰ	鋳型	(16.3)	(13.7)	3.1	660.0			錫杖の鋳型と考えられる。木型による成型熱を受けている。
2	82－2	遺構外Ⅰ	鋳型	(10.8)	(11.6)	3.1	420.0			1と同様
3	82－3	遺構外Ⅰ	鋳型	(7.8)	(8.2)	2.9	190.0			1と同様
4	82－4	SD-07	羽口					(6.7)	(2.4)	青灰色に変色し、付着物あり。
5	82－5	SD-07	羽口					(8.0)	(2.7)	二次焼成を受け青灰色に変色し、先は溶解している。
6	82－6	SD-07	羽口					(9.3)	(3.1)	
7	82－7	遺構外Ⅰ	羽口					(7.6)	(3.0)	
8	82－8	遺構外Ⅰ	羽口					(8.0)	(2.4)	
9	83－9	SD-07	鍛冶滓	4.1	4.5	4.6	100.0			銅滓
10	83－10	SD-07	鍛冶滓	9.8	12.4	5.2	530.0			
11	83－11	SD-07	鍛冶滓	8.6	5.5	5.6	202.0			
12	83－12	SD-07	鍛冶滓	10.5	8.6	3.8	432.0			

遺物No.	図版No.	遺構No.	種類	長さcm	幅 cm	厚さcm	重さg	外径cm	口径cm	備考
13	83－13	SD-07	鍛冶滓	8.6	8.2	3.8	300.0			
14	83－14	SD-07	鍛冶滓	7.2	5.4	2.1	139.0			
15	83－15	SD-07	鍛冶滓	12.2	7.2	3.4	351.0			
16	83－16	SD-07	鍛冶滓	6.2	4.6	3.5	93.9			
17	83－17	SD-07	鍛冶滓	5.3	6.1	3.2	113.5			
18	83－18	SD-07	鍛冶滓	6.0	6.5	3.0	107.9			
19	83－19	SD-07	鍛冶滓	5.2	4.3	2.2	45.1			
20	83－20	SD-07	鍛冶滓	4.9	2.7	1.6	20.0			
21	83－21	SD-07	鍛冶滓	3.1	3.4	2.7	29.1			
22		SD-07	鍛冶滓				16.9			銅滓

（鋳型の法量は残存、羽口の法量は復元）

第51表　鍛冶関連観察表

遺物No.	図版No.	遺構No.	種類	長さ	幅	厚さ	重量	材質	備考
1	84－1	遺構外Ⅱ	石鏃	1.5	1.5	0.4	0.7	黒曜石	
2		SD-07	フレーク	2.9	2.8	0.6	6.1	黒曜石	
3		SD-07	フレーク	2.9	2.0	1.2	7.8	黒曜石	
4		SD-07	フレーク	1.6	0.9	0.3	0.6	黒曜石	
5		SD-07	フレーク	2.5	1.5	0.6	2.4	黒曜石	
6	84－6	遺構外Ⅰ	砥石	8.6	5.2	1.8	100.0	輝石安山岩	分銅形を呈し、砥面は滑らか。
7	84－7	遺構外Ⅰ	砥石	16.1	8.3	6.3	1580.0	輝石安山岩	熱を受けている。
8	84－8	遺構外Ⅰ	敲石	14.6	5.8	3.7	520.0	輝石安山岩	
9	84－9	SD-07	凹石	21.0	16.0	17.5	5890.0	輝石安山岩	
10	84－10	遺構外Ⅰ	擦石	8.0	7.6	3.9	311.0	輝石安山岩	
11	85－11	SD-07	凹石	28.0	22.3	11.2	7580.0	輝石安山岩	
12	85－12	SD-07	凹石	17.6	10.8	6.6	990.0	輝石安山岩	
13		SD-07	不明	5.2	1.4	1.4	10.2	水晶	
14	85－14	遺構外Ⅰ	板状製品	9.7	7.5	0.5	54.3	粘板岩	

第52表　石器観察表

種類 出土位置	No.	長さ	幅	厚さ	重量	備考
ウマの歯 SD－07	1-01	8.6	2.7	1.5	25.2	
	1-02	8.5	2.6	1.3	26.0	
	1-03	8.0	2.8	1.3	25.0	
	1-04	7.3	3.0	1.6	28.3	
	1-05	6.3	4.4	1.4	12.1	
	1-06	7.0	1.6	0.6	6.8	縦に割れている
	1-07	6.0	1.2	1.2	7.9	
	1-08	6.2	1.9	0.7	6.7	
	1-09	6.2	2.4	0.8	10.2	
	1-10	5.8	1.8	1.0	8.2	
	1-11	7.9	1.5	0.6	6.6	
	1-12	7.1	1.5	0.9	6.4	
	1-13	6.6	1.2	0.7	4.9	
	1-14	5.5	1.2	0.8	3.6	
	1-15	5.5	1.1	0.5	3.3	
	1-16	6.4	1.2	0.3	2.4	剥片
	1-17	4.3	1.5	0.3	2.3	
	1-18	6.0	0.6	0.6	2.1	
	1-19	5.4	0.6	0.5	1.9	
	1-20	4.7	1.1	0.5	2.5	
	1-21	5.8	1.1	0.4	2.5	
	1-22	6.1	0.9	0.3	1.5	
	1-23	4.2	1.2	0.2	1.3	
	1-24	4.7	0.8	0.3	1.5	
	1-25	3.6	0.7	0.5	1.4	
	1-26	5.4	0.4	0.2	0.9	
	1-27	5.8	0.4	0.2	0.9	
	1-28	4.2	1.2	0.3	1.2	
	1-29	3.2	1.0	0.2	0.7	
	1-30	3.0	0.3	0.3	0.5	

種類 出土位置	No.	長さ	幅	厚さ	重量	備考
ウマの歯 SD-07-D	2-01	6.1	2.6	2.6	35.8	
	2-02	8.2	3.0	2.5	32.3	
ウマの歯 SD-07-D	3-01	6.4	2.1	2.1	12.7	
ウマの歯 SD-07-B	4-01	7.5	2.3	1.6	14.3	
ウマの歯 遺構外Ⅲ	5-01	5.7	1.4	0.9	5.9	
ウマの歯 遺構外Ⅲ	6-01	7.8	1.8	1.4	12.5	
	6-02	5.0	2.0	1.4	8.5	
	6-03	5.2	1.5	1.7	7.5	
ウシの角 SD-02-B	7-01	6.1	3.5	3.2	14.2	
	7-02	4.5	2.2	2.9	9.7	
	7-03	5.2	1.7	1.1	4.5	
	7-04	4.0	2.4	1.8	5.3	
	7-05	3.0	1.8	1.5	3.1	
	7-06	3.2	1.8	1.2	2.4	
	7-07	2.6	1.3	1.3	1.4	
ウシの角か？ 遺構外Ⅰ	8-01	4.0	1.7	1.5	3.8	
	8-02	2.5	1.3	0.4	0.7	
不明（骨） SD-01	9-01	4.2	3.0	2.2	16.9	

第53表　獣骨等一覧表

第四章　考察

第１節　軒平瓦・軒丸瓦について

1．軒平瓦

（1）偏行唐草文軒平瓦

この偏行唐草文軒平瓦(第86図の1)は小破片で、Ｉ区のN45E81グリッドから出土している。資料の大きさは縦5．5cm、横6．9cmで、瓦当面の上弦の残存長は3．4cm、下弦の残存長は5．5cm、残存厚は2．2cmである。色調は凹面が赤褐色、瓦当面が灰白色を呈し、凹面には布目が残存している。文様の笵抜けは良好で、外区は2本の細い廓線とその外側に素文周縁を巡らしている。残存する部分は全体の1／12程度で、上部の2本の廓線と唐草文様の上端部のみ残存している。

この軒平瓦と同一文様の偏行唐草文軒平瓦は、現在の信濃国分寺本堂北西側から出土(上田市教育委員会編『信濃国分寺―本編』1974年・図2)している。この現存する軒平瓦は、顎部の断面が三角形に近い曲線顎である。また、丸子町大字御岳堂の諏訪田遺跡からも同一文様の軒平瓦が出土(丸子町教育委員会『三角』1980年・図3)している。この諏訪田遺跡からは官衙的な性格が考えられる庇付掘立柱建物跡や偏行唐草文軒平瓦片、丸瓦片、円面硯片、耳皿などが出土している。このため依田古窯跡群と密接な関係が推測され、窯業の管理所、あるいは集散地的な性格をもつ遺跡の可能性が考えられている。この軒平瓦は依田古窯跡群で焼成されたと推定でき、依田川、千曲川の河川を利用した舟運で信濃国分寺まで運搬されたと考えられる。因みに依田古窯跡群は現在の河川流路を辿ると、信濃国分寺跡から8kmから10km程度の距離である。

2．軒丸瓦

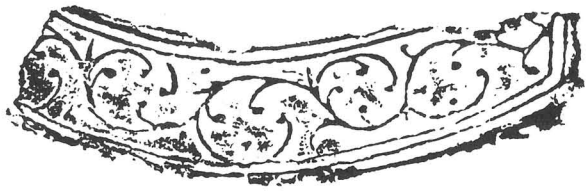
（1）九葉素弁蓮華文軒丸瓦

九葉素弁蓮華文軒丸瓦は、瓦当部の小破片が3点出土している。1(第86図の4)は暗灰白色を呈した資料で、道路状遺構東側の側溝の南側グリッド(N27W51)から出土している。全体の1／3程度が残存する小破片で、内区には弁端に切り込みが施されたハート型状の素弁が配置され、6弁が確認される。内区と外区の境界線には、弁端の切り込みに対応して珠文が1個ずつ置かれている。小破片の残存する大きさは、縦11．5cm、横14．2cm、瓦当厚2．2cmである。蓮弁の大きさは縦3．5cm、最大幅2．5cmで、弁端には幅6mm、深さ3mmの切り込みが施されている。素弁の間には、V字状の間弁が配置されている。中房の径は4．4cmである。蓮子の径は5mmで、中央の1個を中心にして一重に6個が巡らされていると推定される。蓮弁や弁間には瓦当笵製作時にできた横筋が認められ、木製笵を使用したと考えられる。外区の周縁は無文で、1．4cm～1．7cm の幅があり、ナデ調整が施されているが、やや粗雑な仕上げである。瓦当部裏面には幅2．3cm、深さ6mm程度の溝を掘り、そこへ丸瓦先端部を差し込んだ「印籠付け」の技法で接合されている。胎土は精良で、焼成は堅緻である。

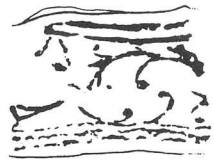
2(同図の5)の小破片は暗赤褐色を呈し、SD－07－Dから出土しており、1と同様のハート型状の素弁が2枚確認される。弁端には切り込みが施され、それに対応して内区と外区の境界線に、珠文が1個配置されている。素弁の間にはV字状の間弁が配置されている。残存する大きさは縦7．8cm、横5．9cm、瓦当厚は2．0cm である。

3の小破片(同図の6)は明灰白色を呈し、SD－07－Bから出土している。1と同様のハート型状の素弁が1枚確認されている。素弁の間にはV字状の間弁が確認でき、弁端の切り込みに対応する珠文も1点認められる。残存

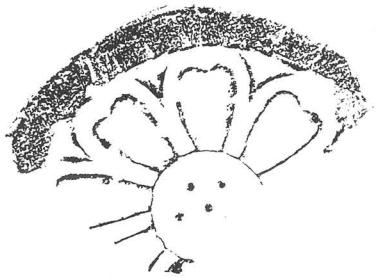
1　偏行唐草文軒平瓦



2　信濃国分寺本堂北西側



3　諏訪田遺跡（丸子町）



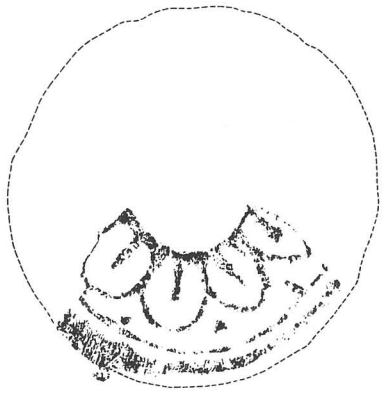
4　九葉素弁蓮華文軒丸瓦

5　九葉素弁蓮華文軒丸瓦

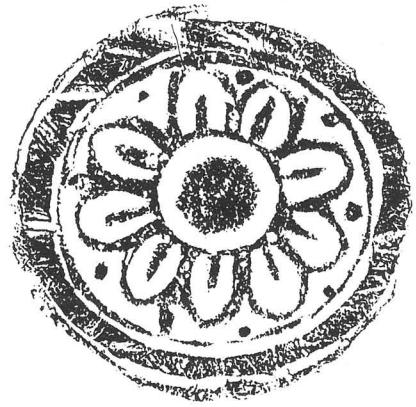
6　九葉素弁蓮華文軒丸瓦

7　九葉単弁蓮華文軒丸瓦

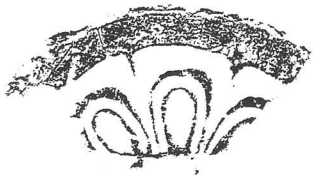
8　九葉単弁蓮華文軒丸瓦



9-1　古城遺跡



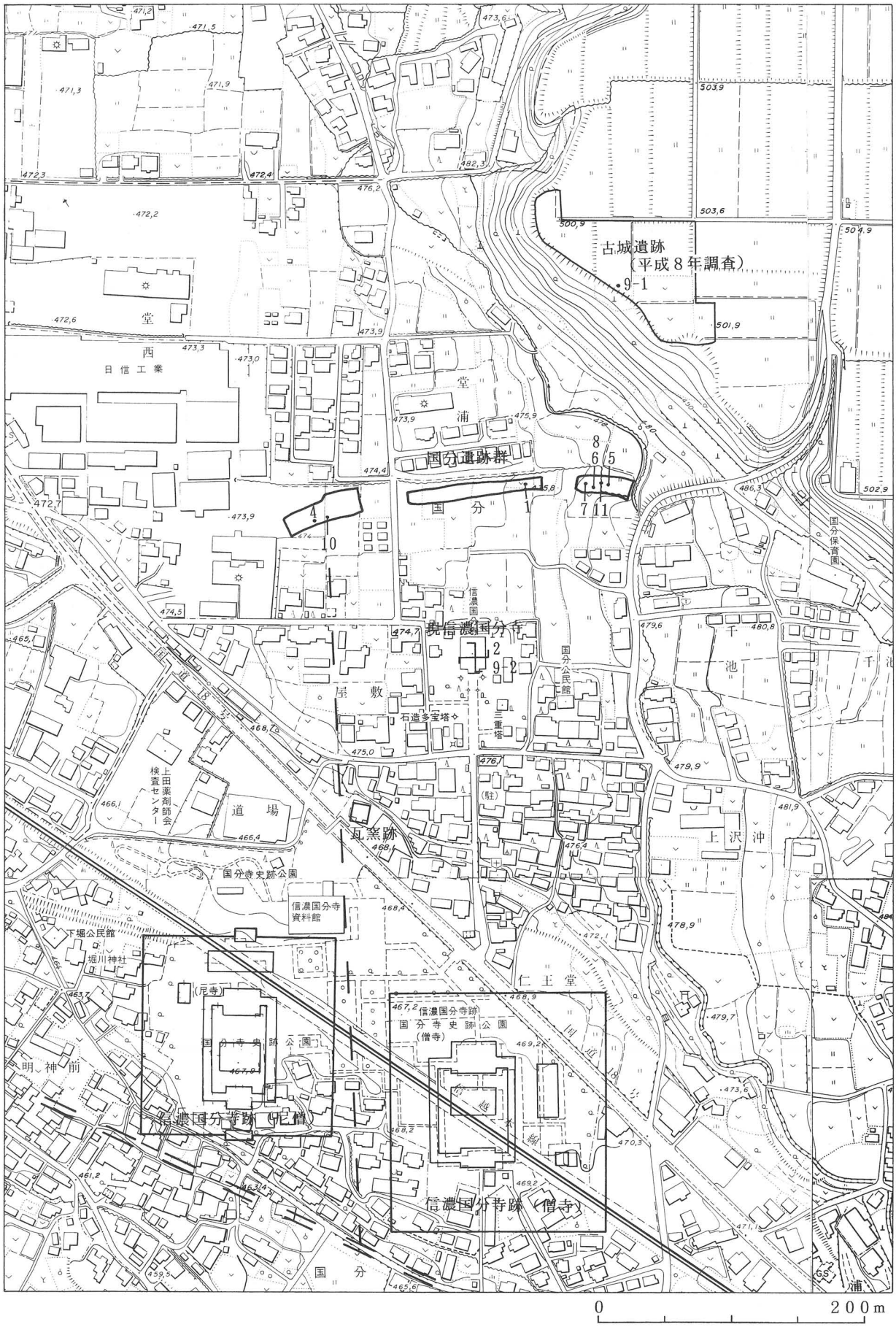
9-2　信濃国分寺本堂東南隅



10　十葉（九葉）単弁蓮華文軒丸瓦

11　十葉（九葉）単弁蓮華文軒丸瓦

第 86 図



第 87 図　軒平瓦・軒丸瓦出土地点分布図及び信濃国分寺との位置関係図

する大きさは、縦4. 1cm、横5. 2cm である。

以上の3点の軒丸瓦は、信濃国分寺跡やその周辺からの出土がこれまで知られておらず、今回初めて出土した新資料であり、注目される。

（2）九葉単弁蓮華文軒丸瓦

九葉単弁蓮華文軒丸瓦は、暗灰白色を呈した資料がSD－07－Aから1点、暗赤褐色を呈した資料がSD－07－Bから1点出土している。前者の4（第86図の7）は、全体の1／5程度が残存した小破片で、内区に簡略化された3葉の単弁が確認される。弁端の間には珠文が1個ずつ置かれ、2個残存している。小破片の残存する大きさは、縦7. 5cm、横9. 1cm、瓦当厚2. 1cm である。瓦当部と丸瓦部は、幅2. 4cm、深さ3㎜程度の溝を掘り、そこへ丸瓦先端部を差し込んだ「印籠付け」の技法で接合されている。

後者の5（同図の8）は、全体の1／4程度が残存した小破片で、3葉の単弁と弁端の間に置かれた2個の珠文が確認できる。小破片の残存する大きさは、縦10. 2cm、横10. 1cm、瓦当厚は2. 1cm～2. 5cm である。中房の半分が残存し、蓮子は省略されており、外区周縁部は素文である。この2点の軒丸瓦は、その文様から九葉単弁蓮華文軒丸瓦と考えられ、現在の信濃国分寺本堂東南隅から出土した完形の瓦当面をもつ資料と同一文様である。また現在の信濃国分寺本堂から北側へ約300mの段丘上に所在した古城遺跡からも同一文様の軒丸瓦（上田市教育委員会『古城遺跡』1997年・図9）が出土している。これらの合計4点の九葉単弁蓮華文軒丸瓦は、文様や形状から同笵の資料と考えられる。この軒丸瓦の分布は、現在までのところ信濃国分寺本堂から北側に限られ、この段丘上に所在した建物に使用された軒瓦と推測される。

（3）十葉（九葉）単弁蓮華文軒丸瓦

十葉ないしは九葉と考えられる単弁蓮華文軒丸瓦は、瓦当部の小破片が2点出土している。6（第86図の10）はⅡ区のN24W48グリッドから出土した明灰白色を呈した軒丸瓦片で、全体の1／4程度が残存し、単弁が3葉確認される。残存する大きさは、縦7. 9cm、横12. 2cm、瓦当厚1. 8cm である。この単弁は内部の子葉の大きさが縦2. 6cm、最大幅1. 5cm である。蓮弁自体の大きさは縦3. 5cm、最大幅2. 7cm で、蓮弁端部が直線的なため、全体の形は長方形に近い形状である。蓮弁の間には逆三角形の間弁が配されている。内区の蓮弁や弁間に瓦当笵製作時の縦や斜状の筋が認められ、木製笵の使用が考えられる。外区の周縁は1. 7cm～2. 0cm で、ナデ調整が施されている。胎土は全体に精良で、焼成は堅緻である。

7（同図の11）はSD－07－Cから出土した暗灰白色を呈した軒丸瓦片で、単弁が6葉確認される。全体の1／8程度が残存する小破片の大きさは、縦5. 2cm、横8. 7cm、瓦当厚2. 8cm である。この軒丸瓦片は、中房部分が8割程度残存しており、中房の径は4. 1cm である。蓮子は中央の1個を中心にして、一重に6個巡らされている。蓮子の径は5㎜～6㎜で、ほとんど偏平な中房といえる。

蓮弁の様子から6と同一文様と考えられるが、瓦当部の厚さがかなり異なっている。胎土は大粒の砂粒を含むが全体に精良で、焼成は堅緻である。

（4）八葉複弁蓮華文軒丸瓦

SD－07－Bからは、信濃国分寺跡から出土している創建期の八葉複弁蓮華文軒丸瓦と考えられる資料が1点出土している。周縁の一部と珠文が3点確認される小破片で、残存する大きさは、縦4. 6cm、横10. 5cm で、全体に暗灰白色を呈している。なお、軒丸瓦とみられる小破片が更に1点出土しているが、文様は不明である。

出土したこれらの軒瓦の時期について若干考察してみたい。偏行唐草文軒平瓦は前述のように丸子町諏訪田

遺跡から出土しており、依田古窯跡群がこの遺跡の西方1km～2kmに所在しており、依田古窯跡群で焼成されたと考えられる。この依田古窯跡群は現在までに20基以上の窯跡が確認されており、8世紀後半から9世紀代にかけて須恵器や瓦の生産が行われていたとみられている。(丸子町教育委員会『原山窯址』1986年)この国分遺跡群出土の偏行唐草文軒平瓦の生産時期も奈良時代後半から平安時代前期と考えられる。

九葉素弁蓮華文軒丸瓦と十葉(九葉)単弁蓮華文軒丸瓦については、その文様や形状等から奈良時代末期から平安時代前期に位置付けられる旨、平成12年に花谷浩先生(当時、奈良国立文化財研究所主任研究官)からご教示いただいた。また地域によって生産時期の差があるとのご教示も同時にいただいた。現時点では、当地方から出土している軒丸瓦や当時の状況を検討すると、概ねこの時期に位置付けられるのではないかと考えられる。

九葉単弁蓮華文軒丸瓦は、中房の蓮子の省略や蓮弁の簡素な表現等、全体に簡略化された素朴な作りで、在地の工人が関与したと考えられる。現在の信濃国分寺本堂から北側のみで出土しており、平安時代の軒丸瓦と考えられる。

第2節　国分遺跡群出土の丸瓦・平瓦・熨斗瓦について

国分遺跡群からはてん箱18箱に及ぶ瓦類が出土し、その大部分が丸瓦、平瓦である。特に第7号溝跡からは124. 1kgに及ぶ多量の瓦類が出土し、13箱を占めている。以下、第7号溝跡出土資料を中心に考察してみたい。

1. 丸瓦

国分遺跡群から出土した丸瓦はその形状からその大部分が玉縁式丸瓦と考えられる。

第76図の3は、縦方向の筒部分が残存し、全長が判明した丸瓦である。筒部の全長は30. 8cmで、厚さは1. 2cm～1. 6cmである。丸瓦の凸面はヘラケズリの後に丁寧なナデ調整が施され、凹面には布目圧痕が残存している。色調は還元炎焼成で灰白色を呈している。胎土は精良で小砂粒を含み、焼成は堅緻である。

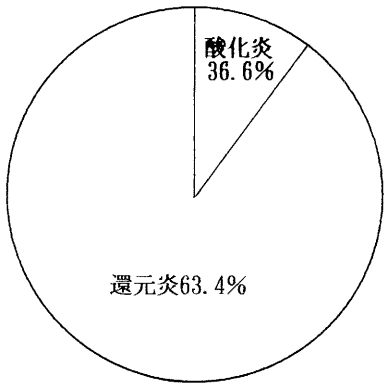
第62図の7は残存長が28. 6cmあり、筒部の幅が約16. 0cmとみられ、玉縁部分がほぼ完全に残存している。玉縁部分の全長は8. 3cm、幅は筒部との接続部分で13. 1cm、先端部分の幅は11. 2cmである。丸瓦の凸面はヘラケズリの後に、丁寧なナデ調整が施され、凹面には明瞭な布目圧痕が残存している。成形台上で製作された円筒から、袋状の布を取り外し易くしたと考えられる幅約2㎜の紐の痕跡が、縦方向に認められた。色調は灰白色を呈し、胎土は精良で、焼成は堅緻である。

第65図の33は残存長が23. 4cmで、筒部の幅が14. 1cm、厚さが1. 8cm～2. 3cmである。玉縁部分の全長は4. 9cm、厚さは0. 9cmである。丸瓦の凸面はヘラケズリの後に丁寧なナデ調整が施され、凹面には布目圧痕が残存している。色調は酸化炎焼成で赤褐色を呈している。砂粒を含むが胎土は精良で、焼成も良好である。

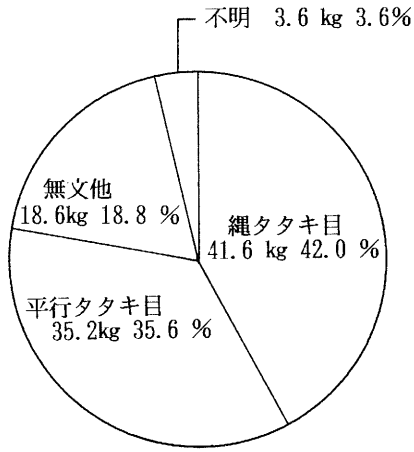
こうした資料から丸瓦の全長は36cm～39cm前後で、幅は約14cm～16cm、玉縁部分の長さは約4cm～8cmの資料がほとんどを占めている。この大きさは信濃国分寺跡から出土した丸瓦の平均とほぼ同一といえる。これらの丸瓦は、凹面の形状から円筒形の木型を成形台に用いたと考えられる。この木型に板状の粘土を巻き付け、玉縁部分も同時に作り出している。

2. 平瓦

平瓦は信濃国分寺跡から出土した平瓦と同様に、凸面に縄叩き目を施した平瓦、押型文(変則格子)を施した平瓦、斜状平行叩き目を施した平瓦、無文の平瓦に分類される。円グラフで示したとおり、第7号溝跡から出土した平



ＳＤ－０７出土瓦酸化、還元炎別重量割合



ＳＤ－０７出土平瓦等凸面調整別重量割合

	4	5	6	7	8	9	10	11	12
4	0.8	0.8	0.8						
5		1.5	10.5						
6		5.3	14.3	10.5					
7	0.8	1.5	6.8	12.1	8.3				
8			1.5	4.5	4.5	1.5		0.8	
9					0.8	3.0	2.3		
10					0.8		1.5	0.8	
11							0.8	0.8	0.8
12								0.8	
13								0.8	

横糸

縦糸

第 54 表　第７号溝跡出土瓦布目分布　(%)

瓦を凸面模様で分類すると縄叩き目が42%、押型文及び斜状平行叩き目文の平行叩き目が35．6%、無文他が18．8%であった。信濃国分寺僧寺金堂跡では約8:3の割合で縄叩き目の平瓦がかなり多数を占めていた。しかし、この第7号溝跡では約5:4の割合であり、縄叩き目の平瓦がやや平行叩き目の平瓦より多いという結果であった。また第7号溝跡出土の酸化炎焼成(赤褐色を呈す)の瓦は丸瓦を含めて36．6%を占め、還元炎焼成(灰白色を呈す)の瓦は丸瓦を含めて63．4%を占めていた。信濃国分寺僧寺金堂跡でも約8:7の割合で還元炎焼成の瓦が多数を占めており、同じような傾向がうかがえる。以下、第7号溝跡出土の平瓦を考察してみたい。

第71図の94は無文の平瓦で、凸面はヘラケズリの後に、丁寧なナデ調整が施されている。平瓦の厚さは2．0cm である。端部には布目圧痕が認められ、一枚造り平瓦と考えられる。色調は灰白色を呈し、胎土は精良で、焼成は堅緻である。

第68図の61は凸面に斜状平行叩き目を施した平瓦で、厚さ2．2cm～2．6cmである。色調は灰白色を呈し、焼成は堅緻である。端部や側辺部の一部には布目圧痕が認められ、一枚造りの平瓦と考えられる。この斜状平行叩き目の平瓦は、信濃国分寺尼寺金堂跡から多数出土している平瓦と文様や形状に共通性が認められる。

第71図の98は凸面に縄叩き目を施した平瓦で、厚さは1．5cm～2．3cmである。色調は赤褐色を呈し、胎土は精良で、焼成は堅緻である。凹面には布目圧痕と、幅約2cmの模骨の細板の痕跡が認められ、桶巻き造りと考えられる。このように模骨痕が認められる資料は僅かであった。側辺部は、上方と下方から大きくヘラケズリが施されている。また凹面端部にも上方から幅2cm程度に渡って、ヘラケズリが施されている。

第68図の51は凸面に縄叩き目を施した平瓦で、厚さは1．5cm～2．2cmである。色調は灰白色を呈し、胎土は精良で、焼成は堅緻である。凹面には比較的目の粗い布目圧痕が残存している。側辺部は下方から大きくヘラケズリが施されている。また凹面の端部にも上方から幅2cm程度に渡ってヘラケズリが施されている。この平瓦は曲率が弱く、模骨痕も全く認められないため、一枚造り平瓦と考えられる。

第99図の71は凸面に押型文(変則格子)を施した平瓦である。厚さは2．2cm～2．6cmで、比較的厚手の平瓦である。押型文を彫り込んだ叩き板で丁寧に叩いて、成形している。色調は灰白色を呈し、胎土は極めて精良で、焼成は堅緻である。信濃国分寺僧寺金堂跡で出土している押型文平瓦とほぼ同一と考えられる。

なお、第7号溝跡から出土した瓦の布目圧痕について、1平方cm当たりの縦糸と横糸について調査を実施した。その結果第54表のとおり、縦糸が6本、横糸が6本の資料が最も多く、次いで縦糸が7本、横糸が7本の資料が多かった。こうした布目圧痕は、信濃国分寺跡出土瓦と共通性が認められる。

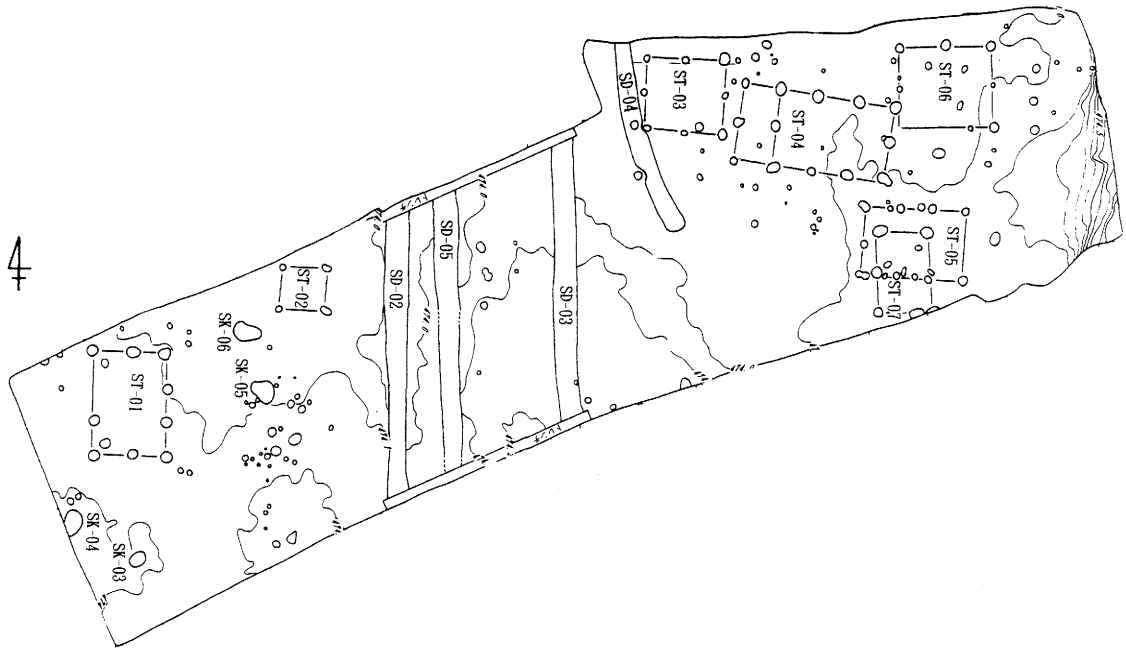
3．熨斗瓦

第7号溝跡からは、平瓦より幅の狭い熨斗瓦と考えられる資料が第74図の141～第75図の146まで6点出土している。幅は8cm～16．5cmあり、凸面には平行叩き目を施している資料が多い。144は凸面に縄叩き目が施され、凹面には模骨痕がみられ、桶巻き造りの熨斗瓦と考えられる。

こうした丸瓦、平瓦、熨斗瓦は信濃国分寺跡から出土した瓦類と大きさ、材質で共通性が認められ、少しも遜色のない瓦といえる。この国分遺跡群からはてん箱18箱に及ぶ多量の瓦類が出土しており、この近辺に本格的な瓦葺建物が存在した可能性が高いと推測される。

第３節　国分遺跡群出土の道路状遺構について

国分遺跡群で検出された道路状遺構は、平行に走る第2号溝跡、第3号溝跡の側溝を有し、ほぼ南北一直線状に延びている。検出された全長は約15m、幅員は両側の側溝の心々距離が8．5m～9．0mである。第2号溝跡



第 88 図　検出された Ⅰ 群 ・ Ⅱ 群の掘立柱建物跡

は幅が0．90m～1．48m、深さが0．15m～0．24m、第3号溝跡は幅が1．08m～1．39m、深さが0．15mであった。また後に検出された第5号溝跡は幅が0．68m～1．14m、深さは0．14m～0．23mであった。側溝を有した道路面には硬化面が認められ、普請を行った「造り道」の可能性が高いと考えられた。

道路状遺構には、地山の上部に人為的な盛土と考えられる土層が検出された。北側では第7層の黄褐色シルト層と第8層のにぶい黄褐色シルト層があり、両層とも固く締まり、硬化面を形成していた。また南側では第8層の赤色シルト層、第9層の褐灰色シルト層、第10層の赤色砂粒状層が固く締まり、硬化面を形成していた。このように側溝を有した道路状遺構の路面の殆どの部分が、堅緻に叩き締められていた。なお、東山道武蔵路とみられる埼玉県所沢市東の上遺跡の道路遺構で検出された中央部の波板状凹凸面（飯田充晴「道路築造方法について－埼玉県所沢市東の上遺跡の道路跡を中心にして－」『古代交通研究 2』古代交通研究会 1993年）は、当遺構では検出されなかった。

さらに第2号溝跡と第3号溝跡の間に第5号溝跡が検出された。この第5号溝跡は地山上に構築された盛土を掘り込んで造られていた。出土した溝跡の位置や、第3号溝跡と第5号溝跡間が特に堅緻に叩き締められていた状況等の検討から当初は第3号溝跡と第5号溝跡で道路が構成されていたと考察された。この当初の両側溝の心々距離は約6．0m～6．3mで、後に第5号溝跡が埋設されて第2号溝跡が掘削され、道路の幅員が8．5m～9．0mに拡大されたと考えられた。

第2号溝跡からは須恵器坏、坏蓋、長頸壷、甕や土師器の甕等が出土している。これらの遺物は底部回転糸切りの須恵器坏や土師器甕などで、主に9世紀代に位置づけられる。また第3号溝跡からは内外面黒色処理を施した9世紀後半とみられる耳皿や、底部が回転糸切り未調整の内黒の土師器坏、土師器甕などが出土しており、これらの遺物は8世紀後半から9世紀末に位置付けられる。さらに第5号溝跡からは内黒の土師器坏や甕、須恵器坏、坏蓋、甕等が出土しているがいずれも小破片である。遺物の時期は、概ね8世紀後半と推定される。（遺物の年代については、長野県埋蔵文化財センター『中央自動車道長野線 埋蔵文化財発掘調査報告書4－松本市内その1 総論編』1990年、『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書28－更埴市内その7 更埴条里遺跡・屋代遺跡群－総論編』2000年参考）

出土した遺構や遺物から第3号溝跡と第5号溝跡を有する道路状遺構は、主に8世紀後半に使用されたと考えられる。その後9世紀代、さらに平将門と平貞盛が国分寺周辺で戦い、国分寺伽藍も兵火にかかり焼失したと伝承される10世紀前半頃（『将門記』では承平8年（938年）に合戦と記載）までは存続していた可能性が高いと考えられる。

この道路状遺構については、平成11年度に調査地区の南側10mの地点に幅1mの調査トレンチが設定され、発掘調査が実施されている。（上田市教育委員会『市内遺跡 平成11年度市内遺跡発掘調査報告書』2000年）その結果、地表下65cmの地点で、延長線上に側溝が確認され、合わせて25mについては道路状遺構が続くことが確認されている。

この道路状遺構の方位は磁北から西へ2度の方向であるが、南側にそのまま延長すると第87図に示したとおり瓦窯跡観察施設の西側の傾斜地を通り、僧寺跡、尼寺跡の中間地点を経て、信濃国分寺跡南側に推定される東山道に合流する可能性が考えられる。東国の寺院跡では東京都国分寺市の武蔵国分寺跡で、東山道武蔵路が僧寺跡、尼寺跡の中間を南北一直線に通り、約4町四方の僧寺域と約1町半四方の尼寺域を画している事例が明らかにされている。（有吉重蔵「武蔵国分寺」『考古学ジャーナル318号』1990年）また官衙跡では栃木県那須町の那須郡衙跡で、道路遺構が西ブロック（正倉院）と中央ブロックの中間を通り、官衙施設の間を通り抜けていることが知られている。（板橋正幸「下野国那須郡衙発見の道路遺構」『古代交通研究 8』古代交通研究会 1998年）

この国分遺跡群で出土した道路状遺構は、前記のとおり8世紀後半には約6mの幅員があり、9世紀代には約9mに拡幅されたと考えられる。この拡幅の理由の一つとしては、9世紀代の信濃国分寺の興隆・発展が考えられる。

上総国分寺跡(千葉県市原市)、下総国分寺跡(千葉県市川市)、武蔵国分寺跡などの発掘調査事例と同様に、信濃国分寺跡でも周辺の附属施設の整備や拡充が9世紀代に引き続き行われていたことが、近年の発掘調査から次第に判明しつつある。発展しつつある信濃国分寺へ通じる道路が、駅路の東山道の影響を受けて拡幅された可能性は高いと考えられる。

第4節　国分遺跡群出土の掘立柱建物跡について

本遺跡からは、南北方向の道路状遺構とほぼ軸を揃える掘立柱建物跡が7棟検出され、道路状遺構と同時期の可能性が高いと考えられた。建物跡は1間×1間、1間×2間、2間×2間(2棟)、2間×3間(2棟)、2間×4間(庇付)の建物であった。これらの第1号から第7号の掘立柱建物跡群は、さらに建物方位や重複関係から2群に分類することが可能である。一つは第1号、6号、7号のⅠ群、もう一つは2号、3号、4号、5号のⅡ群である。出土遺物は僅少で、時期を明確にすることは困難であるが、第1号掘立柱建物跡の柱穴の覆土から、8世紀中葉とみられる底部ヘラ切り未調整の須恵器坏が出土しており、道路状遺構の存続時期と重なる建物群と考えられる。出土遺物の検討からⅠ群がⅡ群に先行して建てられたと考えられる。これらの道路状遺構に沿った建物群の性格については出土遺物が僅少で判断は難しいが、現時点では信濃国分寺に関係する附属施設の建物群の可能性が考えられる。

第5節　第7号溝跡の性格と出土遺物

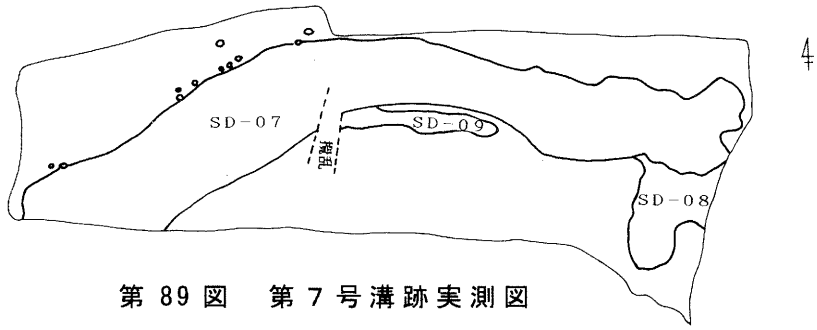
この遺構は、Ⅲ区の調査区内で検出された東西の長さ42．4m、幅3．0m～6．2m、最深部0．9mを測る大規模な溝跡である。溝の西側は調査区外に出ており、東側はそこで途切れている。西側で緩く南西方向にカーブしており、全体に弓形の浅い弧を描いている。溝の断面の形状は東側は皿状、西側は段を有するV字状に近い形態をしている。溝の底部には2箇所に人頭大か、それより一回り大きい礫が、西側は約3．6m、東側は約3．0mの長さにわたって一列に並んでおり、人工的に配されたものと考えられた。また溝の北側に沿って柵列とみられる柱穴が10箇所ほど検出されている。この溝の底面の標高は東側が高く西側が低いため、東側から西側へ流水があったとみられる。溝の壁面は全体に堅く締まり、人工的に掘削された溝(堀)と考えられた。溝の性格としては、信濃国分寺の敷地と考えられる南側の地域を区画するためのものと推測された。

覆土中からは多量の土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、白磁、瓦類、金属塊、獣骨等が出土した(土器の実測図は第33図から48図の1～343に掲載)。出土した遺物のうち、内外面を黒色処理した高台を付した耳皿(191)は、形状から9世紀後半に位置づけられる。土師器、須恵器の大半は、9世紀から10世紀代の、平安時代前期から中期の資料が多数を占めている。

灰釉陶器は、耳皿(262・263)が光ケ丘1号窯式、輪花椀(259)と輪花皿(261)が大原2号窯式、底部回転糸切りで漬け掛けの椀(243)と段皿(247)が虎渓山1号窯式と推定される。その多くが岐阜県多治見市周辺の東濃窯産の、光ケ丘1号窯式から虎渓山1号窯式の灰釉陶器と考えられる資料で、9世紀後半から10世紀代に位置付けられる。灰釉陶器椀(245)、皿(251)、輪花椀(260)は愛知県の猿投窯産と考えられる資料である。短頸壺ないしは長頸瓶の底部(335・336)と胴部(334)、小瓶の底部(339)と考えられる資料も猿投窯産の資料とみられる。これらは黒笹90号窯式から折戸53号窯式に位置づけられ、9世紀後半から10世紀代の資料と考えられる。以上の7点が猿投窯産と考えられる主な資料で、他の大部分の資料は東濃窯産の資料である。また緑釉陶器については、愛知県の猿投窯産とみられ、時期も概ね同時期と考えられる。白磁(267～269)は、中国から輸入された資料で、11世紀後半から12世紀代と考えられる。こうした出土遺物からこの第7号溝跡は、9世紀から10世紀を中心

に12世紀代まで存続したと推測され、信濃国分寺の北限を画する人工的な溝跡の可能性が考えられる。

なお、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁の分析については、長野県埋蔵文化財センター調査研究員の市川隆之氏からご教示をいただいた。



第89図　第7号溝跡実測図

第6節　鍛冶関連資料について

I区の東部グリッド包含層からは、錫杖鋳型が3点出土して注目された。第82図の1はほぼ完形の鋳型で、長さ16.3cm、最大幅13.6cm、厚さ3.1cmである。内部の輪の鋳型部分は、高さ8.8cm、最大幅10.6cm、太さ0.6～0.8cmで、輪の下方は左右より巻き込んで中で反り、蕨手状をなし、その先端上に突起が窺える。柄(穂袋)の上端、輪の中央部は相輪風であり、高さ5.2cmである。相輪風の部分は九層に分かれ、上部から宝珠、竜車状の球形の飾りが2個、その下部には九輪状の飾りが4個、さらにその下方に球形の飾りが3個あしらわれている。輪頂部には宝瓶ないしは五輪塔とみられる高さ2.5cmの突起がある。また輪の左右4ヶ所に飾りの突起を付している。下方の柄の長さは5.1cm、幅は上部で1.0cm、下部で1.5cmである。同図の2の鋳型は残存長10.8cm、残存幅11.9cm、厚さ3.1cmである。1と同様に輪の下方は左右より巻き込んで中で反り、蕨手状をなし、その先端上に内側に向いた突起がある。輪の中央部は相輪風で高さ5.2cmである。輪頂部には宝瓶ないしは五輪塔とみられる高さ2.5cmの突起がある。この1と2の鋳型は紋様や形状からセットで使用されたと考えられる。同図の3は残存長7.8cm、残存幅7.9cm、厚さ2.9cmである。輪の下方の一部と柄の部分の鋳型である。柄の長さは5.8cm、幅は上部で1.0cm、下部で1.6cmである。柄には4ヶ所節状の横線が認められる。

2と3は鋳型の破片であるが、厚さや形状が異なり、同一固体ではない。3は未発見の他の鋳型とセットになると考えられる。いずれも火熱を受けて表面が粗く、付着物が認められ、鋳型として使用済の遺物と考えられた。また鋳型の成形方法は、粘土に木型を押し付けて型をとったものと考えられた。1と2の輪は、括(くく)りの無い「逆ハート型」を呈している。東京国立博物館法隆寺宝物室長の原田一敏先生から、この鋳型は形状より8世紀から11世紀に所属するとのご教示をいただいた。。

この地区からは主に9世紀から10世紀の遺物が多数出土しており、平安時代前期に位置付けられる可能性が高いと考えられる。なお、錫杖の鋳型は千葉県花輪町谷津遺跡(千葉市教育委員会『「谷津遺跡』1984年)、徳島市名東町大浦遺跡から平安時代の資料が出土している。

またこのI区の包含層と第7号溝跡の覆土からは鞴の羽口が5点出土している。さらに鍛冶滓が第7号溝跡から14点、銅滓(製品の可能性もある)が2点出土している。こうした遺物や錫杖の鋳型などから、この付近には信濃国分寺に関係した、法具を製作する工房が所在した可能性が高いと推測される。

小稿を纏めるに際しまして、文中の方々の他に、木下良(古代交通研究会会長)、黒坂周平(長野県文化財保護協会会長)、五十嵐幹雄(上田市文化財保護審議会委員)、小池雅夫(上田市誌編さん委員長)、桜井松夫(上田市誌編さん副委員長)、石川好一(上田市誌編さん委員)、川上元(上田市誌編さん室長)の各先生方には、現地等でご指導、ご教示をいただきました。記してお礼申し上げます。

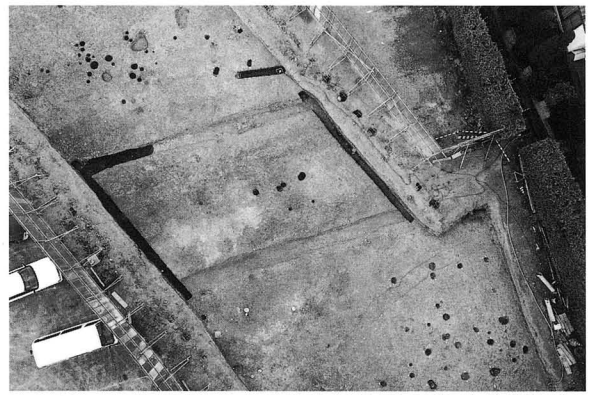
ST-01 （南から）

ST-05 （西から）

ST-02 （南から）

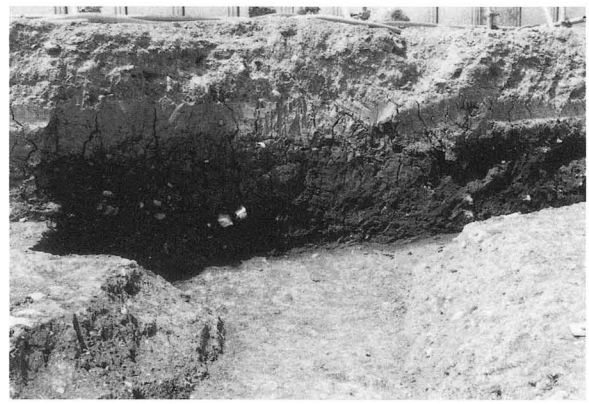
SD-02, SD-03 （南西から）
（道路状遺構）

ST-03 （東から）

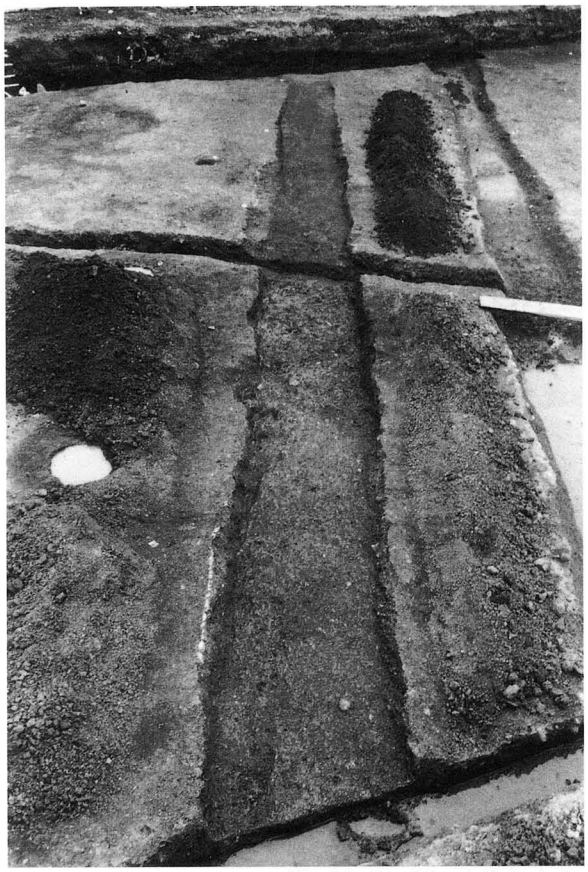


SD-03, SD-02 （道路状遺構）

ST-04 （西から）



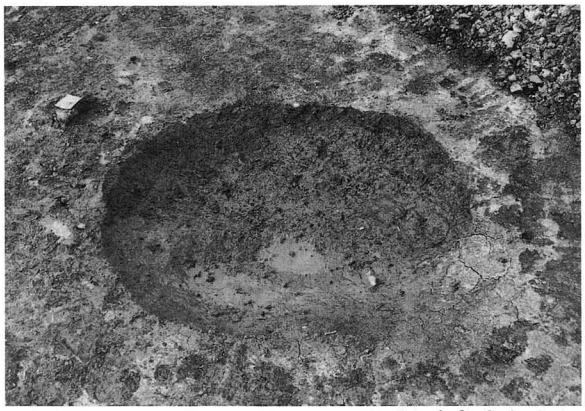
SD-02 Tr-01 セクション



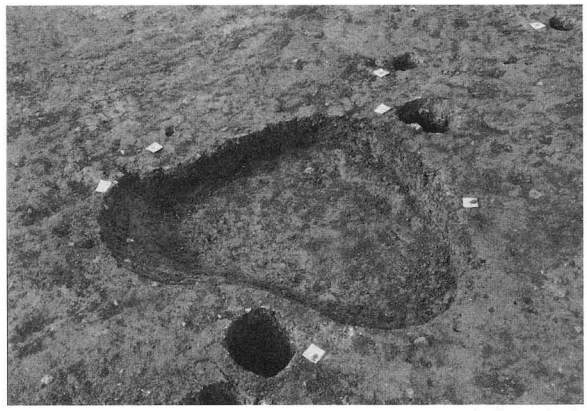
SD-05, SD-02 （北から）
（道路状遺構）

SK-03 （南から）

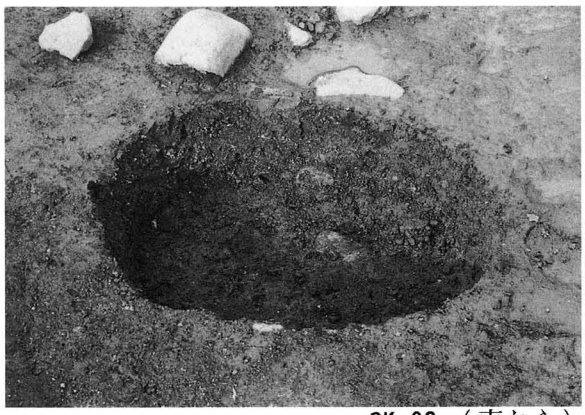
SK-04 （南から）



SK-01（南東から）



SK-05 （南から）



SK-02 （南から）

SK-06 （南から）